

|                                                 |    |
|-------------------------------------------------|----|
| セッション1 雅歌へのイントロダクション .....                      | 10 |
| I. イントロダクション .....                              | 10 |
| II. 雅歌に対する私の個人的な召しと旅路 .....                     | 10 |
| III. 雅歌は神聖なる情熱の型を明らかにする。 .....                  | 10 |
| IV. 雅歌をどのように解釈するか。 .....                        | 11 |
| V. 霊的な解釈－3つの共通のアプローチ .....                      | 11 |
| VI. 全ての信者は、花嫁に含まれる。 .....                       | 12 |
| VII. 雅歌に出てくる3人の登場人物 .....                       | 13 |
| VIII. 伝道者の書と雅歌の比較 .....                         | 13 |
| IX. Canticles または歌集 .....                       | 14 |
| X. 寓話的解釈 .....                                  | 14 |
| セッション2 最も素晴らしい歌の中でイエスに出会う（雅歌1：1） .....          | 15 |
| I. 最も素晴らしい歌 .....                               | 15 |
| II. 雅歌の4つの特徴 .....                              | 15 |
| III. 3重の相続分－詩篇2：1 1－1 2 .....                   | 16 |
| IV. 雅歌から愛情にあふれたイエスとの対話へ .....                   | 16 |
| V. イエスに出会う：雅歌を「祈り読む」 .....                      | 17 |
| VI. ジャーナルを書くことの必要性 .....                        | 18 |
| セッション3 神による口づけ：みことばによって変えられる（結婚に関するパラダイム） ..... | 19 |
| I. イントロダクション .....                              | 19 |
| II. 神のことばによる口づけ .....                           | 19 |
| III. 神の口づけ：花嫁の最高の願い .....                       | 20 |
| IV. 神のことばによる口づけを叫び求めることの三重の本質 .....             | 21 |
| V. 信者の二重の霊的な安息 .....                            | 22 |
| VI. 一人の聴衆の御前で生きる .....                          | 22 |
| VII. 実際の適用：神のことばによる口づけを求めること .....              | 23 |

|                                                      |    |
|------------------------------------------------------|----|
| セッション 4 雅歌におけるストーリー展開の概略 .....                       | 24 |
| I. 雅歌：神による口づけと花嫁の人生におけるビジョン（雅歌 1：2－4） .....          | 24 |
| II. 彼女の旅は恵みのパラドックスから始まる（雅歌 1：5－11） .....             | 24 |
| III. 彼女は神の美しさにおける彼女のアイデンティティを理解する（雅歌 1：12－2：7） ..... | 25 |
| IV. 快適な場所から出てくるようにとの挑戦（雅歌 2：8－17） .....              | 25 |
| V. 彼女は神の愛に満ちた訓練を経験する（雅歌 3：1－5） .....                 | 25 |
| VI. 「安全な救い主」としてのイエスに関する新鮮な啓示（雅歌 3：6－11） .....        | 26 |
| VII. 花婿なる神の預言的な心（雅歌 4：1－8） .....                     | 26 |
| VIII. 花婿なる神の奪われた心（雅歌 4：9－5：1） .....                  | 26 |
| IX. 成熟さについての究極の 2 重の試練（雅歌 5：2－8） .....               | 27 |
| X. 2 重の試練に対する花嫁の応答（雅歌 5：9－6：5） .....                 | 28 |
| XI. イエスは試練の季節の後、彼女をほめたたえる（雅歌 6：4－10） .....           | 29 |
| XII. 迫害された花嫁の弁護（雅歌 6：11－7：9） .....                   | 29 |
| XIII. 花嫁の成熟したイエスとのパートナーシップ（雅歌 7：9－8：4） .....         | 30 |
| XIV. 成熟した愛の婚姻の封印（雅歌 8：5－7） .....                     | 30 |
| XV. 花嫁の最後のとりなしと啓示（雅歌 8：8－14） .....                   | 30 |
| セッション 5 神の愛はこの世のぶどう酒よりも良い（雅歌 1：2） .....              | 31 |
| I. 復習：神のみことばによる口づけを理解する。 .....                       | 31 |
| II. 神の恵みにおける最高の楽しみ .....                             | 31 |
| III. 愛に基づいた従順：イエスにあって満足することによって動機づけられる。 .....        | 34 |
| IV. 神は神が神を愛するのと同じように私たちを愛している .....                  | 36 |
| セッション 6 全てに優る神の愛：神が私たちのことをどのように感じているのか（雅歌 1：2） ..... | 38 |
| I. 復習：神の恵みにおける全てに優る楽しみ .....                         | 38 |
| II. 基礎となる前提：霊的な未熟さは反抗ではない .....                      | 38 |
| III. 原則 # 1：神は未信者のことを愛し祝福している .....                  | 40 |
| IV. 原則 # 2：神は未成熟な信者を楽しみ、喜んでいる。 .....                 | 41 |

|                                                                             |    |
|-----------------------------------------------------------------------------|----|
| V. 原則 # 3 : 神が楽しんでおられることと、承認されておられることとは異なる .....                            | 42 |
| VI. 原則 # 4 : 神による訓練は、神が私たちが拒絶しているのとは違う。 .....                               | 43 |
| VII. 原則 # 5 : 神は、神の民のしつこい罪に対して悲しまれる .....                                   | 43 |
| VIII. 原則 # 6 : 霊的な訓練によって神の好意を獲得することはできない。 .....                             | 44 |
| IX. 原則 # 7 : 成熟することによってより多くのものを得ることができるようになる<br>(より多く愛されるということではない) 。 ..... | 45 |
| セッション 7 イエスのかおり (雅歌 1 : 3) .....                                            | 46 |
| I. 復習 : イエスの愛は、この堕落した世のぶどう酒よりも良い .....                                      | 46 |
| II. キリスト・イエスのかぐわしいかおり .....                                                 | 46 |
| III. 神に関する知識が注ぎ出されるとき、私たちはイエスをもっと愛するようになる .....                             | 47 |
| IV. 神のご性格という甘いかおりー 5 つの動詞 .....                                             | 49 |
| V. 私たちの人生への適用 .....                                                         | 49 |
| VI. 雅歌におけるイエスのかおり .....                                                     | 50 |
| VII. 雅歌における花嫁のかおり .....                                                     | 50 |
| セッション 8 花嫁の人生のビジョン (雅歌 1 : 4) .....                                         | 52 |
| I. イントロダクション .....                                                          | 52 |
| II. 彼女の激しさの表現 : 2 重の人生のビジョン .....                                           | 52 |
| III. 激しさの成長 : 奥の間の経験 .....                                                  | 54 |
| IV. 激しさの確立 : 預言的な保証 .....                                                   | 55 |
| V. 覚えていることによって神を愛することができるようになる .....                                        | 55 |
| セッション 9 心の中は黒いけれども神の目には美しい (雅歌 1 : 5) .....                                 | 57 |
| I. 私たちの旅は“黒いけれども美しい”という恵みのパラドックスから始まる。 .....                                | 57 |
| II. 何故私たちは弱いときにあっても神にとって美しいのか? : 4 つの理由 .....                               | 58 |
| III. ペテロの初期の葛藤 : 黒いけれども美しい、弱いけれども喜んで仕える (マタイ 26 : 41) .....                 | 59 |
| IV. 主を否認したペテロの失敗の故の絶望 .....                                                 | 60 |

|                                                 |    |
|-------------------------------------------------|----|
| V. 勝利の3つの段階 .....                               | 61 |
| VI. 聖なる情熱への旅はこの2重の啓示から始まる .....                 | 62 |
| VII. それでは私たちはどのように生きればいいのか? .....               | 63 |
| セッション10 彼女の旅は霊的な危機から始まる（雅歌1：5－11） .....         | 64 |
| I. 私たちの旅は“黒いけれども美しい”という恵みのパラドックスから始まる。 .....    | 64 |
| II. 彼女の霊的な危機：拒絶と恥 .....                         | 64 |
| III. イエスをもっと欲しいという彼女の必死の叫び .....                | 66 |
| IV. イエスの栄光に満ちた回答：7つの本質的な声明 .....                | 67 |
| V. 彼女の誠実さは、主によって再び肯定される。 .....                  | 69 |
| VI. 私たちの中で始められたことは必ず終わらせるという主の約束 .....          | 70 |
| セッション11 花嫁のパラダイム：基盤となる真理（雅歌1：12－17） .....       | 71 |
| I. 雅歌1：5－17の復習と概要 .....                         | 71 |
| II. 十字架についての黙想：神の愛と私たちが受ける恩恵（雅歌1：13） .....      | 71 |
| III. イエスの美しさと喜びに関する啓示（雅歌1：14） .....             | 72 |
| IV. 花嫁は王のうたげの座に列席する：彼女の賛美が湧き上がる（雅歌1：12） .....   | 73 |
| V. 神の彼女に対する愛と彼女の神に対する美しさに関する啓示（雅歌1：15） .....    | 74 |
| VI. 花嫁は鳩のような目を持つ .....                          | 75 |
| VII. 彼女の賛美と信仰：彼女の5重の応答 .....                    | 76 |
| VIII. イエスの愛の中に住まうこと：休息、確信そして栄光（雅歌1：16－17） ..... | 77 |
| セッション12 花嫁のアイデンティティーと人生の目的（雅歌2：1－7） .....       | 78 |
| I. 花嫁のアイデンティティーと人生の目的：花嫁自身がイエスの相続分となること .....   | 78 |
| II. 花嫁の啓示：イエスだけが彼女の心を満足させる（雅歌2：3） .....         | 80 |
| III. 花嫁は神の臨在を楽しむ：王の前に座る（雅歌2：3） .....            | 81 |
| V. 愛に病む花嫁は、神とのさらに素晴らしい出会いを求めて叫ぶ（雅歌2：5） .....    | 83 |
| VI. 神の2重の抱擁を経験する（雅歌2：6） .....                   | 84 |

|                                                    |     |
|----------------------------------------------------|-----|
| VII. 戦略的な霊の季節において、聖霊は私たちを守る（雅歌 2 : 7） .....        | 84  |
| VIII. まとめ：雅歌 2 : 1 - 7 における信仰の 7 つの告白 .....        | 85  |
| セッション 13 快適な場所から出るようにとの挑戦（雅歌 2 : 8 - 17） .....     | 86  |
| I. 花嫁のアイデンティティーと人生の目的：イエスの相続分となること .....           | 86  |
| II. 雅歌 2 : 8 - 17 の概要 .....                        | 86  |
| III. イエスは最高の権威を持つ王としてご自身を彼女に現す .....               | 87  |
| IV. 安全と守りの壁 .....                                  | 88  |
| V. 快適な場所から出て、イエスとの深い関係へと呼び出される .....               | 88  |
| VI. 実りの多さに関する預言的なしるし .....                         | 89  |
| VII. 私たちはイエスの十字架を通して神の御前に守られている .....              | 90  |
| VIII. 妥協からの解放を求める祈り .....                          | 91  |
| IX. 彼女は、イエスに対する彼女の誠実な愛を表現する .....                  | 92  |
| X. 彼女の痛みを伴う妥協 .....                                | 93  |
| XI. 進展に関する 4 つの鍵となる声明 .....                        | 94  |
| セッション 14 神の愛に溢れた訓練（雅歌 3 : 1 - 5） .....             | 96  |
| I. 雅歌 2 : 8 - 17 の復習 .....                         | 96  |
| II. 雅歌 3 : 1 - 5 の概要 .....                         | 96  |
| III. 神の訓練は、私たちを拒絶することではない .....                    | 97  |
| IV. 神の臨在が花嫁から取り去られる .....                          | 98  |
| V. 若い花嫁は祈りに加えて、従順を追加する。 .....                      | 99  |
| VI. 彼女の従順に応答して、イエスの臨在が戻ってくる .....                  | 100 |
| VII. 戦略的な霊の季節において、聖霊は私たちを守る（雅歌 2 : 7） .....        | 101 |
| セッション 15 イエスの安全なリーダーシップに関する啓示（雅歌 3 : 6 - 11） ..... | 103 |
| I. 雅歌 2 : 8 - 3 : 5 の復習 .....                      | 103 |
| II. 雅歌 3 : 6 - 11 の概要 .....                        | 104 |

|                                                   |     |
|---------------------------------------------------|-----|
| III. 聖霊は鋭い質問を投げかける（雅歌 3 : 6） .....                | 104 |
| IV. 聖霊の守りというミニストリー（雅歌 3 : 7－8） .....              | 106 |
| V. イエスの愛に溢れた救いは、私たちに大きな安全をもたらす（雅歌 3 : 9－10） ..... | 107 |
| VI. 聖霊は全教会を婚姻のパラダイムへと励まし導く .....                  | 108 |

## セッション 16 いつくしみ、大切に思われている心：イエスを愛するために備えられる

（雅歌 4 : 1－8） ..... 110

|                                            |     |
|--------------------------------------------|-----|
| I. 雅歌 2 : 8－3 : 11 の復習 .....               | 110 |
| II. 雅歌 4 : 1－8 の概要 .....                   | 110 |
| III. 私たちの心をイエスに据える .....                   | 111 |
| IV. 私たちが弱いときでも、私たちは神にとって美しい .....          | 113 |
| V. 目：霊的な理解と啓示（雅歌 4 : 1） .....              | 114 |
| VI. 髪：イエスへの献身（雅歌 4 : 1） .....              | 114 |
| VII. 歯：みことばの中の彼女の生活（雅歌 4 : 2） .....        | 115 |
| VIII. くちびる：神の油注がれたことば（雅歌 4 : 3） .....      | 115 |
| IX. 口：神との親密さ（雅歌 4 : 3） .....               | 116 |
| X. 頬：彼女の感情の個性（雅歌 4 : 3） .....              | 116 |
| XI. 首：彼女の決意した意志（雅歌 4 : 4） .....            | 116 |
| XII. 胸：他の人を養う能力（雅歌 4 : 5） .....            | 117 |
| XIII. 彼女の決意は、霊的成長のための基盤である（雅歌 4 : 6） ..... | 117 |
| XIV. イエスによる肯定の新鮮なことば（雅歌 4 : 7） .....       | 118 |
| XV. 霊的戦いへの召命（雅歌 4 : 8） .....               | 118 |

## セッション 17 私たちに奪われた神の心（雅歌 4 : 9－5 : 1） ..... 120

|                                           |     |
|-------------------------------------------|-----|
| I. 雅歌 4 : 1－8 の復習 .....                   | 120 |
| II. イエスの心は彼の人々によって奪われる .....              | 121 |
| III. 神に関するクリスチャンのパラダイム .....              | 121 |
| IV. 私たちに対する愛に関するイエスの啓示（セッション 5 の復習） ..... | 122 |

|                                                                 |     |
|-----------------------------------------------------------------|-----|
| V. イエスの花嫁に対する情熱的な愛情 .....                                       | 123 |
| VI. 彼女の心（彼女の思い、言葉そして行動）に対するイエスの喜び .....                         | 124 |
| VII. 花嫁の、イエスに対するとてつもない献身 .....                                  | 125 |
| VIII. 若い花嫁の実りの豊かさに関する描写 .....                                   | 126 |
| IX. 花嫁の人生における聖霊のミニストリーに関する三重の描写 .....                           | 126 |
| X. 油注ぎの増加を求める彼女の叫び .....                                        | 127 |
| XI. イエスは花嫁という彼の相続分を楽しむ .....                                    | 127 |
| セッション 18 成熟のための究極の二重の試練（雅歌 5 : 2 – 9） .....                     | 129 |
| I. 復習：彼女の人生において神の臨在が増し加わるようにとの花嫁の叫び .....                       | 129 |
| II. イエスは、苦しみの共有へと彼女を招く（雅歌 5 : 2） .....                          | 129 |
| III. 花嫁は、完全な従順をもって、イエスに応答する（雅歌 5 : 3 – 5） .....                 | 130 |
| IV. 最初の試練：イエスは彼女から彼の臨在を取り去る（雅歌 5 : 6） .....                     | 131 |
| V. 第 2 の試練：花嫁は迫害され、拒絶される（雅歌 5 : 7） .....                        | 132 |
| VI. 謙遜と愛による彼女の応答（雅歌 5 : 8） .....                                | 133 |
| セッション 19 二重の試練に対する花嫁の応答（雅歌 5 : 8 – 6 : 5） .....                 | 134 |
| I. 復習：彼女の人生において神の臨在が増し加わるようにとの花嫁の叫び .....                       | 134 |
| II. 雅歌 5 : 8 – 6 : 5 の概要 .....                                  | 134 |
| III. 第一の質問：彼の中の何があなたをして彼を愛させるのですか？（雅歌 5 : 9） .....              | 135 |
| IV. 花嫁の答え：イエスの偉大な素晴らしさ（雅歌 5 : 10 – 16） .....                    | 136 |
| V. イエスの威厳に満ちた美しさ（雅歌 5 : 10 – 16） .....                          | 137 |
| VI. 2 番目の質問：あの方はどこに行かれたのですか？あなたといっしょに捜しましょう<br>(雅歌 6 : 1) ..... | 138 |
| VII. 花嫁は 2 番目の質問に答える（雅歌 6 : 2 – 3） .....                        | 139 |
| セッション 20 試練の季節の後、イエスは彼女をほめたたえる（雅歌 6 : 4 – 10） .....             | 141 |
| I. 復習：人生における神の臨在の増加を求める花嫁の叫び .....                              | 141 |

|                                                           |     |
|-----------------------------------------------------------|-----|
| II. 雅歌 6 : 4 – 10 の概要 .....                               | 141 |
| III. 試練の中であって、イエスは花嫁の美しさを表現する（雅歌 6 : 4） .....             | 142 |
| IV. イエスは花嫁が彼の心に与えた衝撃を描写する（雅歌 6 : 5） .....                 | 143 |
| V. イエスは花嫁の霊的な成熟に関して描写する（雅歌 6 : 5 – 7） .....               | 144 |
| VI. 天の花婿の王の宮殿（雅歌 6 : 8） .....                             | 145 |
| VII. 神の家族における花嫁の栄誉（雅歌 6 : 9） .....                        | 146 |
| VIII. 聖霊が花嫁の四重の栄光の冠について描写する .....                         | 147 |
| <br>セッション 21 迫害された花嫁の弁護（雅歌 6 : 11 – 7 : 9） .....          | 150 |
| I. 雅歌 6 : 4 – 10 の復習 .....                                | 150 |
| II. 雅歌 6 : 11 – 7 : 9 の概要 .....                           | 150 |
| III. 全教会に仕えようとする花嫁の決意（雅歌 6 : 11） .....                    | 151 |
| IV. 神の教会への愛が彼女を打ち負かす（雅歌 6 : 12） .....                     | 152 |
| V. 花嫁に対する教会の 2 つの応答（雅歌 6 : 13） .....                      | 153 |
| VI. 見分ける能力のある信者によって、花嫁は弁護される（雅歌 7 : 1 – 5） .....          | 154 |
| VII. 花嫁はイエスによって弁護される（雅歌 7 : 6 – 9） .....                  | 157 |
| <br>セッション 22 花嫁の成熟したイエスとのパートナーシップ（雅歌 7 : 9 – 8 : 4） ..... | 159 |
| I. 雅歌 6 : 11 – 7 : 9 の復習 .....                            | 159 |
| II. 雅歌 7 : 9 – 8 : 4 の概要 .....                            | 159 |
| III. 即座に従順することによって婚礼のパートナーシップが表される（雅歌 7 : 9 – 10） .....   | 159 |
| IV. 神の愛における花嫁の二重の霊的なアイデンティティ（雅歌 7 : 10） .....             | 160 |
| V. イエスは神の民に対して大きな望みを抱いておられる（雅歌 7 : 10） .....              | 161 |
| VI. 私たちのパートナーシップが力を求めるとりなしの中に表現される（雅歌 7 : 11 – 12） .....  | 162 |
| VII. そこで私の愛をあなたにさげましょう（雅歌 7 : 12） .....                   | 163 |
| VIII. 花嫁は、彼女の働きの実をイエスに楽しんでもらいたいと望む（雅歌 7 : 12 – 13） .....  | 164 |
| IX. 彼女の謙遜さと公のミニストリーの中でパートナーシップが表される（雅歌 8 : 1 – 2） .....   | 164 |
| X. 壊すことができないイエスとの一体感の中に表されるパートナーシップ（雅歌 8 : 3 – 4） .....   | 166 |



|                                                      |     |
|------------------------------------------------------|-----|
| セッション 23 成熟した愛による婚姻の封印（雅歌 8 : 5 – 7） .....           | 168 |
| I. イントロダクション .....                                   | 168 |
| II. ねたむ花婿としてのイエスを私たちのところに招くようにとイエスは私たちを召しておられる ..... | 169 |
| III. 神の封印は、決して消すことができない神の火の炎である .....                | 170 |
| IV. 神の臨在を招くことによって、私たちの心にイエスの封印を押さなければならない .....      | 171 |
| V. 愛することができる能力を持つことの中に、愛の報酬を見出す .....                | 171 |
| VI. 終わりの時代の教会は愛に勝利する .....                           | 172 |
| セッション 24 花嫁の最後のとりなしと啓示（雅歌 8 : 8 – 14） .....          | 173 |
| I. 雅歌 8 : 8 – 14 の概略 .....                           | 173 |
| II. 花嫁の教会に対する情熱ととりなし（雅歌 8 : 8 – 9） .....             | 173 |
| III. 花嫁の確信：神が彼女をどのように見ているかについての啓示（雅歌 8 : 10） .....   | 176 |
| IV. 神の御前における花嫁の説明責任に関する啓示（雅歌 8 : 11） .....           | 177 |
| V. 神に対する彼女の忠実さに関する花嫁の確信（雅歌 8 : 12） .....             | 178 |
| VI. イエスの花嫁に対する最後の命令（雅歌 8 : 13） .....                 | 179 |
| VII. イエスに早く帰って来てくれるようにと頼む彼女の緊急のとりなし（雅歌 8 : 14） ..... | 180 |

## セッション 1

### 雅歌へのイントロダクション

#### I. イントロダクション

- A. このセッションでは、雅歌に関する序論的な情報と、その解釈に関する原則を紹介する。このことによって、雅歌の概略を大きく理解することができるロードマップを得ることができる。
- B. ソロモン王は BC900 年に書かれたこの 8 章からなるラヴソングの著者である。おそらく彼が霊的に衰えていく前に書かれたものと思われる (I 列王記 11 : 3-4)。
- C. 雅歌は、1~4 章、5~8 章の 2 つの部分に分けられる。
  - 1. 「雅歌」の初めの 4 章は、キリストにある彼女の相続分に関して理解を深め、それを楽しんでいくことができるようになる花嫁に焦点が当てられている。これらの章では、神が花嫁をどのように見ているのか、花嫁をどのように求めているのかが強調される。
  - 2. 終わりの 4 章では、花嫁の中にあるイエスの相続分について焦点が当てられる。私たちはイエスから何かを求めるが、逆にイエスもまた私たちから何かを求めている。イエスは、私たちに「心を尽くし」て彼を愛して欲しいと望んでいる (マタイ 22 : 37)。雅歌はちょうど真中で (4 : 16-5 : 1)、その焦点が完全に変わる。

#### II. 雅歌に対する私の個人的な召しと旅路

- A. 主は 1988 年の 7 月、耳に聞こえる声でもって私に語られた。私はオフィスにいて、雅歌 8 : 6 を読んでいて、「イエス様、イエス様の愛の封印をもって、私の心を封印してください。」と祈り始めたときだった。
- B. 主は、全世界にあるキリストの体全体が、雅歌 8 : 6-7 と共に歩くことができるように恵みを解き放ち、私自身のミニストリーのメインテーマをこのみことばに焦点を当てるようにと語られた。
- C. その日、雅歌を読み終えた後、最初、私はすっかり途方に暮れてしまった。その次に、私はこの書を楽しむのではなくて、信仰によって勉強してみようと決意した。最初は象徴的な言葉の数々におどおどしていたが、すぐに雅歌を学ぶことに対して喜びと楽しみを見出すことができるようになり、花婿なるイエスと出会い、彼の愛の力を感じることができるようになっていった。

#### III. 雅歌は神聖なる情熱の型を明らかにする。

- A. 雅歌は、私たちがどのようにしてイエスを恋い慕いながら成長していけばいいのかについての神の型を明らかにしてくれる。神に対する成熟した愛を育てていくために必要な、重要な原則と実際の現実を示してくれる。
- B. 雅歌を理解していくことで、神が私たちの人生において具体的に扱いたいと思っている問題が明らかになっていく。また神が私たちの人生の様々な季節において、何を行っておられるのかを見分ける能力が備えられていく。私たちは私たちの人生の中で、雅歌に描かれているように、潮が満ちたり、引いたりするように、試練と祝福の間を出たり入ったりする。人は雅歌の中に、自分が現在居る季節を見出だすことができる。私も雅歌に描かれている同じ場面を何

度も何度も実際の人生で訪れている。

#### IV. 雅歌をどのように解釈するか。

A. 普通の解釈：ソロモン王とその花嫁「シュラムの女」との間のラブストーリーが描かれているとする解釈。婚姻関係の中に見出される愛の美しさを大切にする聖書の原則を強調する。この解釈の仕方は100年ぐらい前から人気が出てきて、たくさんの解説書が書かれている。雅歌を実世界のラブストーリーと解釈する場合、2つの基本的なストーリーがある。

1. 1つ目のストーリーは、ハンサムで富裕なソロモン王に求婚された「シュラムの女」について語り、物語が進むにつれ、ソロモン王は「シュラムの女」の心を掴んでいく。
2. 2つ目のストーリーは、シュラムの町の貧しい羊飼いを深く愛する、神に忠実な「シュラムの女」を描くストーリー。ソロモン王は彼女の町を通った時、彼女がぶどう園で働いているのを見つける。彼は彼女の並外れた美しさに心を奪われてしまう。王は、彼女が愛している貧しい羊飼いから彼女の心を盗もうとする。裕福で権力もあるソロモン王からの誘いの最中であっても彼女はその貧しい羊飼いへの忠節を尽くすという物語。

B. 霊的な解釈：実世界のラブストーリーの背後に隠された、イエスと私たちの関係における霊的な真理を見ていこうとする象徴的な解釈。私がこの学びで使用するアプローチはこちらの解釈の方である。私たちのイエスとの関係をより深く理解するために、雅歌を学んでいく。この解釈が過去3000年に渡って（ソロモン王が雅歌を書いて以来）、最も普及している解釈の仕方である。

1. イエスは雅歌においても賛美されている。イエスはエマオの途上で弟子たちに全ての聖書の書からイエスについて語ったとある。彼は自分自身について語るために、旧約聖書中の39書全てから語ったのである。

**<sup>27</sup>・・・イエスは、・・・聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた（ルカ24：27）。**

2. 聖書はすべて、神の靈感によって書かれたもので（II テモテ3：16）、イエスが行った全ての事柄において、イエスを賛美している。

**<sup>14</sup>御霊はわたしの栄光を現わします。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです（ヨハネ16：14）。**

3. 聖霊はイエスと深い友情関係を持ち、また人々をイエスへの愛で満たそうとイエスに激しく忠誠を尽くしている。イエスと聖霊は永遠の過去より共に存在したのである。であるから、聖霊にとって、イエスをメインテーマに据えることなく、聖書の書を書くように靈感を与えるなどということは考えられないことである。

#### V. 霊的な解釈－3つの共通のアプローチ

A. 最初のアプローチは、イエスとイエスを信じる個人ひとりひとりの関係についてである。このアプローチによって、神聖なる情熱が発展していくのを助ける霊的な原則が与えられる。この方法に従って私たちはこの学びを進めていく。

B. 2つ目のアプローチは、イエスと彼によってこれまでに形成された彼の教会との関係について

である。

- C. 3つ目のアプローチは、花婿としての神と彼の花嫁であるイスラエル人との関係についてである。このアプローチは旧約聖書の著者および現代のユダヤ人ラビ達が第一とするアプローチである。
- D. 私たちはこれら異なる解釈が人をイエスへの愛にあって成長させる限りにおいて、それぞれの解釈を祝福する。

## VI. 全ての信者は、花嫁に含まれる。

- A. 神学的に言って、地球上の全ての信じる者はイエスと婚約している。ヘブルの伝統によると、婚約した二人は法律上婚姻関係にあるとみなされ、もし婚約を破棄するとなると法律上離婚する必要がある。

<sup>2</sup>・・・私はあなたがたを、清純な処女として、ひとりの人の花嫁に定め、キリストにささげることにしたからです (II コリント 11 : 2)。

- B. 婚姻関係の真の完成はこれからやって来る時代に起こる (黙示 19 : 7)。

<sup>7</sup>私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時が来て、花嫁はその用意ができたのだから (黙示録 19 : 7)。

- C. 花嫁の定義は、愛に成熟した者たちという意味である。

- D. 私は、キリストの花嫁は成熟した愛に満ちた歴史上の全ての教会を表していると信じている。復活の際、聖霊は全ての教会を完全なものとするために神の御業をもたらす。言い換えるなら、全ての信者はイエスとの成熟した婚姻関係を経験することができるということである。

- E. 第一に、花嫁の成熟は、イエスの十字架上で働きによる実である。

<sup>31</sup>・・・神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。<sup>32</sup>わたしたちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょう (ローマ 8 : 31-32)。

- F. 第二に、天国では、一体となった人々がいるだけで、2つの異なる階級の信者がいるということではない。イエスは、イエスを信じる人が父なる神とその子が一体であるように一体となるように祈られた。

<sup>21</sup>それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼がみな一つとなるためです。・・・(ヨハネ 17 : 21)

- G. 第三に、私たちは栄光の中でイエスと出会うとき、イエスのような者になる。神と出会うことによる衝撃によって、偉大な力が解き放たれ、終わりの日に全ての信者が変えられる。

<sup>2</sup>・・・しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです (I ヨハネ 3 : 2)。

- H. 第四に、花嫁の運命は、花嫁に対して心奪われている神によって保証されている。神の心は神を信じる人々のために奪われている。神の心は、全ての贖われた人々に対して奪われているのであって、地球上での短い間に霊的に成熟した人々のためだけに奪われているのではない。イエスは、教会のある特定のグループだけのために心を奪われているというわけではなくて、教会の全ての人々に対して心奪われているのである。

<sup>9</sup>私の妹、花嫁よ。あなたは私の心を奪った。・・・(雅歌 4 : 9)

- I. まとめ：花嫁の成熟は、基本的にイエスの十字架上の働き、イエスの執り成し、イエスの栄光の啓示、イエスの私たちのために奪われた心にかかっている。

## VII. 雅歌に出てくる3人の登場人物

- A. ソロモン王：霊的な解釈において、彼は王の王である勝利した復活のイエス・キリストを表している。
- B. シュラムの女：霊的な解釈において、彼女はキリストの花嫁を表している。彼女は、成長して、最後には王であるイエスと成熟した関係を持つ花嫁となる若い娘として紹介されている。
- C. エルサレムの娘：霊的な解釈において、彼女らはひたむきではあるが、未熟な信者を表している。彼女たちは王との関係を親密にしていくためにはどうしたらいいのかについての答えを得るためにシュラムの女に心惹かれている。彼女らは歴史上に存在していた実際のグループではない（が、未熟な信者を表している）。

## VIII. 伝道者の書と雅歌の比較

- A. ソロモンは、旧約聖書の中で3つの書を書いた：箴言、伝道者の書と雅歌である。ユダヤ人の父たちは、この3つのソロモンによる書をソロモンが建てた神殿と関連付けることをよく行う。
1. 箴言はソロモンの神殿の外庭と関連付けられる。
  2. 伝道者の書はソロモンの神殿の内庭と関連付けられる。
  3. 雅歌」ソロモンの神殿の至聖所と関連付けられる。
- B. 伝道者の書において、彼は“空の空。すべては空。”と書いた。この書は、神への従順がなければこの人生は空しいと宣言している。そうであるから、最も好ましい状況にあっても人は満足することができないのである。この書は、人間が神にある休息を見つけるまでは際限なく迷い続けることを語っている。私たちは全てのものを手に入れることができるが、神とのリアルな関係がなければ現実的には何も持っていないということになる。
- C. 雅歌では、ソロモンは回りの環境・状況がどうであれ人生の喜びを獲得することができることを伝えている。この書において、聖霊は、神との親密な関係を得ることを私たちの人生の目的とせよと我々を招いている。雅歌は、私たちの燃えるような情熱をもってイエスを愛しイエスを知るとき、私たちの人生がどんなに満たされたものとなるのかを強調して伝えている。困難な状況にあるときにでも、私たちの霊は神にあって生き生きとしたものであり得る。
- D. 伝道者の書は、私たちの成功が人の目にあっていかに大きなものであったとしても、もしそれらの成功が神を喜ばすものでないのならば、究極的に何の価値もないということを私たちに教えている。伝道者の書が理解できたとき、私たちの思いは熱くかきたてられ、雅歌1：5からの旅を始めることができる。すなわち、伝道者の書は私たちが雅歌を理解するための準備を整えてくれることになる。
- E. 伝道者の書の哲学は、“人生を楽しむ方法としてできるだけ多くの世の経験をしなさい”と私たちに主張している。これに対して雅歌は、謙遜になること、神に従順になること、神の愛を受けることを通して、人生を成就していくことについて語っている。
- F. 伝道者の書は、世の人生において見つけることができる最高のものでさえもそれを追い求める

ことは虚しいと語り、雅歌は御国の人生で見出すことができる最高のもの追い求める霊的な楽しみについて語っている。

## IX. Canticles または歌集

- A. 雅歌は時々Canticles と呼ばれることもある。ラテン語の“canticum”という名詞は“歌”を意味する。“Canticles”は歌集という意味である。
- B. ウルガタ聖書は4世紀に Jerome という人によって訳された聖書の訳である。Jerome は一般の人々にも分かるように聖書をラテン語に訳した。
- C. このウルガタ聖書中、雅歌は“Canticles”と呼ばれている。引用の仕方として、Cant.4:9、Song4:9、SS4:9 や SOS4:9 と書かれる（全て雅歌4：9という意味）。

## X. 寓話的解釈

<sup>23</sup> 女奴隷の子は肉によって生まれ、自由の女の子は約束によって生まれたのです。<sup>24</sup> このことには比喩（NKJV 訳では象徴的：*symbolic*、NIV 訳では比喩的：*figurative*、NAS 訳では寓話的：*allegorically speaking* という言葉が使用されている）があります。この女たちは二つの契約です。一つはシナイ山から出ており、奴隷となる子を産みます。その女はハガルです。<sup>25</sup> このハガルは、アラビヤにあるシナイ山のことで、今のエルサレムに当たります。なぜなら、彼女はその子どもたちとともに奴隷だからです。<sup>26</sup> しかし、上にあるエルサレムは自由であり、私たちの母です（ガラテヤ4：23－26）。

- A. 寓話的解釈はこれまでの歴史の中で様々な方法で用いられてきた。パウロによって語られているハガルとサラの物語は NKJV 訳では象徴的に描写され、NIV 訳では比喩的に、NAS 訳では寓話的に描写されている。
- B. ガラテヤ4：21－31のパウロによるサラとハガルの物語は、“寓話的”というよりもむしろ“比喩的（予型論的：新約聖書に書かれている内容はすでに旧約聖書で示されているという説）”である。パウロの寓話は、1世紀に書かれたアレキサンドリア物語や3世紀4世紀に書かれた Origen や Chrysostom とはかなり異なる。
- C. アレキサンドリア物語では、歴史上の内容、意味を無視して寓話を用いる。I コリント9：9－10において、パウロは「穀物をこなしている牛」（申命記25：4）を寓話的に解釈し、経済的な報酬を得ながらフルタイムで福音のために働く人々へ適用している。
- D. 寓話は歴史的な事実がないが象徴的な意味を持つフィクションである。この手の寓話は“ナルニア国物語”の中に見られる。
- E. 寓話は文学であって、その中で人々や物事が象徴的に真理を描き出す。寓話を用いて語ることでその中の真理を理解しやすくなる。私たちが聖書を解釈する際の基本的な解釈の仕方は、聖書のことばを歴史的にまた文法的に文字通りそのまま解釈することである。聖書が違う方法を示さない限り、我々はこの基本的な解釈に従って聖書を解釈する（ガラテヤ4：24、ヨハネ15：1－6、黙示11：8、イザヤ5：1－7、ホセア2：1－14、エゼキエル16章、ダニエル7：2－8、16章）。
- F. 寓話的な解釈は、新約聖書全体を通して明確に確立されている真理を描写するために用いる場合のみ、役に立つ。

## セッション2

### 最も素晴らしい歌の中でイエスに出会う（雅歌1：1）

#### I. 最も素晴らしい歌

- A. ソロモンは非常に多くの歌を作った人物で、実に1005曲もの歌を作った（I 列王記4：32）。聖霊はソロモンにインスピレーションを与えて、最上級の表現を用いてこの雅歌の名前をつけた（王の王、主の主、至聖所（聖なる場所でも最も聖なところ）と同じ表現）。雅歌は贖いの歴史において、最も素晴らしい歌である（歌の中の歌である）。

#### <sup>1</sup>ソロモンの雅歌（歌の中の歌）（雅歌1：1）

- B. 雅歌には、主の再臨の時を待ち望む非常に大きな思いが描かれている。聖霊は今、主の再臨を宣言し、歌い、書き記し、祈る多くの世代を建て上げている。主の新しい歌を歌う預言的な歌手よ、立ち上がれ。主の前に、歌を作る者よ、立ち上がれ。
- C. 雅歌によってインスピレーションを受けた作曲・作詞する者に、新しい歌を作るときに有用なアドバイスをしたいと思う。ある人は、雅歌の意味を解釈するのではなくて、雅歌の言葉をそのまま使用して、新しい歌を作る。私たちは、理解することができればその象徴的な言葉から啓示を受け取ることができる。
- D. 新しい歌を作るときには、雅歌の一部だけを使用して歌を作ることを勧める。雅歌は聖書の中で一番長い歌であり、また“濃厚な”形で書かれているからだ。

#### II. 雅歌の4つの特徴

- A. 私たちは心を尽くして神を愛そうと求めつづける。それは神ご自身が心を尽くして力の限り、私たちのことを愛してくださっているからである。私たちの心には巨大で不思議な容量・能力がある。それはまるでたくさんの面を持ったダイヤモンドのようなものである。私たちが深く、様々な感情を持っているのは、神ご自身がそのような感情をお持ちだからである。私たちは神のかたち・姿通りに創られたからである。私たちの心の中には、神の聖なる、そして詩的な愛情によって最も感動する部分が存在する。
- B. 雅歌は、イエスの行動の感情的な面を強調する。創世記1章でなぜイエスは私たちを創造したのか？なぜ彼は私たちのために十字架にかかってくださったのか？に焦点を当てる。
- C. 以下に示す4つの特徴は聖書の中でたくさんの個所で見つけることができる。雅歌のユニークなところは、これら4つの真理を有しているというところにあるのではなくて、それら4つの真理に焦点が絞られ濃縮された形で存在するということである。
1. 第一の特徴は、イエスの人々に対する情熱的な愛情と喜びが啓示されている点である。
  2. 第二の特徴は、イエスの美しさ、特に花婿なる王としての美しさが啓示されている点である。
  3. 第三の特徴は、私たちが弱いときでさえも、イエスを信じる私たち一人一人が美しいと啓示されている点である。もしあなたが神にとってあなたがどのように思われているのかを知りたいのなら、雅歌を学びなさい。
  4. 第四の特徴は、イエスに対する愛、イエスとの成熟したパートナーシップを成長させるために必要な原則が示されていることである。

- D. 人々の感情の傷が、また性的なモラルの崩壊が非常に増大している現在、教会は雅歌が示すこの啓示によって整えられ、備えられる必要がある。イエスは彼自身の美しさで私たちを魅了したい、またイエスが私たちに与えてくださった美しさで私たちの心を魅了したいと思っている。雅歌はイエスの心と願いを啓示する神の聖なるレーザー光線のひとつである。

### III. 3重の相続分—詩篇2：11—12

- A. ダビデ王は神の3重の相続分を、①恐れおののき、②喜び、③神の子に口づける人々として描いている。これは成熟した花嫁の描写としては最も優れた描写のうちの一つである。

**<sup>8</sup>わたしに求めよ。わたしは国々をあなたへのゆずりとして与え、・・・<sup>10</sup>それゆえ、今、王たちよ、悟れ。<sup>11</sup>恐れつつ主に仕えよ。おののきつつ喜べ。<sup>12</sup>御子に口づけせよ。(詩篇2：8—12)**

- B. ダビデは私たちの贖いを3つの視点から示している。

1. 「おののく」イエスの永遠に続く尊厳を見ることによって私たちは神を畏れおののく。
2. 「喜ぶ」キリストにある私たちのアイデンティティーを知り、十字架の法的な特権を知ることによって、私たちは喜ぶ。
3. 「口づける」私たちは聖なる愛情によって表現されるように、比喩的な意味で“御子に口づけし”、心を尽くして御子愛する。

- C. この3つの視点に焦点を当てた3つの聖書の書がある。

1. 「黙示録」神の御前で畏れを抱かせる神の永遠の尊厳を描く。
2. 「ローマ人への手紙」十字架の贖いによる私たちの特権を知り、喜びを与える法的で実際的な面を描く。
3. 「雅歌」私たちが神を愛するようにさせる情熱的で感情的な面を描く。

- D. マルチン・ルターは、贖いの法的な側面については述べているが、情熱的、感情的な面については避けて記している。

### IV. 雅歌から愛情にあふれたイエスとの対話へ

- A. 私たちは神の前に餓え渴き、正直な心をもって、雅歌の内容に関して、時間をかけ、愛を込めつつ黙想することに没頭すべきである。雅歌における聖霊の目的の一つは、父なる神のイエスに対する愛をもって私たちを満たすことである。

**<sup>26</sup>そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。それは、あなたがわたしを愛してくださったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです(ヨハネ17：26)。**

- B. 私たちが雅歌のよいところを全て受け取ろうと思うのなら、私たちは雅歌を読みながら、愛情にあふれ、祈りにあふれたイエスとの対話の中に入っていくといけな。祈りの対話という次のステップに入ることなしに、単に雅歌を学ぶだけでは不十分である。雅歌の言葉は私たちの祈りの生活、思考の生活の中に入っていく、そのことによって私たちの感情に変化をもたらさないとはいけない。

- C. 聖書研究のように学問的に雅歌を学ぶ以上のアプローチで私たちは雅歌に向かい合うべきである。知的に理解することは重要であるが、それは単に出発地点に過ぎない。誰も有名なレストランに入って、メニューを研究するだけで終わらないだろう。メニューは、素晴らしい食事



をいただくために存在する。雅歌の鑑定家になるだけでは不十分で、雅歌によって私たちの心を満たしてもらう必要がある。

- D. 雅歌の中で、私にとって深く個人的なものとなった10箇所ほどのフレーズがある。私は若いころ、この10箇所のフレーズを葉書に書いて、運転するときとか散歩に出かけるときに持って行って、用いていた。それらのフレーズをゆっくりとささやくようにイエスに向かって話しかける。例えば、“父なる神様、イエス様がイエス様のみことばをもって、私に口づけするようにしてください”とか“聖霊様、私を力づけ、元気づけてください”とゆっくりと語るのがある。(雅歌1:2、2:5)
- E. このマニュアルを読み進むときに、雅歌の中にある特定のフレーズを神に祈ってみてください。これを行うことによって、雅歌を「飛び込み板」のように用いて、神の愛の深みに飛び込んでいくことができる。

## V. イエスに出会う：雅歌を「祈り読む」

- A. 聖書の言葉を黙想することに関する真理の一般的な2つの範疇について定義する。1つ目の範疇は、神について、私自身について、または神の御国についての何かを“信じるように”私たちを励まし勧めるという真理に関連している。2つ目の範疇は、神の言葉に“従うように”私たちを励ます真理に関連している。
- B. 下の2つの方法は、神の言葉を“信じるように”私たちを励ますみことばを「祈り読む」ためのものである。

1. 最初の方法は、みことばの中に書かれている特定の真理について神に感謝することである。私たちはみことばの中の真理をイエスとの対話に変えていき、特定の方法で“イエス様、ありがとうございます。”とイエスに伝える時間を実際に取りながら、イエスと語り合っていく。
  - a. 例えば、あなたが“あなたは私の心を奪った。”(雅歌4:9)を読むときに、“イエス様、私があなたの(イエス様の)心を奪ったという真理をありがとうございます。”と実際に祈り、この真理に対して神に感謝することによってみことばの語りかけに対して、応答していく。
  - b. 例えば、イエスが花嫁に“あなたの愛は、ぶどう酒よりもはるかにまさり”と語るとき、“イエス様、私のあなたへの愛をこの世のぶどう酒(栄光や楽しみ)よりもまさっているとあなたが見てくださっていることに感謝します。”と祈ることによって応答するのである。

**<sup>10</sup> あなたの愛は、なんと麗しいことよ。あなたの愛は、ぶどう酒よりもはるかにまさり (雅歌4:10)**

2. 2つ目の方法は、私たちがみことばの真理をもっと信じることができるように真理の理解を求めることである。神に啓示を解き放ってくださいるように求める。その啓示によって特定の真理を知り、その真理の力を感じるができるように(エペソ1:17)。
  - a. 例えば、“私の花嫁よ、あなたは私の心を奪った。”という箇所を読むときに、“イエス様、どのように私があなたの心を奪ったのかについてもっと教えてください。”と祈ることによって、啓示を求めていく。

- b. 例えば、イエスが花嫁に対して“あなたの愛は、ぶどう酒よりもはるかにまさる。”と言っている個所を読むときに、“イエス様、私のあなたに対する愛があなたにとって、この世のどんなぶどう酒よりもまさっているという真理についてもっと教えてください。”と祈ることによって、理解を求めていくのである。

C. 以下の2つの方法は、神のことばを“信じるように”私たちを励ますみことばを「祈り読む」ためのものである。

1. 最初の方法は、みことばに書かれている特定の方法でイエスに従うことを決意することである。私たちは特定の真理を神との対話に変え、そのみことばの個所に書かれている特定の勧めに従って、神に従うという私たちの思い、決意を宣言する。
  - a. 例えば、イエスが花嫁に“さあ立って、快適な場所を去り、彼に従いなさい”（痛みを伴う従順、雅歌2：10）と勧めるとき、“イエス様、私は快適な場所から立ち上がり、痛みを伴う従順をもって、山まであなたに会いに行きます。”と祈ることによって、この真理に従うことを決意する。
  - b. 例えば、イエスが花嫁の心が“閉じられた庭、封じられた泉”（王の庭は、公共の庭と異なり、閉じられていて、鍵がかけられている。ここの個所は、閉じられた庭のような、もしくはイエスのためだけに完全に予約された庭のような純粋な心の状態を示している。）のようであることをほめたたえるとき、“イエス様、私の心は全ての妥協に対して、鍵がかけられ閉じられています。私は完全にあなたのものです。”と祈ることによってこの真理に従うことを決意する。
2. 2つ目の方法は、みことばの中の特定の真理に従うことができるように神の明確な力を求めることである。聖霊に、特定の勧めに従えるように助けてもらおう。
  - a. 例えば、主が花嫁に“立って彼に従い、山へ行こう。”と勧めるとき、“イエス様、私が快適な場所から立ち上がって、犠牲を払いつつ従い、あなたに会いに行くことができるように私を強めてください。”と祈ることによって、聖霊に助けてもらおう。
  - b. 例えば、主が花嫁の心が“閉じられた庭”のようであることをほめたたえるとき、“イエス様、あなたのために全ての妥協を拒むことができるような鍵がかけられた心をもって生きることができるように私を強めてください。”と祈ることによって、従うことができるように神に助けてもらうのである。

## VI. ジャーナルを書くことの必要性

- A. 雅歌を「祈り読む」ときに、思い浮かぶ考え、祈り、黙想したことを、時間を取ってジャーナルに書き留めよう。書き留めることによって、主があなたの心に与えた真理を掴み取ることに役立つ。このようにあなたの考えを単に書き留めるだけで、この素晴らしい雅歌が、あなたの心とイエスの間の栄光ある祈りの対話になっていく。
- B. 辛抱強く、ゆっくりと優しく語り、あなたの考えをジャーナルに書き記そう。このことによって、聖霊がどのようにしてあなたにより多くの啓示を与え、あなたの従う心を強め、あなたの心を柔らかくするかを知り、驚くだろう。

## セッション3

### 神による口づけ：みことばによって変えられる（結婚に関するパラダイム）

#### I. イントロダクション

<sup>2</sup>あの方が私に口づけ（みことば）してくださったらよいのに。あなたの愛はぶどう酒よりも快く、  
（雅歌1：2）

- A. 結婚に関するパラダイムとは一体何だろうか？パラダイムというのは、ものの見方もしくは考え方のことである。私たちが私たちの世界観を解釈するのはある特定のレンズを通してである。1988年7月、主は私を導き始め、神である花婿イエスの美しさに魅了され、イエスに大切にされている花嫁の目を通して、神の御国を見るようにと導かれた。そうすることによって、これまで何度も読んでいたみことばの中にさえも、全く新しい方法で、イエスの美しさを見出すことができるようになり始めたのである。
- B. 雅歌の重要なテーマは、王の花嫁に対する感情または愛情についてである。私たちは、神の感情に関するテーマについて学び、黙想することを第一としなければならない。このことは、私たちの感情を健康に保つために非常に重要である。特に私たちが弱いときに、神が私たちのことをどのように考え、どのように感じておられるのかを知っていくにつれ、私たちは変えられていく。この啓示により、私たちは神から走り去るのではなくて、むしろ神に向かって走り寄って行きたくなるのである。またこの啓示により、私たちが弱いときでも、神の愛に対して確信を持つことができるし、私たちの霊を神に開くことができるようになるのである。残念なことに、多くの熱心な信者たちが、自分が非難されていると思う心のままで、または閉じられ頑なになった霊のままで、神を追い求めているのである。
- C. 神の恵みの中で、私たちが経験した神の愛は、どんな洪水（大水）が来たとしても、消されないし、溺れることはない。多くの人が、火が消えたような心のままで、神の愛を経験する力も水浸しになっている状態である。雅歌の真理は、神の火によって、私たちの心の扉の鍵を開いていく。

<sup>6</sup>私（イエス）を封印のようにあなたの心臓の上につけてください。・・・愛は（神の私たちに対する愛）死のように強い。・・・その炎は火の炎・・・<sup>7</sup>大水（迫害、罪、非難、プレッシャーなど）もその愛を消すことができません。洪水も押し流すことができません（雅歌8：6－7）。

#### II. 神のことばによる口づけ

- A. このセッションの焦点は、神のことばという神による口づけについて理解することである。この8章からなるラヴソングは、神による口づけを受ける意味について解き明かしていく。これが花嫁の人生のテーマである。
- <sup>2</sup>あの方が私に口づけしてくださったらよいのに（雅歌1：2）。
- B. 聖書には様々なタイプの口づけが書かれている。例えば、頬に口づける友達としての口づけ、足に口づける召使いとしての口づけなどが書かれている。口への口づけは、神聖なる結婚の中での愛や親密さを表す。
- C. 娘は、王に口へ口づけしてくださいとお願いしているのである。神のことばは神の口から出てくるものである。私たちの心は、神の口から出てくるものによってのみ生きることができるの

である。イエスは荒野で誘惑を受けたとき、申命記 8 : 3 を引用された (マタイ 4 : 4)。3000 年間、ラビは雅歌のこの“口づけ”のことを“トーラーによる口づけ”と呼んでいた。

<sup>3</sup>それは、人はパンだけで生きるのではない、人は主の口から出るすべてのもので生きる、ということ、あなたにわからせるためであった (申命記 8 : 3)。

- D. 神による口づけは、神との親密さを表す比喩である。私たちの心の収容能力を広げるために聖霊によって私たちの心に触れられる神の御手について思いを馳せるべきである。そのことにより、私たちは神の愛を受け取り、また愛にあつて私たち自身を神に捧げることができるのである。口づけは、イエスとの関係がもっと深くなるようにとの神からの招きを意味している。神の口づけとは、神の愛をもって私たちの心を柔らかくする神のこことばを解き放つことを表している。私たちは実際にイエスとキスをするというように考えるべきではない。そんな風に考えることは、神のみことばの境界線からまったく外れている。“みことばによる口づけ”のことを官能的な想像の観点から解釈しているものはすべて否定すべきである。
- E. 雅歌は、婚姻関係の中における愛の美しさをほめたたえるために、また花婿なる神であるイエスとの私たちの関係についての洞察を私たちに与えるために、書かれた。聖霊が私たちに教えることはすべて、私たちをもっとイエスを愛するように動機付ける。聖霊が、イエスを指し示していないことばを生み出させるというようなことは考えられない。

<sup>14</sup>御霊はわたしの栄光を現します。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです (ヨハネ 16 : 14)。

- F. 神のこことばは、対人関係の能力や、ミニストリーに必要な能力や、伝道のための使徒的な戦略など (使徒の働き) のような非常に幅広いテーマを取り扱っている。みことばは、このような能力や洞察において、成長していくことと関係があるので、私たちにとって非常に価値がある。しかしながら、雅歌 1 : 2 においては、花嫁は神の愛が彼女の心に現され、与えられる方法で神のこことばを受け取ることができるように叫び求めている。
- G. 雅歌の中には、神との親密さを表す 3 つの比喩がある。神による口づけ (1 : 2)、神による封印 (8 : 6) と神による抱擁 (2 : 6、8 : 3) である。
- H. 花嫁の旅は神のこことばによる口づけを激しく求めるところから始まり (雅歌 1 : 2)、聖なるねたむ愛を持つイエスと出会うところで終わる (雅歌 8 : 6-7)。イエスは、聖なるねたむ愛によって彼女の心を封印するためにやって来る。これは雅歌において成熟を表す究極の表現である。

### III. 神の口づけ：花嫁の最高の願い

- A. 娘は、王に直接願うのではなくて、王に対して権威のある神に願った。彼女は“彼に働きかけて、私に口づけしてくれるようにしてください”と言った。彼女は、個人的に王に対して影響力のある神に願ったのである。
- B. ソロモンは、神様との自分自身の個人的な経験を回想しながら、このラヴソングを書いた。ソロモンがイスラエルの王になって間もない頃、神は彼を試みるために彼の夢の中に現れた (II 歴代誌 1 章、I 列王記 3 章)。主は彼に最高の願い事、すなわち神に対して何でも願ってもよいと許可することによって、ソロモンを試みた。ソロモンは、神によりよく仕えるために必要な、超自然的な知恵と知識の分与を願ったのである。

<sup>7</sup>その夜、神がソロモンに現れて、彼に仰せられた。「あなたに何を与えようか。願え。」・・・<sup>10</sup>  
今、知恵と知識を私に下さい。・・・この大いなる、あなたの民をさばくことができますようか。<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>神はソロモンに仰せられた。「そのようなことがあなたの心にあり、あなたが富をも、財宝をも、  
誉れをも、あなたを憎む者たちのいのちを求めず、さらに長寿をも求めず、・・・その民をさばく  
ことができるようにと、自分のために知恵と知識を求めたので、<sup>12</sup>その知恵と知識とはあなたの  
ものとなった。そのうえ、わたしはあなたの前の、また後の王たちにもないほどの富と財宝と誉れ  
とをあなたに与えよう。」(II 歴代誌 1 : 7-12)

C. 同じように、主は教会に対して、何でも欲しいものを願ってみよと招いておられる。花嫁とし  
て、私たちは父なる神の臨在の中に立ち、最も欲しいものを願うことができるのである。私た  
ちは、“父なる神様、彼に彼のことばをもって私に口づけさせてください。”と叫び求めるので  
ある。私たちは、神が人間に与えることのできるものの中で最も深いものを願っているのだ  
る。

<sup>22</sup>あなたがたが信じて祈り求めるものなら、何でも与えられます (マタイ 21 : 22)。

<sup>23</sup>・・・心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおりになると信じるなら、そのとおりになりま  
す (マルコ 11 : 23)。

<sup>13</sup>またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。父  
が子によって栄光をお受けになるためです。<sup>14</sup>あなたがたが、わたしの名によって何かをわたし  
に求めるなら、わたしはそれをしましょう (ヨハネ 14 : 13-14)。

D. 神は、引き続き、神の民に、何でも欲しいものを願ってみよと試みておられる。花嫁の最高の  
願い事は、みことばによる神の口づけである。彼女は力や名声、この世の慰めを求めるよりも、  
このこと（神による口づけ）を求めるのである。神は今、神のことばによる口づけを最高の願  
いとして求める人々を立ち上げている。たくさん必要なものはあるが、それらは二次的なもの  
である。最高の信仰の祈りは、恵みを受け取り、神を心を尽くし、力を尽くして愛することが  
できるようにと祈ることである。

#### IV. 神のことばによる口づけを叫び求めることの三重の本質

A. 最初に、これは聖霊があらゆる国々で教会を導いているそのところで表されている預言的な叫  
びである。聖霊はイエスが戻られる前に、第一の戒めを第一のものとして回復しようとしてい  
るのである。神はモーセに、終わりの時が来ると、神は神の民の心に割礼を施し、民が心を尽  
くして神を愛するようにすると約束した。教会は花嫁の愛をもって、“イエス様、来てくださ  
い！”と叫ぶのである。

<sup>37</sup>そこでイエスは彼に言われた。「心を尽くし、... あなたの神である主を愛せよ。」(マタイ 22 :  
37)

<sup>6</sup>あなたの神、主は、・・・あなたの子孫の心を包む皮を切り捨てて、あなたが心を尽くし、精神を  
尽くし、あなたの神、主を愛し、それであなたが生きるようにされる (申命記 30 : 6)。

<sup>17</sup>御霊も花嫁も言う。「来てください。」(黙示 22 : 17)

B. 第二に、これはなぜ私たちが時間と永遠の中に存在しているのかについて解答する人間精神に  
ついての偉大な哲学的な叫びでもある。私たちの人生の究極の目的と意味は、神との親密な関  
係を経験することである。成功の絶対的な定義は、神を心から愛する者になるということであ  
る。私たちが私たちが神から愛されているということを知り、神を心から愛する者になりたい

と望む時、私たちは真の意味において、成功していると言えるのである。

- C. 第三に、これはどのように私たちの心が機能するのかについて解答を与える偉大な心理学的な叫びでもある。私たちの心が本当の幸せをどのように経験し、満足することができるのかというミステリーに対して答えを与える。神は、神の愛を経験することが人間が手にすることのできるものの中でもっとも喜ばしい現実だと感じることができるよう人間を設計された。私たちは、心を尽くして神を愛するように創造されている。私たちが情熱をもって神を愛していない時、私たちの感情はバランスを崩していると言える。このことを求めなければ、人生は機能しない。神を心から追い求めることをしないと人生が完成しないように私たちは創造されているのだ。もし私たちが死んでもいい、命をかけてもいいと思えるものを持っていないのであれば、私たちは生きる目的を持っていないということである。教会の中の多くの人は、神の愛を追い求めることに情熱的でないので、霊的な倦怠感・退屈に苦しんでいる。

## V. 信者の二重の霊的な安息

- A. 赦しの安息：私たちはイエスからの無償の贈り物として、完全に赦されているということを知り、赦しの安息を経験する。イエスの十字架上的の完了された働きにより、私たちは赦しを受け取り、安息することができるのである。
- B. 親密さの安息：私たちは、私たちが神との親密さを追い求めるとき、この安息を経験する。私たちの人生の最高の目的が神との親密さであると結論付けるまでは、本当の意味での安息はあり得ない。アウグスティヌス（AD 354－430）は、「人は神に安息するまでは、安息しない。」と語った。私たちは、神を心から愛するということに私たちの人生の究極の目的を見出すのだ。これが私たちの最高の目的であって、人生において平安と幸福をもたらしてくれる。自分は赦されていると確信している多くの信者が、人生の目的・幸福を見つけ出そうと懸命に努力している。問題は天国に行けるかどうかではなくて、地球上でどのように生きるのかまたなぜ生きるのかということである。
- C. 私たちの心の中には、神が形作られた「真空部分（空っぽな部分）」が存在し、その真空部分は親密さの中に安息することによってのみ埋められる。神との親密な関係の中に安息していないと、性的な束縛、中毒、苦々しさという誘惑に非常に負けやすい状態になってしまう。

## VI. 一人の聴衆の御前で生きる

- A. 私は以前に、ウィーンの素晴らしいコンサートホールで演奏したいと切望していた前世紀のピアニストの話を聞いたことがある。彼が何千人もの聴衆を前にした最初のコンサートを終えたとき、人々は立ち上がり、長い時間、彼に拍手喝采した。それから、彼は「こんなに長い喝采を受けたのは、あなたの人生で最も素晴らしい瞬間でしたか？」と尋ねられた。このピアニストは、「いいえ！そのことは良かったです、私にとって最も重要なことではないのです。」と答えた。さらに彼は「みんなが席についてから、バルコニーの一番上の隅に座っていた年若い一人の男性が私の方を向いてうなずいてくれました。これこそが私にとって最も素晴らしい瞬間だったのです。彼は私を30年間教えてくれた師匠です。彼からのたった一度のうなづきが、たくさんの人からの拍手喝采よりもはるかに価値のあるものなんです。」と言った。
- B. 私たちは、たった一人の神の御前に生きることを学ぶ必要がある。私たちの「師匠」からうな

づきを受けることによって、神（師匠）を愛する人々の心に素晴らしい力が与えられるのだ。

## VII. 実際の適用：神のことばによる口づけを求めること

- A. 神のことばによる口づけを求める叫びは、唯一の神の御前で生きることと同じ現実である。
- B. 私たちは、神が私たちに与えてくださる最も深いものを受けるために心を整え、神のことばを祈り読む、または黙想することによって（セッション2で学んだ）、神のことばによる口づけを受けることができる。
- C. 誘惑に会うとき、私たちは主の御前にこの真理を語る必要がある。私たちは「私は罪に負けません。父なる神様、彼が私に口づけしてくださるようにしてください。私の人生は、神のことばの口づけを受けることにかかっています。それが私が私である理由ですから。」と神に語るのである。人が私たちをひどく扱うとき、私たちは「私の人生の目的は人気者になることではありません。私は神のことばの口づけのために生きるのです。」と宣言するのだ。

## セッション4

### 雅歌におけるストーリー展開の概略

#### I. 雅歌：神による口づけと花嫁の人生におけるビジョン（雅歌1：2－4）

A. 雅歌のテーマは、親密さにおいてイエスの近くに引き寄せられていく、またミニストーリーにおいてイエスとの深いパートナーシップに走り入っていく、花嫁の霊的な旅路である。

<sup>2</sup> **あの方が私に口づけしてくださったらいのに（みことば）。あなたの愛はぶどう酒よりも快く・・・<sup>4</sup>私を引き寄せてください（親密さ）。私たちはあなたのあとから急いでまいります（ミニストーリー）（雅歌1：2－4）。**

B. 雅歌は二つの主要なセクションに分かれている。第一のセクションは、雅歌1－4章で、神にある私たちの相続分を受け取ることに焦点が当てられている。第二のセクションは、雅歌5－8章で、私たちの中にある神の相続分を神が受け取ることに焦点が当てられている。

#### II. 彼女の旅は恵みのパラドックスから始まる（雅歌1：5－11）

<sup>5</sup> **黒い（心の中が）けれども美しい（神の目に）・・・<sup>6</sup>私は自分のぶどう畑（心）は見張りませんでした（雅歌1：5－6）。**

A. 私たちの信仰のパラドックスは、私たちの心は黒いけれども、神にとっては私たちは美しいということである。神の御前に私たちがどんな存在であるのかを理解するためには、この2つの真理を両方とも同じように理解しないと行けない。ある人たちは、私たちがどれだけ罪深い（心の暗闇）かだけを強調し、また他の人たちは私たちが神にとってどれだけ美しい（キリストにあって美しい）かだけを強調する。

B. 私たちは、私たちが弱い時にも、次の4つの理由の故に、神の御前に美しい。

1. 神のご性格：神のご性格は、神の民を優しく愛する感情で溢れている。神様は、優しい愛に満ちた心を通して、私たちを見ておられる。私たちを見つめる神の目の中に美しさがある。

2. 義の贈り物：私たちは無償の贈り物としてイエスの義の美しさを受け取っている。

<sup>21</sup> **神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあって、神の義となるためです（II コリント5：21）。**

3. 聖霊の分与：神を叫び求める誠実で自発的に神に従おうとする霊。

<sup>15</sup> **子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父」と呼びます（ローマ8：15）。**

4. 私たちの永遠の運命：イエスの花嫁としての運命。神は、最初から結末を見通している。神は何十億年の時の光の中で私たちを見ている。その中では私たちは完全に神に従っている存在なのである。

C. 彼女は、イエスをもっと知るために必死になって叫び求めている。イエス自らが個人的に彼女の霊を養ってくれることを彼女は望んでいる。

<sup>7</sup> **私の愛している人。どうか教えてください。どこで羊を飼い、・・・あなたの仲間の群れのかたわらで、私はなぜ、顔おおいをつけた女のようにしていなければならないのでしょうか（雅歌1：7）。**

D. イエスは彼女に対する彼の心を優しく現していく。そしてイエスは彼女の誠実さを確認してい



く（雅歌 1 : 8 – 11）。

<sup>8</sup>女のなかで最も美しい人よ（雅歌 1 : 8）。

### III. 彼女は神の美しさにおける彼女のアイデンティティーを理解する（雅歌 1 : 12 – 2 : 7）

A. 彼女はイエスの美しさと彼を知ることの楽しみについての最初の啓示を受け取っている（詩篇 27 : 4）。

<sup>16</sup>私の愛する方。あなたはなんと美しく、慕わしい（楽しい）方でしょう（雅歌 1 : 16）。

B. 彼女は、神の目から見たら美しいバラであるというキリストにあるアイデンティティーの啓示を受け取る。

<sup>1</sup>私はシャロンのサフラン（バラ）、谷のゆりの花（雅歌 2 : 1）。

C. 彼女が十字架によって完了された御業の影の下で憩うとき、イエスは彼女の心にとって快い。彼女が神のテーブルで食事をし、神のすばらしいリーダーシップの旗じるしの下に生きるとき、彼女は神を知るという最高の楽しみを経験する。そして彼女は神に対して愛に病む。彼女の人生のゴールは、彼女自身の霊的な幸福である。それは彼女が神の臨在を経験するときに起こる。それから彼女のゴールは、どんな犠牲を払ってでも神の相続分として歩いていくこととなる。

<sup>3</sup>私はその陰にすわりたい（十字架によって完了された御業に憩うこと）と切に望みました。その実は私の口に甘いのです。<sup>4</sup>あの方は私を酒宴の席に伴われました。私の上に翻るあの方の旗じるし（リーダーシップ）は愛でした。<sup>5</sup>・・・私を力づけ、・・・元気づけてください。私は愛に病んでいるのです（雅歌 2 : 3 – 5）。

### IV. 快適な場所から出てくるようにとの挑戦（雅歌 2 : 8 – 17）

<sup>8</sup>愛する方の声。ご覧、あの方が来られます。山々をとび越え、丘々の上をはねて。<sup>9</sup>私の愛する方は、もしかや若い鹿のようです。・・・<sup>10</sup>私の愛する方は、私に語りかけて言われます。「わが愛する者、美しいひとよ。さあ、立って、出ておいで。<sup>14</sup>・・・私に、顔を見せておくれ。あなたの声を聞かせておくれ。あなたの声は愛らしく、あなたの顔は美しい。<sup>17</sup>私の愛する方よ。そよ風が吹き始め、影が消え去るころまでに、あなたは帰って来て、・・・（雅歌 2 : 8 – 17）。

A. イエスは、たやすく山々をとび超え、はねていく、もしくは大宣教命令を成就するために働く存在として描かれている。山々というのは、障害（人による、悪魔による）のことを示している。イエスはそれら障害をすべて乗り越える力を持っている。彼女は木の陰にある神のテーブルでりんごを食べることを習慣としていた。

B. 彼女は、彼に対して、彼女を連れずに山へ戻ってくださいと言うことによって彼を拒む（雅歌 2 : 17）。彼女の痛みを伴うこの妥協は、反逆によるものではなくて、彼女の未熟さと恐れによるものである。彼女は、完全に神に従うことは、非常に難しく、犠牲を伴うものだと恐れている。彼女は神を愛しているが、自分は神に完全に従うほどの力を持っていないと考えている。

### V. 彼女は神の愛に満ちた訓練を経験する（雅歌 3 : 1 – 5）

<sup>1</sup>私は、夜、床についても、私の愛する人を捜していました。私が捜しても、あの方は見当たりませんでした。<sup>2</sup>「さあ、起きて・・・私の愛している人を捜して来よう。」<sup>4</sup>・・・私の愛している

人を見つけました。この方をしっかりつかまえて、放さず、・・・(雅歌3：1－4)

- A. 神が神の御顔を彼女から隠すときに、彼女は神の訓練を経験する。雅歌2章の甘さはここに来て、消え去ってしまう。神は私たちを愛するが故に私たちを訓練されるのである(ヘブル12：5－12)。神による矯正は、拒絶ではない。父なる神の約束は、私たちがしがみついているものから私たちの指を引き離すのである。父なる神は私たちを非常に愛しているので、私たちが神の花嫁としてイエスと十分にパートナーシップを持っていない状態に留めておくことができないのである。
- B. 彼女は神からの呼びかけに従うために快適な場所を去り、すぐに「起き上がる」(雅歌3：2)。彼女の従順に応答する形でイエスの臨在は戻ってくる(雅歌3：4)

#### VI. 「安全な救い主」としてのイエスに関する新鮮な啓示(雅歌3：6－11)

イエスは彼自身が100%従っても安全な存在であるということを示す。彼女は100%従うことが人生における唯一の安全な場所であることを信じる。イエスと一緒に水の上を歩く方が、イエスなしでボートの中に居ることよりもはるかに安全である。

#### VII. 花婿なる神の預言的な心(雅歌4：1－8)

<sup>1</sup> ああ、わが愛する者。あなたはなんと美しいことよ。なんと美しいことよ(雅歌4：1)。

- A. 王は彼にとって娘がどれほど美しいかを表現する。彼は、彼女の人生に現れている彼女の美しさに関する8つの長所を表現する(雅歌4：1－5)。イエスは彼女の「これから現れてくる長所」を預言的に宣言していく。彼は無いものを有るもののように呼ぶ(ローマ4：17)。彼は、彼女の失敗を見るのではなくて、彼女の霊の中の叫びを見つめる。神は私たちのものがきしみによってではなくて、私たちの霊の中の叫びによって私たちの価値を決められる。
- B. 完全に献身する人生は、ミニストリーにおいて成熟しようとする者にとっては、基礎であり土台である(雅歌4：6)。最初は、彼女は山へ一緒に行こうと言う神からの呼びかけを断る(雅歌2：9－10)。しかし、この季節になって、彼女は山へ行くことを決意する。彼女は従順の最初のステージに居たというだけであって、後に彼女は成熟していく。

<sup>6</sup> 私は没薬の山・・・に行こう(雅歌4：6)。

#### VIII. 花婿なる神の奪われた心(雅歌4：9－5：1)

- A. 王は今や花婿として表現される。彼の心は彼女を求める思いによって奪われてしまう。イエスは彼の花嫁に対する情熱的な愛情を持っている。彼の心が花嫁に対する愛情で溢れているという啓示を受けて、彼女は十字架の意味を完全に理解することができるようになる(雅歌4：9)。イエスは、彼女の人格に対する彼の喜びを表現する(雅歌4：10－11)。

<sup>9</sup>・・・花嫁よ。あなたは私の心を奪った。あなたのただ一度のまなざしと、・・・<sup>10</sup>・・・あなたの愛はなんと麗しいことよ。あなたの愛は、ぶどう酒よりもはるかにまさり、(雅歌4：9－10)

- B. イエスは彼女の純粋さを7重の表現で表す(雅歌4：12－15)。王の庭はプライベートなものである。王の庭は、水が汚染された公の庭と対照的である。私たちは純粋さを求める心を持って、イエスにこのことを話しかけることができる。

<sup>12</sup> 私の妹、花嫁は、閉じられた庭、閉じられた源、封じられた泉（雅歌4：12）。

C. 彼女の庭は、神の御前にある彼女の心のことを指している。彼女は神の香料の香りが彼女の人生において増していくことを求める。北風は、冬の寒く厳しい風を意味する。南風は、夏の暖かくさわやかな風を意味する。彼女はもはや神からの試練を恐れない。彼女は、イエスが彼女の中にあるイエスの相続分を受け取ることを望み、「愛する方が庭に入ってこられるように」と叫び求めるのである。

<sup>16</sup> 北風よ、起きよ。南風よ、吹け。私の庭に吹き、そのかおりを漂わせておくれ。私の愛する方が庭に入り、その最上の実を食べることができるよう（雅歌4：16）。

D. 最初の4章では、彼女は彼女自身の相続分（彼女の庭）について心配していた。しかし、後半の4章では、彼女の中にあるイエスの相続分が彼女の焦点となっている。ここからは、彼女の心は、彼の庭にあって、彼女の庭にはない。彼女は今や彼女の人生を根本的に全く異なるものとして定義するのである。神はこの個所において、9回も「私の」という所有を表す言葉を用いる。

<sup>1</sup> 私の妹、花嫁よ。私は、私の庭に入り、没薬と香料を集め、蜂の巣と蜂蜜を食べ、ぶどう酒と乳を飲む（雅歌5：1）。

#### IX. 成熟さについての究極の2重の試練（雅歌5：2－8）

<sup>2</sup> ……戸をたたいている愛する方の声。「わが妹、わが愛する者よ。戸をあけておくれ。…私の頭は露にぬれ、髪の毛も夜のしずくでぬれている。」（雅歌5：2）

A. イエスは、ゲッセマネの長く寂しい夜に、十字架を受け入れた。イエスは、ゲッセマネの悲しい人として彼女のもとを訪ね（雅歌5：2）、彼の苦しみを彼女と共有するために彼女を訪ねる（ピリピ3：10）。

<sup>10</sup> 私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、（ピリピ3：10）

B. イエスは彼女に「ゲッセマネの人として彼女のところを訪ねることができるよう戸を開けておくれ」と頼むのである。イエスは、イエス自身が彼女の人生のゴールであることを求める。彼女の成功と幸福のための単なる踏み台としてではなく。

C. 彼女は汚れた着物を脱ぎ、神の恵みの中で彼女の足を洗ったと言いながら、彼女は従順に応答する。彼女はイエスに従うことを恐れず、厳しい北風をさえも求める（雅歌4：16）。彼女はすぐにイエスを恋慕する心をもって、立ち上がる。彼女の心のかんぬきに没薬がしたたっている。このことはイエスを追い求める際、死をも受け入れるという彼女の決心を表している。

<sup>4</sup> ……私の心は、あの方のために立ち騒ぎました。<sup>5</sup> 私は起きて、私の愛する方のために戸をあけました。私の手から没薬が、私の指から没薬の液が、かんぬきの取っ手の上にしたたりました（雅歌5：4－5）。

D. 彼女は、神がその臨在を彼女のもとから取り去ったときに初めて試練を経験する（雅歌5：6）。この試練は、神との親密さを経験する彼女の能力に影響を与える。この個所で、神の臨在は雅歌において2度目に彼女のもとを去る（雅歌3：1）。しかしながら、今回は彼女の不従順とは関係がなく（雅歌3：1－2では彼女の不従順が原因だった）、むしろ彼女の成熟した従順と関係がある。中世の教師はこのことを「魂の闇夜」と呼ぶ。

<sup>6</sup>私が、愛する方のために戸をあけると、愛する方は、背を向けて去って行きました。あの方のことばで、私は気を失いました。私が捜しても、あの方は見当たりませんでした（雅歌5：6）。

E. 彼女は、彼女のミニストリーが拒まれたときに2度目の試練を経験する（雅歌5：7）。夜回りやリーダー達が彼女を打ち、彼女のかぶり物（霊的な覆い）をはぎ取り、彼女を傷つけた。そのことにより彼女はもはや教会の中のミニストリーにおいて役割を果たせなくなる。彼女のミニストリーはなくなってしまった。そうなった今、彼女はどのようにイエスに応答すればいいのだろうか？

<sup>7</sup>・・・夜回りたちが・・・私を打ち、傷つけました。城壁を守る者たちも、私のかぶり物をはぎ取りました（雅歌5：7）。

F. 主は彼女に尋ねる。「もしあなたが深く求めているものを私が与えずにいたとしても、あなたは私のものですか？私の臨在が感じられないときにでも、あなたは私のものですか？周りの状況に落胆しているときでも、あなたは私を愛し、信頼しますか？」その問いに対して、彼女は答える。「私は、最も深い愛のレベルにおいて、あなたのものです。」と。彼女は、エルサレムの娘たち（自分自身よりも霊的でない）に助けを求め、謙虚に応答する。

<sup>8</sup>エルサレムの娘たち。・・・あなたがたが私の愛する方を見つけたら、・・・私が愛に病んでいる、と言ってください（雅歌5：8）。

G. 要約：イエスはゲッセマネにいる彼と一緒にいるようにと彼女を招いた。そして彼女は従順に応答した。イエスの近くに引き寄せられたい、そしてイエスと共に走りたいという彼女の人生のヴィジョンに関連した2重の試練を、イエスは彼女に与える（雅歌1：2－4）。

<sup>2</sup>あの方が私に口づけしてくださったらよいのに（みことば）。あなたの愛はぶどう酒よりも快く、・・・<sup>4</sup>私を引き寄せてください（親密さ）。私たちはあなたのあとから急いでまいります（ミニストリー）（雅歌1：2－4）。

#### X. 2重の試練に対する花嫁の応答（雅歌5：9－6：5）

A. エルサレムの娘たちは、花嫁に質問する。彼女たちはこう尋ねる。「なぜあなたは、私たちに彼を捜しに行かせるほど、彼のことを愛しているのですか？彼はあなたを見捨てたのではないのですか？彼は彼の臨在をあなたから取り去ったのではないのですか（5：6）？そして、あなたからミニストリーを奪い（5：7）、長老たちにあなたを傷つかせたではありませんか？」と。

<sup>9</sup>女のなかで最も美しい人よ。あなたの愛する方は、ほかの愛人より何がすぐれているのですか（雅歌5：9）。

B. 彼女の答えは彼女のイエスに対する愛を表している。彼女は、イエスの壮大な美しさを10の表現で表す。これは聖書の中でイエスの美しさに関する最もすばらしい宣言のうちの一つである。

<sup>10</sup>私の愛する方は、輝いて（目がくらむほどまぶしい。NAS）... 万人よりすぐれ、<sup>11</sup>その頭は純金です。髪の毛はなつめやしの枝で（wavy）、鳥のように黒く、<sup>12</sup>その目は、・・・水の流れのほとりにいる鳩のようです。<sup>13</sup>その頬は、・・・香料の花壇のよう。くちびるは没薬の液をしたたらせるゆりの花。<sup>14</sup>その腕は、タルシシュの宝石をはめ込んだ金の棒。からだは、サファイアでおおった象牙の細工。<sup>15</sup>その足は、純金の台座に据えられた大理石の柱。その姿はレバノンのよう。杉のようにすばらしい。<sup>16</sup>そのことばは甘いぶどう酒。あの方のすべてがよいとしい。・・・これが

私の愛する方、これが私の連れ合いです（雅歌5：10－16）。

XI. イエスは試練の季節の後、彼女をほめたたえる（雅歌6：4－10）

- A. 彼女の2重の試練はついに終わった。イエスは沈黙を破り、彼女に愛情を惜しまず与え、彼女の美しさを表現する。イエスは彼女がティルツア（イスラエルの北王国の首都）のように美しく、エルサレム（霊的、政治的なイスラエルの首都）のように愛らしいと宣言する。またイエスは彼女のことを旗をかかげた勝利の軍隊のように畏れ多いと宣言する。古代の軍隊が戦闘に勝利したとき、軍隊の行進中、勝利者である彼らの旗を掲げるのである。彼女は、彼女の心の中にいた一番大きな敵に勝利したのである。

<sup>4</sup>わが愛する者よ。あなたはティルツアのように美しく、エルサレムのように愛らしい。だが、旗を掲げた軍勢のように恐ろしい（雅歌6：4）。

- B. イエスは、イエスの花嫁のとてつもなく大きな愛によってのみ「征服される」。私たちのイエスに献身するまなざしが王の心を感動させるのである。地獄の全ての軍隊でさえもイエスを征服することはできないが、試練のときにおいてもイエスに対して真実であるとき、イエスの花嫁のまなざしによってイエスを「征服する」ことができるのである。

<sup>5</sup>あなたの目を私からそらしておくれ。それが私をひきつける（打ち負かす。征服する。）（雅歌6：5）。

- C. イエスは花嫁の成熟について、献身について、表現する（6：5－7）。

- D. イエスは王の宮廷における花嫁の卓越した素晴らしさを表現する。イエスの天国の宮廷にはセラフィム、ケルビム、大天使、無数の天使達が存在するが、その中でも花嫁の素晴らしさは群を抜いている。

<sup>8</sup>王妃は60人、そばめは80人、おとめたちは数知れない。<sup>9</sup>汚れのないもの、私の鳩はただひとり。彼女は、その母のひとり子、彼女を産んだ者の愛する子（雅歌6：8－9）。

- E. 聖霊は花嫁の栄光の冠について表現する（6：10）。

<sup>10</sup>暁の光のように見おろしている。月のように美しい。太陽のように明るい、旗を掲げた軍勢のように恐ろしいもの。それはだれか（雅歌6：10）。

XII. 迫害された花嫁の弁護（雅歌6：11－7：9）

- A. 花嫁が主の御前において自分が何者であるのかについての啓示を抱きながら歩むとき、彼女は迫害を受ける。しかしながら、彼女の成熟した愛と全教会に仕えようという彼女の決意が彼女を征服し、迫害をものとししない（雅歌6：12）。

- B. 彼女は、教会のある人々からは誠実な応答を受けるが（6：13前半）、別の人々からは敵意に満ちた応答を受ける（6：13後半）。

<sup>13</sup>帰れ。帰れ。シュラムの女よ。帰れ。帰れ。私たちはあなたを見たい。どうしてあなたがたはシュラムの女を見るのです。二つの陣営の舞のように（雅歌6：13）。

- C. 花嫁は、見分ける力のある聖人によって弁護される。花嫁はイエスによって弁護される（雅歌7：6－9）。

### XIII. 花嫁の成熟したイエスとのパートナーシップ（雅歌7：9－8：4）

彼女は、従順に従うことによって表された、イエスとの成熟した婚姻関係の中におけるパートナーシップを持って歩みだす（7：9－10）。彼女は婚姻のパートナーシップをより大きな力を求める彼女のとりなしの祈りの中で表現する（7：11－13）。彼女は、公のミニストリーにおける彼女の大胆さの中で、パートナーシップを表現していく（8：1－2）。また彼女は、完全なる一致の中でパートナーシップを表現する（8：3－4）。

### XIV. 成熟した愛の婚姻の封印（雅歌8：5－7）

イエスは、彼女がその心に炎の封印を受け、そして聖なる妬む愛をもってイエスとともに歩くようにと彼女を招く。神は燃え尽くす炎であって、神はこの炎を私たちの心に分け与えたいと願っておられる。これが私たちの心を封印する超自然的な神の愛である。この炎によって私たちは強められ、私たちの愛の炎が消されることなく、生きることができるのである。

### XV. 花嫁の最後のとりなしと啓示（雅歌8：8－14）

- A. 花嫁は、教会のために（8：8－9）、またイエスの再臨（8：14）のためにとりなす。雅歌8：8－9において、彼女の教会に対する使徒的な情熱を見ることができる。
- B. 雅歌8：10において、花嫁の確信が3つの表現によって描かれる。①城壁（無私の動機）として。②やぐら（人々を養う彼女の超自然的な能力）として。③平安を持つ者（感情的な妨げが取り除かれている）として。
- C. 雅歌8：11－12において、彼女は、人の目を気にして生きるのではなく、イエスの目を気にして生きることによる力と楽しみを経験する。神の御前に説明責任（彼女が選択した行動の理由を神の御前で説明する責任）があるという啓示を彼女が受け取ったとき、彼女が重要だと判断するその価値観は、永遠という時の流れから見た考え方に根ざすようになる（8：11）。花嫁は、神の御前における彼女自身の霊的な成熟さに関する啓示を受け取る（8：12）。
- D. イエスの花嫁に対する最後の任命（8：13－14）。花嫁が感じる緊急性がとりなしの中で表現されている。

<sup>13</sup>庭の中に住むあなたよ（花嫁）。仲間たちはあなたの声に耳を傾けている。私に（イエスに）それを聞かせよ。<sup>14</sup>私の愛する方よ（イエスよ）。急いでください。香料の山々の上のかもしれない、若い鹿のようになってください（雅歌8：13－14）。

<sup>17</sup>御霊も花嫁も言う。「来てください。」（黙示22：17）

## セッション5

### 神の愛はこの世のぶどう酒よりも良い（雅歌1：2）

#### I. 復習：神のみことばによる口づけを理解する。

<sup>2</sup>あの方が私に口づけしてくださったらよいのに（みことばによる口づけ）。あなたの愛はぶどう酒よりも快く、（雅歌1：2）

A. 花嫁は、王に対して権威を持っている神に願う。彼女は神に「王が口づけされるようにしてください。」と言うのである。彼女は個人的な事柄において王に影響をもたらすことができる神に願っているのである。私たちも「父なる神よ、イエスが私たちにみことばによって口づけされるようにしてください！」と叫び求めるのである。この中で、私たちはイエスを心から愛する恵みを求める信仰の祈りを祈っているのである。神を愛するという戒めは、私たちの人生において神が第一とする戒めである。

<sup>37</sup>そこでイエスは彼に言われた。「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。」<sup>38</sup>これがたいせつな第一の戒めです（マタイ22：37-38）。

B. 神のみことばは神の口から生まれでたものである。3000年間、ラビたちは、この個所の「口による口づけ」を「トーラーによる口づけ」と表現してきた。

<sup>3</sup>それは、人はパンだけで生きるのではない、人は主の口から出るすべてのもので生きる、ということ、あなたにわからせるためであった（申命記8：3）。

C. 雅歌のテーマは、神のみことばによる口づけが花嫁の心の最も深いところに触れてくれるようにとの花嫁の叫びである。最も深く、最も親密な方法で神のみことばと出会っていくということである。言い換えれば、神のみことばは花嫁に対する王の感情を表し、みことばによって、私たちの心が目覚め、神の3重の愛が理解できるようになるということである（神からの愛、神への愛、そして神からの愛が溢れ出ることによる人々への愛）。

#### II. 神の恵みにおける最高の楽しみ

A. 父なる神に神のみことばによる口づけを求めた後、彼女はみことばによる口づけを求める理由を伝える。彼女はイエスに「なぜならあなたの愛はぶどう酒よりも良いからです。」と直接語りかける。彼女はイエスの愛情を経験することは、この世のぶどう酒よりも素晴らしいと語っているのである。

<sup>2</sup>あの方が私に口づけしてくださったらよいのに。あなたの愛はぶどう酒よりも快く、（雅歌1：2）

B. 彼女はぶどう酒という比ゆを用いる。というのはぶどう酒は心を「うきうきさせる」ものである。ぶどう酒は、この結婚の比ゆにおいては、「この世のお祝いの飲み物」と解釈できる。喜びの飲み物であって、人々を幸せにする飲み物である。この世の良いもの・悪いものを含めて人を酔わせるものについて語っている。

1. 神の祝福という「良いぶどう酒」もあるし、罪である「悪いぶどう酒」もある。彼女は「あなたの愛は罪よりもすばらしい。」とだけ言っているのではない。それは明らかであって、彼女はそれ以上のことを語っている。彼女は「あなたの愛を経験することは、この人生において他のすべての特権よりもすばらしい。」と語っているのである。
2. 私たちの状況における神のすばらしい祝福には、経済的な増加、人間関係における好意、

身体的な健康、ミニストリーにおける新しい影響力などが含まれる。ぶどう酒というのは、この地上で（この時代において）経験することができる最高の経験について語っているのだ。

- C. 神からの祝福は素晴らしいが、私たちの心の優先順位の第一となるべきではない。多くの人が、経済的な増加や名声という神の祝福を経験してはいるけれども、彼らの心は神の愛によって成長していない。環境が恵まれていて多くの神の祝福を受けている人の多くが、しばしばイエスへの愛を徐々に失っていく（黙示2：4－5）。

<sup>3</sup>あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、・・・<sup>4</sup>しかしあなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。<sup>5</sup>それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行いをしなさい。もしそうでなく、・・・あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう（黙示2：3－5）。

- D. 花嫁は、彼女の人生において、福音という「最高の楽しみ」が第一のものと述べる。このことにより、彼女の人生の神学と、また彼女が聖さを追い求めるということが明らかにされる。

<sup>2</sup>あの方が私に口づけしてくださったらよいのに。あなたの愛はぶどう酒よりもよく(*better at NAS*)、(雅歌1：2)

<sup>2</sup>・・・あなたの愛はぶどう酒よりも快く(*more delightful at NIV*)、(雅歌1：2)

- E. 「・・・よりも良い」「・・・よりも素晴らしい」「・・・よりも快い」という表現によって、神の心（愛情）に関する啓示において成長していくことから生まれる最高の楽しみについて表現されている。この最高の楽しみは、罪による劣った楽しみと対比される。神は、私たちに、よりパワフルな最高の楽しみを経験させることによって、私たちを罪による劣った楽しみによる支配から解放する。

- F. イエスのリーダーシップの下にあって祝うべき様々な楽しみがある。身体的、感情的、精神的な楽しみである。神はこれら楽しみの著者である。神は私たちを、霊的に、身体的に、また感情的に空腹な状態、何かを必要とする状態にしている。私たちは幸せを追い求める。私たちは楽しみをどこまでも恋い慕う。というのは私たちは神によって楽しみを追い求める者としてデザインされているからである。楽しみを追い求めること自体は罪ではない。私たちの楽しみが不義の中に見出されるとき、それは罪である。

- G. 神は人間の霊の中に7つの熱望を造った。この熱望によって、私たちは神にもっと近づこうとし、また私たちの中に神の栄光を映し出そうとする。この熱望はどんな人にも共通してあるものである。これらの熱望を見ることで、神がどのように私たちの霊をデザインしているかについての洞察を得ることができる。それぞれの熱望は、神の人格を表している。私たちは神に似せて造られた、それ故に、私たちはこれらの熱望を持っているのである。私たちは神ご自身が喜びに満たされているので、私たちは喜びを感じることができるのである。神ご自身が幸福感を持っているから、私たちも幸福感を持つことができるのである（Mike Bickle と Deborah Hiebert による人「7 Longings of the Human Heart（人間の心の7つの熱望）」という本を参照のこと）。

- H. 7つの熱望とは、①神は私たちを楽しんでいるということを確信したいという熱望、②魅了されたいという熱望、③美しくなりたいという熱望、④偉大なものになりたいという熱望、⑤恥ずかしいという思いを持たないで、親密になりたいという熱望、⑥全身全霊を捧げたい、情熱



的になりたいという熱望、そして⑦深く、長く続く影響を周りに与えたいという熱望である。

- I. これら7つの熱望は神によって戦略的に組み込まれたものである。食べ物がおいしい理由は、私たちが空腹感を感じるように創造されたからである。神が私たちを楽しみによって満たしてくださる理由は、私たちの内に楽しみを求める「空腹感」を神が創造したからである。これらの熱望には、喜びの要素も含まれ、また逆に痛み・苦しさの要素も含まれるが、これらの熱望によって私たちは神の臨在の中に入っていくことができる。しかし、敵はこれらの熱望を用いて、私たちが暗闇の力を求めるようにもさせる。これらの熱望が神の恵みの中で触れられなければ、私たちは空っぽなままの状態に置かれ、痛み、嘆き、不満足を感じるだけである。神は私たちの心の中に、「神が形作った真空（さいなまれるほどの空虚感）」を創造された。その心の中の「真空」は神によってのみ満たされるものである。
- J. サタンは神が創造した楽しみの偽物をつくり、私たちを神から引き離そうとする。罪は、当面の一時的な楽しみを生み出すことができる。誰も罪を犯さないといけない義務があるから罪を犯すのではない。私たちは、それを行うことによって、神に従うよりも素晴らしい楽しみを得ることができると思うから罪を犯すのである。誘惑の力は、罪は神のために生きることよりも多くの満足をもたらすことができるというまやかしの約束の上に宿っている。それ故、この約束は、罪の惑わしとか欺く情欲と聖書で述べられている。

<sup>22</sup>・・・人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨ててべきこと、(エペソ4：22)

<sup>13</sup>・・・だれも罪に惑わされてかたくなにならないようにしなさい (ヘブル3：13)。

- K. 私たちが経験することのできる最高の楽しみは、霊的な楽しみである。花婿なる神としてのイエスと出会うことによって最高の楽しみを経験できる。イエスとの出会いは、私たちの心を酔わせ、私たちをイエスへの愛に病ませる。神は私たちを人生の楽しみから引き離すことによって試すために、私たちを聖潔へと招いておられるのではない。聖潔を求めることは、単調でつまらない仕事ではない。完璧で永遠に続く楽しみへの招きなのである。

<sup>11</sup>・・・あなたの御前には喜びが満ち、あなたの右には、楽しみがとこしえにあります (詩篇16：11)。

- L. 花嫁は、雅歌を通して、神にある最高の楽しみというテーマを発展させる。

<sup>3</sup>私はその陰にすわりたくと切に望みました。その実は私の口に甘いのです (雅歌2：3)。

- M. 私たちが福音の真理を十分に経験するまでは、罪は人間の霊が経験することのできる最も楽しい事柄のように思えてしまう。聖霊による、より優れた楽しみは、罪による劣った楽しみよりもはるかにパワフルである。聖なる人々を生み出し、主が戻ってこられる世代に第一の戒めを第一の場所へと回復する神の重要な戦略によって、福音による最高の楽しみを私たちが経験できるようになる。

- N. 終わりの時代の聖徒たちは、イエスの偉大さに驚きつつイエスについての賛美を歌いながら、反キリストに対して勝利をおさめる。殉教者は愛にあって勝利している。というのも彼らの愛は、誘惑や迫害の最中にあっても、弱まらなかったからである。

<sup>2</sup>私は、・・・見た。獣と、その像と、その名を示す数字とに打ち勝った人々が、・・・このガラスの海のほとりに立っていた。<sup>3</sup>彼らは、・・・歌って言った。「あなたのみわざは偉大であり、驚くべきものです。」(黙示15：2-3)。

- O. この真理は、雅歌の後半で語られている。私たちが本当に神の愛を経験するとき、誘惑や迫害

という大水でさえも、私たちの中にある神の愛を消すこともできず、押し流すこともできないとイエスが言うところでこの真理を見ることができる。私たちが経験している神の愛は、非難や妥協という洪水によって、消されず、流されることもない。多くの人は、神の愛を経験できる能力を押し流され、心の中の神の愛の炎が消されてしまっている。

**<sup>7</sup>大水もその愛を消すことができません。洪水も押し流すことができません。もし、人が愛を得ようとして、自分の財産をことごとく与えても、ただのさげすみしか得られません（雅歌8：7）。**

P. パウロは、イエスを経験することは、この時代のどんな特権よりもまさっていると語っている。

**<sup>8</sup>それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくとと思っています（ピリピ3：8）。**

Q. 愛する人の報酬は、愛することができる力を得ることである。愛する人は、働く人の2倍も働き、愛することができる力以外の報酬については気にしない。働く人が愛する人になったら、何が起これと思うだろうか？愛する人になると、チェックリストを投げ捨ててしまう！愛する人はチェックリストを必要としない。働く人が愛する人にならっていくのを見るのは素晴らしいことである。

R. “神の愛は、他の祝福というぶどう酒よりもどれほど素晴らしいのか？”という質問に答えるために、私たちは一生の間、賢く能力を用いていくべきである。

### III. 愛に基づいた従順：イエスにあって満足することによって動機づけられる。

- A. “愛に基づいた従順”は、イエスの愛（愛情）を経験することによって、流れ出す従順である。私たちは、イエスが私たちに愛情を持ってくれていることを知っており、また彼の愛情を経験することで、愛情が彼のもとに戻っていく。この従順はもっとも強力な従順である。というのも最も深く、一定した従順となるからである。愛に病んでいる人は、この愛のために、すべてを受け入れ、すべてを耐え忍ぶことができる。
- B. “信仰による従順”もしくは神の臨在を感じない状態でも従っていくことは、神のみことばの中においてやはり必要とされている。言い換えると、神に従いたいと感じなくても、引き続き神に従っていかないといけない。
- C. “恐れに基づいた従順”や“恥に基づいた従順”は、恥をかくことの恐れや否定的な結果に苦しむことの恐れから来る従順である。この従順も聖書的である。しかし、恐れに基づいた従順では、何年もの間、罪による楽しみに抵抗できるよう私たちを動機付けるのには不十分である。言い換えれば、これは従順に対する最も効果的なアプローチとは言えないということである。
- D. 私たちが罪に対抗するとき、神を経験することの方が、結果に対して恐れることよりも効果的である。何故だろうか？それは、束の間の罪の楽しみを経験したいという誘惑が、通常、罰を恐れる思いよりも、強力だからである。罪の結果を恐れる思いが、私たちの心の中にある罪を犯したいという傾向よりも、力の上で大きくないからである。むしろ、その恐れによって、私たちはこっそりと、またより創造的な方法で罪を犯してしまう。私たちは、罪がもたらす快樂が楽しいので、罪を犯してしまう。私たちの心が神に対して飢えていて、満足できていないときに私たちは罪を犯す。神にあって満足した生き方ができるように、私たちは聖潔を求めて奮闘していかないといけない。

- E. 想像してみてください。ホームレスの少年に、海辺のリゾートホテルに宿泊でき、素晴らしい食事ができて、清潔なベッドで眠ることができる休日のチケットをあげたとする。そして、少年はそのチケットを使わないで、彼が夜露をしのぐために過ごしている小屋の下に隠したダンボール箱の中にそのチケットを入れたままにしているところを考えてみてください。リゾートホテルを経験することをしないで、彼はごみ箱から集めた腐った食べ物を食べつづけているのである。
- F. C.S.Lewis は言った。“私たち人間は、永遠の喜びが提供されているのにもかかわらず、アルコール、セックスや野望にうつつを抜かしている「心半分な（中途半端な）」生き物なのである。海辺での休日がどのようなものか知らないで、スラムで泥のパイを作りたいと願う無知な子供のようなものである。”と。
- G. 罪の誘惑を受けるとき、私たちは選択しなければいけない。あたかも罪が私たちを満足させるように見えるけれども、実際には腐った肉なのである。神から来る楽しみは、私たちの前に用意された宴会の席であり、罪による楽しみを求める虚しさから私たちを解放することができる霊的な喜びのテーブルなのである。罪の支配から私たちの心を解放する方法は、神にあって喜ぶことである。イエスに出会うことは、罪が私たちに提供するあらゆるものにまさる楽しみなのである。
- H. 聖さはしばしば、罪の結果の恐怖・警告の果てしないリストを伴った否定的な方法で伝えられる。神のみことばは、意図的で罪に満ちた反抗の結果について教えている。聖書は、やってはならないこと、禁止されていることに溢れているが、これらの法律や規則は、人間の心を超自然的に変えるために神がデザインしたものではない。
- I. 多くの人のアプローチは、恥や恐れを用いて、人々を動機付け、すべきこと・してはいけないことのリストを守るようにさせる。しかし結局、罪による刹那的な楽しみ誘惑がしばしば、遠い将来の結果に対する恐れよりも、強力なのである。確かに私たちは罪の結果について伝え続けたいといけませんが、同時にそれだけでは十分ではないということを認識しないといけない。それ以上のものが必要である。人々に罪による社会的・霊的な結果について警告するだけでは、ポルノ、食欲、嘘をつくこと、ごまかすことを人々が拒否するようにさせることはできないのである。
- J. モーセは、エジプトでの彼の豊かさ、彼の権威に伴う肉の楽しみを経験したが、彼はより素晴らしい豊かさを選んだ。彼はエジプトよりも楽しく美しいもの、霊的に魅力的で満足をもたらすものを経験した。モーセのように、聖さの楽しみを追い求めていけば、あなたはイエス以外の何ものも魂を満たすものはないということを発見することになる。

<sup>24</sup>信仰によって、・・・<sup>25</sup>はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。<sup>26</sup>彼は、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる大きな富と思いました。彼は報いとして与えられるものから目を離さなかったのです（ヘブル 11：24－26）。

<sup>18</sup>今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます（ローマ 8：18）。

<sup>17</sup>今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです（II コリント 4：17）。

#### IV. 神は神が神を愛するのと同じように私たちを愛している

- A. 最後の晩餐の時、イエスは、父なる神のイエスに対する愛（愛情）の大きさは、神の神の民に対する愛の大きさと同じであることを強調された。イエスは、このことについて3度繰り返し、強調した（ヨハネ14－17章）。このひとつの真理によって、すべての信者は自分自身のことを“神の一番のお気に入り”とみなす権利を得たことになる。

<sup>9</sup>父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい（ヨハネ15：9）。

<sup>23</sup>・・・あなたがわたしを愛されたように彼らをも愛されたことを、この世が知るためです（ヨハネ17：23）。

<sup>26</sup>そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。・・・あなたがわたしを愛してくださったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです（ヨハネ17：26）。

- B. 私たちの価値に関する究極の声明は、父なる神がイエスに対して持っているほどの愛（愛情）を、イエスが私たちに対して持っているということなのである。
- C. 父なる神がどのようにイエスを愛しているかを知ることが、イエスがどのように私たちのことを感じているのかを正確に知る唯一のものさしである。神の愛は、深い望み、楽しみ、切望を含んだパワフルな現実である。神の愛は、情熱を欠いた、単なる不毛な宗教上のアイデアではない。父なる神がどれほどイエスを愛しているかというこの途方もなく大きな意味を少し考えてみてください。このような真理はこれまでに語られたことがない。

- D. 私たちに対する神の愛の広大な大海原の神秘よ！福音というのは、この神性な愛の広大な海の中に生きよという呼びかけなのである。私たちは、神が神を愛するように私たちが神から愛されているということを知り、神が神を愛するように、私たちが神を愛する喜びを知っていく。

<sup>17</sup>・・・また、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、<sup>18</sup>すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、<sup>19</sup>人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができますように（エペソ3：17－19）。

- E. 弟子たちは誠実けれども霊的には未熟な者たちであつた。イエスの肯定的な愛は、その日、彼を裏切ると知っていた弱い信者たちに向けて語られた（マタイ26：31）。弟子たちは、大きな非難の思いと恥を感じていたに違いない。神は、その日イエスを裏切ることになる、野心はあるが未熟で若い使徒たちに激しい情熱を感じていたのである。イエスは、彼らを安定させる唯一の方法は、神が彼らのことをどのように感じておられるかを彼らに知らせることだということを知っていた。これが人間の心に触れることのできる最も強力な啓示なのである。

- F. イエスは神の愛の啓示を弟子たちに与え、彼らが、非難、落胆、誘惑、幻滅、迫害、彼らの将来のミニストリーのプレッシャーを感じながらも、神を愛することができるように整えられた。

- G. パリサイ人やローマ人が洗礼者ヨハネとイエスを殺すことによって勝利を得たように思えたとき、弟子たちが落胆の思いに打ちのめされるであろうということをイエスは知っていた。彼らの活動が終了を迎えたように思えた。いつの日か、彼らは叩きのめされ、牢獄に投げ入れられることになる。どうやって神が彼らと共にいることができるだろうか？

- H. 私たちは、神を楽しむことによって、誘惑に対する戦いに勝利することができるのである。罪に打ち勝つ最良の方法は、神の愛がぶどう酒よりも素晴らしいということを経験すること、神

にあつて満足することである。雅歌を神に捧げる祈りへと変えていくことが、神の愛を経験していく方法である。

- I. 神が私たちに対して抱いている感情に関する真理に思いを馳せることを私たちの優先としなければいけない。このことは私たちの感情を健康に保つために重要である。私たちは、特に私たちが弱いときに、神が私たちのことをどのように感じているのかを理解するときに、最も変えられる。この啓示を受けることによって、私たちは神から逃げ出すのではなくて、逆に神の方へと走り寄ることができる。この啓示により、私たちは、神の愛に対する確信を持ち、私たちが弱いときでも、神に私たちの霊を開いていくことができるのである。多くの誠実な信者が、非難された心、閉じられ警戒した心のままで神を追い求めている。
- J. 私は、「イエスに対する情熱」という本を書いたので、よく人々から“どうしたらもっとイエスに対する情熱を持つことができるのでしょうか？”と聞かれる。神を愛するためには神が必要である、神に愛を返すためには私たちの心に神の力が働く必要がある。神を愛することができるように、私たちのことを神が強めたいと思うとき、神はご自身のことを、私たちを愛する存在として現される。私たちは神が最初に私たちを愛して（楽しむ、追い求める）くれたから、私たち自身が神を愛する（楽しむ、追い求める）ことができる。

<sup>19</sup> **私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです (Iヨハネ4：19)。**

## セッション6

### 全てに優る神の愛：神が私たちのことをどのように感じているのか（雅歌1：2）

#### I. 復習：神の恵みにおける全てに優る楽しみ

- A. 花嫁は神のみことばという“全てに優る楽しみ”について述べている。このことは、聖さに関する彼女の神学を明らかにする。神の心（愛情）に関する啓示の中で成長していくことから来る全てに優る楽しみについて彼女は述べているのである。私たちを神に引き寄せ、私たちの中に神の栄光を映し出す7つの切望と共に神は私たちを創造された。

<sup>2</sup> *あの方が私に口づけしてくださったらいいのに。あなたの愛はぶどう酒よりも快く、（雅歌1：2）*

- B. このセッションでは、ぶどう酒よりも素晴らしいイエスの愛の7つの原則を見ていく。これは、私たちが弱いときに、神が私たちに示す愛情を理解するのに必須である基礎となる原則である（この8章からなるラブソングは、花嫁の旅路を通して、これらの原則を展開していく）。天国にいる完璧な信者のことを神が愛しているということを想像することは全然難しくない。想像するのが難しいのは、この世の、弱く、打ちひしがれた人々に対して、神が愛情を持っているということを感じるのだ。

<sup>1</sup> *御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょう（Iヨハネ3：1）。*

- C. 神が神を愛するのと同じように、神は私たちのことを愛してくださっている。イエスに対する父なる神の愛（愛情）は、神の、神の民に対する愛と同じ大きさなのである。

<sup>9</sup> *父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい（ヨハネ15：9）。*

<sup>23</sup> *・・・あなたがわたしを愛されたように彼らも愛されたことを、この世が知るためです（ヨハネ17：23）。*

- D. 私たちは神を愛している。なぜなら神が最初に私たちのことを愛してくれたということを私たちが知っているからである。

<sup>19</sup> *私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです（Iヨハネ4：19）。*

#### II. 基礎となる前提：霊的な未熟さは反抗ではない

- A. 人がどのように神に対して応答するかについて、神は私たちとは異なった感情を私たちに対して抱いている。神が人々に応答するとき、神が怒っているのか、悲しいのか、喜んでいるかどうかを知らずに、混乱したまま生きている人がいる。私たちは神が私たちのことを喜んでいる時に、神が怒っているのだと思いたくはない。そう思うと、非難の中で生きていくことになる。逆に、私たちが妥協したときに、神が悲しんでいるのに、神が喜んでいとは思いたくない。そう思うことは、ずうずうしい態度で生きているということになる。
- B. 私たちは、イエスが十字架でなされた御業によって、神の義と好意を得ているのであって、私たちがなしたことによるのではない（ローマ3：21－31）。神の恵みを得るためには、私たちが誠実に悔い改める必要がある。
- C. 悔い改めというのは、霊的な旅路のさまざまな季節において得る“理解の光”に従って、罪から神に対してへと心の態度を変えていくということである。悔い改めるといふことは、私たちの思い・言葉・行動において、暗闇との契約を破棄し、神と同意することである。

- D. 靈的な未熟さは、反抗とは違う。たくさんの人がこのことに関して混乱している。人は外見上は同じように見えても、内側には非常に異なる心の反応を持っていることがよくある。私たちの行動は、神にとって重要だが、神は私たちの行動よりも私たちの心のことをより深く見ておられる。
- E. イエスを純粋に愛する人は、喜んで仕える霊をもってイエスに従うために誠実に追い求めていく。誠実だが、未熟な信者は、失敗する度に悔い改め、その都度、光を受け取っていく。これに対して反抗的な者は、従う計画を持たず、神に対して “No” と言うのである。計画的な罪というのは、前もって罪を犯そうと計画して犯す罪のことである。それは、私たちが靈的に未熟なときに犯す罪よりも、神にとってはるかに深刻である。

**<sup>41</sup>心は燃えていても、肉体は弱いのです (マタイ 26 : 41)。**

- F. 私たちの神に対する悔い改め、従順、愛は、たとえそれらが弱く、傷のあるものであっても、誠実なものである。弱い愛は、偽物の愛ではない。だからイエスは、私たちの愛が弱くても、私たちのイエスへの愛を価値あるものだと思ってくれるのである。
- G. 神に従いたいという誠実な意志があるということと、成熟した従順を達成するということとは違う。完全に従うことを追い求めることと、実際にそれを達成するということとは異なる。主は、私たちが悔い改めた（私たちの心を神に従わせようと決めた）その瞬間から私たちのことを喜んでくださっている。それは私たちの従順が成熟するはるか以前の話である。神を純粋に愛する者として、私たちが追い求めている全てのものをただちに獲得することはできないのである。
- H. 罪を犯した信者は、素早く悔い改めて、罪に対する戦いを再び始めることによって、彼らの誠実さを示すべきである。誠実に悔い改めたからといって、人生において、“全く罪のない完璧さ” を獲得するという訳ではない。靈的に未熟であるというだけで、自分のことを神に反抗しているものだとあきらめてはいけない。
- I. 偽善者というのは、あることをすると言いながら、それを追い求めず、それを得ようと努力しない者のことをいう。弱さ（未成熟）に悪戦苦闘することと、希望のない偽善者（反抗的）であるということとは同じことではない。
- J. 神は、私たちが神に従おうと誠実に願い、叫び求めることを喜んでくださる。神に従おうと誠実に望むときこそが、罪に対して勝利する実質的な始まりなのである。それがあなたの中に働く神の働きの一部である。
- K. 神は靈的な未成熟と反抗を混同なさない（旧約聖書の律法は、清い動物と汚れた動物について述べている。羊は清い動物であり、豚は汚れた動物であるが、共に泥の中にはまり身動きできなくなることがある）。清い動物と汚れた動物に関する記述によって、神が靈的未成熟と反抗を混同なされないということを理解することができる（訳者注：羊は泥が嫌で必死になって出ようとする。羊飼いに助けられて、泥の中から出ても、しばらくして泥の中にまたはまってしまうこともあるが、羊は泥が嫌いなので、そのところから抜け出そうともがく。これに対して、豚は泥の中を好む。泥の中から出ても、次の泥を見つけては飛び込んでいく。罪を嫌い必死になって出ようともがく羊と罪を好む豚が、罪から離れようとしながらも罪を犯してしまう靈的に未成熟な信者と、罪が好きで、神に従おうともせず、罪にまみれていく反抗者を表している）。

- L. もしこのことを混同してしまったら、私たちは人々を非難の対象にしてしまう。そのことにより、彼らの信仰を傷つけてしまうことになる。これは聖霊による促しと全く逆である。聖霊による促しは、より深い神との関係を持つととする確信を私たちに与える。
- M. 神は使徒たちの霊的未熟さと、パリサイ人の反抗とを全く異なるものと見ておられた。ダビデはサウルよりもはるかに重大な罪を犯したように見えるが、神の好意はダビデと共にあった。何故だろうか？ダビデが罪を犯したとき、彼の心は傷ついた。彼は彼が罪を犯したことで神の心を傷つけたということを知っていたからである。ダビデは、罪を犯していることが見つかることによる結果よりも、自分と神との関係についてより関心が置かれていた。これに対して、サウルは自分が罪を犯したとき、罪が暴かれ、罪を突き付けられるまで、罪を犯し続けた。サウルは上辺だけ悔い改めたように示して、反抗しつづけたのである。

<sup>6</sup>まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう（詩篇23：6）。

- N. 神の恵みにより、私たちは悔い改めれば、ファーストクラスの民として神との関係を再び新しく始めることができるという確信を得ることができる。私たちが何者であるのかは、義の賜物を受けた私たちに対する神の情熱と神を心から愛する者になりたいという私たちの誠実な心の叫びによって、定義されている。
- O. 私たちは心から悔い改めをし、すぐに“削除”ボタンをクリックするのである。私たちが神の好意を持っていることを確信しながら神の御前に立てるように、イエスは代価を支払ってくれたのである。このことは、私たちの人生における罪の要塞を助長させているプロセスや心の持ち方を心理学的に理解したいという私たちの単なる必要のために、“削除”ボタンをクリックするというのとは非常に異なる。
- P. 私たちのアイデンティティーは、神を心から愛する者ということである。罪は私たちの行動が間違っていると言う。恥は私たちの全人格・全存在が間違っていると言う。質問：あなたは神を愛するために四苦八苦している罪の奴隷だろうか？それともまだ罪と格闘している神を愛する者だろうか？多くの人は自分の失敗をもとに自分自身のアイデンティティーを決めている。しかしイエスのおかげで、私たちがこれまでにやった最悪の事をはるかに超えて、神の目には私たちははるかに素晴らしい存在であると写っているのである。

### III. 原則#1：神は未信者のことを愛し祝福している

- A. 未信者が神に反抗し、神に対して何も気にしていないような時でも、神は未信者のことを愛している（マタイ5：45）。

<sup>16</sup>神は、実に、そのひとり子をお与えられたほどに、世を愛された（ヨハネ3：16）。

<sup>8</sup>しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます（ローマ5：8）。

- B. 神は悪を行う人をも祝福される。しかし、神が彼らを祝福しているからといって、彼らのことを承認しておられると勘違いすべきではない。

<sup>45</sup>天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです（マタイ5：45）。



C. 神は彼らの反抗に対して怒り、悔い改めをしない者を赦すことを拒まれるのである（エサウ、サウルなど）

<sup>22</sup> その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう。「主よ。主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、・・・<sup>23</sup> しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。「わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。」（マタイ 7 : 22 - 23）

#### IV. 原則 # 2 : 神は未成熟な信者を楽しみ、喜んでいる。

A. 神は未信者のことを愛されているが、神は信者だけを楽しまれる。私たちが悔い改めた瞬間にイエスは私たちを喜ばれる。私たちが心からの悔い改めをもって成長のプロセスを始めた瞬間からイエスは私たちに微笑んでおられる。それは私たちが霊的な成熟を獲得するはるか前のことである。

<sup>4</sup> 「あなたがたのうちに羊を百匹持っている人がいて、そのうちの一匹をなくしたら、その人は九十九匹を野原に残して、いなくなった一匹を見つけるまで捜し歩かないでしょうか。<sup>5</sup> 見つけたら、大喜びでその羊をかついで、<sup>6</sup> 帰って来て、友だちや近所の人たちを呼び集め、「いなくなった羊を見つけましたから、いっしょに喜んでください。」と言うでしょう。<sup>7</sup> あなたがたに言いますが、それと同じように、ひとりの罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人にまさる喜びが天にあるのです（ルカ 15 : 4 - 7）。

B. イエスは、放蕩息子が悔い改めたその日に、彼に対して深いあわれみの気持ちを感じるのである。父が息子に一番良い着物を与えるということによって、神は放蕩息子を楽しむ気持ちを表している（ルカ 15 : 22）。この悔い改めて間もない、未成熟な放蕩息子には、まだまだ変化が必要な人生の分野がたくさん残っている。

<sup>18</sup> 立って、父のところに行って、こう言おう。「おとうさん。私は・・・罪を犯しました。<sup>20</sup> こうして彼は立ち上がって、自分の父のもとに行った。ところが、まだ家までは遠かったのに、父親は彼を見つけ、かわいそうに思い、走り寄って彼を抱き、口づけした。<sup>22</sup> ところが父親は、しもべたちに言った。「急いで一番良い着物を持って来て、この子に着せなさい。それから、手に指輪をはめさせ、足にくつをはかせなさい（ルカ 15 : 18 - 22）。

C. 神は私たちがまだ未成熟なときであっても、私たちのことを楽しんでくださっている。神はダビデが悔い改めたその日に彼のことを喜んだ。

<sup>19</sup>・・・私（ダビデ）を助け出された。主が私を喜びとされたから（詩篇 18 : 19）。

D. 私たちの神を愛そうとする誠実な努力でさえも、完璧なものではない。しかしながら、私たちが弱いときにでさえも、神にとっては、私たちは美しいのである。

<sup>5</sup>・・・黒い（私たちの心の中には黒さがあるが）けれども美しい（イエスのゆえに、神にとっては美しい）（雅歌 1 : 5）。

E. イエスはこの歴史上、もっとも喜びの油を注がれ、歩んだ者であった。喜びは、イエスのご性格の中心である。多くの人が、神に応答するとき、神が私たちに対して怒り、悲しんでいると考えている。

<sup>9</sup> あなたの神は、あふれるばかりの喜びの油を、あなたとともに立つ者にまして、あなたに注ぎなさいました（ヘブル 1 : 9）。

F. 神は、私たちにあわれみの心を示されるときに喜びを感じる。私たちが誠実に悔い改めつつ歩

むとき、神は私たちのことを楽しまれている（私たちが弱いときでさえも）ということを神は私たちに確信してもらいたいと思っておられる。弱いときこそ、神から逃げ去るのではなくて、神に向かって走り寄るべきである。

<sup>18</sup>怒りをいつまでも持ち続けず、いつくしみを喜ばれるからです（ミカ7：18）。

<sup>24</sup>わたしは主であって、知に恵みと公義と正義を行う者であり、わたしがこれらのことを喜ぶからだ（エレミヤ9：24）。

G. 神は、信者が悔い改めるたびに、信者に“ファーストクラスの市民”としての新しいはじまりを与えてくださる。

<sup>22</sup>私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。<sup>23</sup>それは朝ごとに新しい。あなたの真実は力強い（哀歌3：22－23）。

H. 神は私たち自身よりもはるかに私たちの弱さについて、覚え理解しておられる。私たちが犯した罪に相当する程の訓練をお与えにはならないし、私たちの弱さに対する感じ方を神は変えられたりしない。

<sup>10</sup>私たちの罪にしたがって私たちを扱うことをせず、私たちの咎にしたがって私たちに報いることもない。<sup>11</sup>天が地上はるかに高いように、御恵みは、主は恐れる者の上に大きい。<sup>14</sup>主は、私たちの成り立ちを知り、私たちがちりにすぎないことを心に留めておられる（詩篇103：10－14）。

I. まとめ：神は一般的な意味において、私たちの人生を見て微笑んでおられるが、一方で、私たちの中にある特定の罪に対して取り扱われる。ある特定の分野における未成熟さによって、私たちの神との関係が全て定義されるわけではない。正義の賜物を受けつつ、私たちは、神の私たちに對する情熱とイエスに従いたいという私たちの心からの叫びとによって、私たちのアイデンティティーは決められるのである。

## V. 原則#3：神が楽しんでおられることと、承認されておられることとは異なる

A. 神が私たちのことを楽しんでおられるという事実は、私たちの中で変化が必要な領域を神が見過ごされておられるという意味ではない。神が信者のことを楽しんでおられるというのは、信者がする全てのことを神が承認されているという訳ではない。神は私たちの中の承認できない部分に関しては矯正される。それは私たちの中の愛（聖さ）を妨げるもの全てを取り除きたいと思っておられるからである。

<sup>10</sup>霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです（ヘブル12：10）。

B. 神は、悔い改めない信者に対して、優しく忍耐を持っておられる季節がある。神の忍耐と承認を混同してはいけない。イエスは、テアテラのイゼベルとその弟子たちが悔い改めるまでの時を与えた。

<sup>21</sup>わたしは（イゼベルに）悔い改める機会を与えたが・・・<sup>22</sup>見よ。わたしは、この女を病の床に投げ込もう。また、この女と姦淫を行う者たちも、この女の行いを離れて悔い改めなければ、大きな患難の中に投げ込もう（黙示2：21－22）。

<sup>11</sup>悪い行いに対する宣告がすぐ下されないので、人の子らの心は悪を行う思いで満ちている（伝道者の書8：11）。

C. 私たちが正直にまた徹底的に心の中の罪に対して立ち向かうことを無視するとき、神の愛が少なくなるということではないが、いろいろな場面において、喪失感に苦しむことになる。その喪失感とは、救いの喜び、啓示の御霊、神との交わりを経験し、永遠の報酬を得るための私たちの能力が小さくなってしまふことである。

D. 神が私たちが悔い改めに導こうと働かれている間、神は愛をもって辛抱強く、長い間苦しんでおられる。

<sup>4</sup>それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか（ローマ2：4）。

<sup>4</sup>愛は寛容であり、愛は親切です。・・・<sup>7</sup>すべてをがまんし、・・・すべてを耐え忍びます（Iコリント13：4－7）。

#### VI. 原則#4：神による訓練は、神が私たちが拒絶しているのとは違う。

A. 神による矯正は、神による拒絶とは違う。むしろ神による矯正は、神の愛の証拠である。神は罪を憎むが、神が訓練を与える人のことを喜んでおられる。

<sup>12</sup>父がかわいがる子をしかるように、主は愛する者をしかる（箴言3：13）。

<sup>6</sup>主はその愛する者を懲らしめ、受け入れるすべての子に、むちを加えられるからである（ヘブル12：6）。

B. イエスは、悔い改めの必要な信者を厳しく叱るがそれでも愛している。

<sup>19</sup>わたしは、愛する者をしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって、悔い改めなさい（黙示3：19）。

C. 訓練を受けるということは、神が私たちのことを心配し、私たちのことをあきらめていないということを意味する。罪のとがめを受けないということは恐ろしいことである。というのはそれは、神がその人を罪に引き渡したということを意味するからである。神による訓練は、神がまだ私たちのことをあきらめていないという証拠である（ローマ1：24－28）。

<sup>24</sup>それゆえ、神は、彼らをその心の欲望のままに汚れに引き渡され（ローマ1：24）

<sup>32</sup>しかし、私たちがさばかれるのは、主によって懲らしめられるのであって、それは、私たちが、この世とともに罪に定められることのないためです（Iコリント11：32）。

D. 神はイスラエルの民が不従順の季節にいたときにでさえ、イスラエルの民のことをあきらめはしなかった。

<sup>37</sup>彼ら（イスラエルの子供たち）の心は神に誠実でなく、神の契約にも忠実でなかった。<sup>38</sup>しかし、あわれみ深い神は、彼らの咎を赦して、滅ぼさず、幾度も怒りを押え、憤りのすべてをかき立てられはしなかった。<sup>39</sup>神は、彼らが肉にすぎず、吹き去れば、返って来ない風であることを心に留めてくださった（詩篇78：37－39）。

#### VII. 原則#5：神は、神の民のしつこい罪に対して悲しまれる

A. イエスはなまぬるい信者のことを口から吐き出される。このことは、神がそのような信者のことを追い出されるということを意味しているわけではなく、神の心の中で気分が悪くなり、そのような人々の人生に対して悲しまれるということを表している。

<sup>16</sup>このように、あなたはなまぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしの口からあなたを吐き出

そう (黙示 3 : 16)。

<sup>30</sup> 神の聖霊を悲しませてはいけません (エペソ 4 : 30)。

<sup>19</sup> 御霊を消してはいけません (I テサロニケ 5 : 19)。

B. 神は、神が訓練される人々の痛みを感じておられ、彼らのことを心から愛する者として思い続けられる。

<sup>9</sup> 彼らが苦しむときには、いつも主も苦しみ、・・・その愛とあわれみによって主は彼らを贖い、昔からずっと、彼らを背負い、抱いて来られた (イザヤ 63 : 9)。

<sup>7</sup> 私の心の愛するもの、敵の手中に渡した (エレミヤ 12 : 7)。

C. 私たちが正直にまた徹底的に心の中の罪に対して立ち向かうことを無視するとき、神の愛が少なくなるということではないが、いろいろな場面において、喪失感に苦しむことになる。救いの喜び、啓示の御霊、神の力、神や他の人々との交わりを経験し、永遠の報酬を得るための私たちの能力が小さくなってしまふ。神に忠実に従い、勤勉に神を追い求めることによって、私たちはこの時代において、またこれから来る時代において、我々の最も高い召しと天命を実現することができるのである。忠実さによって召しを獲得することができる訳ではないが、私たちが入っていく恵みをより多く受け取ることができる場所に私たちを置かれる。御霊は私たちを絶えず努力をする者へと召し出すことによって、私たちがこの時代、またやがて来る時代に、私たちが我々の権威を完全に経験することができるようになる。

<sup>11</sup> そのためにも、私たちはいつも、あなたがたのために祈っています。どうか、私たちの神が、あなたがたをお召しにふさわしい者にし、また御力によって、善を慕うあらゆる願いと信仰の働きとを全うとしてくださいますように (II テサロニケ 1 : 11)。

D. 私たちは、私たちのことを愛する神が神の情熱とねたみを私たちに対して現されるということを確認すべきである。神は、私たちが一つ心で従順に生きていくことをねたましいほどに求めておられる。神は、私たちと神との関係が深くなり、その結果、私たちが神にあって成長していくことを熱狂的に求めておられる。

<sup>5</sup> それとも、「神は、私たちのうちに住まわせた御霊を、ねたむほどに慕っておられる。」という聖書のことばが、無意味だと思うのですか (ヤコブ 4 : 5)。

#### VIII. 原則 # 6 : 霊的な訓練によって神の好意を獲得することはできない。

A. 霊的な訓練 (祈り、断食、黙想など) は、私たちの心を整えて、自由により多くの恵みを得ることができるために必要な方法として、神が定められたものである。しかしながら、これらの行動によって、神の好意を得ることはできない。力は“神の臨在のかがり火”の中にあるのであって、そのかがり火の前にある私たちの冷たい心の中にあるのではない。

B. 神は、私たちがどれほど神との関係において飢え渴いているかによって、私たちの心により多くのものを与えてくださるのであって、神がどれほど私たちを愛してくださっているかによってではない (マタイ 5 : 6)。私たちの霊的な飢え渴きにしがたってより多くのものを私たちに与えてくださることによって、神は、私たちが神との関係こそが重要であるとした価値観に敬意を払ってくださるが (ガラテヤ 6 : 8)、より多く愛してくださることではない。神は、今現在よりも何十億年先の方が、従順な信者のことをより多く楽しまれているということではない (神は今現在既に 100 % 信者のことを楽しんでおられるということである) (マ

ラキ 3 : 6)。

**IX. 原則 # 7 : 成熟することによってより多くのものを得ることができるようになる (より多く愛されるということではない)。**

- A. 神はすべての人を愛しているが、成熟した者に対してより大きな力を託されるのである。神は各々の歩みに従って、託す力の大きさを決められる。この大きさは各信者によって異なる (マタイ 25 : 15)。託された大きさに関わらず、私たちの従順によって私たちの歩む道が整えられる。
- B. ミニストリーやビジネスの影響力においてより大きな力を持っている人の方が神からより多く愛されているというのではない。神は、我々が成熟していくにしたがってより大きなものを託してくださる。というのも大きなものを託されても、その人自身や他の人を傷つけることがないからである。御霊の賜物は信仰に応じて与えられる (使徒 3 : 11 – 12、ガラテヤ 3 : 5)。これらの賜物は私たちの訓練によって獲得できるものではない。しかしながら、霊的に成熟していることで、油注ぎを受けて働いている者に働くサタンからの攻撃に対する防御力が増す (ルカ 14 : 30 – 32)。私たちがより多くの聖霊の力を経験するに従って、神の私たちに対する情熱、サタンの怒り、人からの要求度合い、私たちの感情の容量という 4 つの事柄が増加する。

## セッション7

### イエスのかおり（雅歌1：3）

#### I. 復習：イエスの愛は、この墮落した世のぶどう酒よりも良い

- A. 雅歌のテーマは、神のみことばによる口づけが、心の最も深い場所に触れてくれるようにとの花嫁の叫びである。最も深く、最も親密な方法で神のみことばに出会っていくことについて述べているのである。言い換えれば、みことばによって、花嫁に対する王の感情が明らかにされ、三重の愛に関して、私たちの心を目覚めさせるのである（三重の愛：神からの愛、神への愛、そしてそれが溢れ出し、人々を愛することができる）。

<sup>2</sup> **あの方が私に口づけしてくださったらいのに。あなたの愛はぶどう酒よりも快く、(雅歌1：2)**

- B. 彼女はイエスに出会うという全てに優る楽しみを経験する。イエスの愛（愛情）は、罪によるより劣った楽しみ（この墮落した世のぶどう酒）よりも“よい”または“快い（NIV）”。
- C. “愛情を基盤とした従順”は、イエスの私たちへの愛情を経験し、愛を神へ返していくということから流れ出る従順である。これが最も強力な従順である。そしてこの従順が結局、最も深く、揺るがされることのない従順となっていく。愛に病んでいる人は、愛のためなら全てのことを耐え忍ぶことができる。
- D. “義務を基盤とした従順”は、神の臨在を感じない状態での従順である。神のみことばは、私たちが従いたいという気持ちを感じないときにでも神に従うことを求めている。
- E. “恐れを基盤とした従順”もしくは“恥を基盤とした従順”は、恥ずかしい状況におかれてしまうのではという恐れや否定的な結果に苦しまないといけないのではという恐れから来る従順である。これはこれで聖書的である。しかしながら、何年もの間、罪から来る楽しみに抵抗し続けるために何とかしようと思うだけでは不十分である。

#### II. キリスト・イエスのかぐわしいかおり

<sup>3</sup> **あなたの香油（香料、NIV）のかおりはかぐわしく、あなたの名は注がれる香油（香料、NIV）のよう。それで、おとめらはあなたを愛しています（雅歌1：3）。**

- A. バラのかおりは、その内部にある性質と品質から生み出される。それと同じように、雅歌における王の香料は、象徴的に神の内なる世界、または神が考え、感じることを示している。神の香料は、神の考えや感情について、特に人々への神の愛について語っている。花嫁は、神の愛情という甘い香料を楽しむ。香料が空中に漂うとき、そのかおりは私たちの心を力強く掻き立てる。そのかおりを見ることができなくても、手にすることができなくても、その力強さを感じることができる。
- B. パウロもイエスのかおりについて語っている。それは比喩的には神の知識を表している。それはまた文字通りの意味でもある。神の御座のまわりに漂うかおりは確かに素晴らしい。天ではこのかおりを永遠に香ることができるのである。

<sup>14</sup> **しかし、神に感謝します。神はいつでも、私たちを導いてキリストによる勝利の行列に加え、至る所で私たちを通して、キリストを知る知識のかおりを放ってください（II コリント2：14）。**

- C. 雅歌において香料ということばが使用されるのはふさわしい。というのは香料は結婚のたとえ

において、愛を表すからである。花嫁は“あなたの香料のゆえに、私の心は掻き立てられる。”と言う。もし科学者が神にある興奮を表現するとしたら、“あなたが素晴らしいので、私の心は掻き立てられる。”と書くだらう。

- D. 花嫁は、イエスのよい香料（イエスの内なるご性質）のおかげで、歴史において、二つの重要な事が起こると言っている。
- E. 一つ目は、神がイエスの御名を注ぎ出す、言い換えると、神が国々において、イエスの御名を高く上げ、明らかにしていくということである。神は注ぎ出す名前としてイエスの名前だけを選び出した。何故だろうか？なぜなら、イエスの人生は神の御前にあって、素晴らしい香料からである。花嫁は、この地球上において、イエスの御名が究極的に最高の現実であるということを理解しているのである。

**<sup>9</sup>それゆえ、神は、キリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。<sup>10</sup>それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ（ピリピ2：9－10）**

（ア）神がイエスの名前を注ぎ出すとき、神はその名前を明らかにし、イエスの美しさ、イエスのご性格に人々の注意を向けさせる。

**<sup>14</sup>・・・地は主の栄光を知ることによって満たされる（ハバクク2：14）。**

（イ）神は、イエスに関する知識によって教会を満たすことによって、イエスの御名を注ぎ出されるのである。

**<sup>11</sup>こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者・・・<sup>13</sup>ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し（エペソ4：11－13）**

- F. 二つ目に、神がイエスの御名の美しさを私たちに明らかにされるとき、私たちはもっとイエスを愛するようになるということである。

### III. 神に関する知識が注ぎ出されるとき、私たちはイエスをもっと愛するようになる

- A. 父なる神が、イエスの御名について明らかにされればされるほど、教会はイエスをもっと愛するようになる。花嫁は、イエスの美しさによって、全ての信者（おとめら）がイエスを愛するようになるということを知っている。神の御名はよい香料のようなものである。御名の神秘、美しさ、不思議は私たちに強力なインパクトを与える。

**<sup>3</sup>あなたの名は注がれる香油（香料）のよう。それで、おとめらはあなたを愛しています（雅歌1：3）。**

- B. おとめというのは雅歌においては、エルサレムの娘たちを表す。彼女らは純粋ではあるが未成熟な信者であり、雅歌においてずっとイエスを追い求めるが、花嫁のように、完全に決意するという状態にまで達しない。すべての教会は、最終的にはイエスを激しく愛する者となる。

- C. 花嫁は、神がどのように人間の心を変えることができるのかということについて理解している。私たちが効果的に変えることができる“香料のかおりのついた名前”は一つしかない。あなたはイエスの御名が、心の傷ついた人や霊的に退屈している人を、神を激しく愛する人へと変えていくことができる“香料のかおりのついた名前”だと考えているだろうか？もしそう思っているのなら、あなたはその名前についてより深く知るためならどんなことだってやるだろう。神を愛するように私たちを変えていくのはイエスの御名だけである。

**<sup>2</sup>その日（終わりの日）、主の若枝は（イエス）、麗しく（イザヤ4：2）**

D. 神が神ご自身を人間の霊に明らかにされるとき、私たちの心は興奮し、喜びに満たされる。神が神ご自身を人間の霊に明らかにされること以上に、パワフルで楽しいことはない。イエスご自身をもっと理解するということは、イエスをもっと愛し、イエスをもっと楽しむということである。私たちのイエスを求める情熱は、神に関する知識を獲得していくことによって、ますます強められる。このことの故に、パウロはすべての喪失に耐え、困難を耐え忍ぶことができたのである。

**<sup>8</sup>それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています（ピリピ3：8）。**

E. イエスは、神を愛することができるように私たちの心を目覚めさせるために、父なる神の御名（神のご性格）を宣言される。父なる神がイエスを愛する、その愛をもって、私たちはイエスを愛することができるようになる。父なる神のイエスへの愛情が溢れ出し、私たちがイエスを愛することができるようになることが、私たちの相続分であり、天命である。神の力によって神を愛すること以上に、大きな栄光はない。父がイエスを愛するように、花嫁はイエスを愛するようになるのである。

**<sup>26</sup>そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。それは、あなたが私を愛してくださったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです（ヨハネ17：26）。**

F. “究極の心理学者”であるイエスは、私たちの心がどのように機能するかについての洞察を私たちに与えてくれる。イエスはシモンに、人はたくさんの許しを経験していればしているほど、より多くの愛がその人から流れ出ていくことを説明した。

**<sup>47</sup>だから、わたしは言うのです。「この女の多くの罪は赦されています。というのは、彼女はよけい愛したからです。しかし少ししか赦されない者は、少ししか愛しません。」（ルカ7：47）**

G. サタンは、神は残酷な父親だと人々に思い込ませ、人々の心の中の神を非難する。サタンは多くの人々に、お前たちは神から拒絶されていると告げるので、彼らは彼ら自身が弱いときに神に向かって走り寄っていくことをせず、逆に神から走って逃げ去るのである。

H. クリスマンの人生は、神によって愛され、神によって楽しまれる人生である。このことは、他の楽しみ、地位、所有物などに比べて、はるかに心を喜びで満たしてくれるものである。花嫁は、神の感情に出会うことの衝撃を理解しているのである。

I. 神の愛情の啓示は、私たちのプライドや宗教的な形式主義に働きかける。この啓示により、私たちのプライドではなく、感謝の思いが成長し、私たちの愛が新しくされ、私たちの霊的な生活において、もはや単なる行動や決まりきった手順を踏んで、ただ機械的に進んでいくということができなくなる。

J. 私は“Passion For Jesus「イエスへの情熱」（未邦訳）”という本を書いたので、よく人から“どうしたらイエスへの情熱という分野で成長することができますか？”と尋ねられる。答えはシンプルで単刀直入である。神の私たちに対する心の情熱を理解することによって、私たちの神への情熱が増し加わっていくのである。神の願望の啓示を受け取ることによって、私たちは強められ、神を求めていくことができるのである。もしあなたがもっと神を愛したいと思うのなら、あなたの心を、神があなたに対して持っている愛（愛情）に関する真理で満たすべきであ



る。

K. この世界は現在でも、イエスの栄光と美しさに満ち満ちている。この自然界の多くの場所で顕されている神の香料、神の栄光を見るためには、啓示の御霊が必要である。

<sup>3</sup> (セラフィムが) 互いに呼びかわして言っていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。その栄光は全地に満つ。」(イザヤ6:3)

L. ダビデは啓示の御霊とともに生きていた。それ故に彼は空を眺めた時にさえ、神の美しさを見ることができたのである。

<sup>1</sup>天は神の栄光を語り告げ・・・<sup>2</sup>昼は昼へ、話を伝え、夜は夜へ、知識を示す。<sup>4</sup>しかし、その呼び声は全地に響き渡り、そのことばは、地の果てまで届いた(詩篇19:1-4)。

M. 雅歌を通して、神の香料は、花嫁へと分け与えられる。神のかおりは、花嫁のかおりとなる。雅歌における分岐点は雅歌4:16である。花嫁は、彼女の心の庭に風が吹いてくれるようにと祈る。そうして、神のかおりが彼女に分け与えられるように、神が感じるように彼女も感じることができるようにと。雅歌を通して、神のかおりが花嫁の中で増し加わっていく様子を学ぶことができる。花嫁は、神のかおりを見分けることができ、そのかおりは徐々に彼女に分け与えられていく。

<sup>16</sup>北風よ、起きよ。南風よ、吹け。私の庭に吹き、そのかおりを漂わせておくれ。私の愛する方が庭にはいり、その最上の実を食べることができるように(雅歌4:16)。

#### IV. 神のご性格という甘いかおりー5つの動詞

A. イエスは父なる神の愛情とご性格という甘いかおりについて強調された(ルカ15:20)。この箇所は、聖書において、神の感情の成り立ちについて、最も包括的かつ簡潔に述べている。見、感じ、走り、抱き、私たちの心に口づけてくれる神に私たちは寄り頼み、休息するのである。

<sup>20</sup>こうして彼は立ち上がって、自分の父のもとに行った。ところが、まだ家までは遠かったのに、父親は彼を見つけ、かわいそうに思い、走り寄って彼を抱き、口づけした(ルカ15:20)。

- B. 父は放蕩息子を見つけた一神の神の民に対する見方・考え方
- C. 父は放蕩息子に対してかわいそうに思う(同情を抱く)一神の神の民に対する優しさ
- D. 父は放蕩息子に向かって走って行った一神の神の民に対する行動とイニシアティブ
- E. 父は放蕩息子を抱く一神の神の民に対する愛情
- F. 父は放蕩息子に口づける一神の神の民に対する親密さを求める気持ち

#### V. 私たちの人生への適用

A. 最初に、私たちはこれらの真理について学ばなければならない。知的に理解することは重要だが、それは単なる出発地点に過ぎない。誰もメニューを研究するためだけに有名レストランに行ったりしないだろう。雅歌の「鑑定家」になるだけでは十分ではない。この書で私たちの心を満たしてもらう必要がある。

B. 次に、これらの真理を私たちが神に語り返すとき、これらの真理が私たちの心に啓示として入ってくるのである。神の御前で飢え乾いた、正直な心を持って、雅歌に対して長くそして愛に溢れた黙想に耽るべきである。私たちが雅歌のすべてのよいところを満喫しようと思うのなら、

雅歌を、ずっと続く愛情に溢れた祈りのこもったイエスとの対話に変えていかないといけない。雅歌が私たちの感情を変えていくまで、雅歌の言葉が私たちの祈りの生活、そして思考の生活の中へと進入していかなければならない。

- C. 私には雅歌の中のみことばで10個ほど、非常に深く個人的なものになったものがある。若い頃、私はその言葉を葉書に書いて、運転するときとか散歩に行くときに持って行った。私はそのことばをゆっくりとイエスに囁くように語った。例えば“父なる神様、イエスの言葉によってイエスが口づけしてくださるように。”とか“聖霊さま、私を力づけてください、私を元気づけてください。”とイエスにゆっくりと語りかけるのである（雅歌1：2、2：5）。
- D. 神の愛は、この墮落した世のぶどう酒よりもはるかによいものであると告白しなさい。神のよい香料（神の性格）のかおりによって神を愛することができるようになると宣言しなさい。
- E. 雅歌を通して“祈り読む”ときに感じた、あなたの思い、祈り、黙想を時間をかけてジャーナルに書き留めなさい。書き留めることは、主があなたの心に与えた真理を掴んで放さないために役立つ。

#### VI. 雅歌におけるイエスのかおり

- A. 雅歌1：3において、花嫁は、イエスのかおりのことを彼の感情を表すよいかおりとして見ている。
- B. 雅歌1：13－14において、花嫁は、雅歌1：3での経験を、没薬やヘンナ樹の例を持ってもっと特定した形で、また花ぶさという表現を持って、満ち溢れている様子を表しながら、発展させている（雅歌8：14）。
- C. 雅歌2：3において、イエスは雅歌8：5で表されているように、人をリフレッシュさせるようなりんごの香りを持っている。
- D. 雅歌2：12－13において、イエスは花嫁に求婚するために自分ご自身のかおりを明らかにされる。神は神の息子のかおりをもって、花嫁に求婚する。そして花嫁は山に出て行くことを決意する。
- E. 雅歌3：6において、イエスは、没薬、乳香、香料の粉末（雅歌2：3、2：5のりんごの中にざくろのことがほのめかされている）と杉（雅歌3：9、8：9）によってかおりづけられている。
- F. 雅歌4：6において、花嫁は、没薬の山、乳香の丘という苦しみを受け入れることに同意する（雅歌8：14）。
- G. 雅歌5：13において、イエスのかおりは、彼の頬の、香料の花壇として、良いかおりのするハーブとして見出される。また彼のくちびるの、没薬の液をしたたらせるゆりとして見出される（雅歌2：12－13 いちじくやぶどうの香り）。

#### VII. 雅歌における花嫁のかおり

- A. 花嫁は、香料の山のおかげで、香料のかおりに浸されている（雅歌8：14）。
- B. 雅歌1：12において、花嫁は初めて、自分を通して顕された香りに気づく。
- C. 雅歌2：1において、花嫁のアイデンティティーはイエスの香りの中にある（ゆり／バラ）。
- D. 雅歌2：2において、私たちは、イエスが初めて花嫁のかおりについて明言するのを見る。

- E. 雅歌 2 : 1 6、4 : 5、6 : 3 と 7 : 2 において、花嫁はゆりに例えられる。
- F. 雅歌 4 : 3 において、信者のかおりはザクロのかおりに例えられる（雅歌 6 : 7）。
- G. 神のぶどう畑と雅歌 8 : 1 3 の庭（雅歌 2 : 1 6、6 : 1 3、6 : 1 1、7 : 2、7 : 1 2 – 1 3）には、谷、くるみ、ぶどう、ざくろ（雅歌 7 : 1 2）、恋なすび（雅歌 7 : 1 3）、そして様々な果物が含まれる。

## セッション 8

### 花嫁の人生のビジョン（雅歌 1 : 4）

#### I. イントロダクション

A. このセッションで、私たちは雅歌 1 : 4 を見ていく。ここで花嫁は彼女の霊的なゴールと人生のビジョンを描写する。

**<sup>4</sup>私を引き寄せてください。私たちはあなたのあとから急いでまいります。王は私を奥の間に連れて行かれました。私たちはあなたによって楽しみ喜び、あなたの愛をぶどう酒にまさってほめたたえ、真心からあなたを愛しています（雅歌 1 : 4）。**

B. 復習：雅歌 1 : 2 ~ 4 は、雅歌全体の主要なテーマと神学を聖なる情熱の成長としてまとめている。花嫁は、イエスの愛情がこの世が提供するすべてのものに優っていることを知り、神のみことばによる口づけを叫び求める。彼女はイエスのかぐわしい香りの現実と有効性を宣言し、また、イエスとの親密さに近く引き寄せられたい者として、ミニストリーにおいて、イエスと共に、またキリストの体と共に走るための恵みを受け取りたいと願う者として、人生のビジョンを宣言する。

C. 雅歌 1 : 2 ~ 4 において、花嫁は以下 3 種類の異なる方法で語りかけている。

(ア) 雅歌 1 : 2 において、彼女は“あなたの息子に彼のみことばをもって口づけさせてください。”と父なる神に語りかけている。

(イ) 雅歌 1 : 2 ~ 4 において、彼女は“あなたの愛はワインよりも素晴らしい。あなたの香油のかおりによって、あなたの名前は注がれ、おとめらはあなたを愛する。”とイエスに語りかけている。また彼女はイエスに、彼との親密さに彼女を引き寄せ、ミニストリーにおいてイエスと共に走ることができるための恵みを受け取ることができるように頼んでいる。

(ウ) 雅歌 1 : 4 において、彼女は、彼女と一緒に熱心に走っている人々と一緒になって、イエスに語りかけている。

#### II. 彼女の激しさの表現：2 重の人生のビジョン

A. 彼女の 2 重の人生のビジョンは、彼女のゴールを神への祈りという形で表現している。人生のビジョンは、私たちの家族、職業、ミニストリーに対する短期的または長期的なゴールを示す。NAS 訳ではこれを“あなたの後から私を引き寄せてください”という表現を用いている。多くの聖書の訳において、“あなたの後から”という言葉は“私を引き寄せてください”という言葉で修飾している。NKJ 訳では、“あなたの後から”という言葉は“走っていく”という言葉で修飾している。

**<sup>4</sup>私を引き寄せてください。私たちはあなたのあとから急いでまいります（雅歌 1 : 4）。**

B. 彼女は“イエス様、私を引き寄せてください。”と祈る。彼女は、心から神を愛し、並外れた情熱を持つ賛美者として深い親密さをもって、神の心にもっと近く引き寄せられたいと切望している。

**<sup>37</sup>心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ（マタイ 22 : 37）。**

C. 彼女は“イエス様、私たちはあなたのあとから急いでまいります。”と祈る。“私たち”という

言葉はイエスとイエスを愛する人々と一緒に走るということを意味している。神に引き寄せられるのは単数形だが、イエスと共に走るのは複数形である。彼女は、イエスとまたイエスを愛する人々とパートナーシップを持ちながらミニストリーにおいて人々に仕えたいと切望している。“走る”という言葉は、人々への思いによって突き動かされる奉仕の人生を表している。それは、行動における従順、人々へ手を差し伸べること、信仰をもって踏み出すことを伴う。私たちは、進み方のペースを決めているイエスの後から走り、他の人々と関係を保ちながら走っていくのである。

**39 「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです (マタイ 22 : 39)。**

- D. イエスに対する情熱を持つことと、人々に対して憐れみの心を持つことのバランスを保つ必要がある。私たちの霊的な旅路の全工程において、“引き寄せられること”と“走ること”の間には、常に緊張がある。救われた当初は、多くの人がイエスとの親密さに引き寄せられることなしに、ミニストリーにおいて走ることに焦点を置いてしまう。
- (ア) “走ること”によって衝突や拒絶、迫害の問題が生じるために、雅歌 1 : 5－7において娘が燃え尽きたのと同じように、多くの人がすぐに燃え尽きてしまう。そのうちの何人かは過剰反応してしまい、“引き寄せられること”のみに焦点を当てようと決めてしまい、ミニストリーにおいて“走る”ためのビジョンを持つことをしない。
- (イ) 実際にイエスが親密さにおいて“引き寄せられたい”という彼女の祈りに答えられたとき、彼女は一時的に“ミニストリーにおいて走ること”を拒絶する(雅歌 2 : 8－13)。彼女はこの2つの引っ張り合いのバランスを失ってしまった。イエスは、8章からなる雅歌全体を通して、彼女の2つの祈りの両方に答えられる。
- E. 私たちはどの季節においても、引き寄せられ、かつ走る必要がある。親密さにおいて神の心に引き寄せられるだけでは十分ではない。またミニストリーの中で走るだけでも十分ではない。私たちの人生における異なる霊的な季節において、主はひとつの要素を他の要素よりも強調されることはしばしばある。しかしながら、どちらかひとつを完全に無視するようなことはしてはいけない。主がひとつの要素を強調されているときに、他の人が言うことを恐れてはいけない。
- F. 一般的な神の御国の順番は、最初に親密さに引き寄せられることで、イエスとの親密な関係から溢れ流れ出るようにして、ミニストリーで走るべきである。心を尽くして主を愛するという第一の戒めによって、私たちは強められ、より効果的に他の人々と関係を構築し、仕えていくという第二の戒めを歩むことができるのである。花嫁のこの2重の人生に対するビジョンは、2つの大きな戒め(マタイ 22 : 37－40)と大宣教命令(マタイ 28 : 19－20)について述べている。私たちの人生のビジョンは常に“引き寄せられることと走ること”の両面を持ち備えていないといけない。
- G. 私は18歳の時に、自分の人生のビジョンを書き記しなさいと教えられた。人生のビジョンというのは、私たちの職業、家族の状況、経済状況などに無関係に確立されるべきものである。私はその時、神を愛し人々を愛するという2つの大きな戒め(マタイ 22 : 37－39)を守るために、神を激しく賛美する賛美者かつ人々を解放する油注がれた解放者になろうと決心した。私は、並外れた賛美者、油注がれた解放者として、聖書を学び、御霊に導かれて生きると

いうことを学ぼうと思った。

<sup>18</sup> 幻がなければ、民はほしいままにふるまう（箴言29：18）。

<sup>18</sup> ビジョンがなければ、民は滅びる（箴言29：18、KJV）。

- H. 焦点が定められた人生は、以下に示す人生における主要な分野に関するゴールを明確に持った全体的なビジョンを有している；霊的な生活（祈りの時間、断食、聖書の学びなど）、人間関係（家族、友人など）、職業（マーケットプレイスへの召し）、ミニストリー（教会の中の、または教会の外の）、経済（収入、支出、与えること、貯蓄すること、投資すること）、身体（運動、健康、食事制限など）、休息（レクリエーション、休暇、遊び、エンターテインメント、スポーツなど）。
- I. 私たちは、人生における全ての分野における長期的な目標および短期的な目標に対するアクションプラン（行動計画）を持つ必要がある（長期的な目標は10年以上、短期的な目標は3ヶ月から3年の期間に焦点を置く）。そして、焦点を絞り、私たちの時間の優先順位を決めるために、おのおののアクションプランに対して、スケジュールを立てなければいけない。

### III. 激しさの成長：奥の間の経験

<sup>4</sup> 私を引き寄せてください。私たちはあなたのあとから急いでまいります。王は私を奥の間に連れて行かれました（雅歌1：4）。

- A. 王の奥の間というのは、花嫁に用意された奥の間ということである。神との隠された生活を成長させていく時のことを指し示している。私たちはみんな神との隠された生活を経験してきたという歴史を持っている。その生活において、イエスは特に彼のみことばを用いて、私たちを彼自身に引き寄せる。奥の間で過ごす時間によって、私たちの内なる人は形作られていく。奥の間で過ごす時とは、主が私たちからの愛を求め、私たちに警告し、約束し、私たちに立ち向かわれる時であり、そのことによって私たちは御霊にあって成長していくのである。王の奥の間の経験は、準備の時でもある。この経験によって、心からイエスを愛し、従うことができるように準備され、同時に行動を伴う奉仕においてイエスと共に走る必要のある将来のミッションのために私たちは整えられるのである。
- B. 若い花嫁は主に彼女を引き寄せてくれるように頼み（イエスにリードしてもらって彼女を助けてくれるように）、イエスは彼女を抱えて彼の奥の間に連れて行くことによって、花嫁の願いに答えられた。イエスは彼女を抱え、奥の間に連れて行くことによって応答されるのである。

<sup>4</sup> あの方は私を酒宴の席に伴われました（雅歌2：4）。

- C. イエスは、迷子になった羊を肩に恵みに溢れて担ぐ羊飼いについて話された。

<sup>5</sup> 見つけたら、大喜びでその羊をかついで（ルカ15：5）

- D. 奥の間の経験は、神が私たち自身を担いで神ご自身のもとに連れて行ってくれて、御霊における普通ではない経験をさせてくれる時でもある。私はまだ信者になってすぐに、2つの個人的な“奥の間の体験”をして、非常に驚いた。一つ目は、1972年2月に聖霊の満たしというものがあるのか理解する前に、またそれを求める前に、受けたことである。二つ目は、1978年10月に、裁きの御座のビジョンを経験したことである。これもまた私が求めて与えられたということではないものだった。

#### IV. 激しさの確立：預言的な保証

- A. 花嫁は大胆な決意と確かな信仰をもって、エルサレムの娘たちに、“私たちは共に神の臨在の中で楽しみ喜び、人生のどの季節においても神の愛を覚えている”と宣言する。これは花嫁の人生のすべての季節の中における、信仰による決意の告白とすることができる。

**<sup>4</sup>王は私を奥の間に連れて行かれました。私たちはあなたによって楽しみ喜び、あなたの愛(愛情)をぶどう酒にまさってほめたたえ(雅歌1:4)**

- B. 私たちは3つの方法で、イエスにあって楽しみ喜び、彼の愛を覚える。第一に、私たちは非難されることを拒絶する時に、私たちが弱いときに示してくれるイエスの優しい憐れみの心を喜び、覚えることができる。第二に、罪のぶどう酒よりもはるかにまさるイエスの素晴らしさ、私たちの心を浮き立たせる彼の愛情を喜び、覚えることができる。第三に、私たちが困難・試練の中に置かれているときに示されるイエスのリーダーシップを喜び、覚えることができる。

**<sup>11</sup>・・・私たちの主イエス・キリストによって、私たちは神を大いに喜んでいるのです(ローマ5:11)。**

- C. 落胆と試練の時ににおけるこの信仰の告白は、私たちが神は素晴らしく、悪魔は嘘つきであると宣言するとき、霊的な戦いの表明となる。またこの信仰の告白は、「小羊の婚宴」の前触れでもある。私たちはこれらのことばと全く同じ言葉を偉大な結婚式の時に使用するのである。

**<sup>7</sup>私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時が来て、花嫁はその用意ができたのだから(黙示19:7)。**

#### V. 覚えていることによって神を愛することができるようになる

- A. イエスの愛の素晴らしさによって私たちは力強く神を愛することができるようになる。教会がイエスの愛と素晴らしさを覚えるとき、私たちの心が目覚め、3重の神の愛を理解することができるようになる(神からの愛、神への愛、そしてそれが溢れ出て人々を愛することができるようになる)。花嫁は神がどのように人間の心を変えていくことができるのかを理解している。

**<sup>4</sup>あなたの愛をぶどう酒にまさってほめたたえ、真心からあなたを愛しています(雅歌1:4)。**

- B. 花嫁は、奥の間の経験で受け取った激しさを維持するための方法を示している。奥の間の経験によって、私たちは個人的な励ましと神にある確信を受け取る。このような経験をするだけでは十分ではない。奥の間で私たちに神が語られたことに同意するために私たちの魂を整えることによって、これらの経験を覚え、これらの経験に基づいて行動することに責任を取り続けて欲しいと神は私たちに求めておられる。

- C. 暗闇が私たちの心を攻撃するとき、神のみことばを宣言することによって、私たちは霊的な戦いに参戦する。私たちは私たちの心を一新しなければならないし、神が奥の間の経験で私たちに与えてくださったものを何一つ失うことはできないと決意しなければならない。

- D. 喜びには2つの次元がある。一つ目は、困難の中での信仰告白と同意しつづけるために決意することが必要とされる信仰を持つことによる喜びである。二つ目は、自動的に心の中に溢れ流れ出る喜びである。彼女はここではその両方の喜びについて述べている。

- E. 信仰による喜びは、イエスの愛を覚え、イエスから離れていくことを拒む。私たちは定期的に私たちの魂が神のみことばと一致しているかどうか確認する必要がある。信仰によって私たちの魂を喜ばせるように整える場所がある。

1. 困難な状況においても、心配に沈んでいく代わりに、私たちは積極的に神の中であって喜び、神の愛に溢れたリーダーシップを告白しなければいけない。私たちは、神の素晴らしいリーダーシップに喜んでいると宣言するのだ。真夜中の暗闇の中でも、神が神の奥の間で私たちに与えてくださった啓示を思い出す必要がある。

<sup>4</sup>私の上に翻るあの方の旗じるし（リーダーシップ）は愛でした（雅歌2：4）。

<sup>28</sup>神を愛する人々・・・のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています（ローマ8：28）。

2. 誘惑の時にあっても、神の臨在の中で積極的に喜び、神の愛情と約束は、この墮落した世のぶどう酒よりもまさっていると告白しなければならない。

<sup>24</sup>信仰によって、モーセは・・・<sup>25</sup>はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ・・・苦しむことを選び取りました。<sup>26</sup>・・・彼は報いとして与えられるものから目を離さなかったのです（ヘブル11：24-26）。

3. 失敗したときにでも、罪責感におぼれるのではなくて、神の優しい憐れみを信じ、神の愛を告白する。私たちは敵の非難を受け取ってはいけない。サタンは多くの人々に神から拒絶されていると告げることによって、弱いときに神の元へ走り寄る代りに神の元から走り逃げさせるようにしむける。

F. 困難な状況の時、誘惑される時、失敗する時、主は素晴らしいこと、主の憐れみはとこしえに続くということを宣言する（I歴16：34、41；II歴5：13；7：3，6；20：21；エズラ3：11；エレミヤ33：11；詩篇52：1；100：5；106：1；107：1；117：2；118：1-4，29；138）。

<sup>11</sup>そして、彼らは主を賛美し、感謝しながら、互いに、「主はいつくしみ深い。その恵みはとこしえまでもイスラエルに。」と歌い合った（エズラ3：11）。



## セッション9

### 心の中は黒いけれども神の目には美しい（雅歌1：5）

I. 私たちの旅は“黒いけれども美しい”という恵みのパラドックスから始まる。

<sup>5</sup>エルサレムの娘たち。私はケダルの天幕のように、ソロモンの幕のように、黒いけれども（私の心の中は）美しい（神様の目には）。私をご覧にならないでください。私は・・・黒いのです（雅歌1：5－6）。

A. 花嫁の霊的な旅は、全ての誠実な信者に共通した霊的な危機と共に始まる。その危機は、彼女の2重の信仰の告白（雅歌1：5）の中に見つけることができる。私はこの箇所を“恵みのパラドックス”と呼んでいる。というのは彼女は自分自身の罪を発見すると同時に、彼女は神にとって美しいということも知っているからである。聖霊の働きによって、彼女は神に対する彼女の美しさと同様に彼女の罪深さを見出す。これは誠実だけれどもまだ弱い信者のことを表している。

B. 私たちの霊的な成長にとって、私たちの罪深さを知るのと同じように私たちが美しいということを知ることは重要なことである。この2つの真理の組み合わせによって、私たちはイエスとの関係に確信を持って、また感謝を持って成長することができるのである。

1. キリストの体の中の、ある人々の集まりは、私たちの心の暗闇や私たちがいかに罪深いものであるのかについて焦点を当てている。私たちが神にとってどれほど美しいのかということ強調することなく、暗闇の部分だけに焦点を当て続けていると、主の御前における私たちの確信が破壊され、恥の思いにかられた信者を生み出すことになる。そのような人々は悔い改めには熱心だが、イエスとの関係においては、恥の思いにより、感情的に麻痺した状態になってしまっている。
2. 私たちは光の中を歩んでいるが、その明るさは人によって、また季節によって様々である。私たちは、神が持っている完全な光の中に神が住んでおられるのと同じように、完全な光の中を歩んで行かなければいけない。私たちが光の中を歩むとき、神は光の明るさを増し、明るさが増すことによって、私たちの心の中にある暗闇がもっともっと見えるようになる。神を愛そうとする私たちの最も誠実な努力でさえも、欠陥があり、壊れやすいものなのである。熱心にイエスに従っていこうとする者は、自分自身が弱いからといって、自分の召命に対して自分が資格がないのではないかと恐れる必要は一切ない。私たちは、私たち自身が弱いときにでも、神にとっては美しい存在なのである。私たちが霊的に未熟なときでさえ、神は私たちに対して優しく接してくださる。

C. エレミヤは人間の心の中の罪の深さ、不正直さに関する啓示を受け取った。私たちは私たちが理解する以上に、罪を犯してしまう大きな“能力”を持っている。私たちが自分で認知できていない罪がいかに根深いものかを完全に理解できている人間はいない。それらは地震の前の隠された断層のように、地表よりも深いところにある。

<sup>9</sup>人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう（エレミヤ17：9）。

<sup>22</sup>・・・人を救く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと（エペソ4：22）

D. パウロは成熟した使徒でありながら、自分自身のことを罪びとのかしらと表現した。これは、

誤った謙遜の思いからくる大げさな表現ではない。明るい光を持てば持つほど、私たちは私たちの心にある暗闇を見ることができるようになる。

**<sup>15</sup>「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた。」ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです (I テモテ 1 : 15)。**

- E. 私たちの肉の弱さを知ることは、私たち自身が何者であるのかについての真理の重要な側面であるが、それが全ての真理ではない。神は、私たちが救われる前から、私たちの罪の深さについて知っておられた。私たちが罪を犯したときに初めて、神が私たちの罪を見つけられるということではない。神が私たちに対する愛を宣言された時にも、私たちの罪深さについて知っておられた。私たちの罪の重さを理解しないで、神が私たちを愛そうと決意されたということではない。
- F. 私たちは罪を犯してしまうと時々驚くことがある。罪を犯すと、悲しみに打ちひしがれる。自分の犯した罪のことで自分自身が驚いているから、神もきっと驚いているに違いないと考えてしまう。もし神が私たちに関する情報を新たに知ることによって、神が驚かれているのならば、私たちと神との関係について考え直す必要があると神が思われているかもしれないとか、私たちに対する愛について神が考え直されているのではないかと私たちは恐れてしまう。
- G. 霊的に成長し続けるためには、私たちの心の中にある暗闇を発見していく過程の中にあってもなお、私たちは神にとって美しいものであると知る必要がある。神が私たちを愛する動機は、私たちに与えられたある特定の領域において、絶対に失敗しないという私たちの約束から来ているのではなくて、神ご自身の心から来ている。私たちが神の心を動かすことによって私たちに興味を持ってくださるに違いないという考えを前提にして、私たちが神との関係を持とうとすることを神は望んでおられない。私は、何年もの間、心の暗闇だけに焦点を当て続けている人々を見てきた。彼らは悔い改めることに関しては極端なほどに誠実であるが、神が彼らに対して思っている楽しみや喜びの中に入っていけない。
- H. 彼らは“神様の愛はぶどう酒よりも素晴らしい”ということを経験できない。彼らは誠実な心を持っているのだが、彼らの霊は神の前に閉じられている。閉じられた霊は“イエス様、私はあなたを愛しています。でもどうか私を赦してください。私を拒絶しないでください。もう決してこの罪は犯さないと誓いますから。”と言う。言い換えると、彼らは神を礼拝している間さえ、自分と神との関係について神とずっと交渉し続けているということになる。問題は、神の愛をどう理解するかであって、神が神の恵みにより私たちに美しさを分け与えてくださっていることを知ることによって、“私は黒いけれども美しい。私は罪を犯すけれども、神はそんな私のことでさえも心奪われる。”とすることができるのである。これは力強い確信である。この確信により、私たちは、躓いたとき、神から逃げ去るのではなくて、神の元へ走り寄る力が与えられるのである。

## II. 何故私たちは弱いときにあっても神にとって美しいのか？：4つの理由

- A. 私たちが義の賜物を受け取ったからである：義の賜物あるいはイエスが持っているものと全く同じ美しい義の衣を受け取ることによって、私たちの美しさはやって来る。罪深い人間が神の目に美しいと見えるのは、私たちが成し遂げたことによるのではなくて、イエスが私たちのためにしてくださったことによる。

<sup>17</sup>だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。<sup>18</sup>これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。<sup>19</sup>すなわち、神はキリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで・・・<sup>21</sup>神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にある、神の義となるためです (II コリント 5 : 17-21)。

B. 私たちは、喜んで仕える霊を持っているからである：イエスを受け入れて新生したとき、聖霊は私たちの霊に神に対して“Yes”という霊を与えてくださった。実際に変化が起こる前に、私たちは私たちの態度を変えることに同意するのである。私たちの霊の中にある神に対する“Yes”という思いは、神にとって美しいのである。神に対する私たちの心の動きはすべて喜んで仕える霊と呼ばれる霊の働きである。ダビデは、喜んで仕える霊によって自分自身が支えられるようにと祈った。

<sup>12</sup>あなたの救いの喜びを、私に返し、喜んで仕える霊が、私をささえますように (詩篇 51 : 12)。

<sup>41</sup>心は燃えていても、肉体は弱いのです (マタイ 26 : 41)。

C. 神のご性格の本質による：私たちの美しさは、神の感情がどのように構成されているのかと関係している。神の心にある途轍もなく大きな愛と情熱によって、神が私たちに対してどのように感じておられるのかが決定づけられている。「美しさは見る人の目に宿る。」私たちが神の目に美しいのは、見つめる神の心のゆえである。もし神がいつも怒っているのならば、私たちは神の目に美しいとは映らないだろう。神の人に対する見方は、神の心の中にあるものから流れ出る。神の考え方によって、誰が美しいのか何が美しいのかが決まる。もし誰か別の人がまったく同じものを見ていたとしても、私たちのことを美しいとは言わないこともあり得る。神の考え方は、人間のものの見方とは非常に異なるのである。

<sup>7</sup>彼の容貌や、背の高さを見てはならない。・・・人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る (I サムエル 16 : 7)。

<sup>7</sup>悪者はおのれの道を捨て、不法者はおのれのはかりごとを捨て去れ。主に帰れ。そうすれば主はあわれんでくださる。・・・豊かに赦してくださるから。<sup>8</sup>わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、・・・主の御告げ―<sup>9</sup>天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い (イザヤ 55 : 7-9)。

D. イエスの花嫁としての私たちの永遠の運命による：イエスと共に御座に座る花嫁として、私たちがどのようなものであるのか、神の恵みによってこれから先、何十億年もの間どのように生きるのかという視点で神は私たちのことを見ておられる。この視点が神の目にある私たちが何者であるのかを決める重要な部分を占めているのである。

### III. ペテロの初期の葛藤：黒いけれども美しい、弱いけれども喜んで仕える (マタイ 26 : 41)

A. イエスはペテロがイエスのことを否認することをペテロに警告した (ルカ 22 : 31-34)。ゲッセマネの園で夜遅く、イエスは、贖われた者の心が神の恵みにあってどのように働くのかについての重要な2重の表現をペテロに説明した。イエスはペテロに霊は喜んで仕えようとしているが、肉は弱いということを伝えた。

<sup>41</sup>心は燃えていても、肉体は弱いのです (マタイ 26 : 41)。

- B. ペテロは“弱い肉”の故に躓いただけであって、彼はなお“喜んで仕える霊”をもって、神に従おうと切望していたのである。多くの聖書の訳は“肉は弱い”というフレーズを使用しているが、NIV 訳は“肉は弱い”というところを“体は弱い”と訳している。イエスはここでペテロの心の中で働く罪の原則について述べているのであって、夜遅くて体が疲労していることについて述べているのではない。
- C. 私たちが自分自身の肉の弱さを見つけるとき、神は何を考え、何を感じておられるのだろうか？このことをどのように考えるのかが、神の恵みを理解するために非常に重要である。ここから私たちの信仰の危機が始まるのである。

#### IV. 主を否認したペテロの失敗の故の絶望

- A. なぜペテロは漁に行ったのだろうか？イエスの死後すぐに使徒チームのお金がなくなったから、漁に出かけたのではない（このことが起こったのは、十字架の後たった8日間しか経っていない）。彼らはユダがお金を盗んでも気づかないほどたくさんのお金を持っていたのである。彼らは一晩中漁をしていた事から分かるが、ペテロは娯楽のために漁をしていたわけでもない。
- <sup>3</sup>シモン・ペテロが彼らに言った。「私は漁に行く。」彼らは言った。「私たちもいっしょに行きましょう。」彼らは出かけて、小舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった (ヨハネ 21 : 3)。
- B. ペテロは神から与えられた使徒としてのリーダーシップをあきらめ、家族が営む漁師としてのビジネスに戻ろうとしていたのである。彼の元の職業である漁師に戻ろうと。イエスがペテロを使徒として召される前に、成功していた職業に戻ろうとしていたのである。なぜだろうか？もしペテロが若い女中の圧力の前にイエスに忠節を尽くせなかったのであれば、どうしてこれからの人生を通して、忠節を尽くし続けることができるだろうとペテロは思ったのだろう。ペテロはここで“使徒として生きるという圧力さえなければ、漁師として神に忠節を尽くせるかもしれない。”と言っているのである。
- C. ペテロは自分には使徒としての資格などないと感じていた。三度イエスを否定したという失敗によって、彼の心は傷ついていた。ペテロは、この失敗によってイエス様をがっかりさせたに違いないと感じていた。このことにより、ペテロは神に顔向けできないと感じていた。このように感じてしまうとき、私たちは神に向かって走っていくことをせず、逆に神から走って逃げ去ろうとするのである。
- D. 私たちの罪深い肉を発見するという危機に瀕するとき、人は、これからも失敗し続けるに違いないと信じ込み、神にある最も高い目標を目指すのは大きな痛みを伴うという理由から、目指すことを止めてしまう。心を尽くして神を愛していこうという高いビジョンを持っている人々が、度々、その高いビジョンに達することができないことを経験する。そのような経験をするとき、何人かの人は、何度も何度も失敗に立ち向かうことをせずに、そこであきらめてしまう。言い換えると、失敗の痛みを感じることがないように、自分のビジョンを低くしてしまう。心を尽くして神を愛していこうという高いビジョンを持ちながら失敗の痛みに立ち向かわないで、“セカンド（二級）クラスの神との関係”を持って生きていく方が楽だからである。
- E. そのような人は、神とのセカンド（二級）クラスの関係に慣れ親しんでしまう。それはもう彼

らが神のことを愛していないからではない。ただ恥ずかしい思いをしてでも神と向き合っていくことができないからである。真理は、私たちは神の恵みによって、そのような恥ずかしい思いを持って生きていく必要は全くないということである。

F. 彼らは自分たちのことを神が怒り、落胆し、悲しみ、いらいらしていると想像する。彼らは全力を尽くしてイエスに従い、捧げ尽くしつつ歩いていくことをあきらめ、自分を非難しながら生きていくのである。

G. イエスはペテロに全く同じ質問を三回繰り返す。“あなたは私を愛しますか？”

<sup>15</sup> 彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた、「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの小羊を飼いなさい。」

<sup>16</sup> イエスは再び彼に言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を牧しなさい。」<sup>17</sup> イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ。あなたはいつさいのことをご存じです。あなたは、私があなたを愛することを知っておいでになります。」(ヨハネ 21 : 15-17)

H. 神が私たちに質問するのは、神が情報を必要としているからではない。なぜ神はペテロにこの質問をしたのだろうか？神はペテロにペテロ自身に関する事実を見つけ出して欲しいと思っておられたのである。主は既にペテロが神のことを愛していることはご存知だった。しかし神はペテロが誠実にイエスのことを愛しているということに自信を持ってもらいたかったのである。イエスは、ペテロがイエスを否定する前に持っていたのと同じくらい素晴らしい神との関係に戻ってくるようにとペテロに呼びかけておられるのである。主は、ペテロがどれほどイエスのことを愛しているのかということをペテロ自身に明らかにされていたのである。

I. 主はこのような語っているのである。“ペテロ、あなたは私のことを愛している。8日前のゲッセマネの園で、あなたは弱い肉を持っていたけれども、同時に喜んで仕える霊も持っていた。あなたは、自分の肉が弱いということを信じていなかった。しかしあなたは、同時に喜んで仕える霊を持っていることを理解する必要がある。あなたは、私に対して Yes という霊を持っているのだ。私は、あなたが躓く前から、あなたの中に喜んで仕える霊があるのを見ていた。私があなたを呼び出したあの時から見ていたその喜んで仕える霊がまだあなたの中にあるのを今も見ているのだ。”と。

J. イエスは、私たちの行動よりも、私たちの喜んで仕える霊を見られる。主は、ペテロの心にある、彼の信仰を3回否定したことから来る恥の思いを打ち砕いておられる。イエスはこれら3回の質問で、ペテロの霊を洗いきよめられた。イエスはペテロに“私は神のことを愛しています。”と言って欲しかったのである。ペテロの神に対する確信が回復された時、ペテロの心の中で恥の思いが砕かれたのである。

## V. 勝利の3つの段階

A. 第一の段階、神に従おうとする誠実な思い：霊的な勝利の最初のステップは、神に従おうとする私たちの誠実な願いである。その私たちの誠実な思いは、完全な従順の達成とは完全に区別

されなければならない。私たちの思いから、私たちの勝利が始まる。聖霊がそのような誠実な願いの著者である（悪魔でもなければ、私たちの肉でもない）。神が私たちの人生をどのように見られるか、定義されるかの一部は、これらの私たちの思いにかかっている。神は私たちのその思いを喜ばれる。何人かの人は、自分の人生を、達成したことだけによって評価するので、結局自分自身を非難することになってしまう。

- B. 第二の段階、引き続き葛藤はあるものの部分的にブレイクスルーを経験する：日々の生活の大部分では勝利の生活を行うことができるが、ある特定の分野でまだ肉との格闘がある（ローマ 8：2－13、ガラテヤ 5：16－17）。
- C. 第三の段階、全く変化した願いを伴った確固たるブレイクスルーを経験する：私たち自身の願いが全く変えられ、以前の罪の分野においてさえも葛藤をほとんど経験しない（ローマ 6：14－23）。

#### VI. 聖なる情熱への旅はこの2重の啓示から始まる

<sup>5</sup>エルサレムの娘たち。私はケダルの天幕のように、ソロモンの幕のように、黒いけれども（心の中は）美しい（神様にとって）。<sup>6</sup>私をご覧にならないでください。私は日に焼けて、黒いのです（雅歌 1：5－6）。

- A. 若い花嫁が雅歌 1：5 で向き合っている危機は、ペテロが歩んだ危機と同じものである。
  - (ア) 心の黒さ（罪深い願い）：私たちの弱い肉は神にとって黒い。
  - (イ) 神にとって美しい（イエスに従おうという誠実な思い）：私たちの喜んで仕える霊は神にとって美しい。
- B. 雅歌を通して、花嫁はエルサレムの娘たちに、神に対する情熱の成長に関する霊的な原則について教える。娘たちは、霊的に未成熟な人のことを表している。
- C. ケダルの黒い天幕は、肉の黒さについて述べている。この天幕は、野生のヤギの黒い皮から作られた黒いテントである。このたとえはその当時の人にとっては非常に理解しやすかった。
- D. ソロモンの幕というのは、神殿の聖所にある白いカーテンのことである。これらの幕は、彼女の人生の恵みの内なる働きについて表している。これらのカーテンの美しさは、外庭に居る人からは見えず、聖所に入ることが許された祭司のみが見ることができる。
- E. 彼女は“私の外側は黒いテントのようだが、内側は聖所のソロモンのカーテンのように美しい。”と言っていることになる。外側から、人は彼女のことをケダルの黒い天幕と見る。が、
- F. 花嫁は“私は日に焼けたのです”と叫んでいる。ソロモンの伝道者の書の中で、ソロモンはしばしば“日の下で生きる”ことについて書いている。それは自然の領域で生活することを意味している。花嫁は、日の下に生まれることあるいは罪の弱さの中に生まれることのインパクトについて語っているのである。自然の生活は彼女に衝撃を与え、彼女を黒くする。それはアダムの末裔として生きる全ての人間に対して言えることである。
- G. 彼女は自分のことを見つめないで、“あなたの心は黒い”と言いながら彼女を辱めるように首を振るのは止めてと人々に頼んでいる。彼女は“そうです。私は人間です。この墮落した世において私は大きな罪を犯しました。”と言う。
- H. 彼女は人々に彼女のことを見つめないでと頼む（6 節）。彼女は自分自身の心の黒さに圧倒されているのである。

## VII. それでは私たちはどのように生きればいいのか？

- A. 多くの人は誠実に悔い改めはするものの、自分たちは神にとって美しいものであるという確信に欠けている。イエスが彼らのためにしてくださったこと、そして聖霊が喜んで仕える霊を分与することによって彼らの中で成し遂げてくださったことの故に、彼らは美しいのであるという確信に欠けているのである。。
- B. また逆にある人たちは、神にとっての美しさという真理を理解しているが、時に、誠実に悔い改めつつ、心から生きるということを求めもしないで、神から美しいと思われているのだということだけを強調して、厚かましく生きている。
- C. 問題は、彼女が自分自身の罪深さを見つけたときに、神とどのような関係を持とうとするかということである。もしあなたが弱い肉、黒い心を持っているということを発見したら、神とどのように向き合うだろうか？このような危機にあるときに、どのような行動を選ぶのが私たちの霊的な生活の中で非常に重要な意味をなす。
- D. 多くの人がこのような霊的な危機の中で、神の元へと走り寄ることをしないで逆に神から走って逃げ去ってしまう。というのも彼らがどのように神に見られているかということについて、彼らは勘違いしているからである。彼らはペテロが最初にやった同じ間違いを犯している。彼らは退き、あきらめ、恥の思いの中に浸ってしまうのである（恥の要塞）。
- E. 恥の生活は罪の生活に繋がっていく。もし神の前に自分が汚れていると感じていると、汚れた生活をしてしまう。主は私たちにセカンド（二級）クラスの地位に落ちて欲しいとは思っておられない。この地球上で、清く、威厳を保ちつつ、愛されていると感じている女性ほど力強い存在はない。そのような女性は、愛をしっかりと掴まえて不屈である。また力強い。神は、清く、求められ、威厳があり、追い求められ、喜ばれていると感じることができる花嫁としての教会を立てあげておられる。

## セッション 10

### 彼女の旅は霊的な危機から始まる（雅歌 1 : 5 – 11）

I. 私たちの旅は“黒いけれども美しい”という恵みのパラドックスから始まる。

<sup>5</sup>エルサレムの娘たち。私はケダルの天幕のように、ソロモンの幕のように、黒いけれども（私の心の中は）美しい（神様の目には）。私をご覧にならないでください。私は・・・黒いのです（雅歌 1 : 5 – 6）。

A. 花嫁の霊的な旅は、全ての誠実な信者に共通した霊的な危機と共に始まる。その危機は、彼女の二重の信仰の告白（雅歌 1 : 5）の中に見つけることができる。私はこの箇所を“恵みのパラドックス”と呼んでいる。というのは彼女は自分自身の罪を発見すると同時に、彼女は神にとって美しいということも知っているからである。聖霊の働きによって、彼女は神に対する彼女の美しさと同様に彼女の罪深さを見出す。これは誠実けれどもまだ弱い信者のことを表している。

B. 私たちは次の4つの理由から、弱いときにでも神の目に美しい。最初の理由は、私たちの美しさは、正義の賜物を受け取ったことにより来るからである（II コリント 5 : 17 – 21）。第二の理由は、新生した時に、聖霊は私たちの霊に神に対して“**Yes**”という霊を与えてくれたからである。私たちの神に対する心の全ての動きは、私たちの中で働く、喜んで仕える霊と呼ばれる神の働きである（詩篇 51 : 12、マタイ 26 : 41）。第三の理由は、私たちの美しさは、神の感情がどのように構成されているのかと関係している。神の心にある途轍もなく大きな愛と情熱によって、神が私たちに対してどのように感じておられるのかが決定づけられている。「美しさは見る人の目に宿る。」神の物事に対する見方は人間の見方と非常に異なる（I サムエル 16 : 7、イザヤ 55 : 7 – 9）。第四の理由は、神は私たちのことを、キリストの花嫁としての私たちの永遠に続く運命というレンズを通して見られるからである。

C. 私たちは、キリストにある勝利の3段階について理解する必要がある。第一の段階は、神に従っていこうとする誠実な思いである。私たちの勝利はここから始まる。第二の段階では、私たちは部分的な打ち破り（ブレイクスルー）を経験するものの、引き続き葛藤があるという段階である。日々の生活の大部分では勝利の生活を行うことができるが、ある特定の分野でまだ肉との格闘がある（ガラテヤ 5 : 16 – 17）。第三の段階では、私たちの願いが全く違うものに変えられ、確固たるブレイクスルーを経験する（ローマ 6 : 14 – 23）。

## II. 彼女の霊的な危機：拒絶と恥

<sup>6</sup>私をご覧にならないでください。・・・黒いのです。私の母の子らが私に向かっていきりたち、私をぶどう畑の見張りに立てたのです。しかし、私は自分のぶどう畑（心）は見張りませんでした。

<sup>7</sup>私の愛している人（イエス）。どうか教えてください。どこで羊を飼い、昼の間は、どこでそれを休ませるのですか。私はなぜ、顔おおいをつけた女のようにしていなければならないのでしょうか（雅歌 1 : 6 – 7）。

A. 彼女は雅歌 1 : 6 – 7において、彼女の霊的な危機に関連した5つの異なる圧迫について述べている。①彼女が失敗したことで、他の人から見つめられることに対して恥ずかしい思いを抱いている。②彼女の怒った兄弟たちによって拒絶されている。③他の人のぶどう畑を見張らな



ければならなくなり、働かせられ過ぎている。④イエスに対する新鮮な愛を感じながら、自分自身のぶどう畑（心）を見張ることができなくなっている。⑤離れたところからイエスに仕えている。

- B. 彼女は彼女の兄弟たちのことを彼女の“母の子ら”と述べている。雅歌を通して（1；6；3：4，11；8：2，5），“母”というのは教会のことを表している。私たちは、聖霊によって、教会の働きを通して、神から生まれるからである。パウロや他の人々は、教会や教会のリーダー、新しいエルサレムのことを“母”と書いている（ガラテヤ4：19，26；I テサロニケ2：6－7）。神のみこころを行うものは、神の母親であり兄弟なのである（マタイ12：46－50）。神は私たちの父親であり、教会は私たちの母親として述べられる。教会の基礎であるイエスは、女の種から生まれた（創世記3：15）。贖われたイスラエルは、人の子であるイエスを産んだ“母”として描写されている（黙示12：5）。
- C. 息子たちは、彼女の若さ溢れる情熱を見て、腹を立てているのである。この息子たちは、熱心な若い信者のことを理解しない、年配で霊的に活気のないリーダー達のことを表している。なぜ彼らは怒っているのだろうか？第一に、情熱的な信者は、霊的に活気のない信者に有罪判決を宣告することになるからである（活気のない信者は、単純に、真実な霊的な熱心さを単なる律法主義だと決めつけて取り合わないことが多いのである）。第二に、熱心な信者のほとぼしる情熱とプライドによって、活気のないリーダーは腹を立ててしまう。イエスに対して新鮮な情熱を持っている信者が、他の人々に対して心から熱心になろうと呼びかけるとき、彼らが自己中心的で高慢になってしまうことがよくある。自分自身を高く上げ、自分たちと同じような献身を神様に示さない人々のことを非難する人がいる。
- D. 怒った息子たちは、彼女の熱心さを利用し、彼女のものではないぶどう畑（複数形）に関するたくさんの責任を与えることによって、彼女を酷使する。彼女は霊的に燃え尽きてしまう。働きすぎることによって燃え尽きてしまうのではなく、むしろ、宗教的なくびきによって燃え尽きてしまうのである。宗教的なくびきを背負って働くというのは、聖霊と繋がらないで働いてしまうことを意味する。人のことを恐れ、また人々から認められたいという望みから生まれる多くの責任を抱え込むことによって、人は燃え尽きてしまうのである。
- E. 彼女は人のぶどう畑を見張っているが、自分自身のぶどう畑（心）を見張ることができていない。私たちの神の御前における最初の責任は、私たち自身のイエスとの個人的な歩みである。元々、彼女が最も求めていたのは、神のことばによる口付けだった。しかし、時が経つにつれ、霊的な冷たさ、罪、恥の思いという雑草によって、彼女のぶどう畑、彼女の心の庭が埋め尽くされてしまった。彼女自身のぶどう畑の世話をするということは、彼女の神との個人的な交わりを育み、神のみこころを行うということである。

**<sup>6</sup>私をぶどう畑の見張りに立てたのです。しかし、私は自分のぶどう畑は見張りませんでした（雅歌1：6）。**

- F. 彼女は、遠く離れたところからイエスに仕えることの痛みを感じている。このようなことは、聖霊に繋がっていない状態で神に仕えるときに起こってしまう。彼女は、遠く離れたところで羊飼いに仕えている顔おいをつけた女のように感じている。

**<sup>7</sup>私の愛している人（イエス）。どうか教えてください。どこで羊を飼い、昼の間は、どこでそれを休ませるのですか。あなたの仲間の群れのかたわらで、私はなぜ、顔おいをつけた女のようにし**

ていなければならないのでしょう (雅歌 1 : 7)。

1. その当時、よく知らない人達と働くとき、女性は顔おおいを着けた。何故、以前はもっとあなたの近くに居ることができたのに、今は遠く離れたところからあなたに仕えなければならないのだろうか？これらの問題は、彼女が愛する羊飼いかから遠く離れたところに住まなければならないことを意味している。
2. 彼女はイエスが居るところならどこにでも一緒に居たいと思っている。彼女は神様との交わりにおける甘さを失ってしまった。彼女は、イエスのことばによる口付けと奥の間での主との経験を切望している。

### III. イエスをもっと欲しいという彼女の必死の叫び

<sup>7</sup>私の愛している人 (イエス)。どうか教えてください。どこで羊を飼い、昼の間は、どこでそれを休ませるのですか。あなたの仲間の群れのかたわらで、私はなぜ、顔おおいをつけた女のようにしていなければならないのでしょうか (雅歌 1 : 7)。

A. この危機の只中において、彼女は必死の祈りをもって叫ぶ。彼女はみことばによる口付け、奥の間での経験のことを覚えている。彼女は偉大な羊飼ひ (イエス) に“どうか教えてください。あなたはどこで羊を飼うのですか？”と尋ねている。私たちが弱いときにでさえ、神の目に私たちは美しいという確信があって初めてこの必死の叫び声をあげることができる。

1. 彼女はまだイエスのことを愛していて“私の愛している人。どうか教えてください。”と叫んでいる。彼女は、自分が自分の弱い愛のために失敗したことを知っている。しかし弱い愛は偽りの愛ではない。彼女はそれでもなお神を純粋に愛する者なのである。彼女は、敵が彼女に信じ込ませようとしている希望のない偽善者なのではない。彼女は、危機にある時、霊的に退屈な時にでさえ、彼女の愛は本物だと確信しているのである。
2. 彼女は“教えてください。私は希望のない偽善者ですから。”と言ったのではない。彼女は“私は神を愛する者だ。”と叫んでいるのである。これはペテロが“主よ、私はあなたを裏切りましたが、私があなたを愛していることはあなたをご存知です。”と叫んでいるのによく似ている。

B. 彼女はイエスに出会うために必死になっている。ミニストリーの活動や昇進でさえも十分ではない。彼女はイエスがどこでイエスの群れに餌を与えているのかを知りたいと願う。これは“私を引き寄せてください”という彼女の祈りの表現である。

C. 正午、一日の中でも暑い日差しの時でさえも、羊はお腹が満たされていると横になる。一日の中で暑い時、人生の中で圧迫を感じている時にでも、神は、私たちが神のために働くだけでなく、神と繋がることによって休息を取って欲しいと思っておられる。

### <sup>2</sup>主は私を緑の牧場に伏させ、(詩篇 23 : 2)

- D. 彼女は羊飼ひの言葉で祈りを捧げている。“日中の圧迫の下で、あなたは私をどの場所で満足させてくれるのですか？”彼女は再びイエスと一緒に満足したい、正午でも休息したいと切望しているのである。彼女は“私はこれまで他の人から養われてきましたが、今、私はあなたに私を養ってもらいたいのです。私の霊の叫びをあなたはどこで満足させてくれるのですか？”と言っているのである。
- E. イエスは、私たちがこの祈りを祈ることを切望している。イエスは、私たちがあきらめ、神と

の生活が霊的に退屈なものになってしまうことを望んでおられない。イエスは、私たちが自分自身のことを希望のない偽善者だとあきらめてもらいたくないのである。“あなたが以前してくださったように私の心を養ってください。私は顔おおいをつけた女のようになっています。私はあなたから離れてあなたに仕えています。私自身のぶどう畑は雑草だらけになっています。たくさんのことがひどい状態です。私は失敗し、人々は怒っています。私は愛するあなたに触れたいのです。”と私たちが叫ぶとき、イエスは喜ばれる。どんな犠牲を払っても、彼女の心を再び燃え上がらせる神との親密さの炎を彼女は求めている。彼女はイエスにもう一度養ってもらいたいと思っているのである。彼女は“最初の愛”を回復しようと叫んでいるのである。

#### IV. イエスの栄光に満ちた回答：7つの本質的な声明

***8 女のなかで最も美しい人よ。あなたがこれを知らないのなら、羊の群れの足跡について行き、羊飼いの住まいのかたわらで、あなたの子やぎを飼いなさい (雅歌1：8)。***

- A. イエスは、彼女の必死の思いの祈りを聞き（雅歌1：7）、彼女に個人的に答える（雅歌1：8－11）。イエスは、どこで彼女がイエスを見つけることができるかという質問に対する回答である7つの声明を彼女に与える。最初にイエスは彼女は彼の目に美しいということを断言し、次に3重の回答を与え（1：8）、次に3重の肯定を与える（1：9－11）。彼女はこの回答に対して大きな感謝をもって対応する（雅歌1：12）。聖なる情熱に関する非常に重要な神学の一部は、このイエスの回答の中に見出すことができる。この部分が、彼女の旅におけるイエスの最初の啓示なのである。イエスは“驚くべき指導者（新共同訳）”として、もしくは彼女が弱さを感じるときにどのように進んでいけばいいのかということについて、実際的なアドバイスを与える羊飼いとして、ご自分のことを明らかにされる。
- B. イエスは花嫁のことを“最も麗しい (fairest) 人よ。”と呼ぶ。“麗しい”という言葉は多くの訳において“美しい (beautiful (NAS/NIV))”と訳されている。イエスは“最も美しい女性よ。”とここで言っているのである。イエスは“あなたの庭にはたくさんの雑草が生い茂っていること、また私から遠く離れて私に仕えていることを知っている。しかし、私はあなたの心の中に私のことを愛そうとする叫びがあるのを知っている。”と語っている。イエスにある彼女の美しさ故に、イエスは彼女の心を求めるのである。
- C. イエスは“あなたがこれを知らないのなら”と語り始める。この彼の答えを聞いて、多くの人が驚いてしまう。私たちはイエスから叱りつけられるものと予想していたからである。イエスは、私たちの庭がちゃんと管理されておらず、遠くからイエスに仕えていることを知っておられるけれども、彼にとって私たちは最も美しいのである。イエスは、私たちが道を見失い、失敗している時にでさえ、私たちのことを美しいと呼んでくださるのである。私たちは怒っている息子たちにとっては醜いものであるかもしれないが、イエスの目には最も美しい者なのである。私たちは自分自身のことを軽蔑しているかもしれないが、私たちはイエスの目には最も美しい存在なのである。イエスは、彼女の恥の思いと拒絶された心に話しかける。
- D. イエスは、彼女のことを最も美しい女性と呼ぶ。イエスは、この地上に住む、イエスを軽蔑している偽の宗教を信じている女性と比較して、彼女（花嫁）のことを見ているのである。彼は彼女を成熟した使徒と比較しているのではない。彼は、イエスに何の興味も持っていないこの地上に住んでいる50～60億人の女性と比較しているのである。私たちは、イエスのことを

熱心に求め、正義の賜物を受け取っている。そのことの故に、私たちは神の目に美しいのである。

- E. 雅歌 1 : 4 において、花嫁は娘たちに“私たちは彼の愛を覚えていましょう。”と教えている。イエスは、彼女が弱いときにどのように彼女のことを見ているのかを告げることによって、彼女にイエスの彼女に対する愛を思い出させている。イエスは、私たちの危機の時、私たちのことを“最も美しい者”と呼びかけながら、私たちの心に話しかけている。それから、彼は私たちに指導を与える。
- F. イエスがどこで彼の羊を飼い、神との親密な関係の中に私たちを建て上げる事に関するイエスの三重の回答は、キリストの体（教会）での生活の重要性について強調している。これら 3 つの回答は、私たちが共通して経験する 3 つの最もパワフルな誘惑について回答しながら、キリストの体（教会）での生活について述べている。

**<sup>8</sup> 女のなかで最も美しい人よ。あなたがこれを知らないのなら、羊の群れの足跡について行き、羊飼いの住まいのかたわらで、あなたの子やぎを飼いなさい（雅歌 1 : 8）。**

1. キリストの体（教会）で生活することに対する決意：神からのものではない孤立に対する拒絶
  2. 仕える者としてのミニストリーへの決意：神からのものではない怠惰に対する拒絶
  3. 霊的な権威への決意：神からのものではない独立心に対する拒絶
- G. 引き寄せられることは、親密さに関することなので単数形である。それに対して、走って行くことは、ミニストリーに関することなので複数形である。神は、私たちがミニストリーをする時、孤立し、怠惰で、独立の霊を持ってやって欲しいと思っておられない。
- H. 最初に、キリストの体（教会）で生活することに対する決意：神からのものではない孤立に対する拒絶に関して（雅歌 1 : 8、羊の群れの足跡）。イエスは、彼女に羊の群れの足跡について行くように告げられる。即ち、キリストの体における交わりに関わりなさいと言っておられるのである。“羊の群れの足跡”は、羊が神と歩む場所を意味する。主は、キリストの体が歩むところについて行きなさいと仰っている。“交わりの中に戻りなさい。あなたを裁き、あなたをいじめる、怒った兄弟に対して過剰に反応するのではなく。”とイエスは言っている。キリストの体から離れようとするのは、神を追い求めようとする願いからではなく、拒絶、苦々しさ、恥の思いからである。悪魔は、私たちを破壊するために、私たちを孤独にさせようとする。

**<sup>25</sup> ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで（ヘブル 10 : 25）**

- I. 第二に、私たちが神からのものではない怠惰さを拒絶するとき、私たちは神から与えられた責任を果たす（雅歌 1 : 8）。私たちは、神が私たちの前に置いている小さな群れを養う必要がある。神が私たちに送ってくださっている若い群れ、小さな群れを養うという責任を果たすにつれ、イエスはイエスご自身をもっと私たちに与えてくださる。
- J. 第三に、神からではない独立心を拒絶することによって私たちは霊的な権威に従うべきである（雅歌 1 : 8）。彼女は、本当の羊飼いのテントのそばでキリストの体に仕える。イエスは、イエスが私たちの上に置いている羊飼いたち（リーダーたち）に私たちが霊を開いて欲しいと思っておられる。不法の霊がはびこっている（マタイ 24 : 12）。神は、神が私たちの上に置いた、またこれから置かれるであろうリーダーも全て、不完全なリーダーであることを知っ

ておられる。神は、私たちを鍛え、また私たちの心の中の未解決の問題をあらわにさせるため、不完全な羊飼いをうけられる。神が私たちの上に置かれた不完全なリーダーの欠点を見つけると、教えられる霊をもって彼らのテントのそばに住むことを拒絶する誘惑にかられてしまう。服従は、謙遜に関わり、権威に対して開かれた霊を持つということである。

- K. 要約：イエスの三重の回答は、キリストの体における3つの主要な誘惑について語っている。最初の誘惑は、私たちが怒った息子たちによって拒絶され、ひどく取り扱われたと感じる時、また私たちの罪に関連して恥ずかしい思いをした時に、孤立しようとする誘惑、苦々しい思いを持ち続けようとする誘惑である。私たちは交わりのなかに居続けなければならない。それが神の私たちを癒す方法だからである。第二の誘惑は、自己中心と恐れに関する誘惑である。イエスは、私たちに小さな群れの世話をしたいと思っておられる。他人に仕えるという文脈の中で、私たちは最高のイエスを見つけることができる。第三の誘惑は、霊的な権威に対抗するという誘惑である。

V. 彼女の誠実さは、主によって再び肯定される。

<sup>9</sup>わが愛する者よ。私はあなたをパロの戦車の雌馬になぞらえよう。<sup>10</sup>あなたの頬には飾り輪がつき、首には宝石をちりばめた首飾りがつけてあって、美しい。<sup>11</sup>私たちは銀をちりばめた金の飾り輪をあなたのために作ろう（雅歌1：9－11）。

- A. 雅歌1：9－10において、イエスは、彼女の誠実さと神の前に喜んで仕える彼女の霊の美しさを再び肯定する3つの物事に彼女を例えている。そしてイエスは、雅歌1：11において彼女に約束を与える。最初にイエスがやったことは、彼女のことを“わが愛する者よ”と呼ぶことによって、彼女を肯定するために、彼女の心に語りかけることであった。彼は再び愛情を持って、彼女の心に語りかけるのである。
- B. 神は、義の心をもってイエスについて行こうとする彼女の心からの熱望を見ておられる。彼女をパロの戦車の雌馬に例える。

<sup>9</sup>わが愛する者よ。私はあなたをパロの戦車の雌馬になぞらえよう（雅歌1：9）

1. 馬は強さと力の象徴である。この箇所では、義にある彼女の強さについて述べられている。パロの戦車には、この世界で最も素晴らしく、最も訓練された、最も能力のある馬が備えられる。イエスは、彼女の強さをその雌馬に例えておられる。
  2. “パロの戦車の雌馬”は、この世界で最も素晴らしく最も強い戦馬のことを表している。その当時、エジプトの馬は全世界でよく知られていた。パロは、世界で最も能力のある、訓練された馬を有していた。パロは、エジプト中の馬の中で最高の馬を選び、彼自身の戦車を引かせたのである。パロ自身の戦車には、最高の中の最高の馬が備えられているということである。パロの馬小屋には何千もの馬がいたが、彼自身の戦車を引かせるのは、その中でも最高の馬なのである。世界で最も裕福な人間であるソロモンは、パロの馬をたくさん購入したことが知られている。ソロモンは、パロの馬が買えるほど裕福な数少ない人間の中の一人であった。
- C. 私たちの感情はイエスにとって魅力的なのである。彼は聖霊をもって私たちの感情に触れられる。イエスに真摯に献身することによって、彼女の人生の感情の部分は、神によって触れられる。

<sup>10</sup> あなたの頬には飾り輪がつき、首には宝石をちりばめた首飾りがつけてあって、美しい。<sup>11</sup> 私たちは銀をちりばめた金の飾り輪をあなたのために作ろう（雅歌1：10－11）。

1. 頬は、雅歌の中で、感情のことを示している。頬は、怒りや喜びなどの感情を表すからである。私たちが誰かの頬を見るとき、その人の心に喜びがあるのか、それとも怒りや悲しみがあるのかが分かる。人の感情は頬を通して顕れる。
2. 飾り輪は、使用する材料を美しくする熟練した芸術家の手によって生み出される。イエスは、私たちが美しくされる芸術家である（イザヤ61：3）。神は私たちの中に欲望や怒りを見つけられるが、また私たちの中にイエスを求める情熱が成長していくさまも見られる。神は“あなたの感情は美しい、私が熟練した技をもって、あなたの心の中に、私の息子に対して” Yes! “という思いを精妙に造りあげたからである。”と言っておられる。この Yes という思いが神の心を動かすのである。

D. 神は、神によって与えられた権威に対する彼女の服従と、イエスに従おうとする彼女の決意を見られる。

<sup>10</sup> あなたの頬には飾り輪がつき、首には宝石をちりばめた首飾りがつけてあって、美しい。<sup>11</sup> 私たちは銀をちりばめた金の飾り輪をあなたのために作ろう（雅歌1：10－11）。

1. 首は象徴的に意志を意味する。聖書にはうなじのこわい人について語っているところがあるが、それは頑固で反抗的な人間のことを表している。首はまた神にある服従をも意味する。首は、右に行くか左に行くかを決めるときに頭の方角を変えるものである。王がある国を征服したとき、征服した側の将軍は、征服された側の王の首を足で踏みつける。それは服従を表す。
2. “金の首飾り”（英語訳の10節では your neck with chains of gold と書かれている）は王家の権威を示している。王だけが金の首飾りを持つことができる。その当時、王以外の人で金の首飾りを買えるほど裕福な人はほとんど居なかった。金の首飾りは珍しく、高価なもので、王家の人しか身につけていなかった。王の紋章が付いた金の首飾りは、王子が町を歩くときに身に付けるものである。

## VI. 私たちの中で始められたことは必ず終わらせるという主の約束

<sup>11</sup> 私たちは銀をちりばめた金の飾り輪をあなたのために作ろう（雅歌1：11）。

- A. 金の飾り輪は、神の性格について語っている。金の性格の中で、彼女はキリストのような者になっていく。この箇所は、火で精錬された信者について語られている（マラキ3：1－4）。銀は悔い改めを意味する。彼女は、人々に悔い改めをもたらす者として用いられる。また人々を解放するために彼女は備えられる。
- B. “私たちは・・・作ろう”という箇所は、彼女の中で始められた神の働きを完了させるという神の約束を表している。神は、7節の“あなたはどこで私を養ってくださるのですか？”という彼女の質問に対して、答えておられる。神は、彼女の中で特別なことをしようと約束しておられる。神の性格（金）を完全に選択し、人々を解放するため（銀）に銀をもって備えられる人に、神は私たちを変えられる。神は、私たちがつまずいたことのある領域における私たちの勝利を約束され、私たちが人々を悔い改めに導く代理人になることを約束しておられる。

## セッション 11

### 花嫁のパラダイム：基盤となる真理（雅歌 1：12－17）

#### I. 雅歌 1：5－17 の復習と概要

A. 花嫁はイエスに“あなたはどこでわたしを養ってくださるのですか？”と問いかける（雅歌 1：7）。その質問に、イエスは 7 重の回答を与えた。まず彼女の美しさを宣言し（1：8）、3 重の指示を与え（1：8）、3 重の肯定を与える（1：9－11）。

B. 彼女は、イエスのテーブルに着き、イエスから養われる時に 3 重の応答をする（雅歌 1：12－14）。彼女は、自分の心が黒く、きちんと手入れされていないぶどう畑のような、自分の弱い状態の時にでさえも、イエスの愛に確信を持っている（1：5－7）。

**<sup>12</sup>王がうたげの座に着いておられる間、私のナルドはかおりを放ちました。<sup>13</sup>私の愛する方は、私にとっては、・・・没薬の袋のようです。<sup>14</sup>私の愛する方は、私にとっては、・・・ヘンナ樹の花ぶさのようです（雅歌 1：12－14）。**

C. そして彼女は、神の彼女に対する愛に関する啓示と、また神にとって彼女がどれほど美しいものであるかに関する、さらに増し加わった啓示を受け取る。そして花嫁は 5 重の応答をする。彼女はイエスのことを、美しく（美しい神）、彼女が愛する者（私の愛する方）、慕わしい者として見、また彼が彼女の人生を安らぎへと、そして永遠に続く栄光へ導く者として見ている（1：16－17）。

#### II. 十字架についての黙想：神の愛と私たちが受ける恩恵（雅歌 1：13）

**<sup>13</sup>私の愛する方は、私にとっては、この乳房の間に宿る没薬の袋のようです（雅歌 1：13）。**

A. 彼女は、十字架におけるイエスの私たちへの愛と備えに関する啓示を受け取る（ローマ 3－8 章）。

B. 没薬は、インド、アラビアや東アフリカに生える様々な木・灌木から生み出される芳香のあるゴム状の樹脂である。没薬は非常に高価で、香料（箴言 7：17）や香を燃やすための聖なるそそぎの油（出エジプト 30：23）を作る時に用いられ、また埋葬のために遺体の準備をするため（ヨハネ 19：39－40）にも用いられる。また没薬は苦味を持っている。3 人の賢い王がイエスの誕生に際して、イエスの死の預言的な象徴として、没薬を持ってきた（マタイ 2：11）。また十字架上でイエスは、没薬を与えられた（マルコ 15：23）。没薬はイエスの死を意味する（詩篇 45：8）。

C. 没薬は香料を意味するのと同時に、私たちの肉的方法は常に死ぬべきであると受け入れなければならないという辛い現実をも示している。

D. エステルの美容のための準備には、没薬や他の香料に浸ることが含まれていた（エステル 2：12）。雅歌の中で没薬に関しては 8 回記載されている（雅歌 1：13、3：6、4：6、4：14、5：1、5：5、5：13）。

E. 古代の世界では、裕福な女性は夜の間にずっといい香りがするようにと、没薬の袋や大きなネックスレスを身に付けて、ベッドに入った。ソロモンは、このとてつもなく高価なプレゼントを彼女に贈ったのである。

F. 花嫁は、イエスはまるで夜の間にずっと彼女の心の上に横たわっている没薬の袋のようだと宣言

している。十字架は、花嫁に対するとてつもなく高価な王であるイエスからのプレゼントなのである。イエスの死は、“有り余る捧げ物”なのである。十字架は、彼の私たちへの愛ゆえに彼が耐え忍ばれたものについて語っている。十字架によって、私たちが彼にとって本当に価値のあるものだということが分かる。私たちの価値は、イエスが私たちのために耐え忍ばれたことの中に見出すことができる。私たちが存在しているという事実そのものが、私たちが価値ある存在であることの宣言である。またその事実に加えて、創世記1章の神が人となり、私たちとの永遠の関係を持つための道を作るために、神の怒りによってイエスは打ち砕かれたという事実が、私たちが価値ある存在だと宣言しているのである。

- G. 没薬は、一晩中、彼女の心の上に横たわっている。夜というのは、彼女が誘惑・試練を受ける「夜の闇」を意味するのと同時に、昼夜を問わず絶え間なくという意味でもある。没薬は、ずっと彼女の心の上に宿っている。
- H. 私たちは、私たちの罪のためにほふられた小羊を見て、永遠に驚嘆しつづける（黙示5：8－12）。私たちが本当に彼がどんなお方なのか、彼が何をなしてくださったのかを見るとき、私たちの心は、永遠に、畏怖の念を覚え、感謝の思いに圧倒されるのである。永遠に、私たちはイエスのことを、私たちの心の上に宿る“没薬の袋”として見るのである。
- I. 私たちは、その没薬を昼も夜も持ち運ばなくてはならない。私たちが十字架のことを考える時はいつも、イエスの愛を覚えているべきである。最も従順で賛美の思いに満ちた聖徒は、十字架について最も思いを馳せている人である。十字架が彼らの黙想の対象であり、告白の対象である。十字架について黙想することに飽き飽きするなどということはあり得ないのである。もしそれでも退屈だと感じてしまうのは、私たちが十字架について正しく理解していないということである。

### III. イエスの美しさと喜びに関する啓示（雅歌1：14）

- A. イエスは彼女にとって、美しく、香りの高い、満開のヘンナ樹の花ぶさのようである。ヘンナ樹は、よい香りのする花をつける灌木である。イエスは、イエスの心の啓示を受け取った者にとっては、ヘンナ樹の花ぶさのようである。イエスは、「宗教」が誤って伝えているようなやっかいで退屈な神ではない。

<sup>14</sup> 私の愛する方は、私にとっては、エン・ゲディのぶどう畑にあるヘンナ樹の花ぶさのようです（雅歌1：14）。

- B. 本当の意味でイエスを理解するとき、イエスの命令はやっかいなものではなく、彼のくびきは負いやすい。

<sup>3</sup> 神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません（1ヨハネ5：3）。

<sup>30</sup> わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです（マタイ11：30）。

- C. イエスの性格は花々が集まった“房”のようである。彼は一つの花というより、花が集まった“房”のようである。このことは、彼が有する多様な美しさ、溢れる美しさを強く表している。エン・ゲディのぶどう畑はその溢れる芳香で有名な畑である。イエスの香りは他の何よりもはるかにまさっている。

<sup>16</sup> あの方のすべてが美しい。エルサレムの娘たち。これが私の愛する方、これが私の連れ合いです（雅歌5：16）。



D. 私たちは、“ヘンナ樹の花ぶさ”であるイエスの真理を全世界に伝えなければならない。世がこのイエスの真理を理解すればもっとたやすく悔い改めに導かれるだろう。私たちは、優しさに満たされた美しい神について伝えるべきである。イエスは、私たちを良い知らせで熱狂させる、よい香りを放つ、優しい神なのである。

<sup>4</sup>それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか（ローマ2：4）。

#### IV. 花嫁は王のうたげの座に列席する：彼女の賛美が湧き上がる（雅歌1：12）

A. 神は私たちに食卓を整え（I コリント10：21）、そこで私たちは十字架と十字架による恩恵から養いを受けることができる。なぜなら私たちはイエスの十字架により、賜物としての義を受け取ったからである（I I コリント5：21）。花嫁はイエスの食卓にイエスと共に座り、彼女の救いに関する真理の養いを受ける。この真理によって、彼女の賛美は香りとなって立ちのぼる。この箇所は、放蕩息子が家に帰り、父の食卓についた時に見出した真理とよく似ている（ルカ15：20－28）。イエスの2番目の啓示は、父の心を表している。

<sup>12</sup>王がうたげの座に着いておられる間、私のナルドはかおりを放ちました（雅歌1：12）。

B. 彼女の賛美はナルドの穂の香りとして、神に向かって立ち上る。ナルドの穂は文字通り、ナルドという植物の穂を表す。ナルドはインド由来の東洋の植物で、高価な香料を作るために用いられる。

C. イエスが私たちに与えてくれる“食べ物”によって、私たちの霊から香料のような賛美が自発的に湧き上がる。

D. 私たちがイエスの食卓から得られる供給に焦点を当てるときに、私たちの霊から立ちのぼる香りを主は楽しまれる。私たちは神にとって、キリストの香りなのである。キリストの香りは、感謝と愛に満ちた者の中からあらわれる。

<sup>14</sup>しかし、神に感謝します。・・・至る所で私たちを通して、キリストを知る知識のかおりを放ってください。 <sup>15</sup>私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神の前にかぐわしいキリストのかおりなのです。 <sup>16</sup>ある人たちにとっては、死から出て死に至らせるかおりであり、ある人たちにとっては、いのちから出ていのちに至らせるかおりです。このような務めにふさわしい者は、いったいだれでしょう（I I コリント2：14－16）。

E. ルカの7章において、売春婦がパリサイ人シモンの家に行ってやってくる。彼女は香油のつぼを割り、イエスの足に香油を塗った。部屋に満ちたこの香りは、イエスが彼女の愛の中に見出した香りについて語っている。

F. 私たちの魂の敵の前でも、私たちは主の食卓に着くことができる。もし私たちが王の食卓に着き、私たちの霊に栄養を与えることを忘れてしまえば、私たちの霊は飢えてしまい、恥と罪責感の故に打ちひしがれてしまう。

<sup>5</sup>私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、・・・私の杯は、あふれています。 <sup>6</sup>まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう（詩篇23：5－6）。

G. 私たちは、イエスが所有している義と同じ義を持って、神の御前に立っている者であると自分自身のことをみなし、考えるべきである（I I コリント5：21）。私たちは、罪の裁きから自由にされて生きている者として、自分自身を神に捧げるべきである。“私にイエスの義をく

ださることによって、私を生きた者としてくださったことありがとうございます。”と言いながら、神に生き生きとした私たちを差し出していく。非難に満ちた物乞いのように神の御前に出る必要はない。

<sup>11</sup> このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きた者だと、思いなさい。<sup>13</sup>・・・むしろ、死者の中から生かされた者として、・・・神にささげなさい（ローマ6：11－13）。

<sup>1</sup> こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません（ローマ8：1）。

H. 神の御前にあって、どのような香りがあなたの霊から立ち上っているだろうか？神は確信と感謝の香りを感じておられるだろうか？たくさんの人が“私の心は黒い。”と言うけれども“私は神様にとって美しい。”と言える理解を持っていない。私たちが“神様、私はあなたを愛します。”と言うたびに、かぐわしい賛美が立ち上っていく。私たちは“あなたがわたしを愛してくださっていてありがとうございます。だから、イエス様、あなたを愛します。”と言うのである。

I. イエスは、イエスのあらゆる敵に対して勝利を治める偉大な王である。その王が私たちに対して愛情を持って語っておられる。イエスのご計画は全てにまさる。なぜなら彼が王だからである。“私はあなたを愛している。”と語られるお方は、創造された全ての秩序を王として統べ治めておられる方と同一の方なのである。イエスは、彼の愛が決定したことを確立する権威も同時に持っておられる。彼が偉大な王であるがゆえに、彼のご計画が全てにまさるのである。

J. 彼女の3つの応答の要約（雅歌1：12－14）：第一に、彼女が王の食卓で養われる時、彼女の人生はナルドのかおりとして立ちのぼる自発的な賛美と敬愛で満たされる（雅歌1：12）。第二に、イエスが十字架という没薬を耐え忍ばれた時に、彼女は、イエスの彼女に対する愛とイエスが彼女に成し遂げてくださったことに思いを馳せ、養われる（雅歌1：13）。第三に、彼女はイエスの美しさと喜びを見つけ出す（雅歌1：14）。

#### V. 神の彼女に対する愛と彼女の神に対する美しさに関する啓示（雅歌1：15）

<sup>15</sup> ああ、わが愛する者。あなたはなんと美しいことよ。なんと美しいことよ（雅歌1：15）。

A. この箇所では、私たちは結婚のパラダイムに関する2つの根本的な真理を見ることができる。第一の真理は、神の恵みの下、神にとって彼女は美しいという真理であり、第二の真理は、イエスが“愛する者”と呼ぶ彼女に対するイエスの愛情に関する啓示の真理である。彼女は、自分が未成熟である時にでさえ、イエスの彼女に対する愛情に確信を持っている（雅歌1：12－14）。根本的な真理を知ることによって、神にとって私たちが美しい者であるという真理をもっと受け取ることができるように私たちは整えられる。

B. 私たちは、次の4つの理由から、私たちが弱い時にでも神にとって美しい存在である。第一に、私たちの美しさは、義の賜物を受け取ることによって得られるものだからである（II コリント5：17－21）。第二に、新生した際、神に対して“はい！”と応答する霊”を聖霊が私たちの霊の中に置いてくださったからである。神に対する私たちの心の動きは全て、私たちの内面で働かれる“喜んで仕える霊”と呼ばれる神の働きである（詩篇51：12、マタイ26：41）。第三に、私たちの美しさは、神の感情の成り立ちと関連しているからである。神の心の

中にある優しい愛情や情熱によって、神がどのように私たちのことを感じておられるかが決められている。美しさは、見つめておられる方の瞳の中にある。神の物事に対する見方は人間の見方とは非常に異なる（I サムエル 16 : 7、イザヤ 55 : 7-9）。第四に、神は私たちのことをキリストの花嫁としての私たちの永遠に続く召命というレンズを通して見られるからである。

- C. 全ての信者は、イエスが“私の愛する者”と呼ぶところの存在である。イエスは私たち一人一人を愛し、追い求めることをお選びになった。全ての信者は“私は主が愛された弟子であり、イエスのお気に入りなのだ。”と大胆に告白することができる。

<sup>9</sup>父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました（ヨハネ 15 : 9）。

<sup>20</sup>ペテロは、・・・イエスが愛された弟子があとについて来るのを見た。この弟子はあの晩餐のとき、イエスの右側にいて（イエスの胸に寄りかかって）、・・・（ヨハネ 21 : 20）

- D. 美しい神の恵みの中であって、私たちは愛されていて、神の目に美しい存在であると感じる時、私たちの心は元気づけられる。私たちが“イエス様のおかげで、私たちは弱いときにでさえ、神にとって美しい。”と確信をもって告白するとき、私たちは霊的に最も早く、最も深く成長することができる。花嫁はおとめたちにイエスの愛を覚えているようにと教える。

<sup>4</sup>あなたの愛をぶどう酒にまさってほめたたえ（覚え）（雅歌 1 : 4）。

- E. 花嫁の霊的な旅は信仰の2重の告白から始まる（雅歌 1 : 5）。私はこの告白のことを“恵みのパラドックス”と呼んでいる。というのは、彼女が自分自身の罪を見つける時、同時に彼女は、彼女が神の目に美しいということを知っているからである。この啓示がないと、私たちが自分の罪を見つける時、汚れと恥しか感じるできないのである。恥を感じて生き続けると、私たちは恥ずかしいことを行い続けることになる。汚れを感じている人は汚れた生き方をしてしまう。しかし未熟な信者でも、自分は美しい存在なのだ、自分はイエスから愛されているのだと感じていれば、イエスのところに駆け寄って行ける。その人は、イエスのところから走り去ったりしない。
- F. 私たち自身に対する神の心を知れば知るほど、神が自分以外の人に対しても心奪われているということが見えるようになる。神はまた私たちが教会の美しさも見出して欲しいと思っておられる。人間関係に問題があるとき、神が全てのクリスチャンに対して心奪われているということを知り（雅歌 4 : 9）、神の愛（雅歌 1 : 4）を思い出す必要がある。
- G. 復習：序章として、彼女は“私の心は黒いけれども、神様の目には美しい。”と告白した（雅歌 1 : 5）。次にイエスは“あなたは美しい。わが愛する者よ。あなたの頬は美しい。”と告げる（雅歌 1 : 8、1 : 9、1 : 10）。そして彼女はイエスのことを美しいと理解する（1 : 12-14）。そして今イエスは“あなたは美しい。”と強調するのである（1 : 15）。

## VI. 花嫁は鳩のような目を持つ

<sup>15</sup>ああ、わが愛する者。あなたはなんと美しいことよ。なんと美しいことよ。あなたの目は鳩のようだ（雅歌 1 : 15）。

- A. 聖書において、鳩は聖霊を表す。これを示すいくつかの聖書箇所がある。
- B. ひたむきな（一途な）心：鳩には「周辺視力」がない。鳩はまっすぐ前の物しか見えない。右や左で起こっていることによって、気持ちがそらされることがない。鳩の目を持つということ

は、良い目を持つということである（ひたむきな心）。

<sup>22</sup>からだのあかりは目です。それで、もしあなたの目が健全なら、あなたの全身が明るい（マタイ 6：22）。

- C. 忠誠：鳩はその一生の間に一度だけしかつがいにならない。連れ合いが死んでも、鳩は二度とつがいにはならない。このことは象徴的に忠誠心を示している。（注意：連れ合いが亡くなって結婚する人が不忠実であると言っているのではない。）
- D. 彼女自身が神の目に美しい存在であると知るとは、素晴らしい一途な“目”を持つことである。
- E. 聖霊は、“鳩の目”を持つ究極の存在である。聖霊は、一途な心を持ち、イエスに忠誠を尽くしている。私たちは、聖霊に“鳩の目”をくださるように願うべきである。
- F. 聖霊の価値観：聖霊がイエスや私たちの人生をどのように考え、感じているのかを、私たちは知る必要がある。私たちはイエスのことをヘナナ樹の花ぶさ・美しいものと見るべきで、また全ての非難を拒絶することによって確信できるように、神の恵みに対する忠実さ・信仰においてひたむき（一途）になるべきである。

#### VII. 彼女の賛美と信仰：彼女の5重の応答

<sup>16</sup>私の愛する方。あなたはなんと美しく、慕わしい方でしょう。私たちの長いいすは青々としています。<sup>17</sup>私たちの家の梁は杉の木、そのたるきは糸杉です（雅歌 1：16－17）。

- A. 花嫁は神から愛されていて、神の目に美しい存在であるという啓示に対する彼女の5重の応答は、鳩の目で彼女が神を見ることである。イエスが彼女の人生を、現在の世では休息と安全へと導き、この次に来る世では永遠の栄光へと導くとき、彼女はイエスを麗しいお方（美しい神）と認め、愛する者、快い者と見ている。
- B. 彼女はイエスに“私の愛する人、あなたは麗しいお方です。”とはっきりと言う。言い換えると、あなたは美しい神で、私はあなたを愛していますと。イエスの美しさを知れば知るほど、彼女はイエスのことをますます愛するようになり、神との歩みにおいて経験する霊的な喜びがどんどん増していく（16節）。このことは、雅歌 2：3－5にもっと詳しく書かれている。私たちがイエスを美しく、慕わしい方だと見るとき、完全に彼に従っていくことが当然であると思えるようになる。
- C. 私たちがイエスに従い、イエスの愛の中に住まう時、イエスは、私たちが完全な喜びを持つことができること、神と歩んでいくことはうれしく、楽しいものであることを私たちに約束してくれている。私たちはイエスとの対話（雅歌 1：12－17）を継続することにより、この喜びを経験していく。状況が難しいときにさえ、私たちの霊はこの喜びを知ることができるのである。

<sup>9</sup>父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。<sup>10</sup>もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。<sup>11</sup>わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。

VIII. イエスの愛の中に住まうこと：休息、確信そして栄光（雅歌 1：16－17）

<sup>16</sup>私の愛する方。あなたはなんと美しく、慕わしい方でしょう。私たちの長いいすは青々として  
います。<sup>17</sup>私たちの家の梁は杉の木、そのたるきは糸杉です（雅歌 1：16－17）。

- A. イエスの愛の中に住まうことによって、彼女の人生に、溢れるばかりの休息と確信が与えられた（雅歌 1：16）。花嫁は、“豪華なソファ”（もしくは青々としたいす）に横たわっている。青々とした畑というのは、肥沃な土地や溢れんばかりの成長が見られる畑のことを指す。主のソファは、豪華で、青々としていて、生命に満ちている。主のソファは砂漠（干上がった土地）ではない。私たちの確信は、豪華なソファのように、溢れんばかりの状態であるべきである。
- B. 主のソファは、神の恵みにおける私たちの休息と確信について、2つの方法で語っている。  
（ア）赦しによる休息：イエスによる無償の賜物として私たちは赦されていると確信し、我々はこの休息を経験する。十字架による赦しを受け入れる時、私たちは休息することができる（II コリント 5：17）。  
（イ）親密さから来る休息：神との親密さを追い求める時、私たちはこの休息を経験する。私たちの人生の最上の目的が神との親密さであると結論が出るまで、真の意味での休息はない。神との親密さにはイエスのリーダーシップに従うという知恵も含まれている。アウグスティヌスは“人は神の中に休息を見出すまでは、休息することはない。”と書いている。全身全霊で神を愛することによってのみ、私たちは人生の究極の目的を見つけることができる。赦しの確信を持っている多くの人々でさえ、キリストの裁きの御座において何の後悔も感じない程の人生の目的や、素晴らしい人生を見出すことに悪戦苦闘している。
- C. 今の世において非難に対する恐れもないし、最後の日に主の御前に立つときも後悔に対する恐れもない。教会が私たちのことを宗教的と言い、この世が私たちのことを愚か者と言うときでさえ、この婚姻のパラダイムの中に生きることによって、私たちは、神に対する愛、神に従おうとするときの私たちの選択の知恵において、確信することができるのである。
- D. 私たちは神と関係を保ちながら、また神の美しさと力に満たされた家の中で永遠に生きる。彼女は“私たちのベッド／ソファ”と言うが、それは救いの深い交わりを経験しているからこそそう言えるのである（I コリント 6：17）。
- E. 彼女は“私たちの家の梁は杉の木、そのたるきは糸杉です。”と言う（1：17）。梁やたるきは家の構造を形成する。家の構造を支えるものというのは隠されている。杉や糸杉は、ソロモンの時代において、最も耐久性のあり、高価で、美しく、香り高い建築資材であった。杉や糸杉は宮殿の建築に用いられていた。杉や糸杉を用いることで、宮殿の構造体は朽ちない。また宮殿の木は、人間性を表している。
- F. 神は朽ちない家を建てておられる。私たちの神との住まいは、強く、永遠に続き、耐久性がある。イエスは、花嫁のための永遠に続く家を与えるために人となられた。神の中にある私たちの家は強い。そして永遠に続く。またその家は美しい。美しくそして力強いイエスと共に私たちは永遠に一緒に過ごす。彼女は家を“私たちの家”もしくは永遠に共に過ごす場所と見ている。

<sup>19</sup>・・・あなたがたは、・・・神の家族なのです。<sup>22</sup>このキリストにあって、あなたがたとともに建てられ、御霊によって神の住まいとなるのです（エペソ 2：19－22）。

<sup>5</sup>あなたがたも・・・霊の家に築き上げられなさい。・・・（I ペテロ 2：5）

## セッション 12

### 花嫁のアイデンティティーと人生の目的（雅歌 2 : 1 – 7）

#### I. 花嫁のアイデンティティーと人生の目的：花嫁自身がイエスの相続分となること

A. 神の御国の根本的な前提は、イエスが何にもまして求めている相続分をイエスに与えるという父なる神の約束である。父なる神の相続分のひとつの面は、全ての被造物がイエスに強制的に服従することである。しかしイエスはこれ以上のものを求めた。愛をもってイエスのくびきを等しく負うことを自発的に選び取る永遠の仲間、永遠の花嫁を求めたのである（エペソ 5 : 31 – 32、黙示 19 : 7 – 9）。

B. キリストの花嫁は、イエスが長年待ち望み続けている非常に大きな“褒美”なのである。人間の心からの愛情は、神にとって最も高価な所有物なのである。イエスは、人間の愛情を買い戻し、所有するために死なれた。私たちが創造され、贖われたのはイエスを心から愛するためである。サタンは、私たちが神を心から愛することができないように、それ故に、イエスの相続分として生きることができないように、私たちの心を攻撃する。

<sup>23</sup>力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく（箴言 4 : 23）。

C. 聖霊は現在、キリストの体において、第一の戒めを第一の位置に回復しようとしている。第一の戒めは、神にとって最も優先順位の高いものであるが故に、第一の戒めなのである。それは“第一の選択肢”ではない。神を愛することはそれ自体が目的であって（何か別の目的のために神を愛するのではない）、最も優先順位の高いライフスタイルである。この戒めは最も大きな戒めである。その戒めが神の心に対して、また私たちの心に対して（最後には他の人々の心に対しても）、最も大きなインパクトを与えるものだからである。

<sup>37</sup>そこで、イエスは彼に言われた。「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。」<sup>38</sup>これがたいせつな第一の戒めです（マタイ 22 : 37 – 38）。

D. 教会は、再臨の前のこの時代、キリストの花嫁として、整えられていく。終末が近づいた教会の力は、神を愛する油注ぎの中を歩いて行くところに見出される（黙示 15 : 2 – 4）。この力は、神の愛を感じ、また神への愛を感じるという超自然的な能力も含んでいる。

<sup>7</sup>小羊の婚姻の時が来て、花嫁はその用意ができたのだから（黙示 19 : 7）。

E. 花嫁は美しいバラとして、また純粋なゆりとして描かれる。花嫁の第一の人生の目的と彼女アイデンティティーは、イエスを完全に愛し（バラ）、イエスに従う（ゆり）ことの中に見出される。バラはその美しさと香りから、花の中の花とみなされている。ゆりは純粋さを表す。谷はこの墮落した世の中の、低く暗い場所を表す。彼女はこの墮落した世の暗い谷の真ん中で純潔を保って生きているということを示している。

<sup>1</sup>私はシャロンのバラ（サフラン）、谷のゆりの花（雅歌 2 : 1）。

F. 詩的な表現を用いて、花嫁は彼女の第一の人生の目的とアイデンティティーがイエスの相続分となることであると宣言している。バラとゆりは、雅歌 2 : 2 において花嫁とされている、まさにその人を指している。王は彼女のことをいばらの中のゆりと見ている。いばらは、谷が罪のことを表すのと同様に罪のことを表している。いばらは、アダムの罪の呪いの結果として現れた（創世記 3 : 17 – 18、ヘブル 6 : 8）。

<sup>2</sup>わが愛する者が娘たちの間にいるのは、いばらの中のゆりの花のようだ（雅歌 2 : 2）。

- G. 私たちはバラでありゆりである。その愛と従順が芳香となって立ち上り、イエスの心を酔わせるのである。私たちはイエスが唯一求めておられる褒美そのものなのである。私たちが創造され、贖われたのは、イエスの相続分としての私たちがイエスを愛し（バラ）、イエスに従い（ゆり）、それにより神に喜びと楽しみをもたらすためである。
- H. 花嫁の最初の告白は、私の心は黒いけれども、イエスにあって、私は神にとって美しい存在であるというものであった（雅歌 1 : 12 - 17）。“私はイエスが望まれた相続分なのだ。”と告白することによって、彼女は自分の人生の目的をもっともっと理解することができるようになる。この啓示は、雅歌 1 : 12 - 17 の真理を知って初めて明らかにされる。
- I. 私たちは、父なる神がそのひとり子であるイエスに約束した相続分が私たち自身なのだという啓示を受け取ることができるように祈らないといけない。
- <sup>17</sup> どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。<sup>18</sup> . . . 聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、<sup>19</sup> . . . あなたがたが知ることができますように（エペソ 1 : 17 - 18）。**
- J. 私たちは愛と従順を分けて取り扱うことはできない。イエスの相続分は、純粋な心を持って歩き出す人々なのである。私たちの人生の選択は、イエスに褒美を与え、名誉を授けるための父なる神のご計画の一部なのである。イエスのために育て上げたバラ、ゆりとして私たちを選ぶことによって、父なる神は私たちに大きな投資をされた。私たち自身が、イエスの苦しみに対するイエスへの褒美なのである。多くの信者が、純粋さへの召しを単なる律法主義と片付けてしまって、ばかにしている。
- <sup>21</sup> わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です（ヨハネ 14 : 21）。**
- K. 私たちのアイデンティティーは、私たちがどのように価値を定義するのか、どのように成功を評価するのかによって決められる。“私は一体何者なのか？私はどうやって成功することができるのか？” 私たちの役割（ミニストリー）は重要だけれども、このことと比べると二次的なものである。
- L. 私たちの第一のアイデンティティー（価値・成功）は、神との親密さにおいて自分は何者であるのかというところに見出される。神との親密さは、神から愛されているということ、また神を愛する者であるということの2つの面から成り立っている。私は“私は神様から愛され、また、神様と他の人々を愛する者であるが故に、成功している。”と告白する。
- M. 私たちは自分たちのアイデンティティーや成功を、自分たちがどれほど多く達成したかとかどれほど大きなインパクトを与えたかということに第一の価値観を求めるのではなく、神から愛されているということ、また神を愛しているという事実の中に見出すべきである。私たちは神から求められているから、また神を愛しているから、私たちは成功しているのである。失敗を恐れる必要は一切ない。
- N. 私たちの第一のアイデンティティーは、自分たちの手で成し遂げることではなく、私たちの心で追い求めるものである。自分自身が、神のバラでありゆりであると知ることにより、無目的、失敗、劣等の思いを打ち砕くことができる。神を愛し、神に従うことによって、私たちがどれほど神との親密さにおいて成長できるかという観点から私たちの成功を評価すべきである。神を愛することの高潔さ、またそれが神にとってどれほど重要なことであるのかを知るためには啓示が必要である。

O. 私たちは成功に対する神の定義に同意しなければならない。多くの人は成功の偽りの定義に同意してしまっているが故に、いつも失敗しているように感じ、無目的に生きてしまっている。彼らの多くが内的な面（心の中ではどのような人間なのか）ではなく外的な面（何をしたか、何を所有しているか）に焦点を当ててしまっている。彼らは自分自身の努力・奮闘、インパクトの小ささに応じて、自分たちの人生を評価している。イエスは、神を愛することよりも、自分たちのミニストリーを重視した人々を正された。

<sup>3</sup>あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、・・・<sup>4</sup>しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。<sup>5</sup>それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて初めの行いをしなさい。もしそうでなく、・・・あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう（黙示2：3-5）。

P. パウロは、私たちはイエスと婚約し、彼に心を捧げて生きていくべきだとの教えの中で雅歌2：1の真理を教えている。私たちのこの時代における究極の召命は、イエスの相続分としてのライフスタイルを保って歩むことである。

<sup>2</sup>・・・私はあなたがたを清純な処女として、ひとりの人の花嫁に定め、キリストにささげることにしたからです。<sup>3</sup>しかし、蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、万一にもあなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真実と貞潔を失うことがあってはと、私は心配しています（II コリント11：2-3）。

## II. 花嫁の啓示：イエスだけが彼女の心を満足させる（雅歌2：3）

A. 花嫁は、イエスだけが心をリフレッシュさせる（完全に満足させる、元気づける、回復させる）りんごの木であることを宣言する。

<sup>3</sup>私の愛する方が、若者たちの間におられるのは、林の木の中のりんごの木のようにです（雅歌2：3）。

B. りんごの木は、リフレッシュさせるものという意味である。

<sup>5</sup>・・・りんごで私を元気づけてください（雅歌2：5）。

C. 最高のレベルにおいて、人間の霊をリフレッシュすることのできる存在はただお一人である。イエスがりんごの木であり、私たちの心をリフレッシュさせることのできる第一の源であるという啓示を受け取ることができれば、私たちはイエスを心を尽くして追い求めることができる。この啓示は、結婚関係、ビジネスそしてミニストリーにおける根本的な真理である。イエスは、私たちの罪を赦される救い主、癒し主、備えられる方以上の存在である。私たちを満足させるりんごの木なのである。虚しいことに、喜びの第一の源をイエスではなくて、彼らのミニストリー、お金や人間関係に置き換えてしまっている人がいる。

D. イエスは地球上の全ての偉大な人間の中に立つりんごの木のような存在である。“林の木（英語では trees と複数形になっている）”というのは、象徴的に、そびえ立つ木々のように他の人々の上に君臨するこの地球上の偉大な人々のことを指し示しており、それら偉大な人々の中においてイエスはりんごの木として立っている。

<sup>12</sup>まことに、万軍の主の日は、すべておごり高ぶる者、すべて誇る者に襲いかかり、・・・<sup>13</sup>高くそびえるレバノンのすべての杉の木と、バシヤンのすべての樅の木、（イザヤ2：12-13）。



### III. 花嫁は神の臨在を楽しむ：王の前に座る（雅歌 2：3）

- A. イエスはイエスの足元に座るマリアの人生の知恵を明確に語っている。マリアは聖書の中で 3 回登場するが、どの場面でもイエスの足元に座っている（ルカ 10：39、ヨハネ 11：32、ヨハネ 12：3）。イエスは、“イエスの足元に座る”ことを“必要な唯一つのこと”、“良い生き方を選んだ”と宣言することによって、“イエスの足元に座る”ことの重要性についての議論についての結論を出している（ルカ 11：42）。彼女は、並外れた献身の思いで生きるという召命を真剣に受け取っている。私たち自身が私たちの召命を選び取らなければいけない。誰も私たちの召命を私たちの代わりに選んでくれたりはしない。この“良い生き方”は決してマリアから取り去られることはない。彼女のこの決心は、イエスに永遠に覚えられる。

<sup>39</sup>彼女・・・主の足もとにすわって、みことばに聞き入っていた。<sup>42</sup>しかし、どうしても必要なことはわずかです。いや、一つだけです。マリアはその良いほうを選んだのです。彼女からそれを取り上げてはいけません（ルカ 11：39－42）。

- B. イエスの足元に座ったベタニアのマリアのように、私たちもイエスの前に座り、この堕落した世の焼き尽くすような熱から私たちを守って、元気づけてくれるイエスの陰を経験しなければいけない。人間の霊にとって最も素晴らしい楽しみの一つは、神のみことばに養われ、神の臨在を感じることである。神のみことばは喜びをもたらし、また霊と真理においてイエスを楽しみ続ける者にとっては神のみことばは甘い。

<sup>3</sup>私はその陰にすわりたいと切に望みました。その実は私の口に甘いのです（雅歌 2：3）。

- C. 彼女は“あなたはどこであなたの羊の群れを養われるのですか？”と尋ねた（雅歌 1：7）。彼女は、雅歌 1：12－17に見られるように、王の食卓に着き、神の愛を味わい続けていた。十字架は、私たちの罪の焼き尽くすような熱から守ってくれる陰を与える唯一の木である。私たちは、イエスの十字架の陰に休息することによってのみ、神のみことばの陰を楽しむことができるのである。私たちの成熟度合いを基盤にして神と関係を持つことによって、私たちが成し遂げた業績の中で休息するということは不可能なのである。
- D. 私たちは、神のみことばを祈り・読むこと（黙想すること）によって、定期的のみことばによって元気づけられるというビジョンを持たなければならない。私たちの相続分は、神のみことばの甘さを経験することである。この相続分は、一握りの信者にしか与えられた分というのではなくて、全ての信者に対して与えられた相続分である。全ての信者が手に入れることができる甘さなのである。聖霊の助けを受けて神のみことばの養いを受けて、りんごの木の陰の下で長い時間座って過ごすことをしなければ、りんごの木であるイエスの喜びとさわやかさを経験することは決してない。
- E. 私たちは神のみことばを追い求めることによって、私たちの冷え切った心を神の臨在のかがり火の御前に持ってくるべきである。そうすることによって、敵（罪、失望、困難など）を前にしても、神のみことばによって養われることができる。

<sup>5</sup>私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、（詩篇 23：5）

- F. もし私たちが継続的に成熟していきたいと望むのなら、私たちは神との関係を楽しまなければならない。もし神の臨在の中に喜びを見出すことができるのならば、私たちは大きな困難を通っている時にでも、忍耐することができる。神を愛する人はいつでも、神のために単に働く人よりまさっている。働く人が愛する人になる時、彼らの仕事に関するパラダイムが大きく変化

する。神のみことばを楽しむことをしないで、何十年もの間、神を忠実に追い求めることができた人を私はこれまでに見たことがない。

#### IV. 彼女の人生の上に翻るイエスの旗じるし：イエスの愛すべきリーダーシップ（雅歌 2：4）

**<sup>4</sup>あの方は私を酒宴の席に伴われました。私の上に翻るあの方の旗じるしは愛でした（雅歌 2：4）。**

- A. 古代の世界では、軍隊は特定の旗や旗じるしの下に大軍を率いて行進した。各部隊はそれぞれ特有の旗じるしを持っており、それらは明確に彼らのアイデンティティーを示すものであった。私たちの人生において、私たちが何者であるのか、また私たちがどこへ向かっているのかを明確にする旗じるしや旗は、イエスの素晴らしいリーダーシップ（知恵に満ち、愛に溢れ、力強い）であって、彼のこのリーダーシップによって、彼の相続分（彼の花嫁）としての愛・アイデンティティーの中で成長することできるのである。
- B. 私たちは神の酒宴の席で食事を取るように招待されている。このことは究極的には、小羊の婚宴のときに成就される（黙示 19：7）。みことばと聖霊の力によって、私たちがこの時代にあっても“婚宴”のしるしを楽しむことができるようにとイエスは望んでおられる。この“酒宴”という箇所がある人は“ぶどう酒の家”と訳すことがあるが、それは神の愛を祝うことを意味している。
- C. イエスはそれぞれの信者に素晴らしくまた特定の計画を持っておられる。このイエスの計画によって、私たちは神の“酒宴”の場へ、神の愛を祝う場所へと導かれる。私たちの人生におけるイエスのリーダーシップの第一のゴールは、イエスの私たちへの愛を、またイエスへの私たちの愛を祝うために私たちを“酒宴”に招くことである。私たちはイエスが私たちのミニストリーをどこに導いて行こうとされておられるのかについての詳細は分からないかもしれない。しかし決して間違っただけとはいけない。私たちが“婚宴”の席で養われ、キリストの花嫁としてのアイデンティティーに関する真理についてまず養われるようにと、イエスは私たちを導いておられるのだ。
- D. 私たちの上に掲げられたイエスのリーダーシップにおける彼のゴールは、私たちを導き、イエスの愛を私たちの中に分与されるのと同様に、私たちへのイエスの愛を明らかにされることである。私たちが愛において、謙遜さにおいて、啓示において、成長していくことをイエスは確信しておられる。私たちの人生のために神が持つておられるご計画と神の私たちの人生に対する優先順位は、私たちの快適さや、私たちのミニストリーにおける役割をはるかに超えた大きなものである。多くの人々の中には大きな混乱があるので、彼らは人生の上に翻っているイエスの旗じるしは、この時代における彼らのための快適さであると思ってしまう。
- E. イエスは、私たちが神に愛される者であるという第一のアイデンティティーを保ちながら、同時に私たちがイエスの相続分でもあるという啓示を受けることによって、強められて欲しいと私たちに望んでおられる。“婚宴の席”に関するみことばで養われることによって、私たちは強められていく。イエスは、私たちの心をワクワクさせるイエスの愛に関しての夢やビジョンを私たちに与えることによって、私たちを酒宴の席に招いてくださる。またイエスは、神の命を私たちの心に導き入れてくれる新しい友情による喜びを私たちに与えてくれる。
- F. イエスは私たちの上に掲げるリーダーシップの旗じるしを様々な方法で表してくださる。第一に、彼の旗じるしは彼のやさしさ（慈しみ）を表している。私たちが失敗したとき、私たちの

人生の上に掲げられる彼の旗じるしは、彼の慈しみであると私たちは確信するのであって、神から拒絶されるという恐れではないのである。私たちは“私の上に掲げられた彼の旗じるしは、私が失敗した時でさえ、愛なのである。”と告白することができるのである。第二に、イエスの旗じるしは、すべてのことを益としてくださることによって（ローマ8：28）、私たちの人生における否定的な状況でさえ支配することができるイエスの能力を表している。また彼の旗じるしは、彼の素晴らしさであり、神から無視されるということを表しているのではない。第三に、イエスの旗じるしは、神の愛の中に元気づけられることであって、罪による偽りの慰めによって騙されることではないのである。

- G. イエスは、肯定的な方法と否定的な方法を用いて、食卓へと私たちを招く。なぜなら、私たちの中にある愛を阻むものすべてを取り除きたいとイエスはねたむほどに切望しておられるからである。第一に、肯定的な方法は、神のみことばに養われ、従うことによって、自発的にイエスのリーダーシップに従って、婚宴の席に進むことである。第二に、否定的な方法は、イエスが私たちを婚宴の席に連れて行きたいと思っているのに、彼のリーダーシップを拒否するときに見られる。私たちが拒否するため、私たちの罪を露わにし、機会・物事を私たちから取り上げ、ドアを閉じられることによって、イエスは私たちを戒めざるを得なくなる。

#### V. 愛に病む花嫁は、神とのさらに素晴らしい出会いを求めて叫ぶ（雅歌2：5）

- A. 花嫁の“酒宴”での経験によって、神との関係においてもっと深いところに行きたいという大きな願いが彼女の中に目覚めた。神の臨在と神のみことばが与えられることによって、力づけられ、元気づけられるために、彼女が神に叫び求めるとき、この“酒宴”での経験が彼女を愛に病ませる（恋患い）。

**<sup>5</sup> 干しぶどうの菓子で私を力づけ、りんごで私を元気づけてください。私は愛に病んでいるのです（雅歌2：5）。**

- B. りんごはイエスによって元気づけられることを表し（雅歌2：3）、干しぶどうは聖霊によるミニストリーを表している。というのも干しぶどうはぶどうを乾燥させて作られたものだからである。ぶどうは象徴的に聖霊のぶどう酒を示しているからである。言い換えれば、彼女は“もっと聖霊を与えてくださることによって私を力づけてください。そしてもっとイエスを与えてくださることによって私を元気づけてください。”と叫んでいるのである。
- C. 私たちは神に対して愛に病んで生きようと私たちは召されている。このことによって、私たちは深く、時には痛みを伴うぐらゐの愛を感じ、もっとイエスを求めるようになるのである。この段階にまで達すると、神との歩みにおいて“通り一遍的なやり方・感じ方”のところに二度と戻ることはできない。神への激しい愛によって、彼女のこれまでの価値観がよい意味で“破壊されて”しまっている。以下に霊的な“恋患い”の2つの面について述べる。
1. 第一に、非常に強い“愛を感じる”。私たちは神への愛情を感じたいと切望している。
  2. 第二に、神がこの時代の人間の心に用意されている全ての事柄に歩み入りたいと願う彼女の人生をかけたビジョン故に、彼女に“霊的な飢え渇き”がやってくる。そのようにして、痛み・苦しみを伴う飢え渇きを与えられる。“恋患い”している者は、この苦しみを耐え抜かないと満足できないのである。この桁外れの飢え渇きがあるということは、私たちが神から触れられたことを示す証拠である。

## VI. 神の2重の抱擁を経験する（雅歌2：6）

<sup>6</sup> ああ、あの方の左の腕が私の頭の下にあり、右の手が私を抱いてくださるとよいのに（雅歌2：6）。

- A. 花嫁は彼女の人生における神の2重の働き—神の右手と左手—を理解する。神の左手は、私たちには見えない神の働きを表す。左手（左の腕）は頭の下にあるから、見ることができない。主は、私たちが見えないたくさんのことを私たちのために行ってくださっている。神は、私たちを祝福し、備え、守るために、たくさんのことを保留したり、解放したりしている。神は、この時代において私たちが気づいていないような問題を私たちが経験しないように守っておられる。例えば、私たちが気づいていないような事故から、私たちは守られている。
- B. 神の右の手は、目に見え、私たちが認識することができる神の働きを表している。ソロモンは、花嫁を抱擁するために彼女の目の前に立っている。彼女は、王の存在を見、感じるができる。このことは、感じ、見分けることができる“甘い”神の臨在を表している。私たちは時々、心が神の右の手の働きによって柔かくされたと感じるができる。

## VII. 戦略的な霊の季節において、聖霊は私たちを守る（雅歌2：7）

<sup>7</sup> エルサレムの娘たち。私は、もしかや野の雌鹿をさして、あなたがたに誓っていただきます。揺り起こしたり、かき立てたりしないでください。愛が目ざめたいと思うときまでは。

- A. この箇所では聖霊が語られている。聖霊は、全ての人々の霊的な生活において、それぞれに戦略的な季節を定められておられる。神の心に関する新しく、深い啓示において、聖霊が私たちの心を確固たるものにしようと望まれる季節がある。この季節における花嫁に対する聖霊のご計画は、花嫁が神のみことばの中に深く歩み入り、また酒宴の席でりんごやぶどうに養われたときのように（雅歌2：3－5）、花嫁の内にある“恋しい”を目覚めさせることである。多くの人が、自分たちの人生の季節を捧げて、神と神のみことばの中に深く入っていくことの必要性を理解していない。ヨハネは、巻き物を食べるように、すなわち、神のみことばをもっと深い方法で理解するようにと神から告げられた（黙示10：9－11）。
- B. エルサレムの娘たちとは、聖霊の様々な働きや、神の様々な異なる季節について見分けることができない信者のことを示している。聖霊は他の信者たち（エルサレムの娘たち）に対して、この季節に、花嫁の心を持ってイエスに心を捧げている者に対して、自分たちの意見や判断を言うことによって、彼女を邪魔したり、混乱させたりしてはいけないと厳粛に命令している。雅歌2：8において明らかに見られるように、季節が変化した時には、イエスを信頼してイエスご自身に私たちの人生をかき立ててもらふことができる。聖霊は、聖霊のやり方に敏感でない人々に対して、花嫁が食卓についているこの特定の季節において、神のみことば・聖霊によって力づけ、元気づけられようとしていることを邪魔してはいけないと伝えている。そのような花嫁の状況を見て、多くの人は、神を追い求めることをもう少し減らして、ミニストリーの働きを増やしなさいと忠告してしまう。
- C. ソロモンは、もしかや野の雌鹿をさして、命令している（雅歌2：7）。もしかや雌鹿は、この季節における若い花嫁の優しさや敏感さに対して注意を払うことが重要であることを示している。もしかや雌鹿はもともと敏感な性質を持っていて、簡単に驚かされる。多くの人々

が簡単に神のみことばから気をそらされてしまう。私たちは自分たちと異なる季節の中にいる他の人々に対して敏感になる必要がある。

- D. “それが喜ぶまでは”（新改訳の“愛が目ざめたいと思うときまでは”の箇所。NAS という訳では“Until it pleases”となっている）の“それ”は、ヘブル語では“それ”とも“彼”とも“彼女”とも訳すことができる。NAS は正確にこの箇所を訳していて、“それが喜ぶまでは”とは訳さずに“彼女が喜ぶまでは、愛を目ざめさせないでください”と訳している。もし元のヘブル語が“彼”と訳されるのであれば、“彼”は主を指すことになり、主がエルサレムの娘たちの行動によってかき乱されるということになる。主はかもしかによって描かれている優しさによって守られる必要もない。気がそらされることから守られる必要があるのは花嫁の方である。イエスはこの言葉を雅歌の中で三回語られる（2：7、3：5、8：4）。8：4で、イエスは“彼女をかき立てたりしないでください”という同じフレーズを用いている。ここでイエスは、他の2回と同様に彼女を抱きしめている。しかしこの3度目の例（8：4）では、“かもしかや野の雌鹿”というフレーズを省略している。というのは、花嫁がもう未成熟なものではなくなり、波にもてあそばれたりすることがなくなったからである（エペソ4：14）。

#### VIII. まとめ：雅歌2：1－7における信仰の7つの告白

- A. 私たちが賛美する時や、誘惑に会う時、雅歌2：1－7にある花嫁の7つの異なる告白を宣言することができる。私はシャロンのばら（2：1）、私は谷のゆり（2：1）、若者たちの間におられるイエスはりんごのよう（2：3）、私は非常な喜びをもってイエスの陰に座り、彼の実は私の口に甘い（2：3）、イエスは私を酒宴の席に連れて行く、そして私の上に翻るイエスの旗じるしは愛である（2：4）、私は愛に病んでいる（2：5）、イエスの左の腕は私の頭の下にあり、右の手は私を抱いてくれている（2：6）。
1. 私はシャロンのばら（2：1）
  2. 私は谷のゆり（2：1）
  3. 私の愛する方が、若者たちの間におられるのは、林の木の中のりんごの木のようにです（2：3）
  4. 私はその陰にすわりたいと切に望みました。その実は私の口に甘いのです（2：3）
  5. あの方は私を酒宴の席に伴われました。私の上に翻るあの方の旗じるしは愛でした（2：4）
  6. 私は愛に病んでいるのです（2：5）
  7. あの方の左の腕が私の頭の下にあり、右の手が私を抱いてくださるとよいのに（2：6）

## セッション 13

### 快適な場所から出るようにとの挑戦（雅歌 2：8－17）

#### I. 花嫁のアイデンティティーと人生の目的：イエスの相続分となること

- A. 花嫁は、自分の霊的なアイデンティティーと人生の目的が、父なる神がイエスに約束したイエスが受ける相続分であることを理解した。イエスは強制的な従順以上のものを求めておられる。イエスは、敬愛することから生まれる従順の心を持ってイエスを自発的に愛することを選択する永遠の仲間（花嫁）を求めておられるのだ。
- B. 人間の心から生まれる神への愛情が神にとって最も高価な所有物である。これ以上に神が求めておられるものはない。イエスは、人間の愛情を買い取り（贖い）、そして所有するために死なれたのである。
- C. イエスは各信者それぞれに対して、特定の計画や目的を持っておられる。この計画・目的は、私たち一人ひとりを神の酒宴の席の豪華な食事の場所へと導くためのものである。言い換えると、神の私たちへの愛と神に対する私たちの愛を祝うためのものである。私たちの人生の上に翻るイエスのリーダーシップ（私たちの上に翻るイエスの旗じるし）におけるイエスの第一のゴールは、私たちを導き、私たちに対するイエスの愛を明らかにし、イエスの私たちへの愛を分与することである。私たちは第一に彼の愛を思い出すようにと召されている（雅歌 1：2、4）。

<sup>4</sup> *あの方は私を酒宴の席に伴われました。私の上に翻るあの方の旗じるしは愛でした（雅歌 2：4）。*

- D. 彼女は愛に病んでいる、すなわち、彼女の人生におけるイエスのリーダーシップは効果的であったということである。彼女は、もっとイエスが欲しいと叫んでいる。

<sup>5</sup> *干しぶどうの菓子で私を力づけ、りんごで私を元気づけてください。私は愛に病んでいるのです（雅歌 2：5）。*

- E. 聖霊は、りんごの木の下で婚宴の席に座っている花嫁をかき乱さないようにと他の人に対して厳しく命令する。しかし、ここに来て、花嫁の人生の季節が突然変化し、イエスは彼女をかき立て始める。

<sup>7</sup> *・・・揺り起こしたり、かき立てたりしないでください。愛が目ざめたいと思うときまでは（雅歌 2：7）。*

#### II. 雅歌 2：8－17 の概要

- A. この箇所から、花嫁の人生の局面が大きく変わり始める。雅歌の 4－8 章に見られる彼女の決意の深さは、イエスに対するこの新しい啓示から流れ出す。イエスは、国々に対して最高の権威を持つ王（雅歌におけるイエスに関する第 3 の啓示）として彼自身を彼女に顕される。彼女はこれまでイエスのことを、悩みを聞いてくれる羊飼ひ（雅歌 1：7－11）、もしくは、愛を持って食卓でぶどうやりんごをくださる愛情に溢れた父（雅歌 1：12）としてのみ知っていた。が、ここに来て、山々（障害物）をたやすくとび越えるイエスを見ると、彼女はイエスの違う性格の側面を見始める。
- B. 雅歌 1：4 において、花嫁は“私を引き寄せてください。私たちはあなたのあとから急いでまいります。”と祈った。しかし、イエスが今彼女の人生に“私と一緒に走ろう”という段階を

開始した時、彼女の人生に霊的な危機が始まる。これは彼女にとって、2度目の霊的な危機であり、彼女は彼女自身の中に恐れを見出す。雅歌1：5－7において、彼女は自分の中に罪を見出したとき、彼女にとっての1度目の霊的な危機を経験した。

- C. イエスは、花嫁がイエスとのより深いパートナーシップを経験することができるようにと、彼女にとっての快適な場所から出てくるようにと彼女を招く。しかし彼女は恐れのためにイエスに従うことを拒否し、イエスに彼女を伴わずに行ってくださいと告げるのである（雅歌2：17）。
- D. 彼女の人生の上に翻る主の旗じるし（目的）が、主の彼女に対する愛を明らかにし、そして主の愛を彼女の中に分け与えるものであるという花嫁の告白を、イエスはここで試みられる。彼女の前に立ちはだかる問題は、イエスのリーダーシップが良いものであると信じることができるかどうかである。言い換えると、イエスに従うことが、犠牲を伴い、痛みを伴うことが分かっているときにでも、イエスに100%従うことが安全なのかどうかという問題である。

### III. イエスは最高の権威を持つ王としてご自身を彼女に現す

**<sup>8</sup>愛する方**の声。ご覧、あの方が来られます。山々をとび越え、丘々の上をはねて。**<sup>9</sup>私の愛する方は、もしかや若い鹿のようです**（雅歌2：8－9）。

- A. 花嫁は、最高の権威を持つ王としてのイエスという新しい啓示を受け取る。彼女はイエスのことを、征服が難しい全ての山々や、高い場所をたやすく征服していく“全ての国々の主”として見る。彼女はイエスのことを、勝利に満ちて、山々をたやすくとび跳ねるもしかや若い鹿として見る。もしかや若い鹿は、無尽蔵のエネルギーをもって、たやすくしかも素早く山を登っていく能力を持っている。
- B. 王イエスは、全ての悪魔の力と権威に対して勝利を収めている（エペソ1：22）。彼は全ての障害物（人間によるものおよび悪魔によるもの）を克服している。私たちは、“逆境の山々”に対して、動けと命じる。山々より小さな丘々は、私たちが経験するより小さな困難を示している。

**<sup>23</sup>まことに、あなたがたに告げます。だれでも、この山に向かって、「動いて、海にはいれ。」と言って、心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおりになると信じるなら、そのとおりになります**（マルコ11：23）。

- C. ゼルバベルは、彼の前にある逆境の山々に恵みを宣言する。

**<sup>7</sup>大いなる山よ。おまえは何者だ。ゼルバベルの前で平地となれ。彼は、「恵みあれ。これに恵みあれ。」と叫びながら、かしら石を運び出そう**（ゼカリヤ4：7）。

- D. 彼女は、彼女の愛する人の声を聞き分ける。イエスは、リスクを伴う危険な山々に彼と一緒に出て行くために、私たちが快適な場所から召し出そうとするときにも、私たちに優しく愛をもって語りかけてくださる。花嫁がイエスについて話すときはいつでも、イエスのことを“わたしの愛する人”と呼ぶ。また彼女がイエスについて誰かに語るとき、彼女はイエスのことをわたしが愛する人と呼ぶ。雅歌において、イエスが花嫁に語りかけるときはいつでも“わが愛する者”と彼女に語りかける。その“わが愛する者”という言葉は彼の愛情、“美しい人”、彼女の美しさを示している。“わが愛する者”（My Love）という言葉は、雅歌において22回も使用されている。“愛する方”（Beloved）という言葉も雅歌において22回使用されている。

#### IV. 安全と守りの壁

<sup>9</sup> ご覧、あの方は私たちの壁のうしろにじっと立ち、窓からのぞき、格子越しにうかがっています (雅歌 2 : 9)。

- A. イエスは立っている、もしくは行動する準備ができているように描かれている。イエスは聖書の中では通常、敵の上に足を置き、休息し勝利した状態で座っているように描かれている (詩篇 110 : 1)。ステパノが死んだとき、イエスは彼を受け入れるために立ち上がった (使徒 7 : 55)。イエスが立ち上がる時は、何かパワフルなことが起ころうとしているときである。
- B. イエスは、花嫁がかき乱されていない状態で座っている家の中をうかがいながら、壁の後ろに立っている。イエスは、戸をたたくとき、ラオデキアの教会の戸の外側に立っていると描写されている (黙示 3 : 20)。
- C. 彼女は、この壁を“私たちの壁”と呼んでいるが、これは正しい描写である。これは“彼女だけによる壁”ではなくて“彼女とイエスによる壁”である。というのは、彼女は聖霊の命令によって、イエスが彼女を目覚めさせるまでは (雅歌 2 : 7)、かき乱されないで食卓に留まるようにと導かれていたからである。
- D. イエスは、イエスとのより深い関係へと彼女を導くために、求婚・求愛のまなざしで、窓越しに彼女を見つめている。

#### V. 快適な場所から出て、イエスとの深い関係へと呼び出される

<sup>10</sup> 私の愛する方は、私に語りかけて言われます。わが愛する者、美しい人よ。さあ、立って、出てください (雅歌 2 : 10)

- A. イエスは行動を起こし、花嫁との深い関係に入っていく準備ができている。だから、イエスは快適で守られた場所から立ち上がって、この墮落した世の山々を征服するために私と一緒に出て行こうと花嫁に呼びかけている。国々を従わせるために、私と一緒に働こうとイエスは花嫁に命じておられる。

<sup>19</sup> それゆえ、あなたがたは 行って、あらゆる国の人々を 弟子としなさい (マタイ 28 : 19)

- B. イエスは、100%の信仰と従順な心をもって、山々に一緒に行こうと私たちに挑んでおられる。これらの高い場所に行くためには、困難な任務や関係が伴い、それらは私たちが守られていること、また私たちの快適さに挑んでくる。彼女は、リスクや山々の高さが嫌いで、イエスと一緒にりんごを食べながら木の陰の下で座ってだけいたいと思っている (雅歌 2 : 3)。
- C. 彼女は、信仰によって歩むリスクや霊的な戦いによる苦闘が好きになれない。ジョン・ウィンバーは“信仰のスペル (綴り) は、R・I・S・Kである。”と言った。信仰 (神に確信すること) は神の御国の方法である。
- D. 問題は、快適な場所から出て、イエスと一緒に行くことは安全なのか？ということである。もし私たちが100%イエスに従ったら、何かを失ってしまうことがあるのか？肉の思いでは、イエス抜きでボートの上に居る方が、イエスと共に水の上に居るより安全だと思ってしまう。これは、私たち全員が生きていく上での信条として手にしないといけない最も实际的で基盤となる真理のうちの一つである。



- E. イエスとの成熟した関係を経験したいと思うのなら、彼女は立ち上がらないといけない。それでも私たちは“快適ゾーン・クリスチャン”として天国に行けるものの、私たちはイエスとの深い関係に入っていくとはしない。雅歌2：8－10中には、私たちを成熟したパートナーシップに目覚めさせるためにイエスが用いるプロセスを表現するために、7つの動詞が使用されている。それらは、“来る”、“はねる”、“とび越える”、“立つ”、“見る（のぞく）”、“見つめる（うかがう）”そして“語りかける”である。

## VI. 実りの多さに関する預言的なしるし

- A. イエスは、今は収穫（実りが多い）の時であることを示して、花嫁を励ます。

<sup>11</sup> ほら、冬は過ぎ去り、大雨も通り過ぎて行った。<sup>12</sup> 地には花が咲き乱れ、歌の季節がやって来た。山鳩の声が、私たちの国に聞こえる。<sup>13</sup> いちじくの木は実をならせ、ぶどうの木は、花をつけてかおりを放つ。わが愛する者、美しいひとよ。さあ、立って、出ておいで（雅歌2：11－13）。

- B. イエスは、収穫の季節がもうすぐそこまで来ていることを示しながら、時に関するしるしを強調している。だから、花嫁は、今、すばやく、イエスを完全に信頼し、イエスに従うことを学ばないといけない。

- C. 主は、過去の冬の季節においても、私たちに対して主が忠実だったことを私たちに思い出させる。冬は、冷たい雨が降るし、暗い。冬はほとんどのものが外見上、成長しない困難な季節である。私たちが成し遂げられるかどうか不安に思っているとき、主は、私たちの上に翻る彼の旗じるしが愛であることを明らかにする。イエスは、過去の私たちの旅路における、彼の過去の介入、彼の忠実さを私たちに思い出させる。イエスは“冬はもう過去のものとなり、冷たい雨も終わった。厳しい冬を超えてもなお、あなたの心は私の中に生きているじゃないか。”と言っているかのようなのである。イエスは、彼女を助けて、イエスの愛を彼女に思い出させようとしている。これが雅歌の主要なテーマの一つである。

- D. もしイエスが過去の困難なときに忠実に私たちとともに居てくださったのなら、今後来るであろう困難なときにも彼は私たちとともに居てくださる。私たちがイエスとともに山へ登っていくときに、彼が私たちを忘れるということなどを信じる理由は一切ない。私たちには壁の後ろで隠れている必要など一切ないのである。

- E. イエスはまたすぐやってくる収穫の預言的なしるしを強調して、未来を指し示す。収穫の最初の段階を見ることによって、私たちは励まされる。これらのしるしは、すぐにやってくる完全な収穫を保障している。またこれらのしるしを見ることで、私たちは準備をしないとけないという緊急性を感じることができる。私たちには無駄にする時間はないのである。

- F. イエスは収穫のときが整ったと指摘することで使徒たちを励ました。ペテロは自分の職業である漁師を最近やめたばかりである。その後、3年以内にエルサレムのリバイバルが始まり、続いて使徒の働きに見られるリバイバルへと続いていく。イエスを完全に信頼し、従うことを使徒たちが学ぶことは必要不可欠であった。

<sup>35</sup> 目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています（ヨハネ4：35）。

- G. イエスは収穫のしるしを指し示す。ぶどう畑に花が現れたということは、ぶどうの収穫が近いことを強調している。現在、世界の国々で“リバイバルの花”が咲き乱れ始めていることは明

らかである。

- H. 山鳩の声はイスラエルにおいて、収穫のときに聞かれる。いちじくの木は、熟した実をならす前に、青い実をならせる。若く柔らかなぶどうの香りは収穫を表している。
- I. 収穫に伴った歌の季節が始まった。史上最大のリバイバルがもうすぐそこまで来ている。世界中で祈りの家が立ち上がり、賛美の日（Global Day of Prayer や The Call など）に数多くの人々がスタジアムに歌を歌うために集まっているこの時、この収穫の“歌”がすでに始まっている。
- J. イエスは花嫁を“わが愛する者、美しいひとよ。”と呼びかけながら、彼女に優しく話しかける。イエスは彼女が彼を拒否することを知っているが、彼女自身のぶどう畑がきちんと手入れされていないときでさえも、彼女はイエスにとって美しい存在なのである（雅歌 1：7－8）。私たちは、イエスの目に私たちが愛され、美しいと写っていると感じるができるとき、ますます彼に従っていこうと動機付けられる。イエスは決して厳しく裁くような調子で彼女に話しかけているのではない。

<sup>13</sup>わが愛する者、美しいひとよ。さあ、立って、出ておいで（雅歌 2：13）。

#### VII. 私たちはイエスの十字架を通して神の御前に守られている

<sup>14</sup>岩の裂け目、がけの隠れ場にいる私の鳩よ。私に顔を見せておくれ。あなたの声を聞かせておくれ。あなたの声は愛らしく、あなたの顔は美しい（雅歌 2：14）。

- A. 主は、私たちが恐れと格闘しているときにでさえ、私たちに対して優しい愛情を表してくれている。イエスは彼女を“私の鳩”と呼ぶことで、彼女の誠実さを肯定していることが分かる。鳩は純粋さ、忠誠心を表しているからである。聖霊は純粋な鳩として描かれる。イエスは、彼女の心は彼に従おうとしていることを知っている。イエスは彼女が雅歌 2：17 で妥協することを知っているが、それでも彼女のことを“私の鳩”と呼ぶのである。イエスは決して、彼女のことを「人をだます蛇め。」などとは呼ばないのである。
- B. 私たちは、“岩の裂け目”と“がけの隠れ場”という 2 つの場所に、神の恵みによる安全を見出す。“岩の裂け目”は、十字架によって完了された御業を表している。私たちは、イエスの死と復活を信頼するとき、自分自身の弱さを感じていても、神の御前に確信をもって立つことができるのである。
- C. イエスはモーセの時代においては、御霊の岩であった。またイエスは岩であり、その上に教会が建てられる。

<sup>4</sup>・・・というのは、彼らについて来た御霊の岩から飲んだからです。その岩とはキリストです（I コリント 10：4）。

<sup>18</sup>・・・わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません（マタイ 16：18）。

- D. 神は、モーセが神の顔を見、神の栄光に打たれて死ぬことがないように、モーセを岩の裂け目（山の中に開いた空間）に隠した。

<sup>20</sup>また仰せられた。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」<sup>21</sup>また主は仰せられた。「見よ。わたしのかたわらに一つの場所がある。あなたは岩の上に立て。<sup>22</sup>わたしの栄光が通り過ぎるときには、わたしはあなたを岩

の裂け目に入れ、わたしが通り過ぎるまで、この手であなたをおおっておこう（出エジプト33：20－22）。

- E. 岩の裂け目に隠れるということは、十字架による救いを表していると言える。岩の裂け目は、イエスが十字架上で受けたわき腹の傷を表している。私たちは岩の裂け目もしくはイエスの贖いの死の中に身を寄せ、神の裁きから隠れるのである。
- F. “がけの隠れ場”は、イエスの復活のミステリーを表している。その場所は、人の子であるイエスが神のもとへ昇って行った秘密の場所である。がけは、天に昇っていく階段であるヤコブのはしごのように上空へ昇っている（創世記28：12－17）。“がけの隠れ場”は、“階段の隠れ場（秘密の場所）”（KJV）また“急な道の隠れ場（秘密の場所）”（NAS）とも訳されている。
- G. 私たちが岩の裂け目に、がけの隠れ場に、また復活という神秘の場所に立つときに、イエスは、私たちが弱い時にも神から逃げるのではなく、私たちに賛美してもらいたいと思っておられる。私たちがイエスに助けを求めるとき、神の恵みに確信をもって立つことができるのである。
- H. 私たちが弱く、助けを叫び求めるとき、イエスは私たちの顔を見たい、賛美する私たちの声を聞きたいと思っておられる。自分自身のことを成長途上の偽善者だと考え、恐れる必要などなく、私たちはイエスにイエスを愛していると言っていることができるのである。罪と格闘しているとき、自分たちの声は神に届かず、跳ね返ってきて、また自分たちの顔も神にとって醜いものに違いないと考える人がいる。神は、私たちが非難の思いをもって神から走り去って行くのではなく、逆に、確信をもって、神の方に走り寄って来て欲しいと思っておられる。

<sup>14</sup> 私に、顔を見せておくれ。あなたの声を聞かせておくれ。あなたの声は愛らしく、あなたの顔は美しい（雅歌2：14）。

- I. ゲッセマネの園において、イエスはペテロに誘惑のときに祈りなさいと告げた。イエスはペテロがイエスを3度否認することを預言した。これはペテロの恐れと弱い肉のせいであった。

<sup>34</sup>・・・今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度、私を知らないと言います。<sup>41</sup> 誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです（マタイ26：34、41）。

- J. イエスはこの夜、ペテロがつまずくことを知っていても、彼の中の喜んで仕える霊を見つめている。イエスはここで“ペテロ、私に祈りなさい。私はあなたの声が聞きたいのです。私はあなたを助けたいのです。”と言っておられる。
- K. 主は、敏感に反応する心を楽しんでおられる。成熟する前の私たちのことを楽しんでおられる。花嫁が、木の下に座り、壁の後ろに座っているときにでも、イエスは彼女のことを美しい人と呼ぶのである。イエスは、私たちの心をご存知で、彼に従っていこうとする私たちの誠実な願いを見ておられる。花嫁の愛が成熟する（雅歌4：7）のと同様に、私たちの未熟な愛も、時が来れば成熟するということをイエスは知っておられる。

#### VIII. 妥協からの解放を求める祈り

- A. 花嫁の顔を見たい、声を聞きたいというイエスの熱い励ましに対して花嫁は反応し、解放を祈る。彼女の人生における小さな狐という妥協を捕まえてくださいとイエスの助けを叫び求める。

<sup>15</sup> 私たちのために、ぶどう畑を荒らす狐や小狐を捕らえておくれ。私たちのぶどう畑は花盛りだ

から (雅歌 2 : 5)。

- B. 狐は夜の闇に紛れてぶどう畑を荒らすずる賢い動物である。狐は、昼間に堂々と攻撃をしかけてくる大胆で強いライオンではない。狐は、小さく、すばやく、ずるがしこく、また捕まえるのが難しい動物である。
- C. 彼女の心の中のぶどう畑の“小狐”は、恐れ、罪深い思い・態度・言葉、小さなことではあるが継続的な、時間とお金の間違った使い方などを含む小さな私たちの妥協を表している。この“小狐”は、神のことばに対する反抗ではなくて、“立ち上がりなさい”(雅歌 2 : 13) というイエスの問いかけに対する彼女の恐れを表している。
- D. 私たちのぶどう畑というのは、私たちと神との交わりを表す。また柔らかい(英語訳には **tender** という修飾語がある) ぶどうは、彼女の人生における未熟さを表している。彼女は、雅歌 1 : 6 とは異なり、彼女のぶどう畑を守っている。しかしながら、狐は彼女の収穫を破壊し続ける。
- E. 花嫁は、神ともっと深い関係を持ちたいと切望している。彼女は愛に病んでいるから、彼女を力づけ、元気づけてくれるように(雅歌 2 : 5) と主に叫び求めている。私たちが御霊によって歩むことを妨げるのはそのような小さな分野の問題である。花嫁は、神との深い関係に進むことを阻むこの小さな分野の問題の重要性に気づいている。
- F. 私たちは、単に重大な罪を避けるだけというよりも、もっと深い神との関係を求めている。私たちは、私たちのぶどう畑が成熟した収穫で溢れて欲しいと願っている。不愉快な言動、清くない思い、奉仕の心や謙遜さに抵抗する態度などの問題は、私たちと神との親密さを破壊する小狐である。イエスは、快適だけれども小狐が破壊しているぶどう畑から出てくるようにと彼女に呼びかけている。
- G. 彼女は“私たちのために狐を捕まえてください”と祈っている。言い換えると、私たちは私たち自身の力では狐を捕まえることができないから、私たちは神に助けを求めるということである。彼女は、自分の人生に小狐(妥協)が存在することを認め、絶え間なく神の助けを祈り求める。主はいつも私たちを喜んで助けてくれる。

#### IX. 彼女は、イエスに対する彼女の誠実な愛を表現する

<sup>16</sup> 私の愛する方は私のもの。私はあの方のもの。あの方はゆりの花の間で群れを飼っています (雅歌 2 : 16)。

- A. 彼女は自分自身の霊的なアイデンティティを宣言している。彼女は自分が神を愛している存在であることを知っている。私たちは困難なときにあっても、神を純粹に愛する者、神から愛されている者であり続けることをやめはしない。私たちの顔が、神にとってもはや美しくないということになったり、私たちの賛美の声が神にとって、不愉快なものになったりするということは決してない。
- B. 彼女はイエスのことを愛する方と見ている。また彼女は“私は彼のもの”と宣言する。イエスが彼女の心を所有しているということが彼女の人生で最終的に確認される。彼女の心は彼のものであり、彼女の心は彼に属している。彼女がつまずいているまさにその最中に彼女の神に対する愛が現されている。自分がもがき苦しんでいるときにでも主から見放されているとは彼女は感じていない。彼女は希望のない偽善者ではない。彼女の確信は確固たるものである。彼女は“あなたが私のもので、私があなたのものであることを私は知っている。だから私はあなた

から離れはしない。”と叫んでいる。彼女は誠実なのであって、未熟なだけである。

- C. 彼女はこれまでに何度かイエスに彼女を養ってくださるようにと願った（雅歌 1 : 7、1 : 12、2 : 4-5）。そして、今、イエスはゆりの花の間という多くの犠牲を払わなければならない場所、彼女の従順と純粋さが要求される場所で、彼女を養おうと思っておられる。ゆりは純粋さを表す（雅歌 2 : 1-2、5 : 3、5 : 13、6 : 2-3）。彼女は、自分の人生の目的が、彼女の人生の全ての領域において、ゆりの純粋さの中で生きることであり、小さな狐を捕まえることであるということを知っている（雅歌 2 : 1-2）。
- D. 雅歌 2 : 1 に“私は谷のゆり”と書かれているが、彼女が主にある自分の個人的なアイデンティティーを見出したときなので、ここの“ゆり”は単数形の単語が使用されている。しかし、雅歌 2 : 16 中の“ゆり”は複数形の単語が使用されていて、ここでは、彼女のようにイエスを愛する神の人々の群れについて語られている。

**<sup>33</sup> 思い違いをしてはいけません。友だちが悪ければ、良い習慣がそこなわれます。<sup>34</sup> 目をさまして、正しい生活を送り、罪をやめなさい。神についての正しい知識を持っていない人たちが（教会の中に）います（I コリント 15 : 33-34）。**

#### X. 彼女の痛みを伴う妥協

- A. 彼女は、山々へ一緒に行くために立ち上がるように（雅歌 2 : 13）とのイエスの命令に対して、回答する。彼女は立ち上がることを拒んだ。立ち上がる代わりに“私を伴わずに、かもしかのように山々を飛び跳ねるために帰ってください”とイエスに告げた。彼女は恐れのためにイエスに従うことを拒んだのである。それは未熟なためであって、反抗ではない。
- <sup>17</sup> そよ風が吹き始め、影が消え去るころまでに、あなたは帰って来て、険しい山々の上のかもしかや、若い鹿のようになってください（雅歌 2 : 17）。**
- B. 深い悲しみの中、彼女は、イエスが立ち去らなければならないこと、またイエスご自身が雅歌 2 : 8 で描かれているかもしかのようではなければならないことに気付く。雅歌の終わりに、彼女は再び、イエスにかもしかや若い鹿のようになってくださいと叫び求める（雅歌 8 : 14）。
- C. 彼女は、彼女の心の中に、暗い影があることに気付く。これらは、彼女の人生の中で、光が完全に当たっていない場所である。新しい光が現れる朝、夜明けがやってくる。夜明けが来て初めて、彼女の人生から暗い影の部分や灰色の箇所が消え去るのである。
- D. 彼女は、夜明けの日が差し、彼女に新しい日の新しい光が与えられるまでは、山々へと帰っていきなさいとイエスに告げたのである。
- E. 雅歌 4 : 6 になって、最終的に彼女はイエスに従い、山にイエスと一緒に出かけるために立ち上がる。この箇所で、結局イエスは、彼女の人生における“恐れという狐”を捕まえることにより、彼女の祈りに対して答えている。婚姻関係という並外れた献身の関係の中で、イエスと一緒に高い場所に生きるために私たちは創造された。
- F. 彼女の妥協が最終的には、荒らされた彼女のぶどう畑、言い換えれば、神との親密な関係から切り離されている状態の中でも、実を結ぶということを理解している。イエスは、ある季節の間だけ、振り返って行ってしまっただけである。後ろへ引き下がるという私たちの自由な意志決定さえもイエスは尊重してくださる。私たちのイエスとの関係は、自発的な愛を基盤としている。

- G. ヘブル語のベテルという単語の意味は“離れること”である（NAS では、雅歌 2 : 17 の“陰しい山々”の箇所が“ベテルの山々”となっている）。別の聖書の訳では、ベテルの代わりに“離れる”という言葉を使用しているものもある。山々は離別をもたらす障害物である。イエスが“別れの山々”に行ってしまうとき、離別が生じることに気付いている。雅歌 3 : 1 において、彼女が悔い改め、従順の思いの中で叫び求めるまで（雅歌 3 : 2）、イエスは彼女から離れている。
- H. 彼女が弱いということが、彼女のイエスに対する愛が偽物であることを示している訳ではないということを理解している。彼女はイエスのことを“私の愛するイエス”と言いつづけている。

#### XI. 進展に関する 4 つの鍵となる声明

- A. 雅歌において、あるフレーズが繰り返されているところを 4 回見ることができる。主はこの箇所で彼女の人生において、成熟度の進展をもたらしており、この進展に関する表現に慣れ親しむために、これらの聖句を見ることは重要である。
- B. 雅歌は、4 つの鍵となる声明をもって、自分中心の態度から神中心の態度へと花嫁が進展していくさまを描いている。雅歌において、彼女は 4 度、彼女の経験を変化させ、再定義している。彼女は、自分自身しか意識していない状態から始まり、最後には成熟した神中心の彼女へと変化していく。雅歌中に戦略的に配置されているこれら 4 つの鍵となる生命を見ることによって、雅歌における彼女の成熟度合いを追うことができるのである。これらは彼女の成熟度合いの進展に関する声明である。この 4 つの相続に関する声明の中の、自己中心から神中心への転換に気付いてください（1 : 14、2 : 16、6 : 3、7 : 10）。最初の段階では、彼女自身がイエスを楽しむことのみに焦点が当てられている。彼女はイエスが彼女にとってどういう存在なのかについて話しており、彼女がイエスにとってどういう存在なのかについてはほとんど気付いていない。2 : 16、6 : 3そして最後に 7 : 10において、彼女は同じ言葉を使っているが、その順番が変化していることで、イエスにとって彼女がどういう存在であるのかについて気にかけていることが示されている。彼女がイエスの相続分なのである。
- C. 彼女の最初の焦点は、彼女自身の霊的な楽しみだけである。神の恵みによって、最初の段階として、このことはイエスにとって受け入れられている。彼女が愛されているということ、彼女がイエスの中に相続分を持っているということにのみ焦点が当てられている。この段階においては、彼女自身の中にイエスの相続分があることに関しては、ほとんど関心がない。

#### <sup>13</sup>私の愛する方は、私にとっては、（雅歌 1 : 13–14）

- D. 2 番目の焦点として、彼女は“彼は私のもの、彼は私に属している。でも、ここにきて初めて、私も彼に属していることに気付いた。”と語る。ここで彼女は、彼女の人生におけるイエスの所有権に関する新しい次元を付け加えている。今、彼女は、彼女自身がイエスの相続分であるがゆえに、イエスを愛する必要があることに気付く。しかしながらこの成熟度の段階では、まだこのことは彼女にとって 2 次的な心配事である。

#### <sup>16</sup>私の愛する方は私のもの。私はあの方のもの（雅歌 2 : 16）。

- E. 3 番目の焦点として、2 : 16 において彼女は全く同じ言葉を使用しているが、その順番が変化している。彼女は“私が彼に属しているし、また彼は私のものだ”と認め続ける。彼は私に属していて、私の愛する人は私のものだ。”と言う。この 3 番目の進展で、同じ 2 つの真理につ

いて語っているのだが、その順番が変化している。結局彼女は“彼の計画が第一で、私の計画は二番目なのだ。”と語っている。彼女の関心の優先順位を逆転させる。彼女の中にあるイエスの相続分が今や彼女にとって一番の優先順位となった。イエスの中にある彼女の相続分は、もちろん必須だが、それは二次的なものとなった。

<sup>9</sup>私は、私の愛する方のもの。私の愛する方は私のもの（雅歌6：3）。

F. 彼女の4番目で最後の焦点において、彼女は“私は彼に属していて、彼が望むものが私の焦点を当てる全てである。彼の望みが私のためであるという事実を知ることによって、私が100%彼のものであるということを確認めたくなる。彼は私を永遠に所有する。彼の関心が私の一番気にかけることである。”と言う。

<sup>10</sup>私は、私の愛する方のもの。あの方は私を恋慕う（雅歌7：10）。

## セッション 14

### 神の愛に溢れた訓練（雅歌 3：1－5）

#### I. 雅歌 2：8－17 の復習

A. 花嫁は、山々を征服する王もしくは“全てのものの主”としてのイエスに関する新しい啓示を受け取る。イエスは全ての山々（障害）を勝利に満ちてとび越えるかもしかのようであると描かれる。

**<sup>8</sup>愛する方の声。ご覧、あの方が来られます。山々をとび越え、丘々の上をはねて。<sup>9</sup>私の愛する方は、かもしかや若い鹿のようです（雅歌 2：8－9）。**

B. イエスは彼女に立ちあがって、山々（高い場所）にイエスと一緒にいこうと呼びかける。このことには、信仰と従順の新しいレベルを必要とする新しい課題が含まれている。この呼びかけによって、彼女の安心感や快適さがチャレンジを受ける。花嫁の最初の祈りの中で、彼女は“私を引き寄せてください。私たちはあなたのあとから急いでまいります。”（雅歌 1：4）とイエスに叫んだ。そして今、イエスは、彼女がイエスとのより深い関係を経験することができるように、彼女の快適な場所から新しい霊的な場所へと彼女を呼び出した。

**<sup>10</sup>私の愛する方は、私に語りかけて言われます。わが愛する者、美しいひとよ。さあ、立って、出ておいで（雅歌 2：10）。**

C. 花嫁はイエスの立ち上がりなさいという呼びかけを断り、その代わり、イエスに振り返って、彼女を伴わずに山々に向かってくださいとイエスに告げる。彼女は恐れ（霊的な未熟さであって、反抗ではない）のためにイエスの呼びかけを断った。新しい光が現れ、彼女の人生において暗い場所がなくなる朝、夜明けはやってくる。

**<sup>17</sup>私の愛する方よ。そよ風が吹き始め、影が消え去るところまでに、あなたは帰って来て、険しい山々の上のかもしかや、若い鹿のようになってください（雅歌 2：17）。**（訳者注：新改訳では、愛する方に彼女のもとに帰って来てくれるように頼んでいるかのように読めるが、NAS では、turn, my Beloved となっており、愛する方に、振り返って、山々へ向かってくださいと頼んでいる。）

#### II. 雅歌 3：1－5 の概要

A. 花嫁が従うことを断ったことに対する主の応答は、彼の臨在を彼女の心から取り上げることに伴う愛に溢れた訓練である。イエスは怒っているのではなく、イエスとより深い関係をもって歩んでくれる成熟した花嫁として、イエスの価値観を彼女にねたむほどに分かち合いたいと願っておられる。

B. 父なる神は、私たちが非常に愛しているので、私たちが栄光に満ちた成熟したキリストの花嫁に達していない状況を良しとされない。イエスは彼女の霊的な成長のためにこのことを行っているのである。私たちが束縛しているものを握り締めているその指を主は開けられる。従順に従うことの代価は大きい。しかし、不従順の代価の方がさらに大きい。聖霊のリーダーシップに従うことを無視することの代価は非常に大きい。

C. 主は、彼が愛する人の心から、いくつかの理由により、彼の臨在感を取り去ってしまう。第一に、聖霊のリーダーシップを深く受け止めることを拒否する私たちの妥協の重大性に気付かせるためである。第二に、私たちにはイエスが必要であることを気付くように私たちに謙虚にさ



せるためである。

- D. 私たちを愛している神が、私たちに対する神の情熱やねたみを現してくれることを私たちは確信しなければいけない。神は私たちをねたむほどに愛しておられるから、私たちが一途に従い生きることを要求される。イエスは、イエスとの関係がより深くなり、その結果、私たちが成長することを激しく求めておられる。

<sup>5</sup>それとも、「神は、私たちのうちに住まわせた御霊を、ねたむほどに慕っておられる。」という聖書のことばが、無意味だと思うのですか（ヤコブ4：5）。

### III. 神の訓練は、私たちを拒絶することではない

- A. 雅歌のメッセージは、私たちが弱いときでも神は私たちのことを楽しんでおられるということである。しかしながら、このことは、神が、私たちのすることを全て承認されているという意味ではない。神は、神がよしとはされていない私たちの人生の領域については、矯正される。そのことによって私たちの中にある愛（聖さ）を妨げるものを全て取り除かれる。

<sup>10</sup>霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです（ヘブル12：10）。

- B. 神が私たちを訓練される時、私たちの人生の内に、神御自身が喜ぶことができない領域があるということを明らかにされる時がある。これは、神が人間である私たちを喜ばないということではない。これは、神が私たちのある特定の行動、振る舞いに喜ぶことが出来ないということである。このことは、神が人間としての私たちを軽視、または軽蔑されるということではない。ある人々は、神が矯正をなさる時に、それを神からの拒絶と誤解してしまうことがある。しかし、それは神が私たちを愛しておられることの証である。神は罪を憎まれる、しかし訓練を受ける私たちを喜ばれる（ヘブル12：6）。

<sup>13</sup>父がかわいがる子をしかるように、主は愛する者をしかる（箴言3：12）。

- C. 神は、悔い改めが必要な人を厳しく叱るが、それでも彼らのことを愛している。神が彼らのことを愛しているから、彼らを厳しく叱り、悔い改めるように呼びかけるのである。そして、神はその人々を神の御座に座るように招く。

<sup>19</sup>わたしは、愛する者をしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって、悔い改めなさい。<sup>21</sup>勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせよう（黙示録3：19, 21）。

- D. 訓練を受けるということは、神が私たちのことを気にかけてくれていて、まだ私たちのことをあきらめていないということを意味している。長期に渡って、罪を犯し続けてなおうまくやっているということは恐ろしいことである。というのは、それは神がその人を罪に引き渡されたということを意味するからである。神の訓練は、神がまだ私たちのことをあきらめておられないということを示す証拠である（ローマ1：24-28）。

<sup>24</sup>それゆえ、神は、彼らをその心の欲望のままに汚れに引き渡され（ローマ1：24）

32しかし、私たちがさばかれるのは、主によって懲らしめられるのであって、それは、私たちが、この世とともに罪に定められることのないためです（Iコリント11：32）。

- E. 神は訓練している人々の痛みを感じておられるし、彼らのことを心から愛するものと常に思っておられる。

<sup>9</sup>彼らが苦しむときには、いつも主も苦しみ、・・・その愛とあわれみによって主は彼らを贖い、昔

からずっと、彼らを背負い、抱いて来られた（イザヤ63：9）。

<sup>7</sup>私の心の愛するものを、敵の手中に渡した（エレミヤ12：7）。

F. 私たちの心の中にある罪と正直にまた徹底的に対決することを無視するとき、神からの愛が少なくなるということはないが、いろいろな方法で喪失感を経験する。救いの喜び、啓示の御霊、神との交わりを経験し、永遠の報酬を得る私たちの能力が小さくなってしまう。

G. 神は悔い改めない信者に対して、ある季節の間、優しく忍耐しておられる。この神の忍耐を承認と決して受け取ってはいけない。イエスはイゼベルと彼女のテアテラに居る弟子たちに悔い改めるための時間をお与えになった。

<sup>21</sup>わたしは悔い改める機会を与えたが、・・・<sup>22</sup>見よ。わたしは、この女を病の床に投げ込もう。また、この女と姦淫を行う者たちも、この女の行いを離れて悔い改めなければ、大きな患難の中に投げ込もう（黙示録2：21－22）。

H. 神は私たちを悔い改めに導くために働いておられる間、愛をもって、辛抱強く、私たちのことを長い間、忍耐しておられる。

<sup>4</sup>それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか（ローマ2：4）。

#### IV. 神の臨在が花嫁から取り去られる

A. 花嫁は神を探し求めるが、見つけることができない。これは彼女にとって新しい経験である。雅歌1～2章においては、彼女が神を探し求めたときはいつでも、優しい神を見つけることができた。

<sup>1</sup>私は、夜、床についても、私の愛している人を捜していました。私が捜しても、あの方は見あたりませんでした。<sup>2</sup>「さあ、起きて町を行き巡り、通りや広場で、私の愛している人を捜して来よう。」私が捜しても、あの方は見あたりませんでした（雅歌3：1－2）。

B. 私たちの霊的な人生において、主を捜し求めなければならない4つの異なる“夜”がある。

1. 夜間：私たちは時に夜の間に神を捜し求める。神を知りたいという私たちの必死の思いから、不便な時間帯である夜の間にも神を捜し求める。
2. 痛みの夜：ダビデがサウルから逃げ回っているとき、ヨセフが地下牢に入れられたときのような困難な状況においても、神の約束は間違っていたのだと結論付けることをせず、彼らはあきらめなかった。
3. 誘惑の夜：失敗したとき、暗闇のときでも、私たちは神を捜し求め続けなければいけない。
4. 魂の暗い夜：ある人は、中世の時代のことを魂の暗い夜と呼ぶ。その時代は忍耐のときであって、一時的に神の臨在が取り去られていたと（雅歌5：6）。

C. 花嫁は彼女のベッドに居るべきではなく、主と共に山々に居るべきであった。彼女は“彼女のベッド”に居るのであって、“私たちの長いいす”（雅歌1：16、3：7）とは対照的である。彼らのパートナーシップが壊されている。

D. 彼女の心は、悩みのときにあっても、イエスを愛することに焦点が当てられている。イエスに従うことを恐れたからといって、彼女は希望のない偽善者なのではない。私たちが人生の全ての領域において勝利を収める前にでも、私たちはイエスのことを“私が愛する者”と呼び続けることができるのである。時々、私たちは登りきることができずと感ぜられる信仰・忍耐の

山に遭遇することがある。越えられそうに思えないからこそそれが山なのである。山と山の間には谷がある。私たちが谷に居る間でも、私たちは、神に愛されている者である。

<sup>1</sup>私は、夜、床についても、私の愛している人を捜していました。私が捜しても、あの方は見あたりませんでした（雅歌3：1）。

E. 彼女は、過去にしたように（雅歌2：3－5）、祈り、みことばを黙想するという慣れ親しんだ霊的な訓練の方法を通して、神を捜し続ける。しかしそれでも彼女は神の臨在を感じることができない。それは神が従順の新しいレベルを彼女に求めているからである。祈りと断食は従順の代替品とはならないのである。

<sup>4</sup>それからギデオンは、彼に従う300人の人々とヨルダン川を渡った。彼らは疲れていたが、追撃を続けた（士師記8：4）。

F. 何も感じないときでも、私たちが神に近づくとき、神が私たちに近づいてくださるという神のみことばを信頼しなければいけない。

<sup>8</sup>神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪ある人たち。手を洗いよめなさい。二心の人たち。心を清くしなさい（ヤコブ4：8）。

<sup>3</sup>だれが、主の山に登りえようか。だれが、その聖なる所に立ちえようか。<sup>4</sup>手がきよく、心がきよらかな者、そのたましいをむなしいことに向けず、欺き誓わなかった人（詩篇24：3－4）。

G. 神が御顔を私たちから隠されるととき、私たちが神をしっかり掴んで離さないように自分自身を掻き立てることを神は求めておられる。

<sup>7</sup>しかし、あなたの御名を呼ぶ者もなく、奮い立って、あなたにすぎる者もいません。あなたは私たちから御顔を隠し、私たちの咎のゆえに、私たちを弱められました（イザヤ64：7）。

H. エレミヤ20：7の原則：エレミヤが若いときに、主は彼に主の美しさを現すことによって、彼が主を愛するようにとさせた。エレミヤは、イスラエルの政治界および宗教界の指導者たちに預言した。しかし彼らはエレミヤを受け入れず、彼を牢に入れた。そして、エレミヤは預言を止めてしまった。しかしその後、神の炎が彼の中で燃え上がる。若いときは、あなたは私をあなたを愛させるようにとさせたが、今、私はあなたにあまりにもしっかりと繋がっているのもはやあなたから離れて歩くことができないほどだ。雅歌1～2章において、主は花嫁の心を神の愛に結びつける。

<sup>7</sup>主よ、あなたが私を感わしたので、私はあなたに感わされました。あなたは私をつかみ、私を思いのままにしました。・・・<sup>8</sup>私への主のみことばが、一日中、そしりとなり、笑いぐさとなるのです。<sup>9</sup>私は、「主のことばを宣べ伝えまい。もう主の名で語るまい。」と思いましたが、主のみことばは私の心のうちで、骨の中に閉じ込められて、燃えさかる火のようになり、私はうちにしまっておくのに、疲れて耐えられません（エレミヤ20：7－9）。

V. 若い花嫁は祈りに加えて、従順を追加する。

<sup>2</sup>「さあ、起きて町を行き巡り、通りや広場で、私の愛している人を捜して来よう。」私が捜しても、あの方は見つかりませんでした。<sup>3</sup>町を行き巡る夜回りたちが私を見つけました。「私の愛している人を、あなたがたはお見かけになりませんでしたか。」（雅歌3：2－3）

A. 花嫁は、雅歌2：10で命じられた通りに、今、とうとう立ち上がった。イエスは、彼の臨在を私たちから引き離すことで、私たちが熱心に彼の御顔を求め、恐れ・不信仰・妥協から抜け

出るようにとさせる。私たちが立ち上がり、新しい従順の領域において、イエスのところに出て行くまで、主は待っておられる。唯一の安全な場所は、信仰と従順をもって、イエスとパートナーシップを結ぶために立ち上がることである。

- B. イエスの臨在を失うことによる痛みによって、彼女は自分のベッドから起き上がり、快適な場所を出る。イエスは御顔を隠されたが、それは、御顔を隠すことで、私たちの心の中に本気の気持ちを生み出すことができると知っていたからである。イエスは、彼女がイエスの臨在なしに生きることができないということを知っていた。昔の甘い季節のことを覚えているので、私たちの魂は、もっと神を求めるために必死になる。彼女は、祈りに加えて、従順を追加した。彼女は祈りだけでは彼女の問題を解決できないということを理解したのである。問題を解決するためには、積極的な従順が必要なのである。
- C. 彼女は立ち上がり、人々が交流する町の通りや広場を巡った。ここは、快適なベッドや安全の壁の外側にあり（雅歌 1 : 16、2 : 9）、リスク・衝突・危険・増し加わった霊的な戦いがある場所である。
- D. ヤコブは夜を通して、神と格闘した（創世記 32 : 24 - 30）。ヤコブは神に触れるまであきらめようとはしなかった。ヤコブは、ブレイクスルーが起こるまで格闘する祈りをあらわしている。ホセアは、涙と願いによって真剣に神を求めるヤコブを描いている（ホセア 12 : 2 - 6）。
- E. 私の友人の一人（Michael Sullivant）はある日、彼の息子とレスリングをする夢を見た。夢の中で彼は彼の息子にフォールを奪われる（押さえ込まれる）ことを許す。彼の息子は笑って“父さんに勝ったよ。”と言った。私の友人は、夢の中で息子とレスリングしたことをうれしく思った。そのとき、主が友人に語りかけた。“私はあなたによってフォールを奪われることを許しているんだ。そのことによって、私に喜びがもたらされるからだ。”と。神の心は私たちが主と格闘するとき、喜ばれる。格闘することによって、私たちの心が成長し、イエスへの愛が増し加わるからである。

## VI. 彼女の従順に応答して、イエスの臨在が戻ってくる

***4彼らのところを通り過ぎると間もなく、私の愛している人を私は見つけました。この方をしっかりつかまえて、放さず、とうとう、私の母の家に、私をみごもった人の奥の間に、お連れしました。***

- A. 従順にイエスを捜し求めるために立ち上がったときにだけ、彼女はイエスを見つけることができた。主は私たちを愛するが故に、私たちの彼を求める熱心さに応答せずにはいられない。主は長い間、私たちを拒否し続けることはないのである。主は、私たちに打ち勝ってほしいと思っておられる。
- B. 霊的な飢え渇きの原則：みことばの中に、私たちがそれなしでは生きていけないような何かがあるのなら、私たちはしかるべき時が来ればそれを受け取ることができる。しかし、私たちがそれがなくても生きていけるというのなら、それなしでも生きていける。もしあなたが、神のみこころの中で、それなしには生きていけないと思うほど求めるものがあるのなら、あなたは必ず、しかるべき時にそれを受け取ることができる。
- C. 私たちは、霊的に退屈した状態、罪・不信仰の状態のままで生きる必要はない。山々を目にしていなくても（エゼキエル 36 : 26）、私たちは、生活の全ての領域において、注意深くイエスに

従えるように油注ぎを受けながら、歩いていくことができる。

- D. 彼女は、彼女の霊的な格闘の痛みを伴う季節を通った結果、イエスを決して離さないという新しい決意を獲得する。これ以降、雅歌の中で、彼女は決してイエスを離さない。
- E. 霊的な混乱状態のときを通ることによって、イエスをしっかりと掴み、私たちの生活の中で決して妥協を許さないという“激しい聖さ”が生み出されることがある（マタイ 11 : 12）。彼女は、神のみこころを必ず行うという消すことのできない決意を手にした。
- F. 花嫁のどこまでも従っていこうとする決意は、最も難しい場所にまでも至る。

**<sup>4</sup>この方をしっかりつかまえて、放さず、とうとう、私の母の家に、私をみごもった人の奥の間に、お連れしました（雅歌 3 : 4）。**

- G. 彼女は主が油を注がれたイエス・キリストの使節である。彼女は実際にイエスを数々の場所に連れて行く。その場所とは、父なる神の選びの器としての彼女の従順さなしには、イエスが行かれようとはしない所である。雅歌の終わりには、彼女はイエスを全ての人々のもとへと連れて行く（雅歌 8 : 2）。
- H. 母は、教会のことを指している。神のみこころを行う者は、イエスの母であり、兄弟である（マタイ 12 : 46－50）。母なるイスラエルは、贖われた者のために、子どもを産む（黙示録 12 : 5、17）。イエスを連れて行くのが一番難しい場所は、慣れ親しんだ家族関係のところである。
- I. 家は、ある人にとっては、最も難しい場所となる。というのは家はあまりにも慣れ親しんだところだからである。預言者は、彼の故郷では栄誉を受けなかった。イエスを彼女の家に連れてくるということは、イエスの立ち上がりなさいという命令に対する、彼女の従順の非常に大きな現われである。
- J. 家はまた小さな場所ということも意味している。ミニストリーを始めるために、飛行機に乗る必要はないのである。私たちの家や近所で、数少ない人たちのためにミニストリーを始めることができる。

## VII. 戦略的な霊の季節において、聖霊は私たちを守る（雅歌 2 : 7）

**<sup>7</sup>エルサレムの娘たち。私は、もしかや野の雌鹿をさして、あなたがたに誓っていただきます。揺り起こしたり、かき立てたりしないでください。愛が目ざめたいと思うときまでは。**

- A. ここで聖霊が語っておられる。聖霊は、全ての人々の霊的な生活において、それぞれに戦略的な季節を定められておられる。神の心に関する新しく、深い啓示において、私たちの心を確固たるものにしようと聖霊が臨まれる季節がある。この季節における花嫁に対する聖霊のご計画は、花嫁が酒宴の席でりんごやぶどうに養われ（雅歌 2 : 3－5）、また花嫁が神のみことばの中に深く歩み入った時のように、花嫁が愛に病んでいる状態に目覚めさせることである。多くの人が、自分たちの人生の季節を捧げて、神と神のみことばの中に深く入っていくことの必要性を理解していない。ヨハネは、巻き物を食べるように、すなわち、神のみことばをもっと深い方法で理解するようにと神から告げられた（黙示 10 : 9－11）。
- B. エルサレムの娘たちは、聖霊の様々な働きや、神の様々な異なる季節について見分けることができない信者のことを示している。聖霊は他の信者たち（エルサレムの娘たち）に対して、この季節において、花嫁の心を持ってイエスに心を捧げている者に対して、自分たちの意見や判

断を言うことによって、邪魔をしたり、混乱させたりしてはいけないと厳粛に命令している。雅歌 2 : 8 において明らかに見られるように、季節が変化した時には、イエスを信頼して私たちの人生をかき立ててもらうことができる。聖霊は、聖霊のやり方に敏感でない人々に対して、花嫁が食卓に座っているこの特定の季節において、神のみことば・聖霊によって力づけ、元気づけられようとしていることを邪魔してはいけないと伝えている。そのような花嫁の状況を見て、多くの人は、神を追い求めることをもう少し減らして、ミニストリーの働きを増やさないかと忠告してしまう。

- C. ソロモンは、もしかや野の雌鹿をさして、命令している（雅歌 2 : 7）。もしかや雌鹿は、この季節における若い花嫁の優しさや敏感さに対して注意を払うことが重要であることを示している。もしかや雌鹿は本来敏感な性質を持っていて、簡単に驚かされる。多くの人々が簡単に神のみことばから気をそらされてしまう。私たちは自分たちと異なる季節の中にいる他の人々に対して敏感になる必要がある。
- D. “それが喜ぶまでは”（新改訳の“愛が目ざめたいと思うときまでは”の箇所。NAS という訳では“Until it pleases”となっている）の“それ”は、ヘブル語では“それ”とも“彼”とも“彼女”とも訳すことができる。NAS は正確にこの箇所を訳していて、“それが喜ぶまでは”とは訳さずに“彼女が喜ぶまでは、愛を目ざめさせないでください”と訳している。もし元のヘブル語が“彼”と訳されるのであれば、“彼”は主を指すことになり、主がエルサレムの娘たちの行動によってかき乱されるということになる。優しく、敏感なものとして描かれているかもしかのよう、主は守られる必要もない。気がそらされることから守られる必要があるのは花嫁の方である。
- E. イエスはこの言葉を雅歌の中で三回語られる（2 : 7、3 : 5、8 : 4）。8 : 4 で、イエスは“彼女をかき立てたりしないでください”という同じフレーズを用いている。ここでイエスは、他の 2 回と同様に彼女を抱きしめている。しかしこの 3 度目の例（8 : 4）では、“もしかや野の雌鹿”というフレーズを省略している。というのは、花嫁がもう未成熟なものではなくなり、波にもてあそばれたりすることがなくなったからである（エペソ 4 : 14）。
- F. 聖霊の命令は、花嫁にプレッシャーをかけて、彼女の準備が整う前に行動させることではない。
- G. 主は、私たち一人ひとりの個性・目標に合わせて特別にあつらえた旅路を私たちのために用意されている。イエスは、他の信者に、花嫁の邪魔をするなど告げておられる。主の訓練を台無しにするような神から来ていないような憐みや偽りの慰めによって、彼女がこの大切な季節から心を逸らされることがないことをイエスは望んでおられる。

## セッション 15

### イエスの安全なリーダーシップに関する啓示（雅歌 3：6－11）

#### I. 雅歌 2：8－3：5の復習

A. 花嫁は、山々を征服する王もしくは“全てのものの主”としてのイエスに関する新しい啓示を受け取る。イエスは全ての山々（障害）を勝利に満ちてとび越えるかもしかのようであると描かれている。

<sup>8</sup>愛する方の声。ご覧、あの方が来られます。山々をとび越え、丘々の上をはねて（雅歌 2：8）。

B. イエスは、彼女がイエスとのより深い関係を経験することができるように、彼女の快適な場所から新しい霊的な場所へと彼女を呼び出した。

<sup>10</sup>私の愛する方は、私に語りかけて言われます。わが愛する者、美しいひとよ。さあ、立って、出ておいで（雅歌 2：10）。

C. 花嫁はイエスの立ち上がりなさいという呼びかけを断り、その代わり、イエスに振り返って、彼女を伴わずに山々に行ってくださいとイエスに告げる。彼女は恐れ（霊的な未熟さであって、反抗ではない）のためにイエスの呼びかけを断った。

<sup>17</sup>私の愛する方よ。そよ風が吹き始め、影が消え去るころまでに、あなたは帰って来て、険しい山々の上のかもしかや、若い鹿のようになってください（雅歌 2：17）。（訳者注：新改訳では、愛する方に彼女のもとに帰って来てくれるように頼んでいるかのように読めるが、NAS では、turn, my Beloved となっており、愛する方に、振り返って、山々へ向かってくださいと頼んでいる。）

D. イエスが花嫁に立ち上がるように呼びかけたとき、彼女のイエスに対する関係の力学が変わった。私たちの人生の季節において、私たちの信仰や従順の標準レベルをイエスが引き上げるとき、私たちのイエスとの関係において、私たちはイエスからの呼びかけに対して、応じるか引き下がるかのどちらかを選択しなければいけない。私たちが霊において成長したいと思うのなら、昨日の従順のレベルは、今日、必要なレベルには十分ではない。聖霊は私たちに与える光を増し続けておられ、私たちはそれに対して応答していく責任がある。聖霊は、私たちが応答しないとき、その臨在を取り除かれる。臨在を取り除くことで、私たちの注意を喚起される。

E. 神の臨在が花嫁から取り去られる。彼女は神を捜し求めるが、見つめることができない。これは彼女にとって新しい経験である。

<sup>1</sup>私は、夜、床についても、私の愛している人を捜していました。私が捜しても、あの方は見当たりませんでした。<sup>2</sup>「さあ、起きて町を行き巡り、通りや広場で、私の愛している人を捜して来よう。」私が捜しても、あの方は見あたりませんでした（雅歌 3：1－2）。

F. 私たちの不従順に対するイエスの応答は、私たちの心から彼の臨在を取り去ることによって、愛をもって私たちを訓練されることである。彼は怒っておらず、妬むほどに私たちとのより深い関係を望んでおられる。

G. 父なる神は、私たちを非常に愛しているので、イエスが望んでおられる事柄を 100% 私たちが獲得しないということを良しとされない。私たちを束縛しているものを握り締めている私たちの指を主はこじ開けられる。従順に従うことの代価は高い。しかし、不従順の代価の方がさらに高い。主は私たちの心から臨在感を取り去られる。それは聖霊のリーダーシップを深く受け止めることを拒否する私たちの妥協の重大性に気付かせるためであり、私たちと聖霊との関

係を何者にも決して邪魔させはしないと私たちが決意するためである。

- H. 主が私たちを訓練されるとき、彼は私たちの人生の特定の領域において不快感を示される。ある人はこの神からの矯正を神からの拒絶と感じてしまうが、それは間違いであって、それは神の愛の証拠である。神は罪を嫌っておられるが、訓練を与えている者を喜んでおられる（ヘブル 12 : 6）。

<sup>12</sup>父がかわいがる子をしかるように、主は愛する者をしかる（箴言 3 : 12）。

## II. 雅歌 3 : 6 – 11 の概要

- A. これは雅歌におけるイエスに関する第 4 番目の啓示である。花嫁にとって“安全な救い主”として、イエスは啓示される。イエスが私たちをこの墮落した世界から導き出されるとき、彼女はイエスの安全なリーダーシップの啓示を受け取る。安全という意味は、私たちが困難なところを一切通らないということではない。これは、従順・感謝・神への信頼感を伴った愛という領域において、私たちの心が成熟するステージに私たちが入るということを意味している。彼女はこの啓示を“彼をしっかりとつかまえた”（雅歌 3 : 4）ときに受け取った。
- B. 私たちの心にとって唯一の安全な場所は、私たちが山々に直面しても 100 倍の従順と 100 倍の信仰をもって歩むことができるようにしてくださる花婿なる王としてのイエスの啓示の中である。この啓示は、大患難時代を生き抜くために必要不可欠な啓示である。
- C. 聖霊はまず質問を投げかけ（雅歌 3 : 6）、それから励ましを伴った 2 つの回答を与える。最初に、私たちがイエスのリーダーシップの下にいたらどれほど安全であることを示すために、聖霊は軍隊の用語を用いて説明する（雅歌 3 : 7 – 8）。第二に、神の安全なリーダーシップを明らかにするために、聖霊は、王族の結婚の行進の様子を比喻として用いる（雅歌 3 : 9 – 10）。私たちの救いの頂点は、イエスを花婿なる王として知ることである（雅歌 3 : 11）。
- D. 悪魔は、イエスが安全なリーダーなどではないと私たちに嘘をつく。イエスが安全なリーダーであるというこの基本的な啓示によって、花嫁は整えられ、恐れを知らない、深い決意をもって雅歌 4 ~ 8 章を歩んでいくことになる。

## III. 聖霊は鋭い質問を投げかける（雅歌 3 : 6）

<sup>6</sup>没薬や乳香、貿易商人のあらゆる香料の粉末をくゆらして、煙の柱のように荒野（この墮落した世界）から上って来る人はだれ（雅歌 3 : 6）。

- A. この質問をしているのは誰かというのを独断で決めることはできないが、私の霊的な解釈では、イエスを象徴する氏名不詳の人としての聖霊であると考えている。雅歌において、3 度、“～人はだれ？”という同じ表現が使用されて、質問が投げかけられている（雅歌 3 : 6、6 : 10、8 : 5）。そのうちの 2 回は、聖霊が問いかけていることが明らかである（雅歌 6 : 10、8 : 5）。だから、ここでも聖霊が問いかけていると考えることが妥当である。
- B. この質問をしているのは、おそらく花嫁ではない。というのも雅歌 3 : 11 において、語り手は婚礼のことを“彼の婚礼”と言っているからである。もし花嫁が語っているとするのならば、“私たちの婚礼”と言うであろう。おそらく、聖霊が花嫁の唇を通して、娘たちにメッセージしているのであろう。
- C. 聖霊は質問を投げかけ、十字架・復活・昇天の後、永遠の街に入場してくる王としてのイエス



を指し示している。この質問によって、混乱ではなく、畏れ・不思議の想いが引き起こされる。この質問は、昇ってくるキリストの権威と不思議を指し示す。ここの表現は、旧約の犠牲のシステムとは対照的なイエスを表している。

- D. この墮落した時代の荒野から、イエスは勝利に満ちて登場する。イスラエルの荒野での40年間は、この墮落した世界から約束の地へと向かう私たちの格闘を表している。雅歌8：5において、花嫁は愛する者に寄りかかって、荒野から上ってくる。
- E. 神の栄光の中で天に昇っていくイエスを、ここでは煙の柱と表現されている（出エジプト19：18、イザヤ6：4、黙示録8：4）。幕屋においては、煙は神の臨在の現われを表す。いけにえの煙が神への甘い香りとして天に昇っていくように、神の炎の中で、イエスという煙いけにえはの柱のように天に昇っていく。

**<sup>8</sup>聖所は神の栄光と・・・から立ち上る煙で満たされ（黙示録15：8）**

- F. 天に昇っていくキリストのことを、没薬や乳香、貿易商人のあらゆる香料によって、香りをつけられた存在として表現している。没薬はイエスの死を表している。古代の世界では、没薬は非常に高価な埋葬に使用する香料であった。イエスが十字架で死なれたとき、没薬によって香りをつけられた。
- G. 乳香はイエスの香り高いとりなしを表している（ヘブル7：25）。大祭司が至聖所に入るとき、乳香の香炉を携えて入るように、イエスは天の至聖所に、とりなしで満たされた香炉を携えて入っていられる。天の祭壇の香料の金の鉢は私たちの祈りを表している（黙示録5：8；8：3-5）。
- H. 貿易商人の香料の粉末は、イエスの私たちに対する決意を表している。イエスは、美しい真珠（イエスの花嫁）を購入するために全ての物を売り払った商人について話をされた。貿易商人は、市場で香料の粉末を取り扱っている（売買している）結果として、いい香りを身にまとっている。イエスは、私たちに対する深い決意をもって、全ての物を売り払った香り高い貿易商人なのである。

**<sup>45</sup>また、天の御国は、よい真珠を捜している商人のようなものです。<sup>46</sup>すばらしい値うちの真珠を一つ見つけた者は、行って持ち物を全部売り払ってそれを買ってしまいます（マタイ13：45-46）。**

- I. イエスは十字架上で私たちのために苦しみ抜かれた。そのイエスが私たちのことを心にかけ、守ってくださらないことがあるだろうか。イエスの受肉と死は（6節）、彼が私たちの幸せのことを常に気にかけてくださっているということを示している。荒野における私たちの旅路中ずっと、イエスは、彼の死（没薬）と彼のとりなし（乳香）によって、私たちを罪から、また私たちを攻撃する全てのものから、私たちを守ってくださっている。イエスの私たち（貿易商人の香料の粉末）への決意が非常に大きなものであるから、私たちは快適な場所を出るという危険を冒すことができるのである。

**<sup>31</sup>神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。<sup>32</sup>私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょう（ローマ8：31-32）。**

#### IV. 聖霊の守りというミニストリー（雅歌 3 : 7-8）

<sup>7</sup>見なさい。あれはソロモンの乗るみこし。その回りには、イスラエルの勇士、六十人の勇士がいる。<sup>8</sup>彼らはみな剣を帯びている練達の戦士たち。夜襲に備えて、おのおのの腰に剣を帯びている（雅歌 3 : 7-8）。

- A. 軍事用語によってこの箇所では描写されているように、神の恵みの中に私たちが持っている神の守りと安全を見ることができる。
- B. ソロモン王は雅歌においては、王イエスの型である。ソロモンのみこしは、王族の婚礼の行列に用いられる。このみこしは、王を警備する者の肩の上に担がれる。ソロモンのみこしの中で、荒野の旅路中ずっと、王の花嫁は王のそばに座り、守られている。ソロモンのみこしは、荒野を通り、シュネム（花嫁の町）を通り、彼女を王のエルサレムの宮殿へと連れて行く。王の婚礼の行列が近づいてくるとき、町の人々は、砂埃の雲を見る。彼らはいまだかつて、これほどまでに剣と戦闘の装備を整えた勇敢な戦士たちを伴った行列を見たことがない。
- C. ソロモンのみこしは、“福音のみこし” もしくは“婚礼の馬車”を表す。このみこしは私たちのために用意されていて、イエスはこの墮落した世界という荒野から勝利に満ちて登場する。イエスは、彼の敵すべてに対して最終的に勝利し、みこしの中で休息している（詩篇 110 : 1-3、エペソ 1 : 20-22）。

<sup>20</sup>神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右の座に着かせて、<sup>21</sup>すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれました（エペソ 1 : 20-21）。

- D. このみこしの中で私たちはイエスとともに座り、天において王位に就くことになる（黙示録 3 : 21）。

<sup>6</sup>キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました（エペソ 2 : 6）。

- E. “福音のみこし” は、荒野を旅する間中、私たちの心が安全であるために必要な全てのものを供給してくれる。“福音のみこし” は、私たちがこの時代の荒野を旅する間、守られ、安全であるように、王の隣に座っている花嫁として、私たちを護送してくれる。それによって、私たちは罪と悪魔から守られる。
- F. ソロモンは、荒野の旅の間、花嫁を敵から守るために彼のみこしの周りに 60 人の練達した勇士を配置する。霊的な意味においては、これは霊的な戦いを意味している。戦争の専門家である 60 人の練達した勇士という十二分な警護を配置できるほどの余裕があるのは王だけである。
- G. みこしの回りの警護というのは、軍事用語で表現されているが、聖霊がミニストリーを守り、保護しているということを表している。ソロモンの警護というのは、聖霊によるとてつもない守りを表す。これら練達の勇士たちは、神によるとてつもない守りを表す。ソロモンは“幕屋に関する言葉”を使用し続ける。モーセの幕屋には 60 の支柱があった。
- H. この兵士たちは、“イスラエルの勇士”（イスラエル生まれの、生粋の）であって、傭兵や外国の兵士ではない。傭兵や外国の兵士は、お金のためだけに仕えているから、危険が来ると逃げ出してしまう可能性がある。イスラエルの勇士は、忠実で勇敢な心をもって、王のみこしの警

護にあたる。

- I. 花嫁は、このみこしの中に座しているとき、敵の夜襲を恐れない。というのは彼女は、練達の勇士たちに囲まれているからである。敵は、私たちが夜襲しようとしている。私たちの周りを警護している60人の練達の勇士たちと描かれているように、イエスは私たちのことを見守っておられる。私たちの旅路中、聖霊が私たちの周りを囲んでいてくださる。
- J. この兵士たちはみんな剣を持っていて、剣を取り扱うことに熟達している。彼らは戦争の専門家である。言い換えると、彼らは初心者ではなくて、経験を積んだ兵士であるということである。彼らは剣を腰に身に着け、瞬時に剣を抜けるようにしている。それは、眠っている間、剣を腰から離れたところに置いている兵士とは対照的である。彼らは、暗闇の力もしくは敵の攻撃を意味する“夜襲”に備えて、行動をすぐに取りれる準備ができている練達した勇士たちなのである（エペソ6：12）。

<sup>8</sup> 彼らはみな剣を帯びている練達の戦士たち。夜襲に備えて、おのおの腰に剣を帯びている（雅歌3：8）。

- K. 聖霊は、あらゆる悪魔の戦略を知っている戦争の専門家である（エペソ6：10－12）。聖霊は、神の恵みの中で、たくさんの“サービス機関”を用いられる。例えば、聖霊は、私たちに預言的な夢を与えたり、扉を開けたり閉じたりし、誰かの心を掻き立てて私たちのためにとりなしをさせたり、御使いを送り、私たちを通して聖霊の賜物を解き放ち、父なる神の愛を現すためにみことばの啓示を与え、私たちを安全な場所に導くために、イエスの十字架に関する啓示を与えてくださったりする。聖霊の私たちに対する警護は、情熱的で、熟練していて、入念である。
- L. また聖霊は私たちがあきらめたり、霊的に後退したりすることを防ぐ。私たちが自分の心を神に捧げ、聖書の原則のシンプルな境界線の中に留まりさえすれば、聖霊にとって許すのが難しい罪など一つもない。

<sup>13</sup> あなたがたの会った試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に会わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます（Iコリント10：13）。

<sup>24</sup> あなたがたを、つまずかないように守ることができ、傷のない者として、大きな喜びをもって栄光の御前に立たせることのできる方に（ユダ24）

- V. イエスの愛に溢れた救いは、私たちに大きな安全をもたらす（雅歌3：9－10）

<sup>9</sup> ソロモン王は、レバノンの木で自分のためにみこしを作った。<sup>10</sup> その支柱は銀、背は金、その座席は紫色の布で作った。その内側はエルサレムの娘たちによって美しく切りばめ細工がされている（雅歌3：9－10）。

- A. 私たちの安全が、王の婚礼の行進の言葉で表現されている（雅歌3：9－10）。福音のみこしはここではかつぎかごとして描かれている。王なるイエスは私たちに永遠のかつぎかごとを与えてくれる。ソロモンはカーテンによって囲まれた移動可能な椅子を作り、それは王の付き添いの者によって担がれる。
- B. ソロモンは彼の女王を運ぶために、特別に彼自らがみこし（かつぎかご）を作る。王自らがこ

れをデザインする。イエスご自身が私たちが休息できるかつぎかごを作ってくださいました。イエスは私たちを救うために人間にならなければいけなかった。イエスは天国にずっと留まるという選択を取らなかった。

- C. 福音のみこしはレバノンの木で作られている。幕屋の木は、金によって覆われている。木は人間性を表し、金は神性を表している。レバノンの杉は、神の栄光を納めるソロモンの宮殿を建てる際に用いられた。レバノンの木は、イスラエルにおいて、最も美しく、香り高く、高価で、強い木である。福音は、この地球上を歩いた人間のうち、最も強く、しかし、もっとも代価の大きい肉体によって作られた。イエスは完全な人間として現れた。
- D. 福音のみこしは、銀と金で作られている。銀は贖いを金は神のご性格を表している。銀の支柱は、王の席のまわりの柵である。みこしを支えるための柱は金でできている。ヘブル語の“支柱”という単語は“柵”という意味を持つ。支柱が金でできているということは、私たちの守りは、神の永遠の知恵と偉大な力の上に建てられているといことを意味する。花嫁は決してこの栄光の椅子から落ちることではない。
- E. 福音の椅子は紫であり、紫は王のまたは神の権威を表している。福音は、敵が私たちを攻撃するとき、私たちの人生を通して、イエスの権威を解き放つ。
- F. このかつぎかご（福音）の内装の織物は、神の愛によって織られている。内側は、エルサレムの娘たちあるいは弱い者たちへの神の情熱的な愛によって、飾られている。福音の内側もしくは心の内部での働きは、神の愛によって飾られている。神の対応はいつも愛に溢れ、優しい。
- G. 福音は、私たちに対する神の永遠の愛によって、動機付けられている。福音は愛によって飾られているのである。これはイエスの私たちへの愛を表している。福音のみこしの内装は、神の愛によって飾られている。私たちは、神のイエスへの愛と他の人々への愛を感じる。神のご計画は、聖徒たちに対する神の愛を通して初めて成し遂げられる。“私たちの上に翻る彼の旗じるしは愛である”と彼女は告白している。イエスがなされること全ては愛によって飾られている。この啓示によって、私たちは成長し、愛されていることを感じ、また神に愛を返す力を持つことができるようになる。神の愛情を理解しているとき、私たちは最も安全な場所に居ると言える。
- H. NKJ は“エルサレムの娘たちによって”と間違っして訳しているが、KJV は“エルサレムの娘たちのための”と正しく訳している。福音は“エルサレムの娘たちのための”神の愛で飾られているのであって、“娘たちによる”愛ではない。娘たちに対するイエスの愛であって、イエスに対する娘たちの愛ではない。

## VI. 聖霊は全教会を婚姻のパラダイムへと励まし導く

<sup>11</sup> *シオンの娘たち。ソロモン王を見に出かけなさい。ご自分の婚礼の日、心の喜びの日のために、母上からかぶらせてもらった冠をかぶっている（雅歌 3 : 1 1）。*

- A. 私たちは、花婿なる王としてのイエスを見つめるように召されている（ヘブル 1 2 : 2、ピリピ 3 : 8、イザヤ 3 3 : 1 7）。彼の婚礼の日、あらゆる権威を持ち、冠をかぶっている王としてのイエスについて黙想すべきである。冠をかぶったイエスを見ると、もう私たちは山々を恐れない（雅歌 2 : 8 – 1 3）。
- B. 母は教会を表している。神のみこころを行う者がイエスの母であり、兄弟である（マタイ 1 2 :

46-50)。神が私たちの霊の新生のために用いるサービス機関は、教会のメンバーである証人である。神は私たちの父であり、教会は私たちの母として描かれる。

- C. イエスはたくさんの冠を持っている。婚礼の冠は、国を征服したときに獲得する冠とは異なり、ユニークである。婚礼の冠は、他の冠とは明らかに異なった別の物である。イエスはゲッセマネに入られたとき悲しみに溢れていたが、喜びの日がやがて来ることを知っていた。冠は、歴史を通して贖われた人々の応答が蓄積された結果である。私たちの愛をもってイエスに冠を与え、彼の心を喜ばせることのできる者となること以上に大きな誇りはない。私たちの価値と誇りは、私たちの愛でイエスに冠を与えることができるように聖霊の力によってイエスを愛する油注ぎを受けながら歩むことに見出される。その日、私たちは自発的な心からの愛をもって、イエスに冠を与える。このことによって、私たちの人生が決まる。
- D. 母はイエスに冠をかぶらせる。地上の人間的な考え方においては、私たちが自発的な愛をもってイエスの王としての権威に応答するとき、教会が王としてのイエスに冠を授けるということを意味する。私たちが心からイエスを愛するとき、私たちの個人的な花婿なる王としてのイエスに冠を授けることができる。この冠こそが、イエスが最も求めておられる冠である。彼を喜ばせる冠なのである。イエスがどんな方であるのかを私たちが知るとき、私たちは、イエスにあって、私たちがどういう存在なのかを見つけ出すことができる。エルサレムの娘たちが彼女らの召命を見出したとき、彼女らはシオンの娘たちとして生きることができるようになる。イエスの婚礼の日については、黙示録19：6-8に描かれている。その日、私たちは全てのものを完全にイエスに明け渡す。
- E. 来るべき婚礼に関して、イエスはどのように感じておられるのだろうか？もちろん彼はそれを心待ちにし、喜んでおられる。これは他国と政治的な同盟を結ぶための政治的な結婚ではない。また私たちのイエスとの婚礼は、子供ができたから仕方がなく結婚に至ったというようなものでもない。

<sup>5</sup>花婿が花嫁を喜ぶように、あなたの神はあなたを喜ぶ（イザヤ62：5）。

## セッション 16

いつくしみ、大切に思われている心：イエスを愛するために備えられる（雅歌 4：1－8）

### I. 雅歌 2：8－3：11 の復習

A. イエスは花嫁がもっとイエスを経験することができるようにと、快適な場所から山の頂上へと呼び出す。しかしながら、花嫁はイエスの招きを断り、イエスに振り返って、彼女を伴わずに山々に向かってくださいとイエスに告げる。

<sup>8</sup>・・・ご覧、あの方が来られます。山々をとび越え、丘々の上をはねて。<sup>10</sup>私の愛する方は、私に語りかけて言われます。「わが愛する者、美しいひとよ。さあ、立って、出ておいで。」<sup>17</sup>あなたは帰って来て、険しい山々の上のもしかや、若い鹿のようになってください（雅歌 2：8－10、17）。

B. イエスが神の臨在を取り去ったとき、彼女は神の愛に溢れた訓練を経験する。彼女はイエスを捜し求めるが、見つけることができない。主は怒っておられないが、より深い関係を彼女と築きたいとねたむほどに望んでおられる（ヘブル 12：6）。

<sup>1</sup>私は、夜、床についても、私の愛している人を捜していました。私が捜しても、あの方は見あたりませんでした（雅歌 3：1）。

C. 雅歌 3：6－11 において、山々に直面しても、それにまさる 100 倍の気持ちで従い歩むことの能力を彼女に与えることができる花婿なる王としてのイエスのリーダーシップに関する啓示を花嫁は受け取る。彼女は、彼女の愛を求める王としてイエスを見る。私たちは、私たちの心の王としてイエスを愛することによって、イエスに冠を与えることができる。愛の“婚礼の冠”はイエスを喜ばせる。イエスはその冠を最も求めている。

<sup>11</sup>シオンの娘たち。ソロモン王を見に出かけなさい。ご自分の婚礼の日、心の喜びの日ために、母上からかぶらせてもらった冠をかぶっている（雅歌 3：11）。

### II. 雅歌 4：1－8 の概要

<sup>1</sup>ああ、わが愛する者。あなたはなんと美しいことよ。・・・あなたの目は、・・・鳩のようだ。あなたの髪は、・・・やぎの群れのよう、<sup>2</sup>あなたの歯は、・・・毛を刈られる雌羊の群れのようだ。<sup>3</sup>あなたのくちびるは紅の糸。あなたの口は愛らしい。あなたの頬は、・・・ざくろの片割れのようだ。<sup>4</sup>あなたの首は、・・・ダビデのやぐらのようだ。・・・<sup>5</sup>あなたの二つの乳房は、・・・子鹿のようだ。<sup>6</sup>・・・私は没薬の山、乳香の丘に行こう。<sup>7</sup>わが愛する者よ。あなたのすべては美しく、あなたには何の汚れもない。<sup>8</sup>花嫁よ。私といっしょに・・・来なさい。アマナの頂から、・・・ひょうの山から・・・（雅歌 4：1－8）。

A. 神による訓練の後、花嫁がまだ従順と信仰の分野において成熟していく途上にあるときにでさえも、イエスは彼女のことを美しいひとと呼ぶ。雅歌 4：1－5 において、イエスは、若い花嫁の人生における、8 つの“開花しつつある価値”を預言的に力強く肯定する。悪魔の私たちに対する非難に打ち勝つ、力強い肯定によって、イエスは私たちが弱いときに私たちを整えられる（黙示録 12：10）。

B. この箇所では、神が花嫁の中に生まれて欲しいと思っている 8 つの性格の特徴についての要

点を述べる。この箇所で使用されている象徴は、聖書全体を通して示されている表現である。

鳩の目：一途な献身と啓示の目

やぎのような髪：神に対する献身

毛を刈られた羊のような歯：みことばの肉を咀嚼すること

紅の糸のようなくちびる：贖いのことば

くちづけ：神との親密さ

覆われた頬：神の恵みに感動を受けた感情

ダビデのやぐらのような首：神に従うために私たちの意志を定めること

子鹿のような乳房：他の人の徳を高め、養う能力

### III. 私たちの心をイエスに据える

A. 雅歌 4：1－5において、花婿なる王イエスの私たちを大切に思われる心を見ることができる。完全にイエスに従い、神のことばを信じるために、彼女の心を定めることによって、花嫁はこのイエスの心に応答する（雅歌 4：6－8）。

B. イエスは私たちをいつくしみ、大切に思うことで、私たちを洗いきよめ、教会にイエスの栄光を解き放つ。

**<sup>26</sup>キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、<sup>27</sup>・・・栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。<sup>29</sup>だれも自分の身を憎んだ者はいません。かえって、これを養い育てます。それはキリストが教会をそうされたのと同じです（エペソ 5：26－29）。**

C. 弱い信者を変えていく神の第一の方法は、神がどれほど私たちのことをいつくしみ、大切に思っておられるかということを感じさせることである。このようにして、神は私たちの心から罪のしみと恥を取り除く。私たちが神からどれほど大切に思われているかということを感じることができたとき、私たちはイエスへの愛に確信を持ち、大胆になることができるのである。ダビデ王の人生の力は、神から愛されていることを感じる中に見出される。神の私たちが大切に思う心というのは、雅歌における最も重要なテーマのうちの一つである。

**<sup>35</sup>・・・あなたの右の手は私をささえ、あなたの謙遜（やさしさ）は、私を大きくされます（詩篇 18：35）。**

D. イエスが私たちの人生の“開花しつつある価値”を力強く肯定してくれるとき（私たちがつまずき、弱くなっているときでさえも）、私たちを彼の花嫁として認め、やさしさと愛をもって私たちを取り扱ってくれることによって、イエスは私たちのことをいつくしむ。

E. イエスは私たちのつまずきによって私たちの人生を定義しない。私たちの失敗を超えたところを見ておられる。私たちの心の中にある価値の種子と、私たちの心に向けているものによって、イエスは私たちを定義されるのであって、私たちが達成したことだけで判断されるのではない。彼は私たちの中にある“喜んで仕える霊”を見ておられる。イエスを愛し、イエスに従っていきたくて願う私たちの思いによって、イエスは私たちを定義される。

F. イエスが私たちのことをどのように定義しているのかを知ることによって、私たちが私たち自身のことをどのように考え、感じるかが決まってくる。イエスは、私たちの人生における性質の種子を見ておられる。彼は明確に、私たちの旅路の最後を見ておられる。

- G. イスラエルが強力なミデアン人に攻撃されたとき、ギデオンは恐れて、酒ぶねの中に隠れていた（士師記6章）。御使いが彼に現れて“勇士よ。主があなたといっしょにおられる。”と言った。主は、ギデオンの中にギデオン自身ですら見えていなかったものを見出しておられた。ギデオンがまだ働かせていなかった信仰と勇気の種子を彼の中に見ていたのである。主は、ギデオンの未来の姿にしたがって、彼を名づけた。ギデオンは、この後、イスラエルの偉大な軍隊のリーダーの一人になっていく。
- H. イエスは、ペテロがその後、恐れてイエスのことを否定するということを知っていながら、ペテロのことを岩と呼んだ（動かされないもの：マタイ16：18）。ペテロを外側から見ると、妥協者のように見えた。ペテロの不安定さがまた表に現れた。しかし、主はペテロの中に、勇気・安定性・忠実さの種子を見出し、ペテロのことを岩と名づけた。
- <sup>11</sup>ところが、ケパがアンテオケに来たとき、彼に非難すべきことがあったので、私は面と向かって抗議しました。<sup>12</sup>なぜなら、彼は、ある人々がヤコブのところから来る前は異邦人といっしょに食事をしていたのに、その人々が来ると、割礼派の人々を恐れて、だんだんと異邦人から身を引き、離れて行ったからです。<sup>13</sup>そして、ほかのユダヤ人たちも、彼といっしょに本心を偽った行動をとり、バルナバまでもその偽りの行動に引き込まれてしまいました（ガラテヤ2：11－13）。
- I. アブラハムはもう決して信仰がゆらぐことはないと言っておられるところから、アブラハムの人生の中で働かれている主の“編集作業”を見ることができる。
- <sup>20</sup>彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず（ローマ4：20）、
- J. ダビデに関する神の証は、ダビデが神のみこころを全て行い、神の目的を成就したということである。
- <sup>22</sup>・・・わたしはエッサイの子ダビデを見いだした。彼はわたしの心にかなった者で、わたしのこころを余すところなく実行する。<sup>36</sup>ダビデは、その生きていた時代において神のみこころに仕えて後、死んで・・・（使徒13：22、36）
- K. 主は誠実な信者のことを、神が愛する弟子たちと呼ぶ（ヨハネ13：23、19：26、20：2、21：7、21：20）。
- <sup>23</sup>弟子のひとりで、イエスが愛しておられた者が、イエスの右側で席に着いていた（ヨハネ13：23）。
- L. 悪魔は私たちのことを希望のない偽善者と呼ぶ。敵は、告発と非難によって、多くの人の力を徐々に弱めていく。悪魔は、私たちが自分のことを希望のない偽善者だと思わせることによって、あきらめさせる。悪魔は、私たちが未成熟と反抗を混同してしまうことによって、私たちがあきらめるのを望んでいる。
- M. 多くの人は、非難と無価値の炎と戦うために、非常に大きな感情のエネルギーを浪費している。非難と拒絶の重荷を管理するのは、多大なエネルギーを要する。このことによって、私たちが主と効果的に歩むことが妨げられる。失敗と恥によって心が埋め尽くされているからである。
- N. 多くの人は、神に従い、信じるという自分たちの心の意図に焦点を当てずに、成熟の度合いを何を達成したかで測ってしまっている。成熟の度合いを何を達成したかで測ろうとするとき、2つの霊的な問題の攻撃を受けやすくなる。
1. もし、十分に良いと判断したら、高慢になる可能性があり、そのことによって、失敗した他の人を非難してしまう。



2. もし、自分自身が失敗したら、非難されていると感じ、そのことによって、あきらめてしまおうとを感じる。

- O. 私たちの第一の焦点は、神の感情（美しさ）に焦点を当てることであり、私たちの心の意図を、神を完全に愛する（神のことばに従い、信じる）ことができるように定めることである。そうすれば、神の時に、私たちの中に成熟の勝利を完成してくださる。
- P. いつくしむこと、大切に思うことは、人が妻や子どもたちを変える方法である。全ての神の訓練は、神が私たちのことを大切に思っているが故に、生まれる。両親はしばしば子供達の中の“開花しかけている価値”を正しく解釈していない。献身と偉大さの“開花しかけている種子”を見ずに、失敗と受け取ってしまっている。

#### IV. 私たちが弱いときでも、私たちは神にとって美しい

- A. 花嫁の訓練の季節が終了するやいなや（雅歌 3：1－2）、主は彼女は彼にとって美しいと宣言する。このフレーズを 2 回繰り返すことで、イエスは花嫁の美しさに関するこの啓示の重要性について強調している。聖霊は私たちの目の前で神のトランペットを吹き、“見よ！あなたは美しく、私はあなたを愛している！”と叫んでいるのである。私たちが美しく、神から溢れるばかりの愛をもって愛されているという啓示によって、私たちは変えられる。

##### **1 ああ、わが愛する者。あなたはなんと美しいことよ。なんと美しいことよ（雅歌 4：1）。**

- B. 誠実な信者は弱いときにでさえ、神にとって美しいという啓示は、神の恵みの中で成長するための根源となる啓示である。“fair”という言葉は、聖書においては通常“美しい”と訳されている。これは、雅歌における主要なテーマのうちの一つである（雅歌 1：8、1：15、1：16、2：10、2：13、2：14、4：1、4：7、4：10、6：4、6：10、7：1）。
- C. 雅歌を通して、私たちの美しさというテーマが発展していくことを知ることは重要である。
- D. 私たちを愛することに喜び満ちている王、私たちを美しいと見てくれている王としてイエスを見ると、私たちは立ち上がることができる、全ての犠牲を許容することができる。このことによって、私たちはどんな山にでも登っていくことができる。どんな障害にも立ち向かっていくことができるのである。
- E. 次にイエスは、花嫁の人生における 8 つの“開花しつつある価値”を力強く肯定する（雅歌 4：1－5）。それぞれの特徴は種子の形で始まるが、それぞれ力強い肯定をもって呼び出される必要がある。私たちの心の中にある、イエスへの愛と従順の種子を肯定することによって、イエスは私たちが悪魔からの非難に耐えることができるように私たちを整えられる。
- F. 彼女の人生の 8 つの異なる側面について、イエスは祝福を宣言する。イエスは私たちに新しい名前をくださり、私たちがその名前を目指して成長できるようにとされる。これら全てのフレーズは、特定の方法で私たちの心に働きかける神の詩的なロマンスである。これら 8 つの価値は私たちに分け与えられる主の美しさの反映であり、これらの方法で私たちがイエスを愛するとき、イエスは喜ばれる（雅歌 3：11）。またこれら 8 つの価値は私たちの心も喜ばせる。
- G. 王は花嫁に農業のことばを用いて語りかける。というのも彼女はやぎの世話をし、ぶどう畑の手入れをしていたからである。全ての象徴・シンボルは、聖書のみことばによって解釈される。
- H. 王は彼女に山へ行こうと言った。しかし、この時点では、彼女は立ち上がって町まで行くこと

に対してはいと言ったに過ぎず、山まで行くとは言っていない（雅歌 3 : 2）。花嫁は雅歌 5 - 8 までは、完全に歩み出すことはしない。彼女はただはいと言っただけである。主はこの“はい”を価値あるものとしている。彼女は時が来れば成熟することを知っているからである。

- I. 3つの事柄が一緒になって、100%の決意をもって従うことができるように私たちを導く（雅歌 4 : 6）。第一に、彼女は神からの訓練を受けた（雅歌 3 : 1 - 2）。第二に、彼女は新鮮なイエスの啓示を受けた（雅歌 3 : 6 - 11）。第三に、彼女はイエスの目に映る彼女自身に関する新鮮な啓示を受けた（雅歌 4 : 1 - 5）。

#### V. 目：霊的な理解と啓示（雅歌 4 : 1）

<sup>1</sup>・・・あなたの目は、顔おおいのうしろで鳩のようだ（雅歌 4 : 1）。

- A. 目は霊的な直感を表している。パウロは私たちの理解の目について語っている（エペソ 1 : 18）。見ることはパウロにとって第一に優先されるものであった。というのも見ることは霊的に成長するための道であると考えていたからである（ピリピ 3 : 8 - 10 ; II コリント 3 : 18）。認識することから従順が流れ出す。私たちがこれまでとは違うように見るとき、これまでとは違うように感じるができる。
- B. 鳩の目は、純粹と忠誠を表す。聖霊は鳩として描かれる。鳩は、パートナーが死んでも、決して別の鳩とつがいになることはない。鳩はその忠誠心によって知られている。鳩の目は2つのものに焦点を合わせることができず、周辺視野を持たない。これは、心が一つであることを示している。ある瞬間には神の愛に献身し、信頼しているが、次の瞬間、妥協したり、非難されていると感じたりするという状態ではなくて、鳩は一つ心（一途な心）を持っているのである。花嫁の目は、欲望、失敗や成功ではなくて、イエスにしっかりと焦点が合っているのである。
- C. 彼女は、彼女が得た啓示に関して、謙遜を保っている。彼女は“顔おおい”の後ろに隠れ、神が彼女に語ったことのある部分はそっと隠している。彼女の神との秘密の生活、顔おおいの後ろの彼女の生活はプライベートなものである。有り余る啓示はパウロにとって、高慢になる誘惑であった（II コリント 12 : 7 - 9）。パウロは、知識はしばしば人を高ぶらせると教えている（I コリント 8 : 1）。

#### VI. 髪：イエスへの献身（雅歌 4 : 1）

- A. 花嫁の髪は神への献身を表している。ナジル人の髪は、彼らの聖別もしくは献身の外側から見えるしるしである（民数記 6 章）。ナジル人の誓いを立てた者は、髪を切ることが許されない。サムソンは自分の髪を切り、献身の誓いを破ったことで、彼の力を失ってしまった。また髪は神に従っていることの美しさを表している。パウロは女性の髪のことを、栄光と神の権威への献身を表すものとして語っている（I コリント 11 : 5、6、15）。

<sup>1</sup>・・・あなたの髪は、ギルアデの山から降りて来るやぎの群れのよう（雅歌 4 : 1）

- B. 花嫁は、やぎの群れで示されるように、威厳があり、堂々とした歩みをしている。

<sup>29</sup>歩きぶりの堂々としているものが三つある。いや、その歩みの堂々としているものが四つある。

<sup>31</sup>いばって歩くおんどりと、雄やぎ、軍隊を率いる王である（箴言 30 : 29 - 31）。

- C. 私たちは堂々と、神からの知恵をもらいながら威厳をもって、献身の道を歩むべきである。私たちの献身が、自分自身に注意を向けようとする肉の情熱によって汚染されてしまうことはよ

くあることである。

- D. 彼女の威厳のある髪もしくは献身は、よく養われている（みことばによって）結果である。ギルアデの山のやぎは溢れるほどに餌が与えられている。ギルアデの山は、やぎが十分に食べることができる広々とした場所を有する肥沃な地域として知られている。花嫁は、神の愛と神のことばによって十分に養われている。

#### VII. 歯：みことばの中の彼女の生活（雅歌 4：2）

<sup>2</sup>あなたの歯は、洗い場から上って来て毛を刈られる雌羊の群れのようにだ。それはみな、ふたごを産み、ふたごを産まないものは一頭もない（雅歌 4：2）。

- A. 歯は、肉を咀嚼し、それによって栄養を受けることができる能力のことを表している。赤ん坊は歯がないので、肉を咀嚼することができない。キリストにあってまだ幼い赤ん坊はみことばの肉を受けることができない（I コリント 3：1－2、ヘブル 5：12－14）。この価値は、神のみことばの肉を受けることができる花嫁の能力を示している。この彼女の歯に関する4箇所描写は農業の概念から由来している。彼女の歯は、強く、豊富で効果的である。
- B. 毛を刈られていない羊の毛は、不均一（アンバランスに）に成長してしまう。不均一な毛は肉の情熱のことを表している。ツァドクの祭司たちは亜麻布の服を着なければならず、ウール（毛織物）でできた服を着ることは禁じられていた。というのは、ウールの服を着ると、汗をかくからである（エゼキエル 44：15－18）。私たちの肉の情熱は、聖霊のコントロールのもとに置かれなければならない。
- C. “洗い場から上って来た”というのは、泥・汚れから清められたことを表している。私たちが神のみことばを食べるとき、私たちの歯は、洗い場から上って来た羊のようになる。みことばが私たちを洗ってくれる（エペソ 5：26）。
- D. 神のみことばを勤勉に学ぶことによって、他の人々へ大きなインパクトを与える。彼女の歯は、毛を刈られた羊の群れのようにで、その羊はふたごを産み、不妊の羊は一匹もない。彼女のミニストリーのインパクトは、霊的な不妊状態ではなく、実りのあるものである。ふたごを産むというのは、有り余るほどの実りを表している。みことばを黙想するとき、私たちは私たちの生活を、洗い場から上がって来たばかりの羊のようにきれいに保っておくことができる。この歯の美しさは、神のみことばを黙想する彼女の決意を表している（I テモテ 4：6－16）。雅歌 4：1－2は、雅歌 6：5－6に見られるように、彼女の目、髪、歯そして頬について描写している。

#### VIII. くちびる：神の油注がれたことば（雅歌 4：3）

<sup>3</sup>あなたのくちびるは紅の糸（雅歌 4：3）。

- A. 彼女のくちびるというのは彼女が話すことばを表している。彼女のことばが紅であるということは、彼女のことばによって、人々へ贖いをもたらすという意味である。紅の糸は、イエスの血潮による神の贖いを表している。斥候がエリコに来たとき、ラハブは、贖いを受けるために、赤いひもを窓のところに結んだ（ヨシュア 2：21）。モーセは赤い色の羊の毛で牛の血を取り、人々へ注ぎかけた（ヘブル 9：19）。
- B. 私たちが人々の徳を高めるように語るとき、紅の糸は私たちのくちびるにインパクトを与える

(コロサイ 4 : 6)。有益なことばは、私たちの人生に神の恵みが働かれている証拠である (エペソ 4 : 29、ヤコブ 2 : 3)。

#### IX. 口：神との親密さ (雅歌 4 : 3)

<sup>3</sup> *あなたの口は愛らしい (雅歌 4 : 3)。*

- A. 雅歌 1 : 2において、神との親密さを表す口づけという言葉で口について描かれている。私たちのイエスとの親しい交わりは、イエスにとって、美しい (愛らしい) のである。雅歌においては、くちびるはことばを表し、口は親密さを表す。王は、花嫁に対して、このことを力強く肯定するとき、くどくどしておらず、冗長ではない (ストレートに断言している)。
- B. 私たちが自分たちの愛をイエスに差し出すとき、しばしば、その愛がイエスにとって十分ではないと思え、弱いものであるかのように捉えてしまう。しかしながら、神は、たとえ私たちが未熟な状態であっても、私たちの愛は美しい (愛らしい) と宣言してくださる。主は、神と私たちの交わり・親交を喜んでおられる。

#### X. 頬：彼女の感情の個性 (雅歌 4 : 3)

<sup>3</sup> *あなたの頬は、顔おおいのうしろにあって、ざくろの片割れのようにだ (雅歌 4 : 3)。*

- A. こめかみ (NAS では temple という単語が使用されている。頬、表情) は、人の感情を表す。こめかみと訳されているヘブル語の単語は、表情、頬とも訳することができる。いくつかの別の聖書訳では、こめかみと訳さず、頬と訳している。私たちの表情や頬によって、私たちの感情は表に現れる。頬や表情に、私たちは怒り、喜び、悲しみを見て取ることができる。頬は人の感情を映し出す窓である。
- B. 彼女の神を敬う感情は甘いざくろのようである。それらは神にとって甘い。ざくろは、イスラエルにおいては、非常に甘い、おなじみの果物である。ざくろは大祭司のガウンやエポデの上に描かれる。
- C. ざくろが割れると、中は赤い。赤は彼女の謙虚さ、恥ずかしいことがあると赤面する彼女の性癖を表している。
- D. 売春婦は、たとえみだらな行動をとったとしても赤面することはない。表情が赤いということは、恥ずかしいことに対して敏感であることを示している (赤は赤面の赤)。顔おおいのうしろは、謙虚な、彼女の神との隠された生活を表している。それは純粋なものであって、誰かに見せるためのショーではない。謙虚で優しさに溢れた隠された生活がある。

#### XI. 首：彼女の決意した意志 (雅歌 4 : 4)

<sup>4</sup> *あなたの首は、兵器庫のために建てられたダビデのやぐらのようだ。その上には千の盾が掛けられていて、みな勇士の丸い小盾だ (雅歌 4 : 4)。*

- A. 聖書において、首は、固いうなじになったり (抵抗・反抗する)、従順になったりする意志のことを表している。征服した敵の首に足を置くことは、彼らの服従を象徴的に表している。
- B. 花嫁の意志は、神の御前で自分の心をしっかりと据えたダビデの心のようなものである (詩篇 57 : 6)。これは、二心を持つ者とは対照的である。
- C. ダビデのやぐらは、エルサレムの町を効果的に守るために、強く、高いものであった。花嫁の

選択は、ダビデのやぐらのように強い。

- D. 兵器庫には、戦争のための武器が保管されている（ネヘミヤ 3 : 19、25）。神に従っていくと決意した意志は、悪魔の王国に立ち向かう武器を保管している倉庫のようである。ここに書かれている盾は、小さく、丸い盾のことで、腕に付けるものである。千の盾というのは、敵に対しての守りが十分であることを示している。彼女の意志は、戦場で試された 1000 人の練達の戦士が持つ盾のようである。彼らによって、敵から完全に守られる。これは、私たちを守るのに使用される信仰の盾のことをも示している（エペソ 6 : 16）。
- E. イエスに従うという私たちの揺るがない決意は、信仰の勝利において、重要な側面である。私たちの意志に働きかけて、Yes と神に言うことに代わるものは何もない。主は、無理やり私たちに Yes と言わせて、贖いの境界線を犯すようなことは決してされない。

## XII. 胸：他の人を養う能力（雅歌 4 : 5）

<sup>5</sup> **あなたの二つの乳房は、ゆりの花の間で草を食べているふたごのかもしか、二頭の子鹿のようだ（雅歌 4 : 5）。**

- A. 胸は、母親が子供に乳を与えるように、他の人々を養うことを示している。子鹿は若々しい動物である。花嫁の胸は、ふたごの二頭の子鹿のようである。これは、みことばの乳を他の人々に与え、養うときに、二倍の分、二倍の能力があることを示している。子鹿のような胸というのは、決して乾くことのない若い母親の乳を表している。年老いた女性とは対照的である。
- B. 花嫁のミニストリーは、純粋を表すゆりの間で養われる子鹿にたとえられている。イエスは、彼女に銀の飾りを作ること、すなわち、ミニストリーの中で備えられることを約束していた（雅歌 1 : 10）。

## XIII. 彼女の決意は、霊的成長のための基盤である（雅歌 4 : 6）

<sup>6</sup> **そよ風が吹き始め、影が消え去るころまでに、私は没薬の山、乳香の丘に行こう（雅歌 4 : 6）。**

- A. 彼女は、十字架を受け入れる、もしくは、没薬の山に行くことを決意することによって、彼女のことを美しいと肯定してくれているイエスに応答する。山は、彼女の従順の邪魔をする障害のことを表している（雅歌 2 : 8-9）。
- B. 没薬は、高価であるが、非常に素晴らしい香りをもった埋葬のために使用する香料である。没薬は、イエスの死を表している。没薬は、私たちの肉にとっては、埋葬の香料であるが、私たちの霊にとっては、香り高い香料である。没薬の山である（快適な場所ではない）。山であって、小さな丘ではない。イエスは、十字架に向かわれたとき、イエスご自身の人生において、没薬の山を登っていかれた。私たちは、この山を登るために、自分自身を手放し（ルカ 9 : 24）、自分自身の十字架を背負っていく。
- C. 聖書を通じて、乳香は祈りを表している。没薬の山を登っていくために必要な力を受け取るために、私たちは乳香の丘を登っていく。イエスは、誘惑に陥らないための力を受けるために祈るようにとペテロを励ました（マタイ 26 : 40-41）。乳香の丘での生活がなければ、没薬の山を登っていくのは難しすぎる。私たちの祈りの生活によって、私たちの心は強められ、自分自身の肉の思いを否定しながら、イエスの十字架を受け入れることができる。祈りの丘を登っていく度合いにしたがって、肉の思いを否定しつつ登る山を受け入れていくことができる。

- D. 乳香の丘は、没薬の山より、低い。少しの祈りでも、高い山に対して準備するのに十分である。私たちの祈りの力は、山々に対する私たちの努力よりもはるかにまさる。短い祈りでも、大いに効果を発揮する。私たちの祈りの生活によって、私たちは私たちが受けるに値しないような大きなものを受け取ることができる。
- E. 花嫁は、快適な場所を出て、山に向かう、もしくは、恐れずに神のみこころの中を歩むことを明確に決意する。“私は行きます！”という言葉は、神にとって、どれほど栄光に満ちた言葉だろうか！
- F. 彼女は“私の道”と言っている（NAS では、I will go my way と書かれている）。私たちは、神が私たちそれぞれに用意してくれているユニークな道を通って行かなければいけない。神は、私たちそれぞれを特別にあつらえた旅に招いておられる。没薬の山への私たちのユニークな道は、私たちの人生における神の目的に従って、人それぞれにユニークな困難さも伴う。
- G. 彼女は、全ての妥協がなくなるまで、もしくは、そよ風が吹き始め、影が消え去るまで、没薬の山を登り続けると決意する。影は、小さな狐（雅歌 2 : 15）のような、弱さのあるところ、妥協のあるところを表している。朝の光は（NAS では、“そよ風が吹き始め”のところが“Until the day breaks”と書かれている）、夜の間の格闘の後に、新しい一日、もしくは、勝利に満ちた新しい季節をもたらす。このことは、私たちが、将来、神の完全な臨在の中に生きる永遠の日々を表すのと同時に、私たちがこの地球上で、より大きな光の中で生きる勝利の時を表している。

#### XIV. イエスによる肯定の新鮮なことば（雅歌 4 : 7）

<sup>7</sup>わが愛する者よ。あなたのすべては美しく、あなたには何の汚れもない（雅歌 4 : 7）。

- A. イエスは雅歌の中で、13回、彼女のことを美しい（beautiful）と呼ぶ。この箇所までで、イエスは彼女のことを8回、“美しい（beautiful）とか魅力的（fair）”と呼んでいる。“All fair”（最高に魅力的）という言葉は、NAS では“altogether beautiful”（完全に美しい）と訳されている。雅歌の中で初めて、イエスは“all”（最高の）という言葉在这里追加している。これは、彼女が山へ行くことを決意したからである。彼女はただ“はい”と言っただけで、まだ山に向かったわけではなかった。しかしながら、イエスは彼女の“はい”の中に、何の汚れも見出すことができない、言い換えると、イエスのリーダーシップに抵抗している領域を彼女の中に見出すことができない。
- B. 彼女は、2重の試練（雅歌 5 : 2-8）に直面するまでは、山へは行かなかった。イエスは、彼女が十字架を喜んで受け入れるのを見ている。主は、彼女の“喜んで仕える霊”によって彼女を定義しているのであって、彼女の弱い肉や成熟度によって彼女を定義したりしない。

#### XV. 霊的戦いへの召命（雅歌 4 : 8）

<sup>8</sup>花嫁よ。私といっしょにレバノンから、私といっしょにレバノンから来なさい。アマナの頂から、セニルとヘルモン山の頂から、獅子のほら穴、ひょうの山から降りて来なさい（雅歌 4 : 8）。

- A. 王はここで初めて、彼女のことを花嫁と呼ぶ。山へ行くという彼女の決意によって、彼女は今や、花嫁のような心で生きることができるようになった。彼女は今や、王の花嫁としての心を持つ。雅歌の次の4章で、私たちは彼女の愛が成熟に成長していく姿を見ていくことになる。

- B. イエスが受け取る相続分は、愛によって等しくくびきを負い愛に溢れた花嫁という永遠のパートナーである。十字架で終わるのではない。十字架によって、イエスに花嫁と彼の家族である父が与えられるのである。教会は、愛に満ちた従順を伴った婚姻関係というアイデンティティーをもって、生きていくことになる（黙示録 22 : 17）。
- C. イエスは、彼が行く所にはどこにでもついてくるように、霊的戦いの場所であるレバノンの山々から来て、イエスと共に来ようにと彼女を招く。ゲッセマネに彼と共に来ようにとイエスは彼女を招いているのである（雅歌 5 : 2-7）。
- D. 彼女はここで初めて、山へ行こうというイエスからの元々の挑戦に従う（雅歌 2 : 10、13）。ソロモンは、北イスラエルのレバノン山脈の森の中にある彼の家へと花嫁を招待する。レバノンは香りの高い花々に満ちている（雅歌 4 : 11、ホセア 14 : 6）。その栄光はイザヤ 35 : 2 に描かれている。
- E. レバノンは地理的な場所を表すのと同時に山脈でもある。セニルとヘルモンは、そのレバノン山脈にある 2 つの異なる山頂である。ヘルモン山は、ヨルダン川の東にある山である。ヘルモン山は、エモリ人からはセニル山とも呼ばれている（申命記 3 : 8-9）。アマナ山は聖書の他の箇所には書かれていないが、セニル山とヘルモン山の隣にあったと信じられていて（申命記 3 : 9、4 : 48、I 歴代誌 5 : 23）、ヘルモン山脈の一部である。
- F. 彼女は、アマナ、セニル、ヘルモンの山の頂から見ると、すなわち、イエスの視点（天の視点）から見ようになる。普通の観点からのみ困難さを見てみると、私たちの心はくじけてしまう。霊的戦いに勝利するためには、イエスの視点から物事を見る必要がある。
- G. イスラエルがヨルダン川の東側に居たアモン人を征服した後、これら東側の山々の頂上に登り、ヨルダン川の西側に位置している約束の地を見た。イスラエルはこの山に登る前に、二人のエモリ人の王（オグとシホン）を打ち負かさなければならなかった（申命記 3 : 1-11）。彼女は霊的戦いに参与する戦う花嫁であり、天の領域に座っている。
- H. 山の頂上には、獅子やひょうが居る。彼女はこれら獅子やひょうと戦わなければならない。彼らは人間を襲う動物である。サタンは、私たちが食い尽くそうとするほえたける獅子である（I ペテロ 5 : 8）。この箇所は霊的戦いについて述べている（エペソ 6 : 10-12）。
- I. “いけにえの山々” には、イスラエルの人々を追ひ狙う野生の動物が居る（詩篇 76 : 4）。ハバククは、レバノンの山には、イスラエルの人々を恐れさせている獣について書いている（ハバクク 2 : 17）。

## セッション 17

### 私たちに奪われた神の心（雅歌 4 : 9 – 5 : 1）

#### I. 雅歌 4 : 1–8 の復習

- A. 神の訓練の季節の後、まだ花嫁は、従順と信仰において成長している途上にあるのに、イエスは彼女のことを美しいと呼んで、彼女を驚かせる。イエスに従っていこうとする彼女の望みが、彼女の人格の中にはっきりと形造られる前に、イエスはその望みが彼女の中にあるのを明確に認めた。雅歌 4 : 1 – 5 において、ソロモンは、農業の言葉を用いて、シュラムの娘の 8 つの側面について語った。花嫁の人生における 8 つの“開花しつつある価値”を力強く肯定する。それらの価値が彼女の人格の中にはっきりと形成される前に、彼女の心の中の望みとして、神から認められる。
- B. 私たちの従順は、従っていこうと心を定めたときに始まるのであって、私たちの行動のある分野において、勝利を獲得してから始まるのではない。私たちが神に従っていこうと心を定めたときから、私たちが格闘している分野において、私たちは戦争を宣言することになる。それ故、私たちは成長過程のそれぞれの段階においてでさえも、神の愛情に溢れたあわれみを確信をもって受け取り、神の喜びを感じることができるのである。もちろん、私たちはイエスに従うために心を定めるだけでは満足しない。私たちは完全な勝利を求める。
- C. 私たちは、自分たちが弱いときでさえ、神にとって美しい。花嫁の訓練の季節（雅歌 3 : 1 – 2）のすぐ後に、主は、彼女が神にとって美しいと宣言する。誠実な信者が、弱いときでさえ神にとって美しい存在であるという啓示は、神の恵みの中で成長するための基盤となる啓示である。私たちはこの啓示によって変えられる。

<sup>1</sup> ああ、わが愛する者。あなたはなんと美しいことよ。なんと美しいことよ（雅歌 3 : 1）。

D. 彼女の恐れを知らない一途な決意（雅歌 4 : 6）

<sup>6</sup> そよ風が吹き始め、影が消え去るところまでに、私は没薬の山、乳香の丘に行こう（雅歌 4 : 6）。

- E. 花嫁は、イエスからの招きに従って、彼と一緒に山へ行く（雅歌 2 : 8 – 13）と決心することによって、イエスによる力強い肯定に対して応答する。彼女は今、没薬の山へ向かうことによって、十字架を受け入れる。“私は行きます！”と言って、快適な場所から立ち上がり、山へ向かう固い決意をする。
- F. 彼女はただ“はい”と言っただけで、まだ実際には山へと向かっていない。彼女が二重の試練（雅歌 5 : 2 – 8）に直面するまでは、彼女は山を登らない。しかし、イエスは、彼女が進んで十字架を受け入れる姿を既に彼女の中に見出している。主は、彼女の喜んで仕える霊によって彼女を定義するのであって、彼女の弱い肉や成熟度合いによって、彼女を定義するのではない。
- G. イエスは、彼女を“あなたのすべては美しい”（雅歌 4 : 7）と呼ぶことによって、とてつもなく力強い肯定の思いを彼女に対して注ぎだす。
- <sup>7</sup> わが愛する者よ。あなたのすべては美しく、あなたには何の汚れもない（雅歌 4 : 7）。
- H. イエスが雅歌において初めて彼女のことを花嫁と呼んだときに、花嫁は王とともに霊的戦いに参戦した。山に行くという彼女の新しい決意をもって、彼女は今や、王の花嫁としての心を持ち運ぶことになる。雅歌のここから先の 4 章で、私たちは彼女の愛が成熟していく過程を見る



ことができる。

<sup>8</sup>花嫁よ。私といっしょにレバノンから、私といっしょにレバノンから来なさい。アマナの頂から、セニルとヘルモンの頂から、獅子のほら穴、ひょうの山から降りて来なさい (雅歌4:8)。

- I. 次に、イエスは花嫁に対する彼の希望を明らかにし (雅歌4:9-10)、そして彼女の神を第一にする生活と、植物が勢いよく育っている庭 (雅歌4:11-15) と表現される実りのある彼女のミニストリーをイエスは力強く肯定する。彼女はイエスの完全な介入を望み祈る (雅歌4:16)。

## II. イエスの心は彼の人々によって奪われる

<sup>9</sup>私の妹、花嫁よ。あなたは私の心を奪った。あなたのただ一度のまなざしと。あなたの首飾りのただ一つの宝石で、私の心を奪ってしまった (雅歌4:9)。

- A. この聖句は雅歌全体を要約している。神が彼らと関係を持ちたいという強い望みで満ちているということを多くの信者は知らない。信じる私たちに奪われた神の心の定義は“あり得ないほど魅力的なその人の故に喜びの感情によって満ちていること”である (Webster's Collegiate Dictionary)。
- B. イエスの奪われた心に関する啓示を受けることで、私たちは100倍の従順を持つ事ができるようにと備えられる。激しいまでに従い通そうとする花嫁の決意 (雅歌4:6) は、雅歌5:2-8において実行される。
- C. 私たちの救いは、神の御前において、義に関する法的な地位を獲得する以上のものである (I コリント5:21)。私たちは、神の私たちに対する愛情を理解しなければならない。何故か？ 私たちのためのイエスの情熱について私たちが理解している以上の情熱を私たちが神に対して持つことができないからである。神が最初に私たちを愛してくれたことを理解しているから、私たちは神を愛することができるのである (I ヨハネ4:19)。神の心は、人々への喜びで満たされている。

<sup>10</sup>私は、私の愛する方のも。あの方は私を恋慕う (雅歌7:10)。

## III. 神に関するクリスチャンのパラダイム

- A. 神に関するクリスチャンのパラダイムは、神の愛の深い感情に関する啓示に基礎を置く。心優しい父としての、また、情熱に溢れた花婿としての神に関する啓示は、この宗教の歴史において、新しい考えである (William Barclay のヘブル4章に関する解説書を参照)。
- B. ユダヤの伝統において、神に関して最も強調されることは、罪から完全に分け隔てられたという意味において、神は聖いという点である。ユダヤの人々は、人間と経験を共有する聖い神ということは考えられないのである。神が人間と経験を共有できないのは、彼が神だからである。言い換えれば、神は神であるという定義によって、人間と経験を共有できない程の“高い”ところに存在するということである。
- C. ギリシャの哲学者は、神のことを人間とは感情的に離れたところに存在するものとしてみていた。ギリシャの思想家で最も有名な人々は、ストア派である。ストア派の人々は、神のことを“無関心・無感動”の存在と見ていた。すなわち、彼らは神が何も感じる事ができない存在だと考えていた。もし神が何かを感じるとするならば、神が感じたことによって、神が影響を

受けたり、コントロールされたりするはずだと考えたのである。悲しみや喜びを感じる者は、そのような感情を持った対象によって、傷つけられ、それによってコントロールされるという弱さを持つストア派の人々は論じていた。その当時、神の感情に影響を与える者は神よりも偉大であると信じられていた。エピキュロス派（ギリシャ哲学の一派）の人々は、神々は、人間界から切り離された永遠の至福の中に生きていると信じていた。神々は中間世界に住んでいるが故に、地球上で起こる出来事については一切気付いていないと信じていた。神々は、至福の地に住んでいるから、人間界の出来事からは完全に引き離されていると考えられていた。

D. ユダヤ人は、神のことを人間から分離された聖い神だと理解していた。ストア派の人々は、感情のない神だと信じていた。エピキュロス派の人々は、引き離された神だと信じていた。これらの考えとは全く対照的に、人間の感情、痛み、弱さに神自らをあえてさらされる神という新しいキリスト教の神概念が現れたのである。

E. イエスは、人間の経験を抱きしめ、それ故、人間に同情できる者として、この世に現れた。

<sup>15</sup> 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。が、すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです（ヘブル4：15）。

<sup>8</sup> キリストは御子であられるのに、お受けになった多くの苦しみによって従順を学び（ヘブル5：8）、

F. 聖なる神が優しさ、同情、愛情という感情を持ち、また謙遜という外套を身にまとい、挙句には十字架上で神の怒りを経験するということは、1世紀の宗教的な考え方にとって、想像もできないことであった。その当時、この神に関するクリスチャンの概念が如何に劇的であったかを認識するのは難しい。

G. 深い愛情を持つ能力というのは人間の霊にしかない特有のものである。この点において、私たち人間は、最もあがめられている天使たちとも区別されることになる。聖書のどこにも、天使が愛情という感情を持つ能力があるとは書かれていない。彼らには喜びがあるとは書かれているが、愛情を持つとは書かれていない。この愛情の能力を持つことによって、神の栄光の中を信じられないほどの高みまで登っていくことができるが、反面、神の恵みに抵抗すれば、もがき苦しむほどの墮落の深みに落ちていくという危険性もはらんでいる。

#### IV. 私たちに対する愛に関するイエスの啓示（セッション5の復習）

A. 神は、神が神を愛するのと同じように私たちのことを愛している：父なる神のイエスに対する愛（愛情）の度合いは、イエスの私たちに対する愛の度合いと同じレベルである。これが私たちの価値に関する究極の宣言である。このことによって、全ての信者は、自分のことを“神のお気に入り”と見ることができる権利を持つことになる。

<sup>9</sup> 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい（ヨハネ15：9）。

B. “愛情を基盤とした従順”は最も強固な従順である。なぜならそれはイエスの愛情を経験することから流れ出すものだからである。またこれは最も安定し、一貫した従順である。なぜなら愛に病んだ人は、愛のためにどんなことでも耐えることができるからである。この従順は、“義務を基盤とした従順”（神の臨在を感じないときの従順）や“恐れを基盤とした従順”（否定的な結果を恐れることによって動かされる）よりも力強いものである。

- C. 私たちが神のご性質の中にあるとてつもない情熱を理解するとき、福音がもっとも豊かに湧き出る。神が十字架上で私たちのために成し遂げられたことを理解し、また来るべきリバイバルにおいて、また永遠に続く時間の中で、神が私たちのために成し遂げられることを理解することは必要不可欠である。それと同時に、私たちは神がどのように感じているのか、また神が何かをなされるときなぜそのことをなされるのかという理由を知る必要がある。
- D. 神の愛情を経験することによって、私たちは自分自身の命よりも神のことを愛することができるようになる。

**<sup>11</sup> 兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった (黙示録 12 : 11)。**

- E. パウロは神のために払った自分自身の犠牲について考え、そしてイエスを知るという栄光に比べたら、自分があきらめてきたことは、ちりあくたに過ぎないと証している。愛しているものにとっては、どんな大きな犠牲でも大きすぎるということはない。
- F. 重要な質問は“なぜ神の心は私たちのために奪われているのか？”ということである。神のご人格は、愛に溢れた希望に満ち満ちている。神は私たちの人生をそのような優しさをもって評価される。なぜならそれが神が持つておられるご性格だからである。イエスがどのような人であるのか、どのように感じ、どのように人生を取り扱われるのかを知ることによって、イエスが私たちの中に美しさを見出しておられることの理由が分かる。

#### V. イエスの花嫁に対する情熱的な愛情

**<sup>9</sup> 私の妹、花嫁よ。あなたは私の心を奪った。あなたのただ一度のまなざしと、あなたの首飾りのただ一つの宝石で、私の心を奪ってしまった。<sup>10</sup> 私の妹、花嫁よ。あなたの愛は、なんと美しいことよ。あなたの愛は、ぶどう酒よりもはるかにまさり、・・・ (雅歌 4 : 9-10)。**

- A. 私の妹ーイエスの妹と呼ばれることは、イエスが人となったということを意味している (ヘブル 2 : 11-17)。イエスは、すべての点で兄弟たちと同じようになるためには (ヘブル 2 : 17)、筆舌に尽くしがたいほどの辱めと苦しみを耐えなければならなかった。私たちがイエスの妹としてイエスに会うためには、イエスは遥か彼方から降りて来なければいけなかったし、私たちは非常に高く上がらないといけない (マタイ 12 : 49-50)。
- B. 私の花嫁ーイエスの花嫁と呼ばれることは、イエスが私たちと愛情に満ちたパートナーシップを持ちたいという望みを持っていることを表している。
- C. 妹として、また花嫁としての彼女の二重のアイデンティティーは7回強調されている (4 : 8、4 : 9、4 : 10、4 : 11、4 : 12、5 : 1、5 : 2)。
- D. あなたのただ一度のまなざしーイエスの心は、私たちが彼に捧げる献身のまなざしのひとつひとつに、動かされる。イエスを愛そうとする私たちの心の動きによって、イエスは感動するのである。私たちの従順は、イエスに従っていこうと私たちの心を定めたときに始まるのであって、特定の領域で勝利を獲得してから始まるのではない。だから、私たちは成長のプロセスの各段階において示される、イエスの愛情に満ちた憐れみを確信をもって受け取り、イエスの喜びを感じることができるのである。神の心を動かす私たちのまなざしは、愛に溢れた従順から来るまなざしである。従順なまなざしは、質の高い決意に基づいている。結婚のパラダイムは、神の真の恵みのメッセージに根ざしている。

E. あなたの首飾りのただ一つの宝石—聖書において、首はしばしば意志を表し、抵抗したり（うなじのこわい）、柔順になったりする。王は花嫁の首を、敵を撃退するのに効果的であるダビデのやぐらと描写し（雅歌4：4）、また、彼女を美しく見せる宝石をちりばめた首飾りと描写している（雅歌1：10）。彼女の首飾りの一つ一つの宝石は、花嫁がイエスに与えた従順の一つ一つの応答を表している。私たちが愛のためになしていく一つ一つの決意はイエスの心を動かす。私たちの心がイエスへの愛のために動いたその動き一つ一つをイエスは覚えておられる。

<sup>10</sup> 神は正しい方であって、あなたがたの行ないを忘れず、あなたがたがこれまで聖徒たちに仕え、また今も仕えて神の御名のために示したあの愛をお忘れにならないのです（ヘブル6：10）。

<sup>42</sup> わたしの弟子だというので、この小さい者たちのひとりに、水一杯でも飲ませるなら、まことに、あなたがたに告げます。その人は決して報いに漏れることはありません（マタイ11：42）。

F. あなたの愛は、なんと美しい—イエスは私たちの愛を美しいと思っておられる。愛を基盤とした私たちの従順は私たちを美しいものとし、イエスに大きな喜びをもたらす。

<sup>3</sup> あなたがたは、髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を着飾るような外面的なものでなく、<sup>4</sup> むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです（Iペテロ3：3-4）。

G. あなたの愛は、ぶどう酒よりもはるかにまさり—花嫁が“あなたの愛はぶどう酒よりも快く”（雅歌1：2）と叫んだときの彼女の宣言をそのまま用いて、イエスは花嫁のイエスに対する愛を表現する。ぶどう酒の比喻は、私たちの心をうきうきさせる物を表している。結婚という文脈で語られるぶどう酒は、祝いの飲み物を表している。聖書は、神の祝福という“良いぶどう酒”と、罪という“悪いぶどう酒”を指し示している。神の愛を経験することは、私たちがこの時代において経験することのできる他の特権や最良の経験よりも素晴らしい。

H. イエスは“私たちの愛は、神が創造された創造物の美しさよりも、神にとって美しい”と言っているのである。イエスは、彼の権威の下にあるあらゆるものよりも、私たちの愛を価値あるものだと思ってくださる。イエスは、創造物の罪を洗い清めるためだけにこの地に来られたのではない。イエスの心は花嫁の従順への新しい決意を見て、喜びで満たされる（雅歌4：6）。

## VI. 彼女の心（彼女の思い、言葉そして行動）に対するイエスの喜び

<sup>10</sup> あなたの愛は、ぶどう酒よりもはるかにまさり、あなたの香油のかおりは、すべての香料にもまさっている。<sup>11</sup> 花嫁よ。あなたのくちびるは蜂蜜をしたたらせ、あなたの舌の裏には蜜と乳がある。あなたの着物のかおりは、レバノンのかおりのようだ（雅歌4：10-11）。

A. あなたの香料のかおり—は、神のみことばに満たされている彼女の心を表している。香料の目に見えないかおりが、植物の内側にある品質を表しているように、私たちの思い・考えは、私たちの内面の生活のかおりである。神に従っていこうとする私たちの意志とみことばを黙想することは香料のかおりとして神の御前に立ち昇っていく。

<sup>14</sup> しかし、神に感謝します。神はいつでも、私たちを導いてキリストによる勝利の行列に加え、至る所で私たちを通して、キリストを知る知識のかおりを放ってくださいます。<sup>15</sup> 私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神の前にかぐわしいキリストのかおりなのです（IIコリント14-15）。

- B. すべての香料にまさって一稀少な香料は高価な贈り物として用いられていた。シバの女王はソロモン王に香料を送った（II 列王記 10 : 2）。賢者は、イエスが王であると信じていたから香料をイエスのところに携えてきた（マタイ 2 : 11）。祭司は香料を犠牲として、また、供え物として用いていた（出エジプト 30 : 23-24）。
- C. あなたのくちびるは蜂蜜をしたたらせ—という文章は、神に賛美と祈りを捧げるとき、また他の人々を養い、支えることによって人々を祝福するとき、花嫁の言葉は蜂蜜のように甘いということを表している（雅歌 2 : 14）。花嫁の贖いのくちびるまたは言葉は、紅の糸として描写されている（雅歌 4 : 3）。蜂蜜は心を喜ばせるものであり、その味は甘い。蜂が蜂蜜を生産するのには、長い時間と非常な労力が必要である。
1. 花嫁よ—イエスは、花嫁から彼に語られた全ての愛の言葉に気付いている。
  2. あなたの舌の裏には蜜と乳がある—蜜と乳は、約束の地の繁栄を表す2つの食べ物であり、赤ちゃんに与えられた食べ物である（I ペテロ 2 : 1）。聖書において、人の徳を高めるために話すというテーマが何度も繰り返し出てきて、それは重要なテーマである（エペソ 4 : 29、コロサイ 4 : 6）。“舌の裏”という言葉は、個人的な、プライベートな考えを示している。欺きに満ちている口は、“舌の裏”に問題があると言われる（もしくは心に問題があると言われる。詩篇 10 : 7）。花嫁は、彼女自身が考えていることと一致したことを語っている故に、彼女の“舌の裏”には真理がある。彼女の考えていることと語っていることが一致している故に、彼女は誠実なのである。
- D. あなたの着物のかおりは、レバノンのかおりのよう—この箇所は、神の御前にかくわしい花嫁の行いについて語られている。着物は、花嫁の従順な行為について語っている（黙示録 19 : 7-8）。イエスは、私たちが神への奉仕なしの人生という恥で終わることのないように、私たちに着物を身に着けるようにと警告している（黙示録 16 : 15）。またイエスはラオデキヤの教会に、裸の恥を現さないように、イエスから白い衣を買い、身に着けるようにと忠告している（黙示録 3 : 18）。レバノン山は香り高い杉の木と花々で有名である。これは、私たちが自分自身のために時間とお金を費やす生活とは対照的である。またパウロは、ピリピの教会から経済的な捧げものを受け取ることを、神が喜んで受けてくださる香ばしいかおりであると表現している（ピリピ 4 : 18）

## VII. 花嫁の、イエスに対するとてつもない献身

<sup>12</sup>私の妹、花嫁は、閉じられた庭、閉じられた源、封じられた泉（雅歌 4 : 12）。

- A. 閉じられた庭—は、プライベートな庭である（公開されていない）。動物が庭を台無しにすることのないようにフェンスで囲まれている。王の庭の目的は、普通の庭が食べ物を育てることを目的としているのとは対照的に、王に喜びと休息を与えることである。王の庭の世話をするのは、たくさんの奉仕者による多大な労力が必要である。教会は神の庭である（I コリント 3 : 6-9、雅歌 6 : 2-3、2 : 16）。
- B. “閉じられた庭” “閉じられた源” “封じられた泉” として生きることは、罪や妥協によって私たちが汚れることから守るということを意味している。妥協することのないように私たちの心に鍵をかけることによって、私たちは王の喜びの場所となるのである。ふたのない水を注ぎられる器は汚れているとみなされる（民数記 19 : 15）。

<sup>15</sup>ふたをしていない口のあいた器もみな、汚れる（民数記 19 : 15）。

- C. 封じられた源と泉ーは、汚れされていない水の供給を表している（動物によって汚されていない）。イスラエルにおいては、泉は非常に稀で、庭を豊かに繁栄させるために極めて貴重な水の供給源である。封じられた泉として私たちが生きることは、神にとって非常に稀で貴重なことである。
- D. ヨブは、聖くないものは一切目にしないと、自分自身の目に契約を結んだ（ヨブ 31 : 1）。こうすることにより、彼は自分自身の心を“閉じられた庭”とし生きることができた。

### VIII. 若い花嫁の実りの豊かさに関する描写

<sup>13</sup>あなたの産み出すものは、最上の実をみよらざるの園、ヘンナ樹にナルド、<sup>14</sup>ナルド、サフラン、菖蒲、肉桂に、乳香の取れるすべての木、没薬、アロエに、香料の最上のものすべて（雅歌 4 : 13-14）。

- A. 花嫁は、素晴らしい果物、香りの高い植物やたくさんの木々、最高の香料で満たされている果樹園として描写されている。このことは、彼女の豊かで実りに満ちた人生とミニストリーについて表している。果物は、神の中であって、生き生きとした心を伴う信仰の深さ（ローマ 6 : 22、7 : 4-5、ガラテヤ 5 : 22、エペソ 5 : 9、ヘブル 12 : 11、13 : 15、ヤコブ 3 : 18）、また他の人々へのミニストリー（ヨハネ 4 : 36、ローマ 1 : 13、15 : 28、ピリピ 1 : 22、コロサイ 1 : 5-6）を表している。
- B. ざくろや最上の実は甘く、他の人々へ素晴らしい影響を与えることを示している。ヘンナ樹にナルドは、私たちの人生における聖霊の高価で多くの犠牲を伴う働きを表している。ナルドとサフラン、菖蒲と肉桂は、彼女のミニストリーにおいて見られる多様な恵みを表している。乳香の取れるすべての木は、祈りのミニストリーを表している。没薬とアロエは、十字架と自分に死ぬことを表している。また香料の最上のものすべてというのは、彼女のミニストリーを通して他の人々に分け与えられる恵みを表している（II コリント 2 : 14-16）。

### IX. 花嫁の人生における聖霊のミニストリーに関する三重の描写

<sup>15</sup>庭の泉、湧き水の井戸、レバノンからの流れ（雅歌 4 : 15）。

- A. 花嫁は3つの水の源を持っていると描かれている。この3つの源は、私たちの人生で経験する聖霊の異なる働き方を示している。神を信じる者は、水のそばに植わった木として描かれる（詩篇 1 : 3）。頑なな心は乾いていると表現される（イザヤ 1 : 30）。イエスは私たちが生ける水の井戸となることを約束しておられる（ヨハネ 4 : 14、7 : 38）。泉は私たちの内に住まれる聖霊を表している。井戸は、神にある私たちの歴史について示している。流れは、高いところから私たちのところに注がれる聖霊について表している。
- B. 泉は地面の下に隠れて存在する水の源である。このことは、内側にある供給源もしくは内在されているキリストについて示している（コロサイ 1 : 27）。ここで使用されている庭という単語は複数形で（閉じられた庭が単数形であることと対照的である）他の人々へ祝福をもたらす神の油注ぎを表している。
- C. 井戸は水を貯蔵する能力について示している。水を貯蔵できるので、いつでも必要なときに取り出すことができる。井戸の水は、貯蔵されているので、旱魃のときに水を供給することができる。これは、私たちの過去の神との経験から引き出すことのできる私たちと神との歴史につ

いて示している。過去に蓄えられた供給源を表している。

- D. 流れは、外側を流れる水の流れを表す。流れは地上を流れ、泉は地下にある。流れは、勢いのある水の流れを示す。これらの流れは、山々からもしくはレバノンの高地から流れる。即ち、高きところから来る聖霊の“水の供給”を表している。このことは、外側からの供給源を表している（使徒 8：18）。

#### X. 油注ぎの増加を求める彼女の叫び

<sup>16</sup> 北風よ、起きよ。南風よ、吹け。私の庭に吹き、そのかおりを漂わせておくれ。私の愛する方が庭にはいり、その最上の実を食べることができるように（雅歌 4：16）。

- A. 彼女は神の善さに関して、今や十分な確信を持っているので、二重の祈りを捧げることができるようになった。彼女は逆境を表す北風と祝福を表す南風の両方を求めて祈る。彼女は、彼女自身が神に喜ばれる香り高い庭となるためには、この北風と南風の両方が戦略的な役割を果たすことを知っているのである。
- B. 北風よ、起きよーこれは、試練と困難という厳しく冷たい風を表す。この祈りは、雅歌 5：3－7 で答えられる。この時、彼女は私が“究極の二重の試練”と呼ぶ試練の中を通ることになる。
- C. 南風よ、吹けー彼女の 2 番目の祈りは、彼女を成熟させるための新鮮な祝福の風をイエスが彼女に送ってくれるようにという祈りである。私たちの人生の季節ごとに必要な北風と南風の適切なバランスを知っているのは神のみである。神のみが私たちの成り立ちと召命を知っているのである。
- D. 私の庭に吹きー彼女は、自分の心とミニストリーの庭が神から深く影響を受けるように望んでいる。私たちが難しい状況の中で働いているとき、私たちが自覚していないプライド、野望、怒りなどの深いポケットは、自分自身に明らかにされないことが多い。その香りを漂わせておくれー彼女は、神の香り高い臨在に満たされたいと願っている。言い換えると、彼女は愛に成長したいと願っているのである。
- E. 私の愛する方が庭に入りーここで、彼女の庭から王の庭へと表現が変わる。彼女は完全に神のものでありたいと願う。彼女は聖化のための油注ぎを望んでいる。彼女は自分の人生とミニストリーを、彼女自身のものではなくて、“彼の”庭とみなしている。イエスは教会に相続分を持っている（エペソ 1：18）。この箇所が雅歌における転換点となっている。雅歌において最初の 4 章は彼女が受ける相続分について焦点が当てられていたが、ここからは神が受ける相続分へとその焦点が移る。その最上の実を食べることができるようにー彼女の中で聖霊が働かれた結果である実をイエスが楽しむことができるようにという意味である。

#### XI. イエスは花嫁という彼の相続分を楽しむ

<sup>1</sup> 私の妹、花嫁よ。私は、私の庭にはいり、没薬と香料を集め、蜂の巣と蜂蜜を食べ、ぶどう酒と乳を飲む。友よ、食べよ。飲め。愛する人たちよ。大いに飲め（雅歌 5：1）。

- A. 花嫁は今やイエスの完全な所有の下となった。イエスは 9 回“私の”と言い、彼女の人生とミニストリーをイエスが所有していることを表現している。私の庭、私の妹、私の花嫁、私の没薬、私の香料、私の蜂の巣、私の蜂蜜、私のぶどう酒、私の乳。

- B. 私は、私の庭にはいりーイエスは雅歌4：16の彼女の祈りに答える。4：16において彼女はイエスに来て食べることができるようにと祈った。イエスは、妹としてのまた花嫁としての二重の関係の中でのイエスが受ける相続分として、彼女の人生を完全に所有するためにやって来た。
- C. 没薬と香料を集めーイエスは聖霊が教会を通して生み出したものを集める。没薬は、十字架を胸に抱きつつイエスに私たちが従っていく時を示している。また香料は彼女の人生における恵みの分与について示している。
- D. 蜂の巣と蜂蜜を食べーイエスは成熟した教会の実を大いに楽しむ。彼女は4：16においてイエスに来て食べてくれるようにと頼んだ。イエスは、聖霊が教会に解き放ったものを楽しむ。蜂蜜は、彼女の人生からイエスが大いに楽しむことのできる喜びに溢れた食べ物を表している。
- E. ぶどう酒と乳を飲むーイエスは花嫁がイエスに対して抱いている愛を祝う。ぶどう酒は祝宴を示し、乳は力を表している。イエスは彼女の愛を祝い、そのことにより喜んでいる。
- F. 友よ、食べよ。飲め。愛する人たちよ。大いに飲め。ーイエスは、教会が成熟した信者たちの実りを楽しむことを望んでいる。愛する人たちとは、他の信者のことである。パウロは自分自身の中に働く死と他の人々へ流れるいのちについて語っている(Ⅱコリント4：10－12)。パウロはここで、自分自身の中に働く死を通して、神の香料が神と人々を祝福するという難しさを受け入れている。彼女は、主ご自身が大いに楽しむことのできる、また教会へ与えたいと思う生ける供え物なのである(ローマ12：1)。私たちは、恵みによって、他の人々を力づけ、養うことができるのである。
- G. まとめ：雅歌5：1におけるイエスの5つの行動のまとめ。イエスは没薬を集め、蜂蜜を食べ、飲み、そして、彼女自身をご馳走として他の人々へ提供する。イエスは彼の庭に入った、言い換えれば彼女の近くに来了。イエスは、彼の没薬と香料を集めた、即ち、聖霊が彼女の中で生み出したものを用いた。彼は蜂の巣と蜂蜜を食べた、即ち、彼女の成熟さという実りを大いに楽しんだ。彼はぶどう酒と乳を飲んだ。即ち、彼女の成熟さを祝い、それによって喜んだ。彼は友だちを食べに来るようにと招いた、即ち、教会が成熟した信者の実りを楽しむことを望んだ。



## セッション 18

### 成熟のための究極の二重の試練（雅歌 5：2－9）

#### I. 復習：彼女の人生において神の臨在が増し加わるようにとの花嫁の叫び

A. 恵みという香料の香りが彼女の人生に漂うようにと、花嫁は、逆境という北風と祝福という南風が同時に彼女の庭に来るようにと祈った。彼女は確信をもって、試練を表す厳しい北風が来るようにと祈った。この試練は雅歌 5：3－7における二重の試練としてやってくる。

<sup>16</sup>北風よ、起きよ。南風よ、吹け。私の庭に吹き、そのかおりを漂わせておくれ。私の愛する方が庭にはいり、その最上の実を食べることができるように（雅歌 4：16）。

B. この時、彼女の心の庭がイエスの庭になった。彼女は自分の人生を自分のものと見ず、“彼の”庭と見ている。イエスは、人々の中に、イエスご自身の相続分を持っている（エペソ 1：18）。この箇所が雅歌における転換点である。ここまでの最初の 4 章では、彼女の焦点は彼女自身の相続分にあった。それに対して、この後の 4 章では、彼女の視点はイエスの相続分に向けられる。彼女がイエスの所有の下で生きるとき、イエスは彼女の中にある彼自身の相続分を楽しむことができる。雅歌 5：1において、イエスの所有を表すためにイエスは 9 回“私の”と言い、雅歌 5：2では 6 回言っている。

<sup>1</sup>私の妹、花嫁よ。私は、私の庭にはいり、没薬と香料を集め、蜂の巣と蜂蜜を食べ、ぶどう酒と乳を飲む（雅歌 5：1）。

#### II. イエスは、苦しみの共有へと彼女を招く（雅歌 5：2）

<sup>2</sup>私は眠っていましたが、心はさめていました。戸をたたいている愛する方の声。「わが妹、わが愛する者よ。戸をあけておくれ。私の鳩よ。汚れのないものよ。私の頭は露にぬれ、髪の毛も夜のしづくでぬれている。」（雅歌 5：2）

A. イエスは、ゲッセマネの園で苦しまれた者としてのご自身を現される。イエスは、イエスが受けた苦しみを共有するようにと私たちに招いておられる（ピリピ 3：10）。彼女はこの招きに従い（雅歌 5：3－5）、その後、2 重の試練がやってくる。最初に、イエスは彼女から彼の臨在を取り去ることによって、彼女を試される（雅歌 5：6）。そして次に、イエスは霊的に権威のある人々が彼女を不当に扱うことを許される（雅歌 5：7）。そして彼女は愛をもってこれに応答する（雅歌 5：8）。

<sup>10</sup>私は、・・・またキリストの苦しみにあずかることも知って、・・・（ピリピ 3：10）

B. イエスは“ゲッセマネの園のイエス”として彼女に姿を現すことによって、彼女を親密さへと招いている。ゲッセマネの園で長い夜を耐えたことによって、イエスの髪は露（夜のしづく）にぬれている。

C. イエスは、神との新しい深みを経験させるために、“イエスのために”彼女の心を開けるようにと彼女を招く。イエスは雅歌 5：1で宣言したとおり、イエスに対する彼女の心を完全に所有している。雅歌 4：16で彼女が北風を求めた祈りに対して答えるために、イエスは彼女の心のドアをノックする。ノックするということは、神が主導権を取って、私たちを霊的に新しい次元へと導いていくことを望んでいるということを示している。ドアを開けるということは、神との新しい交わりのレベルに入っていくということを意味している。

<sup>20</sup> 見よ。わたしは戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは彼のところにはいて、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする（黙示録3：20）。

D. 彼女は北風がまさに吹こうとしているときにあっても、神に信頼し、眠っていた、もしくは休息していた。イエスは嵐の中で眠っていたとき、“信仰にある休息”を知っていた（マタイ8：23－27）。彼女が従順に歩むとき、彼女の心は霊的な事柄に対して目覚めている。私たちも霊的に目覚めている状態でなければならない（Iテサロ5：6、ローマ13：11、エペソ5：14）。

E. 彼女は雅歌2：8のときと同じようにイエスの声を再び聞く。イエスは、彼女の愛する者として、再び彼女のところに姿を現す。花婿の声は、バプテスマのヨハネが声となったときに、彼が聞いた声である。

<sup>29</sup>・・・そこにいて、花婿のことばに耳を傾けているその友人は、花婿の声を聞いて大いに喜びます。・・・（ヨハネ3：29）

F. イエスは、彼女のイエスとの親密な関係を表す異なる側面を表現する4つの名前で彼女を呼ぶことで、彼女を励まし、イエスに心を開かせようとする。この4つの名前で呼ばれることで、彼女は、イエスへの愛に確信を持つ。

<sup>2</sup>戸をたたいている愛する方へ。『わが妹、わが愛する者よ。戸をあけておくれ。私の鳩よ。汚れのないものよ（雅歌5：2）

1. わが妹—と呼ぶことで、イエスは彼女と同じ人間であるということを示しておられる。すべての点において、兄弟と同じようになるために、イエスは言語に絶する苦しみを耐えられたのである（ヘブル2：11－17）。

2. わが愛する者—と呼ぶことで、イエスの優しい愛を彼女に思い起こさせる。“恵みによる動機付け”は、恐れや裁きではなくて、愛と感謝によって動機付けられる。“愛情に基づく従順”は、それがイエスの愛情を経験することによって流れ出しているのも、最も強い従順の型である。またその従順は、最も一定した従順である。というのも恋に病んだ人は愛のためならどんなことにでも耐えることができるからである。

3. わたしの鳩—は、彼女の心と忠誠心が一途であることを示している。聖霊は鳩として描かれる。鳩はそのパートナーが死んでも、違う鳩とつがいになることは決してない。鳩はその忠誠心によって知られている。鳩の目は2つの別の物に焦点を当てることができず、周辺視野がない。このことは、妥協しない心の一途さを表している。彼女の目はイエスに向けて定められている。

4. 汚れのないもの（perfect one）—彼女の思いは神に完全に従うことである。汚れのない（完全な、完璧な）というのは、成熟しているということを示している。彼女は成熟した従順な心を持っている。この試練の前（雅歌5：2）と後（雅歌6：9）で、イエスは彼女のことを汚れのないものと呼ぶ。それは彼女が全ての妥協を拒否したからである。

### III. 花嫁は、完全な従順をもって、イエスに応答する（雅歌5：3－5）

<sup>3</sup>私は着物を脱いでしまった。どうしてまた、着られましょう。足も洗ってしまった。どうしてまた、よごせましょう。<sup>4</sup>私の愛する方が戸の穴から手を差し入れました。私の心は、あの方のために立ち騒ぎました。<sup>5</sup>私は起きて、私の愛する方のために戸をあけました。私の手から没薬が、私

の指から没薬の液が、かんぬきの取っ手の上にしたたりました（雅歌5：3－5）。

- A. 花嫁は、彼女の心をイエスに開けるために、従順に立ち上がる。彼女が従順に応答したことが、この試練の後の最初のイエスの言葉によって明らかに分かる（雅歌6：4－5）。私たちはイエスの正義の外套によって被われている（イザヤ61：10、ゼカリヤ3：1－5）。彼女は汚れた自分自身の着物を脱ぎ捨て、イエスの正義の外套を身に着けた。彼女は再び彼女の着物を着ることを拒む、即ち、妥協して生きることを拒む。彼女は“どうしてまた私の着物を着ることができるでしょう”と宣言している。

<sup>10</sup>・・・主がわたしに、救いの衣を着せ、正義の外套をまといせ、・・・（イザヤ61：10）

<sup>14</sup>主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません（ローマ13：14）

<sup>6</sup>・・・私たちの義はみな、不潔な着物のようです。私たちはみな、木の葉のように枯れ、・・・（イザヤ64：6）

- B. 彼女は彼女の足を洗った。イエスはペテロに彼はきよいが、足だけはきれいにする必要があると言われた（ヨハネ13：6－14）。これは、ペテロが毎日霊的なきよめを受ける必要があるということを語っている。彼女は妥協によって彼女の足を汚すことを拒んだ。NIVの訳では、ベッドから出ることを拒むことによって、あたかも彼女が妥協しているように書かれているが、文脈から見る限り、彼女が従順にイエスに従っていることは明確である。
- C. 神の手から、彼女の心の戸の穴と取っ手に恵みが解き放たれる（使徒11：21－23）。彼女はイエスのことを彼女の愛する方と呼ぶ。彼女が直ちに立ち上がって、ゲッセマネのイエスに対して戸を開くとき、彼女の心は愛に溢れ、イエスを恋い慕っている。以前の彼女は立ち上がることを拒んだ（雅歌2：13、17）。

<sup>4</sup>私の愛する方が戸の穴から手を差し入れました。私の心は、あの方のために立ち騒ぎました。<sup>5</sup>私は起きて、私の愛する方のために戸をあけました。私の手から没薬が、私の指から没薬の液が、かんぬきの取っ手の上にしたたりました（雅歌5：4－5）。

- D. イエスは彼の手を戸の穴に入れているが、これは彼女が彼女の心の扉を開けるのを助けているという意味である。また彼女の心のかんぬきの取っ手とは、彼女の決断に影響する彼女の考え、感情を表している。
- E. 彼女の手と指から没薬が液体のように彼女の心の取っ手に滴り流れている。これは、これから彼女にやってくる2重の試練の困難さを彼女が耐えることができるのを助ける溢れるばかりの恵みを表している。没薬は埋葬に用いられる香り高い香料である。これは自己に死ぬこと、十字架を受け入れる決意を表している。液体状の没薬というものは存在しない。彼女の指から滴り落ちる没薬は、没薬の山へ行く（雅歌4：6）という彼女の決意を彼女が達成するときに働く信仰の行動のことを表している。

#### IV. 最初の試練：イエスは彼女から彼の臨在を取り去る（雅歌5：6）

<sup>6</sup>私が、愛する方のために戸をあけると、愛する方は、背を向けて去って行きました。あの方のこゝろで、私は気を失いました。私が捜しても、あの方は見あたりませんでした。私が呼んでも、答えはありませんでした（雅歌5：6）。

- A. 主は雅歌において2度、花嫁から姿を隠す（雅歌3：1－2、5：6）。雅歌5：6－7においては、彼女が完全に従順に歩んでいるにも関わらず、イエスは彼の臨在感を彼女から取り去っ

てしまう。だからこの季節は、彼女の不従順のために彼女が雅歌 3 : 1 - 2 で受けた訓練とは異なるということが分かる。

B. 雅歌 5 章において、彼女がイエスに心を開いて従っている故にイエスは彼女のことを“汚れないもの”と呼ぶ。彼女がイエスに心を開き従っているのは、彼女の心が恋い慕い（4 節。心が立ち騒ぐ。英語では *yearn*）、愛に病んでいる故に（8 節）飛び跳ねている（5 節。起きて。英語では *leaps*）ことから明らかである。

C. 彼女の最も大きな望みは、神の臨在を経験することである（雅歌 1 : 2 - 4、2 : 3 - 6）。神から愛されていると感じること、神への愛を感じることは、私たちが経験できる中で最もパワフルな喜びである。

<sup>1</sup>・・・主のことばが幻のうちにアブラムに臨み、こう仰せられた。「・・・あなたの受ける報いは非常に大きい。」（創世記 15 : 1。NIV 訳では *I am your exceedingly great reward*. となっており、直訳すると、「私（神ご自身）があなたの受ける非常に大きな報いである」となる）

D. イエスは、決して私たちを離れず、見捨てないと約束された（ヘブル 13 : 5）。しかし、イエスは時にはっきりとすることができるイエスの臨在感を取り去られることがある。それは私たちが試し、花嫁が雅歌 4 : 16 において祈ったように、私たちの愛をさらに成熟させるためである。これは、私たちの犯した罪のせいでもなく、悪魔からの攻撃でもない。神は時に、従順に従う者から御顔を隠され、より素晴らしい方法で私たちのイエスを恋い慕う気持ちを引き出そうとされる。

<sup>5</sup>・・・主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」（ヘブル 13 : 5）

E. 中世のカトリックの宗教家の何人かは、神に従順に歩んでいる人々が経験する神の試練の季節のことを“魂の暗い夜”と呼ぶことがある。これは聖書に出てくる言葉ではないが、神の臨在を感じるができない季節を表す言葉である。この言葉は 16 世紀の十字架の聖ヨハネが最初に言ったと言われている。ほとんどのプロテスタントはこのような神学を持っていない。

F. ヨブは苦難に遭ったとき、正しい人であったが、この苦難を乗り越えて、神との親密さを確固たるものとした。

<sup>8</sup>主はサタンに仰せられた。「おまえはわたしのしもべヨブに心を留めたか。彼のように潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっている者はひとりも地上にはいないのだが。」（ヨブ 1 : 8）

<sup>5</sup>私はあなたのうわさを耳で聞いていました。しかし、今、この目であなたを見ました（ヨブ 42 : 5）。

G. 彼女はイエスを呼び続け、より激しく彼を捜したけれども、見つけることができない。この神の沈黙の季節は、私たちのイエスへの愛を成熟させるためのイエスの訓練の一部である。この試練のとき、私たちの信仰の告白は一定であり続けられないといけない。“私の上に翻るあの方の旗じるしは愛”だからである（雅歌 2 : 4）。

## V. 第 2 の試練：花嫁は迫害され、拒絶される（雅歌 5 : 7）

<sup>7</sup>町を行き巡る夜回りたちが私を見つけました。彼らは私を打ち、傷つけました。城壁を守る者たちも、私のかぶり物をはぎ取りました（雅歌 5 : 7）。

A. 夜回りや城壁を守る者というのは、神の民を守る町の城壁を見張る指導者や霊的に権威ある者

のことを示している。彼らは彼女を打ち、傷つけた。彼らが彼女を拒絶し迫害する前に、彼女は彼らと純粋な関係を持っていたが故に、彼らは彼女を傷つけた。見知らぬ人はあなたに対して非難することはできるが、友だちだけがあなたを傷つけることができる。友人の家で傷つけられるというのは、イエスでさえ耐えられた神の経験の一部である（詩篇 55 : 12 - 21）。

- B. 指導者たちは彼女のかぶりものを取り去った。このことは彼女の霊的な覆いを取り去ることを意味し、それ故、キリストの体における彼女の役割の場所を奪い去るということを意味している。

#### VI. 謙遜と愛による彼女の応答（雅歌 5 : 8）

- A. 彼女の謙遜さは、未成熟なエルサレムの娘たちからさえも教えを受けようとする霊の中に見ることができる。

<sup>8</sup>エルサレムの娘たち。・・・あなたがたが私の愛する方を見つけたら、・・・私が愛に病んでいる、と言って下さい（雅歌 5 : 8）。

- B. この二重の試練を受けるとき、彼女はイエスに対してつまずかず、むしろ逆にイエスに対して愛に病む。

<sup>9</sup>だれでも、わたしにつまづかない者は幸いです（マタイ 11 : 6）。

- C. 花嫁の彼女の人生における 2 重のビジョンは、イエスの臨在を経験し、ミニストリーにおいてイエスと共に走ることである（雅歌 1 : 4）。神からの彼女に対する約束の多くはこの 2 つのビジョンに基づいている。それ故に、この試練の中で、全てが失われてしまったように感じられる。ポイントは、イエスの臨在が感じられないとき、また状況が困難であるときにでも彼女がイエスに従って行けるかどうかにある。彼女は彼女自身の慰めのために神を求めているのか？それとも神のために神に従って行くのか？主は人生で何が起ころうとも神に従って行く人々を切望しておられる。これがイエスの相続物となるために最も重要なポイントである。イエスは、愛に等しくくびきを負った花嫁を求めておられる。
- D. 雅歌に見られる花嫁の 7 つの危機には、①罪による危機（1 : 5 - 6）、②恐れによる危機（2 : 8 - 9）、③神による訓練の危機（3 : 1）、④完全なる従順を求められることによる危機（4 : 6、16）、⑤神によって臨在が取り去られることによる危機（5 : 6）、⑥教会での拒絶の危機（5 : 7）、⑦迫害と分裂の危機（6 : 13）が含まれる。

## セッション 19

### 二重の試練に対する花嫁の応答（雅歌 5：8－6：5）

#### I. 復習：彼女の人生において神の臨在が増し加わるようにとの花嫁の叫び

A. 花嫁は、彼女の人生に恵みと神の臨在の香料が流れ込むようにと、逆境の北風と祝福の南風が彼女の心の庭に吹くようにと祈った。

**<sup>16</sup> 北風よ、起きよ。南風よ、吹け。私の庭に吹き、そのかおりを漂わせておくれ。私の愛する方が庭にはいり、その最上の実を食べることができるように（雅歌 4：16）。**

B. この祈りは、聖書に見られる、成熟した愛と献身を求める最も素晴らしい祈りの内の一つである。この祈りは、私たちの香料が現されるため、また神への愛、人々への愛が成長するために必要なことはどんなことであっても神にやってもらいたいという祈りである。

C. この箇所が雅歌における転換点である。雅歌には2つの主要なセクションがある。最初の雅歌 1～4 章は、神にある私たちの相続分を受けることに焦点が当てられている。第2に、雅歌 5～8 章では、神が私たちの中に神自身の相続分を受け取ることに焦点が当てられている。北風を求める祈りに対する答えは雅歌 5：3－7 でやってくる。

D. “ゲッセマネのイエス”として彼女に現れ（雅歌 5：2）、彼との親密さの新しい深みを経験するため、“イエスのために”彼女の心を開くようにと求めることによって、主は花嫁を親密さへと招く。

1. 彼女は従順に応答し（雅歌 5：3－5）、その後、2重の試練がやってくる。最初に、イエスは彼の臨在感を彼女から取り去ることによって、彼女を試す（雅歌 5：6）。次に、イエスは、霊的な指導者が彼女を不当に扱うことを許される（雅歌 5：7）。

2. 彼女はイエスへの深い愛をもって応答する（雅歌 5：8）。愛（雅歌 5 “9－6：13）と実りのあるミニストリー（雅歌 7：1－8：4）を成長させるためには、雅歌 5：2－9 のドアを私たちは通らなければならない。

E. 私たちが心の底から欲しいものを神が与えてくれないとしても、私たちは神を追い求め続けるだろうか？私たちが神の臨在を感じることができないときでも、私たちは神のものなのだろうか？回りの状況を見て落胆しているときに、私たちは神を愛し信頼し続けることができるだろうか？私たちの心を再調整し、困難の中にあっても愛に成長するためには、私たちは“信仰の筋肉”をトレーニングする必要がある。

F. 神の臨在を感じられないときや状況が困難なときに見せる私たちの最初の傾向は、落ち込み、不平不満を言うことである。このようなとき、私たちは祈りの中で“どうしてこんな風に感じるのだろうか？”と問いかける必要がある。そうすることで、私たち自身が神の相続分であり、私たちがこの試練の中に居るのは愛のためであるという真理に私たちの心をもう一度調整することができるのである。

#### II. 雅歌 5：8－6：5の概要

A. 困難な時にも、花嫁はイエスに対する愛を表す（雅歌 5：8－16）。彼女は神につまずかず、逆に愛に病んでいる。私たちは「イエス様、あなたが美しいから、私たちは愛の故にこの試練の中に居るのです」と告白する（雅歌 5：8－10）。

<sup>8</sup>エルサレムの娘たち。・・・あなたがたが私の愛する方を見つけたら、・・・私が愛に病んでいると、言ってください（雅歌5：8）。

- B. 彼女は、神に対しては愛を持って、また、自分より霊的に未熟なエルサレムの娘たちに助けを求めることで、彼女は他の人々には謙遜さを持って応答している（彼女は彼女を傷つけた教会を嫌っていない）。
- C. 未成熟な娘たちは彼女に2つの質問をする。最初の質問は“あなたはどのように彼のことをそれほど愛するのですか？”（雅歌5：9）イエスはあなたから臨在感を取り去り（6節）、指導者たちにあなたを傷つけさせたのに（7節）。彼女の答えを聞いた後に、“どのようにすればあなたのように彼を知ることができるのですか？”（雅歌6：1）という2つ目の質問をする。
- D. イエスは、彼女が苦闘している間に彼女についてイエスが思ったことを明らかにし、途方もなく大きな愛をもって、彼女に応答する（雅歌6：4－10）。

### III. 第一の質問：彼の中の何があなたをして彼を愛させるのですか？（雅歌5：9）

<sup>9</sup>女の中で最も美しい人よ。あなたの愛する方は、ほかの愛人より何がすぐれているのですか。あなたがそのように私たちに切に願うとは。あなたの愛する方は、ほかの愛人より何がすぐれているのですか（雅歌5：9）。

- A. 霊的に未成熟な娘たちは、雅歌においてずっと花嫁に質問し続けている。困難な状況の中にあっても、花嫁は不平を言ったり、落ち込んだりすることなく、イエスに対して愛に病んでいることをこの娘たちは見ている。花嫁の知恵や才能よりも、彼女のイエスへの深い愛を見て、娘たちは刺激を受ける。私たちの知恵や力ではなく、私たちの愛の故に、私たちは人々に美しいと思われるのである（I ペテロ3：3－4）。
- B. 夜回りたちが巻き起こした“論争”の後でさえも、この娘たちは花嫁から去ろうとはしなかった。娘たちは彼女のことを“最も美しい人”と呼んでいる（雅歌5：9）。彼女たちは、花嫁の献身と純粋さを見て知っていたので、彼女のことを深く尊敬していた。これは、サウルのような指導者達（夜回り）が花嫁を評価するやり方とは対照的である。サウルは、ダビデの中にある霊的な美しさを見出すことができなかった。
- C. “あなたの愛する方は、ほかの愛人より何がすぐれているのですか？” 厳しい試練の最中にあっても、花嫁の中に愛を目覚めさせる力をイエスが持っていることを娘たちは理解している。“なぜあなたはそんなに彼に忠実なの？ 私たちが知らなくて、あなたが彼について知っていることは何なの？” 娘たちは、この花嫁のような献身を理解することができないのである。
- D. 娘たちには、イエスよりも大切な“ほかの愛人”がいる。人々は、人、友人、ミニストリー、お金、レクリエーション、楽しみ、力、名声や慰めなどを愛している。多くの新生した人たちは、イエスよりもこのようなことを愛している。
- E. 霊的な成熟度合いの定義は、イエスが私たちの魂にとって、第一の愛する者となっているかどうかである。今、聖霊は、世界中のキリストの体において、第一の戒めを最初の場所に回復されようとしておられる。
- F. 同じ質問が強調のために繰り返される。このことは、答えを得ることを娘たちが熱心に望んでいることを表している。雅歌6：1において、彼らが誠実に質問していることが分かる。というのは次のフォローアップの質問をそこでしているからである。

- G. 最も重要な質問は、イエスがした“あなたがたは、わたしを誰だと言いますか？”（マタイ 16 : 15）という質問である。パロはこれと同じ質問をモーセにした。“私が従うべきである主とはいったい何者か？”（出 5 : 2）
- H. どのミニストリーにおいても、イエスに対する情熱が最もパワフルな次元である（II コリント 2 : 14－17）。人々はあなたを捜し求めて、あなたの中に見られる献身さをもってどのように歩めばいいのですかと教え請うだろうか？人々があなたが知っているものを望み、あなたがどのようにして自分自身の心を支えているのかを人々が知りたいと望むほどに、困難な中であってイエスに対する献身さを見せることが、あなたの人生のビジョンの一部と成り得る。

#### IV. 花嫁の答え：イエスの偉大な素晴らしさ（雅歌 5 : 10－16）

- A. 花嫁はイエスの美しさを宣言することによって、娘たちからの質問に答える。神のご性格の 10 個の面を説明するために、聖霊は人間の体の比喩を用いる。ひとつの面について、2 つの描写がある。
- B. 雅歌 5 : 10－16 は、聖書において、最もパワフルなイエスに対する啓示のうちの一つである。花嫁は、イエスの美しさに関する全体的な宣言から始め、10 個の側面を語り、そしてまとめの宣言をおこなう。

<sup>10</sup>私の愛する方は、輝いて、・・・万人よりすぐれ、<sup>11</sup>その頭は純金です。髪の毛はなつめやしの枝で、・・・<sup>12</sup>その目は・・・鳩のようです。<sup>13</sup>その頬は、良いかおりを放つ香料の花壇のよう。くちびるは・・・ゆりの花。<sup>14</sup>その腕は、・・・金の棒。からだは、・・・象牙の細工。<sup>15</sup>その足は、・・・大理石の柱。その姿はレバノンのよう。<sup>16</sup>そのことばは甘いぶどう酒。あの方のすべてがいとしい。・・・これが私の愛する方、これが私の連れ合いです（雅歌 5 : 10－16）。

1. 彼の頭—あらゆるものに対する彼の最高の権威あるリーダーシップ
  2. 彼の髪の毛—神と教会に対する献身
  3. 彼の目—無限の知識、知恵、理解と見分ける力
  4. 彼の頬—多様な感情の構成
  5. 彼のくちびる—ことば
  6. 彼の腕—神の行動
  7. 彼のからだ—優しさに満ちた同情
  8. 彼の足—歩みとイエスの目的の管理
  9. 彼のすがた—イエスの民への分与
  10. 彼の口—イエスとの親密さ
  11. あの方のすべてがいとしい—イエスの理解できる美しさ
  12. イエスは、私の愛する方、友だち
- C. 彼女は、二重の試練に心を占領されるのではなく、イエスに焦点を当てているので、彼女はイエスに対して愛に病んでいるままである。イエスの美しさを捜し求めるために深みに入ることによって、彼女は自分自身に焦点を当てることを克服している。上で見たような側面に関する啓示を受け取ることによって、人生の嵐の中を進むときにでも、心の中に安定を得ることができる。
- D. 私が不安や混乱の中にあるときは、以下のような神のご性格の側面に関する本を読むようにし



ている。The Existence & Attributes of God (Steven Charnock), Knowledge of the Holy (AW Tozer), Knowing God (JI Packer), The Pleasures of God (John Piper)。また私自身も神のご性格に関する本を何冊か書いている (Passion for Jesus, the Pleasures of Loving God, After God's Own Heart)。

#### V. イエスの威厳に満ちた美しさ (雅歌 5 : 10 – 16)

- A. 彼女は、イエスの美しさに関する全般的な宣言をすることから始めている (雅歌 5 : 10)。困難なときにあっても、彼女はイエスのことを愛する方と言っている。NIV 訳では、“白い” いうのを“輝いて”と訳している。イエスは頬が赤く、血色がいい。この箇所はイエスの人間性について語っている。イエスが万人よりすぐれているというのは、イエスが他の誰よりも比べ物にならないぐらいに優れているということを表している。

<sup>10</sup> 私の愛する方は、輝いて、赤く、万人よりすぐれ、(雅歌 5 : 10)

- B. イエスの頭は、全ての被造物の上にあるイエスの権威あるリーダーシップを表している (エペソ 1 : 21)。それは彼女にとって、最も素晴らしい金のようなものである。金は神のご性質を表している。最も素晴らしいというのは、最高の品質・優秀さを表している。

<sup>11</sup> その頭は純金です (雅歌 5 : 11)。

- C. イエスの髪の毛は、神と神の民へのイエスの献身を表している。ナジル人の誓いでは、髪の毛を切ることが禁じられる。というのは髪の毛は、神への献身を示す外見上のしるしだからである (民数記 6 章)。

<sup>11</sup> 髪の毛はなつめやしの枝で (NIV 訳では、波打っていて wavy)、鳥のように黒く (雅歌 5 : 11)

1. イエスの髪の毛が“波打っていて、鳥のように黒い”というのは、献身さが若くエネルギーに満ちた情熱を持っている人のように活力に満ちていることを示している。人生の中で最も活力に満ちた頃の若い男性の波打つ黒い髪は、活力と豊かさを失った薄く白くなりつつある老人の髪の毛とは対照的である。言い換えると、イエスの神と神の民への献身度合いは、永遠に活力に満ちているということである。

2. 髪の毛はまた神へ服従することの美しさも表している。パウロは、女性の髪の毛は、彼女の栄光と神の権威への献身さを表すものであると言っている (I コリント 11 : 5、6、15)。

- D. イエスの目は、イエスの見る能力もしくはイエスの全知の能力 (無限の知識、知恵そして見分ける力) を表している。彼の目が鳩のようだというのは、一途さを表している (雅歌 1 : 15、4 : 1)。

<sup>12</sup> その目は、乳で洗われ、池のほとりで休み、水の流れのほとりにいる鳩のようです (雅歌 5 : 12)。

- E. イエスの頬は、情熱や喜びを含めたイエスの感情の成り立ちを明らかにする。私たちの感情は頬に現れる。頬は人の感情の窓であり、頬を見ることでその人が喜んでいるのか、悲しんでいるのか、または怒っているのかを見分けることができる。イエスの感情は香料の花壇のようである。よいかおりを放つ香料の花壇というのは、イエスの愛情という香料が途轍もなく多くまた多様性に満ちていることを示している。

<sup>13</sup> その頬は、良いかおりを放つ香料の花壇のよう (雅歌 5 : 13)。

F. イエスのくちびるは、ゆりのように甘く、そして純粋な彼の言葉を意味している。ゆりが没薬をしたたらせているというのは、自己に死ぬことを受け入れるようにとの励ましを意味している。

<sup>13</sup> **くちびるは没薬の液をしたたらせるゆりの花 (雅歌 5 : 1 3)。**

G. イエスの腕は、イエスの働きもしくは行動を表している。イエスは全能であるが故に彼が望むこと全てを達成することができる。金の棒というのは神の性格を表している。

<sup>14</sup> **その腕は、タルシシュの宝石をはめ込んだ金の棒 (雅歌 5 : 1 4)。**

H. イエスの体 (KJV 訳では、腹部) は、イエスの優しさに満ちた同情心を表している。雅歌 5 : 4 において、彼女は、彼女の心が立ち騒ぐと言ったが、ここでは体と訳されている。イエスの体は、深い感情もしくは優しさに満ちた同情心を意味する。イエスの同情心は象牙のように貴重である (また象牙の細工のように熟練を要する)。

<sup>14</sup> **からだは、サファイアでおおった象牙の細工 (雅歌 5 : 1 4)。**

I. イエスの足は、イエスの歩みもしくはイエスが彼の目的を遂げることを意味している。足は、体に前向きの動きをもたらす。イエスが彼の目的を遂げるやり方、イエスの計画の進め方は、大理石の柱のようである。柱は、力、秩序そして美しさを表している。大理石は、耐久性に優れ、永遠にもつ建築資材である。イエスは力強く、美しく、永遠に続き、確立していて秩序だっている。

<sup>15</sup> **その足は、純金の台座に据えられた大理石の柱 (雅歌 5 : 1 5)。**

J. イエスの姿・表情は、神の民へのイエスの栄光の分与を表す。ダビデは“主が御顔の光を私たちに照らしてくださるように”と祈った。これは、神の臨在の現れが神の民に来るようにとの祈りである。レバノン、堂々としていて、立派なものの象徴である (雅歌 4 : 8、11、15)。

<sup>15</sup> **その姿はレバノンのよう。杉のようにすばらしい (雅歌 5 : 1 5)。**

K. イエスの口は、雅歌の中で常に、イエスの民との親密さと関連している。雅歌 1 : 2 において、イエスの口は、神との親密さを表すイエスの口づけとして描写されている。イエスの口というのは、イエスのくちびると表現されるイエスのことば (雅歌 5 : 1 3) を表しているのではなく、親密さを表している。神との親密さは彼女にとって、最も甘いものである。神との親密さ以上に彼女を喜ばせるものはないからである。

<sup>16</sup> **そのことばは甘いぶどう酒 (雅歌 5 : 1 6)。**

L. イエスのすべてがいとしい。これはまとめの宣言である。彼女の愛する方は、彼女が友と呼ぶ方である。イエスは、彼の尊厳の中で輝いているだけでなく、身を低くして、私たちの友となってくれる方でもある。

<sup>16</sup> **あの方のすべてがいとしい。エルサレムの娘たち。これが私の愛する方、これが私の連れ合いです (雅歌 5 : 1 6。NIV 訳では friend=友となっている)。**

VI. 2 番目の質問：あの方はどこに行かれたのですか？あなたといっしょに捜しましょう (雅歌 6 : 1)

<sup>1</sup> **女のなかで最も美しい人よ。あなたの愛する方は、どこへ行かれたのでしょうか。あなたの愛する方は、どこへ向かわれたのでしょうか。私たちも、あなたといっしょに捜しましょう (雅歌 6 : 1)。**

- A. 雅歌 5 : 8 で始まった花嫁と娘たちの会話はまだ続いている。ここでは、娘たちは花嫁のイエスとの親密さを目にし、彼女は、自分たちが知らないイエスの何かを知っていると結論付けている。それ故、彼女たちは 2 番目の質問を彼女に投げかけている。“あなたの愛する方はどこですか？あなたが捜し求めるように私たちもその方を捜し求めたいのです。” 私たちも、あなたがイエスについて知っているように知りたいのです。あなたが持っているものを私たちも欲しいのです。
- B. 雅歌 5 : 10 – 16 における花嫁の答えを聞いた時、娘たちの質問は“彼は何者ですか？”から“どこにいけば彼と会えますか？”に変わった。娘たちは、もはや遠くからイエスに仕えることでは満足できなくなってしまった。娘たちは、花嫁が雅歌 1 : 7 でした“イエスはどこで羊を飼っているのですか？”という質問と同じ質問をしているのである。
- C. 娘たちはイエスのことを“あなたの愛する方”と呼んでいる。というのはイエスはまだ彼女たちの愛する方ではないからである。娘たちは、花嫁のことを神の臨在に満たされた神の人と見続けている。娘たちにとって彼女は“女のなかで最も美しい人”なのである。
- D. エルサレムの娘たちは、花嫁と一緒にイエスを捜したいと望んでいる（雅歌 6 : 1）。花嫁のイエスの美しさに関する宣言を聞いて、娘たちの心は掻き立てられ、イエスを情熱をもって捜し求めるのである。娘たちは今や、喜んで“他の愛人”を振り払うことができる。私たちはイエスの素晴らしさを本当に見るまでは、“他の愛人”がいる状態なのである。
- E. 花嫁の試練は、他の人々の人生を劇的に変えることになる。困難な中であつてもイエスを愛している私たちをどれだけ多くの人が見つめているか、私たちは知りようもない。聖霊は、全世界のキリスト教の描写を全く変えてしまうことができるほどイエスのことを知っている愛に病んでいるメッセンジャーを立て上げ、終わりの時代のプレッシャーの中にあつても、愛に力強く立つ花嫁を整えられている。

## VII. 花嫁は 2 番目の質問に答える（雅歌 6 : 2 – 3）

<sup>2</sup> 私の愛する方は、自分の庭、香料の花壇へ下って行かれました。庭の中で群れを飼い、ゆりの花を集めるために。<sup>3</sup> 私は、私の愛する方のもの。私の愛する方は私のもの。あの方はゆりの花の間で群れを飼っています（雅歌 6 : 2 – 3）。

- A. イエスはイエスの教会の中におられて、教会を建てられている。花嫁はどこへ行けば、親密な方法でイエスを見出すことができるかについて娘たちに教える。イエスは、イエスの人々を集め、養うためにイエスの庭に住んでおられる。イエスの庭（単数形）は、地域教会いいかえればたくさんの庭（複数形）から成り立っている世界の教会を表している。
- <sup>18</sup> わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません（マタイ 16 : 18）。
- B. 花嫁は“私の愛する方は、香料の花壇へ行かれました。”（雅歌 6 : 2）と宣言する。花壇（複数形）は、イエスのただ一つの庭（教会：単数形）の中にある。地球上には、ただ一つの教会があるが、その中にはたくさんの多様な香料の花壇たちがある。香料は、恵みの現われを示している。おのおののミニストリーはそれぞれユニークな香料である。庭にあるそれぞれの“香料の花壇”は、キリストの豊かな香りに満ちている。イエスは全ての教会を愛している。
  - C. イエスの類は香料の花壇のようである（雅歌 5 : 13）。教会におけるイエスの様々な性格の側

面が新しいエルサレムもしくは香料の山（雅歌 8 : 14）で全てが一緒に会合する。

- D. 雅歌 1 : 7 - 8 と雅歌 6 : 2 - 3 を比べると、イエスが彼女にした答え（セッション 10 参照）と全く同じ答えを花嫁がしていることが分かる。彼女は雅歌 1 : 7 において“どうか教えてください。あなたはどこで羊を飼われるのですか？”と尋ね、イエスは、どこでイエスの群れを飼っているのかに関する 3 つの指示を彼女に与える。

<sup>7</sup>私の愛している人。どうか教えてください。どこで羊を飼い、・・・<sup>8</sup>女のなかで最も美しい人よ。あなたがこれを知らないのなら、羊の群れの足跡について行き、羊飼いの住まいのかたわらで、あなたの子やぎを飼いなさい（雅歌 1 : 7 - 8）。

1. キリストの体としての生活への献身：聖められていない孤独を拒否する
2. 仕えるミニストリーへの献身：聖められていない怠惰を拒否する
3. 霊的指導者への献身：聖められていない独立を拒否する

- E. 次のセッションで、イエスは沈黙を破り、花嫁に惜しみなく愛情を注がれる。イエスは彼女が旗を掲げた勝利の軍勢のように素晴らしいと宣言する。イエスの花嫁の惜しみない愛によってのみイエスは“征服される”。私たちの献身のまなざしがイエスの心を深く動かす。地獄の全ての軍勢でさえもイエスを征服することができないが、試練のときにあっても、そのまなざしがイエスにとって本物なら、花嫁のそのまなざしがイエスを“征服する”のである。

<sup>4</sup>わが愛する者よ。あなたはティルツアのように美しく、エルサレムのように愛らしい。だが、旗を掲げた軍勢のように恐ろしい。<sup>5</sup>あなたの目を私からそらしておくれ。それが私をひきつける（雅歌 6 : 4 - 5）。

## セッション 20

試練の季節の後、イエスは彼女をほめたたえる（雅歌 6 : 4 – 10）

### I. 復習：人生における神の臨在の増加を求める花嫁の叫び

A. 花嫁は、彼女と他の人々に神の臨在の香料が流れ込むようにと、逆境の北風と祝福の南風が彼女の心の庭に吹くようにと祈った。

<sup>16</sup>北風よ、起きよ。南風よ、吹け。私の庭に吹き、そのかおりを漂わせておくれ。私の愛する方が庭にはいり、その最上の実を食べることができるように（雅歌 4 : 16）。

B. この箇所が雅歌における転換点である。雅歌には2つの主要なセクションがある。最初の雅歌 1～4 章は、神にある私たちの相続分を受けることに焦点が当てられている。第2に、雅歌 5～8 章では、神が私たちの中に神自身の相続分を受け取ることに焦点が当てられている。北風を求める祈りに対する答えは雅歌 5 : 3 – 7 でやってくる。

C. “ゲッセマネのイエス”として彼女に現れ（雅歌 5 : 2）、彼との親密さの新しい深みを体験するため、“イエスのために”彼女の心を開くようにと求めることによって、主は花嫁を親密さへと招く。

<sup>2</sup>戸をたたいている愛する方の声。「わが妹、わが愛する者よ。戸をあけておくれ。・・・」（雅歌 5 : 2）

D. 彼女は従順に応答し（雅歌 5 : 3 – 5）、その後、2重の試練がやってくる。最初に、イエスは彼の臨在感を彼女から取り去ることによって、彼女を試す（雅歌 5 : 6）。次に、イエスは、霊的な指導者が彼女を不当に扱うことを許される（雅歌 5 : 7）。彼女はイエスへの深い愛をもって応答する（雅歌 5 : 8）。

E. エルサレムの娘たちは彼女に2つの質問をする。最初の質問は“あなたはどのように彼のことをそれほど愛するのですか？”（雅歌 5 : 9）この質問に対して、花嫁はイエスの美しさの10個の側面を宣言することで答える（雅歌 5 : 10 – 16）。この答えを聞いた後に、娘たちは“どのようにすればあなたのように彼を知ることができるのですか？”（雅歌 6 : 1）という2つ目の質問をする。

<sup>10</sup>私の愛する方は、輝いて、・・・万人よりすぐれ、・・・<sup>16</sup>そのことばは甘いぶどう酒。あの方のすべてがいとしい。・・・これが私の愛する方。これが私の連れ合いです（雅歌 5 : 10 – 16）。

### II. 雅歌 6 : 4 – 10 の概要

A. 雅歌 6 : 4 – 10 において、イエスは、雅歌 5 : 6 から始まった花嫁との沈黙を破る。イエスは彼女の美しさをほめたたえ、花嫁の試練の間にイエスが彼女についてどのように感じていたかを明らかにする（イエスは、雅歌 5 : 3 に見られる彼女の不従順に対しても非難しておられない）。イエスは3つのたとえ（4節）を用いて彼女の美しさを描写し、また雅歌 5 : 10 – 16 において花嫁がイエスの美しさに関して宣言したその大きさと同じ大きさをもって、彼女に対するイエスの情熱（5節）を豊かに描写する。

B. イエスは、王の庭において、数知れないほど多くのセラフィム、ケルビムそして天使たちと共に、花嫁の成熟さ（雅歌 6 : 5 – 7）と彼女の素晴らしさ（雅歌 6 : 8 – 9）を描写する。

<sup>8</sup>王妃は60人、そばめは80人、おとめたちは数知れない。<sup>9</sup>汚れのないもの、私の鳩はただひ

とり。彼女は、その母のひとり子、彼女を産んだ者の愛する子（雅歌6：8－9）。

C. 聖霊は花嫁の栄光を描写する（雅歌6：10）。

<sup>10</sup>「暁の光のように見下ろしている、月のように美しい、太陽のように明るい、旗を掲げた軍勢のように恐ろしいもの。それはだれか。」（雅歌6：10）

III. 試練の中にあつて、イエスは花嫁の美しさを表現する（雅歌6：4）

<sup>4</sup>わが愛する者よ。あなたはティルツァのように美しく、エルサレムのように愛らしい。だが、旗を掲げた軍勢のように恐ろしい（雅歌6：4）。

- A. 花嫁が“イエスが輝いていて、すべてがいとしいから、私は愛に病んでいる。”（雅歌5：8－16）と宣言した後に、イエスは沈黙を破り、3つの比喻を用いて彼女の美しさをほめたたえる。イエスを愛する彼女の愛の中に見出される彼女の美しさ故に、花嫁はほめたたえられる。アウグスティヌスは、望むべき唯一の賛美、真実である唯一の賛美は、神から来る賛美であると言っている。イエスは花嫁の美しさをさらに豊かに雅歌7：6－9で表現する。聖霊によって彼女の中に働いている美しさをイエスは祝う。雅歌において、イエスは9回、花嫁の美しさを肯定する（雅歌1：15 {2回}、2：10、2：13、4：1 {2回}、4：7、6：4、7：7）。
- B. イエスは彼女を“わが愛する者よ”と呼ぶことによって、彼女のことをどのように感じているのかについて初めて伝える。
- C. イエスは花嫁がティルツァと呼ばれる町と同じほど美しいと宣言する。ティルツァは、古代の世界においてもっとも魅力的な町の一つである。ティルツァは“美しい”という意味である。イスラエル人がヨシュアの指揮の下、イスラエルを占領する以前、ティルツァは、カナン人の首都であった（ヨシュア12：24、I列王記15：33、16：61）。それ故、何人かの解説者は、このカナンの町を神を信じていない異邦人の国々の象徴であると説明している。言い換えると、花嫁は、神を信じていない人々にとって、美しい存在だから、花嫁は効果的に未信者を勝ち取ることができるということを示している。
- D. ソロモン王の死後すぐに、イスラエルは内戦により分割された（BC931）。北王国の王ヤロブアムは、ティルツァを彼の首都に選んだ（I列王記14：17、15：21、16：6）。というのは、ティルツァは北部で最も美しい町だったからである。この町はマナセ族の領地であった。
- E. イエスは花嫁がエルサレムのように愛らしいと宣言している。エルサレムはイスラエルの霊的な首都である。神の、目に見える形での臨在（至聖所におけるシャカイナグローリー）によって、継続的に祝福されていた、地球上唯一の場所であるソロモンの宮殿を建設することに、神が選んだ場所がエルサレムである。神はこの町を全世界の賛美の中心地として任命した（イザヤ2：1－4、ゼカリヤ14：16－19）。エルサレムの美しさは、神を賛美する中に見出される聖なる美しさを表している。
- F. ティルツァは、未信者にさえ影響を与えるほどの美しさを表している。そしてエルサレムは、信者が非常に価値を置いている霊的な美しさを表している。花嫁がティルツァやエルサレムのように美しいというのは、彼女が未信者にも信者にも大きな影響を与えることができるということを意味している。彼女の美しさはこの二つのグループに届く。未信者は花嫁の自己犠牲の愛と純粋な動機を彼女の中に見出す。彼女が愛のためならあらゆるものを投げ出す人であるこ

とを見出すのである。

- G. 古代の世界で、軍隊が戦いに勝利して戻ってくるとき、彼らは軍の行進で、彼らの旗じるしを掲げる。敗れた軍隊は彼らの旗じるしを失う。花嫁は、彼女の心の中に見出された最大の敵を滅ぼした。彼女は罪や不信仰に屈しなかったので、旗じるしを掲げた勝利の軍隊として、試練のときを終えることができたのである。彼女は彼女自身の心に勝利をおさめた。私たちが何も感じないときであっても、献身のまなざしでイエスを私たちが見つめるとき、イエスの心は非常に多くのことを感じておられる。彼女の妥協と恐れの影響は消え去ってしまった（雅歌 2 : 17、4 : 6）。彼女はそれらを恵みによって克服したのである。

<sup>4</sup>わが愛する者よ。・・・だが、旗を掲げた軍勢のように恐ろしい（雅歌 6 : 4）。

#### IV. イエスは花嫁が彼の心に与えた衝撃を描写する（雅歌 6 : 5）

<sup>5</sup>あなたの目を私からそらしておくれ。それが私をひきつける（雅歌 6 : 5）。

- A. この箇所は聖書の中に見られる素晴らしい宣言のうちの一つである。彼女の目によって、私たちはイエスに対する彼女の愛を理解することができる。
- B. イエスは文字通り目をそらしてくれと彼女に頼んでいるわけではない。イエスは、とてつもなく大きな愛の言葉をもって、詩的に語っているのである。雅歌 5 : 10 – 16 で試練の真っ只中で表現されたような私たちのイエスに対する揺らぐことのない愛によって、イエスの心は打ち負かされる、もしくは深く動かされるのである。娘たちが“なぜあなたはイエスを愛するのですか？”と尋ねたとき、花嫁はイエスのことをすべてがいとしく、輝いていると語る。
- C. 私たちの献身のまなざしはイエスの心を動かす。私たちの最も大きな栄光は、私たちが神の心を動かすことができるということである。
- D. 何がイエスの心を打ち負かす（動かす）のだろうか？星、海や山々でさえもイエスの心を動かすことができない。人間やサタンの巨大な軍隊でさえもイエスの前では何者でもない。しかしながら、私たちが試練のときにおいてもイエスに真実であるとき、私たちの愛のまなざしによって、歴史上最も偉大な戦士であるイエスをも“征服する”ことができる。私たちの愛のまなざしによってイエスを本当に感動させることができるのである。雅歌 6 : 5 のこの一定したまなざしは、ただ一度のまなざし（雅歌 4 : 9）よりもはるかに強力である。
- E. あなたはイエスの心を動かす方法を知っているだろうか？イエスは、心の底から彼を愛する弱く、砕かれた人々に心動かされるのである。試練の時に彼女が何も感じていなくても、イエスは多くのことを感じておられる。試練の中で示す私たちのイエスへの愛は、私たちが理解する以上に、イエスにとって価値のあるものなのである。彼女は試練の中でイエスの臨在を感じるができなかったので、彼女のイエスに対する愛がイエスの心に与えた衝撃がいかほどのものであったか知ることができなかった。
- F. この時代にあっても、私たちがイエスの心に与える衝撃の全体像を完全に理解することはできないだろう。カナン人の女は、見た目にはイエスが彼女のことを拒否しているように思えたので、イエスが彼女の信仰に対して驚かれたということを理解することができなかった（マタイ 15 : 21 – 28）。

<sup>28</sup>そのとき、イエスは彼女に答えて言われた。「ああ、あなたの信仰はりっぱです。」（マタイ 15 : 28）

V. イエスは花嫁の霊的な成熟に関して描写する（雅歌 6 : 5－7）

<sup>5</sup>あなたの髪は、ギルアデから降りて来るやぎの群れのように、あなたの歯は、洗い場から上って来た雌羊の群れのようにだ。それはみな、ふたごを産み、ふたごを産まないものは一頭もない。あなたの頬は、顔おおいのうしろにあって、ざくろの片割れのようにだ（雅歌 6 : 5－7）。

- A. イエスは花嫁の成熟度を彼女の髪、歯そして頬に焦点を当て、彼女の性格の 3 つの側面を強調することによって描写する。髪は、彼女の献身を表し、歯は、みことばによる生活、頬は神性な感情を表している。これらの価値はまだそれらがつぼみのときにイエスが預言した通りのクオリティーにまで達している（雅歌 4 : 1－3）。つぼみだったこの価値は、今や彼女の人生において成熟した。雅歌 4 : 1－2 においても、雅歌 6 : 5－6 のように、彼女の目、髪、歯そして頬について語られている。雅歌 4 : 2 では“毛を刈られる”という言葉が足されている。
- B. イエスは、雅歌 5 : 6－7 の試練のときが必要であり、実りのあるものであったということを証明するために、ほぼ同じ言葉を用いて、これらの肯定の表現を繰り返している。イエスはすべてのことを働かせて益としてくださる（ローマ 8 : 28）。
- C. 花嫁の髪は、彼女の神に対する献身を表している。ナジル人の髪は、彼らの聖別・献身の外から見えるしるしである（民数記 6 章）。

<sup>5</sup>あなたの髪は、ギルアデから降りて来るやぎの群れのように（雅歌 6 : 5）

- D. 彼女の美しく豊かな髪、言い換えれば献身さは、十分な栄養で養われている結果である。ギルアデの山は、ヤギ達が十分に養われることができる豊かな場所である。彼女の献身さは、神のみことばに十分養われた結果である。雅歌 4 : 1 ではギルアデに“山”という言葉が追加されている。
- E. やぎの歩みは堂々としていて秩序立っている（箴言 30 : 29－31）。花嫁の献身さは、やぎの群れのようにというのは、肉的な情熱とは対照的な神の秩序（知恵）が表れているということの意味している。

<sup>29</sup>歩きぶりの堂々としているものが三つある。いや、その歩みの堂々としているものが四つある。

<sup>30</sup>獣のうちで最も強く、何ものからも退かない雄獅子、31・・・雄やぎ、・・・（箴言 30 : 29－31）

- F. 歯は固い食べ物を噛む能力のことを示している。すなわちみことばの肉を受け取る能力のことである（ヘブル 5 : 12－14）。乳幼児は歯がないから、栄養はミルクを通してしか受け取ることができない（I コリント 3 : 1－3）。

<sup>6</sup>あなたの歯は、洗い場から上って来た雌羊の群れのようにだ。それはみな、ふたごを産み、ふたごを産まないものは一頭もない（雅歌 6 : 6）。

1. 私たちはみことばの肉を受け取り、神のことばを長く、愛をもって黙想することによって、歯を美しく、健康に保つことができる。このようにして、羊飼いが泥を洗い流してくれたばかりの羊のように、私たちは美しさを保つことができるのである（エペソ 5 : 26－27、ヨハネ 13 : 10、17 : 17）。

2. 彼女のミニストリーの実りの多さは、みことばに土台を据えた彼女の生活から来ている。ふたごを産むというのは、2 倍の実りの多さを得るということの意味している。彼女は、不妊のものが一頭もない羊に例えられる。みことばに勤勉な生活を歩めば、実りの多さは保障されている（I



テモテ 4 : 6 – 16)。この箇所に出てくる羊は、みことばに基づく生活のゆえに、清潔で実が多い（ヨハネ 15 : 7 – 8）。

G. ざくろのような花嫁の頬（NIV 訳では temple: こめかみ）は、花嫁の神性な感情を表している。

頬（こめかみ）は、人の感情を表す。NIV で temple（こめかみ）と訳されているヘブル語の単語は“頬”とも訳することができる。私たちの感情は頬に現れる。頬に、怒り、喜び、うれしさや悲しみという感情を見ることができる。

<sup>7</sup>あなたの頬は、顔おおいのうしろにあって、ざくろの片割れのようにだ（雅歌 6 : 7）。

1. ざくろは非常に甘い果物である。花嫁の感情は神にとって、神を敬い、また甘いものである。

2. ざくろは赤くなると二つに割れる。“赤い”ということは彼女の慎み深さ、恥ずかしいことがあって赤面している彼女の様子を表している。売春婦は、不謹慎な行動に対して赤面することはない。表情が赤くなるということは、恥ずべきことに対して敏感であることを示している（赤面することによる赤）。

H. 顔おおいのうしろというのは、神にある彼女の隠された生活のことである。彼女の神への愛の感情や彼女の謙遜さは、誰も見ていない時にでも、本物であり、純粹である。雅歌 4 : 3 でも見られるように、彼女のミニストリーは、単なる人々のためのショーではないのである。

## VI. 天の花婿の王の宮殿（雅歌 6 : 8）

<sup>8</sup>王妃は六十人、そばめは八十人、おとめたちは数知れない（雅歌 6 : 8）。

A. 花嫁は、イエスの天の宮殿における **全ての存在** の中で、素晴らしい栄誉を受ける。古代の世界では、王の宮殿は、様々な地位の女性からなるハーレムを含んでいる。ソロモン王のこの地球上の王の宮殿は、王なるイエスの天の宮殿を象徴している。ソロモンの宮殿では三つの地位が与えられている（王妃、そばめ、おとめ）。

B. 雅歌が書かれた頃、ソロモンには王妃と呼ばれる 60 人の妻がいた。彼には結局 700 人の妻がいた（I 列王記 11 : 3）。これらの王妃は、ソロモン王のお気に入りだったシュラムの娘と同じ名誉は受けていない。王の花嫁は、王妃の中でも最も栄誉を受けている存在である。

C. 60、80 という数字、また“数知れない”グループは、ソロモンの宮殿における栄光の異なる程度を表している。60 人の王妃は、ソロモンの宮殿において最も高い地位を有している。“王妃の栄光”を持っている人々の数は最も少ない。そばめは次のランクで、80 人。王の宮殿におけるそばめは、王妃よりも低い栄誉のレベルだが、それでもおとめたちよりも高い地位に位置している。というのは、そばめは法的には王の家族の一員であって、資産を有していたからである。おとめは王の宮殿においては“スタッフメンバー”であるが、王の家族の一員となることを要求したり、資産を要求したりする法的な権利は有していない。

D. 最も重要なポイントは、イエスの花嫁は、イエスの宮殿における **全ての存在** よりも、大きな栄誉を有しているということである。イエスは、様々な異なる地位にある **全ての存在** に囲まれている。が、花嫁はその存在の中でも飛び抜けた存在である。

E. 私たちのここでの目的は、どの御使いたちのグループが王妃、そばめ、おとめに対応するのかを追い求めることではなく、王の宮殿には、異なる栄誉を受けるポジションがあるということ伝えることにある。神の宮殿においては、御使いの中に様々な地位があり、セラフィム、ケルビム、大天使や 24 人の長老が含まれる。

- F. 神の御座の周りに様々な地位の存在がちょうど60人、80人いると考えているのではない。これらの表現は単に神の宮殿には受ける栄誉が異なる存在があるということだけを伝えているに過ぎない。また私たちは、雅歌6：8に見られるような3つのグループに天の宮殿を分類するつもりもない。

## VII. 神の家族における花嫁の栄誉（雅歌6：9）

<sup>9</sup>汚れないもの、私の鳩はただひとり。彼女は、その母のひとり子、彼女を産んだ者の愛する子。娘たちは彼女を見て、幸いだと言い、王妃たち、そばめたちも彼女をほめた（雅歌6：9）。

- A. シュラムの女は、イエスの鳩、イエスの汚れないもの（NIV訳では完璧なもの）と表現される。イエスの鳩というのは、彼女の心の一途さを表していて、彼女が花嫁のアイデンティティを持ち、神の鳩として、聖霊の中を歩んでいることを表している。
- B. イエスの汚れないものであるということは、彼女が霊的に成熟したことを表している。イエスの終末時代の教会は、しみやしわがなく神の栄光に満たされ、愛に成熟した教会となる（エペソ5：26－27）。
- C. 永遠の町にあるイエスの宮殿の全ての栄光ある存在の中で、イエスにはただひとりの花嫁しかない。“ただひとり”という単語は“ユニークである”とも訳される（NAS/NIV訳）。花嫁には敵がなく、競争相手もない。イエスは“私の宮殿にいる全ての者の中で、彼女は私が望むただひとりの者、私が死んでもいいと思うただひとりの者である。”と語っているのである。花嫁がイエスに語ったこと（雅歌5：10、16）と全く同じことをイエスは彼女に語る。すなわち、彼女はイエスの心を奪ったユニークでただ一人の人だと。イエスの存在が彼女の心の中でそうであるように、花嫁という存在は、イエスの心の中にある1万もの存在の中で、最も大事な存在なのである。イエスは他の何者をも必要としていない。
- D. 母はこの歴史上に存在してきた教会を表している。神が私たちの父であり、教会が私たちの母である。パウロは新しいエルサレムのことを“私たち全ての母”と比喩的に語っている（ガラテヤ4：26）。これまでの歴史の中で贖われた人々は、イエス（人の子）を産んだ“母”として、また“母”の後を追う信者たちとして表される（黙示録12：5、17）。神は、私たちの肉体的および霊的な誕生の著者である。神が私たちの肉体的な誕生のために用いる代理人は、私たちの肉の母親である。また神が私たちの霊的な誕生のために用いる代理人は、教会の証人、すなわち、私たちの霊的な母親である。神のみこころを行う人が神の母親である（マタイ12：46－50）。主は、失われた人々が神の教会の一部となるために、失われた魂を獲得するために教会を用いられる。母は、イエスの婚礼の日に、愛の冠をイエスにかぶらせる（雅歌3：11）。
- E. 私は花嫁を、神と人々への愛に成熟した教会と定義する。このことはこれまでに達成されたことがない。使徒の働きに見られる教会でさえも完全に成熟してはいない。いくつかの町では栄光の瞬間があったかもしれないけれども。主が戻って来られるまでに、教会は成熟し、しみやしわのないものとなる（エペソ5：26－27）。大患難時代を生き残る終わりの時代の教会は、イエスが戻って来られる前に、一切傷のないものとして歩むことができる唯一の世代として、歴史上ユニークな栄光を受けることになる。
- F. 定義によると花嫁は、愛に成熟して歩む人々からなる。地球上にいる間に天の花嫁のように生

きることは、愛に成熟して歩むことである。興味深いのは、花嫁は彼女を産んだ者、言い換えると～この歴史を通して贖われた者すべてを意味する母～の愛するお気に入りだということである。終わりの時代の成熟した花嫁は、この歴史上ユニークな存在で、彼女を産んだ者の愛する子である。

- G. これまでの歴史の中の教会は私たちの母である。歴史上の教会が最も愛する働きは、終わりの時代における魂の収穫と完全な成熟である（黙示録 14：14－16、エペソ 5：27）。
- H. 終わりの時代の教会は、キリストの満ち満ちた身丈に達するほどの成熟度合いまで到達する（エペソ 4：13）。神は始められたことを完成され、ハデスの門でさえも教会に打ち勝つことはできない（マタイ 16：18、ピリピ 1：6）。これまでの歴史上の教会はどの教会も成熟の中を歩んでいるとは言えなかった。これまでの教会はむしろエルサレムの娘たちのようであった。これまでの歴史上の教会は、終わりの時代の教会を天の視点から見て、終わりの時代の教会を祝福されたものと呼ぶことになる。
- I. 成熟した花嫁の栄誉は、娘たちが彼女を見て、幸いだと言っている文章に見出される（雅歌 6：9）。娘たちというのは、歴史上全ての未成熟な信者を意味する。娘たちは雅歌 6：1 でしたように、彼女のことを幸いな者、祝福された者と呼ぶ。これまでの歴史の中で贖われた人々は、終わりの時代の教会がまだ地上にある間に圧倒的な愛で勝利している様を見て、神を賛美する。王妃もそばめも終わりの時代の教会をほめたたえる。それは、花嫁が栄誉ある地位に着くのを見て、天の御使いたちが喜んでいることを示しているのかもしれない。神はこうして地上において成熟した人々を生み出すことに成就することになる。

#### VIII. 聖霊が花嫁の四重の栄光の冠について描写する

<sup>10</sup> 「**暁の光のように見おろしている、月のように美しい、太陽のように明るい、旗を掲げた軍勢のように恐ろしいもの。それはだれか。**」（雅歌 6：10）

- A. 花嫁は、永遠の町のイエスの共同相続人として、四重の栄光を所有する者として描写されている。イエスが雅歌 6：4 において花嫁を地球上の町（エルサレムとティルツァ）に例えたように、聖霊は花嫁を天にある物と比較しながら、花嫁の美しさを示すために 4 つの比喩を用いている。
- B. 聖霊は修辭的な質問を投げかける。“彼女は誰なのか？”と。イエスは彼の宮殿における花嫁の卓越した地位について宣言する。聖霊はこの彼女の卓越した地位を肯定する。聖霊は雅歌の中で 3 度同じ“この人は誰？”という質問を投げかける（雅歌 3：6、6：10、8：5）。
- C. この文化における花嫁のミニストリーは“暁の光のよう”である。長い夜の後、朝の光は地平線に希望を伴い輝く。この時代における教会はマタイ 5：13－16 に見られるように、塩（風味、保存）そして光（方向性、命）として働く必要がある。この箇所は、神の民が個人の上にまた社会（政治、軍、経済、教育、家族、メディア、芸術、テクノロジー、社会的な組織等）の上に与えるインパクトについて強調している。
- D. この時代における花嫁のミニストリーはまた“月のように美しい。”成熟した教会は月のように美しい。月は夜の間に光を供給するために神が造ったものである（創世記 1：14－19）。月には自分自身の光はないが、太陽の光を反射して受ける。成熟した教会は、暗く墮落した世界に輝く神の光の源である。

<sup>16</sup>それで神は二つの大きな光る物を造られた。大きいほうの光る物には昼をつかさどらせ、小さいほうの光る物には夜をつかさどらせた。(創世記1：16)

E. 私たちが伝道のために働き、私たちの文化の変革のために働くとき、この時代の教会は暗闇の中の月のように輝く(マタイ5：16、ピリピ2：15)。私たちのこの時代は暗闇の時代であり、千年王国は昼の時代である。

F. これからやってくる時代における花嫁のミニストリーは、“太陽のように明るい”。花嫁の完全な栄光は、イエスの栄光の輝く光の中にある。教会は、新しいエルサレムにおいて、イエスの光の栄光を反射する。イエスは永遠の町における“太陽”である(黙示録21：23)。

<sup>23</sup>都には、これを照らす太陽も月もない。というのは、神の栄光が都を照らし、小羊が都のあかりだからである(黙示録21：23)。

G. 教会は、永遠の町の共同相続人として、新しいエルサレムにおいて神の光を反射する。

<sup>11</sup>都には神の栄光があった。その輝きは高価な宝石に似ており、透き通った碧玉のようであった(黙示録21：11)。

<sup>36</sup>もし、あなたの全身が明るくて何の暗い部分もないなら、その全身はちょうどあかりが輝いて、あなたを照らすときのように明るく輝きます(ルカ11：36)。

<sup>3</sup>思慮深い人々は大空の輝きのように輝き・・・(ダニエル12：3)

H. 教会は、永遠にイエスと共に治め、神の光を反射する(黙示録21：23-24、21：11、1：16、イザヤ60：1-3、60：19-20、24：23、59：19、62：1、エゼキエル43：2、詩篇50：2、マラキ4：2、II コリント4：6、ヨハネ8：12、I ヨハネ1：5、マタイ5：14-16、ピリピ2：15、ダニエル12：3、I コリント15：41-42、雅歌6：10)。

I. 花嫁の統治は、“旗を掲げた軍勢のように恐ろしい(新改訳では「恐ろしい」となっているが、NAS 訳では awesome という単語が使用されており、「畏敬の念を起こさせるほど素晴らしい」という意)もの”である。

<sup>10</sup>旗を掲げた軍勢のように恐ろしい(NIV 訳では majestic 威厳のある)もの(雅歌6：10)

J. 花嫁はイエスの王国において、政府の管理をもって永遠に治める(ダニエル7：27)。

<sup>27</sup>国と、主権と、天下の国々の権威とは、いと高き方の聖徒である民に与えられる(ダニエル7：27)。

<sup>21</sup>勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせよう。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである(黙示録3：21)。

K. 雅歌6：4で、イエスは地球上での困難な中にあっても彼女の心が勝利したことを強調している。ここでは聖霊が、全ての力に対して彼女が勝利したことを強調している。

L. まとめ：花嫁の四重の栄光は、神の栄光の3つの段階的なステージに見られる。まず最初に、花嫁は、地球上の文化に塩と光をもたらすために、神の暁の光を経験する(マタイ5：13-16)。第二に、花嫁はこの時代における戦いと伝道の中の美しい月として光を放つ。第三に、彼女は、これから来るべき時代における太陽として光輝く。全てのステージにおいて、彼女は神の武器として、永遠にイエスの統治の中で治める。

M. 私たちがこれからどんな者になっていくのかについてはまだ明らかにされていない。

<sup>2</sup>愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。

しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています (I ヨハネ 3 : 2)。

N. 聖霊と共に歩む勝利の花嫁に関する七重の比較。

1. 未信者に対する美しさを示すために、ティルツァに例えられる。
2. 信者に対する美しさを示すために、エルサレムに例えられる。
3. 彼女自身の心に対する勝利を示すために、地球上の軍隊に例えられる。
4. この時代において神の秩序を保護するものとして、暁の光に例えられる。
5. 伝道と変革における勝利を示すために、月に例えられる。
6. 永遠の町における共同相続人としての栄光における勝利を示すために、太陽に例えられる。
7. あらゆるものに対する統治権を有する神の軍隊に例えられる。

## セッション 2 1

### 迫害された花嫁の弁護（雅歌 6 : 1 1 – 7 : 9）

#### I. 雅歌 6 : 4 – 1 0 の復習

A. 雅歌 6 : 4 – 1 0 において、雅歌 5 : 6 から始まった花嫁との沈黙をイエスは破る。イエスは、花嫁の美しさをほめたたえ、花嫁の試練の時の間に、イエスが彼女のことをどのように感じていたのかについて明らかにする。イエスは、3つの比喻（4節）を用いて、彼女の美しさを描写する。またイエスは、イエスの心にもたらした花嫁のインパクトについて描写する（5節）。

**<sup>4</sup>わが愛する者よ。あなたはティルツァのように美しく、エルサレムのように愛らしい。だが、旗を掲げた軍勢のように恐ろしい。<sup>5</sup>あなたの目を私からそらしておくれ。それが私をひきつける（雅歌 6 : 4 – 5）。**

B. 古代の世界で、軍隊が戦いに勝利して戻ってくるとき、彼らは軍の行進で、彼らの旗じるしを掲げる。敗れた軍隊は彼らの旗じるしを失う。花嫁は、彼女の心の中に見出された最大の敵を滅ぼした。彼女は罪や不信仰に屈しなかったので、旗じるしを掲げた勝利の軍隊として、試練のときを終えることができたのである。彼女は彼女自身の心に勝利をおさめた。私たちが何も感じないときであっても、献身のまなざしでイエスを私たちが見つめるとき、イエスの心は非常に多くのことを感じておられる。彼女の妥協と恐れの影響は消え去ってしまった（雅歌 2 : 1 7、4 : 6）。彼女はそれらを恵みによって克服したのである。

C. イエスは、花嫁の成熟（雅歌 6 : 5 – 7）とセラフィム、ケルビムそして数知れない御使いたちと共にイエスの宮殿にいる花嫁の素晴らしさを描写する（雅歌 6 : 8 – 9）。

**<sup>8</sup>王妃は60人、そばめは80人、おとめたちは数知れない。<sup>9</sup>汚れのないもの、私の鳩はただひとり。彼女は、その母のひとり子、彼女を産んだ者の愛する子（雅歌 6 : 8 – 9）。**

D. 聖霊は、永遠の都を治めるイエスの共同相続人としての花嫁の四重の栄光について描写する（雅歌 6 : 1 0）。

**<sup>10</sup>暁の光のように見おろしている。月のように美しい。太陽のように明るい。旗を掲げた軍勢のように恐ろしいもの。それはだれか（雅歌 6 : 1 0）。**

E. 第一に、この文化における花嫁のミニストリーは、暁の光のように輝く。第二に、この時代における花嫁のミニストリーは、私たちが伝道と文化の変革のために働くように（マタイ 5 : 1 6、ピリピ 2 : 1 5）、暗闇に輝く月のように輝く。第三に、これから来る時代における花嫁のミニストリーは、新しいエルサレムにおいて私たちがイエスの光を受けて反射するように（黙示録 2 1 : 1 1）、太陽のように輝く。第四に、花嫁の統治は、旗を掲げた強力な軍隊のように堂々としている。

#### II. 雅歌 6 : 1 1 – 7 : 9 の概要

A. 花嫁は雅歌 6 : 4 – 1 0 の啓示を受けて歩むとき、彼女自身が持っている全教会に対する愛に彼女自身圧倒される。彼女は、神の庭に居る弱い者、未成熟な者のために仕えることを決意する（雅歌 6 : 1 1 – 1 2）。雅歌の中の重要なテーマは、イエスが花嫁を整え、彼と成熟したパートナーシップを持って歩めるようにすることである。

B. この奉仕の季節が終わったとき、花嫁は迫害される。彼女は教会から2つの異なる応答を受け

る。第一の応答は、教会の一部からサポートを受けること（雅歌6：13前半）。第二は、教会の別のグループから受ける皮肉に満ちた応答である（雅歌6：13後半）。花嫁は、彼女の人生の10の分野（雅歌7：1－5）について尊敬を払う娘たちによって弁護される。次に花嫁は、イエスの大きな恵みを受けて、パートナーとして公式に彼女を認めるイエスご自身によって、弁護される。

### III. 全教会に仕えようとする花嫁の決意（雅歌6：11）

<sup>11</sup>私はくるみの木の庭に下って行きました。谷の新緑を見るために。ぶどうの木が芽を出したか、ざくろの花が咲いたかを見るために（雅歌6：11）。

- A. 神の庭については、雅歌において9回語られている。最初の3回は、花嫁の庭に関して（雅歌4：12、15、16）、後の6回はイエスの庭に関してである（雅歌4：16、5：1、6：2、6：11、7：12、8：13）。
- B. 花嫁は、芽を出したばかり、もしくは花を咲かせようとしている植物の世話をするために、神の庭に下っていく。花嫁は娘たちに、イエスが人々を養っている彼の庭に行けばイエスを見つけることができると教えた（雅歌6：2－3）。それ故、彼女はイエスと共にパートナーシップを結ぶためにイエスの庭へと下っていく。彼女はイエスが居るところで彼と一緒に過ごしたいからである。
- C. 庭には、霊的な真理の意味を明確に持つくるみの木が含まれている。くるみの木は、夏の暑さから逃れることのできる濃い木陰を提供してくれる。また経済的に価値のある実も実らせる。またくるみからは油も生産することができ、その油は石鹸を作るのに用いられる。石鹸は、清めを意味している。またくるみの葉は、体の病を癒す薬としても用いられる。
- D. くるみの種の命は、その中に宿っている。しかしながら、くるみが人々に食べ物、油そして癒しを提供するためには、まず種が死に、砕かれなければならない。私たちが人々に食べ物を与え、清め（石鹸）、癒すためには、まず私たちが自分自身に死ぬ必要がある。内側に存在する命は隠されていて、すぐに目に見えるものではない。
- E. 花嫁は、神の庭の新緑、活気溢れる緑を見るために下っていく。ある辞書では、新緑のことを、溢れるばかりの植物の新鮮で活気のある緑と定義している。
- F. 花嫁は、自分の住みなれた領域を飛び出して、神のぶどう畑や別の場所で仕えるために、自分自身を捧げるために下っていく。花嫁は、この墮落した世の谷の真っ只中で、活気に溢れる神の庭を見出している。彼女はぶどうの木が芽を出したかどうか確認するために、すなわち、他の場所での神の働きの状況を確認するために行く。
- G. 聖書において、ぶどうもしくはぶどうの木は、神の民もしくは神の働きを意味している（イザヤ5、ヨハネ15）。芽を出しているぶどうの木というのは、まだ実を成していないぶどうの木を意味する。言い換えると、未成熟な教会のことを示している。花嫁は、神のぶどう畑で、多くの実は見つけることができないが、芽や花を見出している。雅歌2：11－13においては、芽を出しているぶどう畑は、神がすぐに訪れることを示す預言的なしるしである。
- H. 花が咲きつつあるざくろは、一人ひとりの信者を表す。まだ成熟していない芽を吹いたばかりのぶどうの木に対して、いらいらするのではなくて、自らを捧げるために彼女は下っていく。

<sup>11</sup>ぶどうの木が芽を出したか、ざくろの花が咲いたかを見るために（雅歌6：11）。

- I. 主が、花嫁の中にあるまだ種の状態の彼女の価値を見出したように、花嫁は他の人々の中にある芽を出しつつある価値を見出す（雅歌 4 : 1 – 5）。彼女の情熱は、彼女がまだ未成熟なときに神が見せた彼女への情熱から来ている。
- J. 花嫁は大宣教命令に対して “Yes !” と答える。私たちは私たち自身の身近にいる未成熟な人々を助けるために下っていくことができる。神の庭で仕えるために、飛行機に乗って遠い所に行く必要はない。快適な場所から離れて、人々に仕え、助けることの難しさを敢えて受け入れることを意味している。

#### IV. 神の教会への愛が彼女を打ち負かす（雅歌 6 : 1 2）

<sup>1 2</sup> **私自身が知らないうちに、私は民の高貴な人の車に乗せられていました（雅歌 6 : 1 2）。**

- A. 谷にある芽が吹いたばかりのぶどう畑で花嫁が働いているとき、突然、彼女の魂は高貴な人の車（四輪馬車）のようになった。これは彼女の他の人々に対して感じている情熱を表している。花嫁の魂は馬車のように移動することができる。古代の世界では、荷物を持って、長距離旅行するための手段としては、馬車が最も速く、簡単な手段であった。最良の馬車は、高貴な人々もしくは王の一族に属していた（KJV 訳では “高貴な人” という言葉は “アミナダブ” と訳されている。 “アミナダブ” は王子の名前である）。
- B. 私の魂が私のことを形づくった（KJV 訳では *my soul had made me as the chariots of my noble people*）。花嫁の魂は、素早く進むことができる王の車のように作られた。言い換えると、彼女は突然、神の民のために仕えたいという強い願望を見出したということである。
- C. 神の働きがどのように発展しているのかを見るために花嫁が下って行ったとき、突然、他の人々を助けようという自分の願いに、彼女は圧倒されてしまう。彼女は、この愛によって、我を忘れた状態になっている、もしくは圧倒されている、取り囲まれている（II コリント 5 : 1 1、1 4）。未成熟で、高慢で、聖書の言葉を間違って適用し、見分ける力もないこれらの “芽が出たばかりのぶどう” たちに、花嫁はいらいらすることもなく、逆に、彼女は優しい同情の心が自分の中にあることに驚いている。
- D. 素早く移動する車のように、花嫁の心は何の抵抗もなく、人々への重荷をもって、速やかに前進していく。彼女は、この新しい自分の心の動きに驚く。彼女自身が気付く前に、他の人々を助けたいと思う彼女の新しい望みと情熱に満ちた重荷を持つ。これは聖霊の働きである。
- E. 神は全教会を愛しておられる。私たちが関わっている部分だけを愛されているのではない。神は、私たちの権威がおよぶ小さな部分だけを所有するのではなく、全教会を私たちに所有してもらいたいと思っておられる。全教会に対する情熱は、終末の時代の教会における一体感のために基礎となるものである（ヨハネ 1 7 : 2 1）。多くの人が自分が所有しているものだけを助けている。
- F. 神のより大きな目的について思いを馳せ、全教会を愛することができるよう人々を訓練する羊飼いを今、主は立てあげておられる。花嫁は不当に扱われたにも関わらず、何一つ苦々しい思いを持つことなく、ヨセフが彼の兄弟を愛したように（創世記 5 0 : 1 5 – 2 1）、キリストの体に対する愛に満ち満ちている。
- G. 花嫁は、勤勉に歩むことによって、この重荷を持って進んでいく。

<sup>1 2</sup> **私たちは朝早くからぶどう畑に行き、ぶどうの木が芽を出したか、花が咲いたか、ざくろの花**



が咲いたかどうかを見て、そこで私の愛をあなたにささげましょう（雅歌7：12）。

V. 花嫁に対する教会の2つの応答（雅歌6：13）

<sup>13</sup> 帰れ。帰れ。シュラムの女よ。帰れ。帰れ。私たちはあなたを見たい。どうしてあなたがたはシュラムの女を見るのです。二つの陣営の舞のように（雅歌6：13）。

A. 花嫁に対する最初の応答は、尊敬と感嘆である。エルサレムの娘たちは、雅歌6：1で見られたように、花嫁と一緒に主を追い求めたいと思っている。ここで、彼女達は、花嫁に対して四度も“帰れ。”と叫ぶことによって、花嫁から学びたいと思う彼女達の願望を必死の思いで表現している。雅歌6：11－12で見られる谷の庭における花嫁の働きから早く帰ってきて欲しいと彼女達は望んでいる。

B. パウロが主のぶどう畑の別のところへ行くために、エペソの長老達のもとを去ったとき、彼らは泣いた。

<sup>37</sup> みなは声をあげて泣き、パウロの首を抱いて幾度も口づけし、<sup>38</sup> 彼が、「もう二度と私の顔を見ることがないでしょう。」と言ったことばによって、特に心を痛めた（使徒20：37－38）。

C. 花嫁は、シュナムというイスラエルの町で育ったので、シュラムの女と呼ばれている。雅歌中この箇所においてのみ、花嫁はシュラムの女と呼ばれる。ソロモンもシュナムも、平和を意味する同じ語源を有する言葉から来ている。イエスとイエスの花嫁は同じ名前を持っているということである。

D. 2つ目の応答は、雅歌5：7において花嫁を打ち、傷つけた嫉妬深い見張り人からの皮肉である。ここで、見張り人たちは“シュラムの女の中に何を見出すのか？”“何故、お前達は彼女に帰ってきて欲しいと思うのだ？”と言いながら、（彼らが最近、検閲した）花嫁に対する娘たちの尊敬に対して、皮肉っぽく挑戦している。見張り人たちは、霊的な助言を求めるために花嫁に会いに行きたいという娘たちの思いを弱めようとする。

E. 二つの陣営の舞というのは、花嫁に対する、娘たちと見張り人たちとの衝突を表している。KJV訳では、この箇所は“二つの軍隊の舞”と訳され、NAS訳では“二つの団体の舞”と訳され、NIV訳では“マハナイムの陣営”と訳されている。マハナイムというヘブル語は、“二つの陣営、二つの軍隊”もしくは町の名前として訳される。マハナイムは、ヤコブとエサウが争った町であるから、結局はどちらの訳でも同じ結論になる。

<sup>13</sup> どうしてあなたがたはシュラムの女を見るのです。二つの陣営の舞のように（雅歌6：13）。

F. マハナイムは、ヤコブとエサウが争った場所として有名である。創世記32章において、ヤコブがエサウの長子の権利を奪ったので、エサウはヤコブを殺すためにヤコブを追いかけていた。マハナイムでヤコブは自分の民を二つの陣営に分けた。それはたとえエサウに捕まったとしても一つの陣営だけしか破滅されないためであった。ヤコブはこの争いの中で彼を助けるために介入した御使いにマハナイムで出会う。

<sup>1</sup> さてヤコブが旅を続けていると、神の使いたちが彼に現われた。<sup>2</sup> ヤコブは彼らを見たとき、「ここは神の陣営だ。」と言って、その所の名をマハナイムと呼んだ（創世記32：1－2）。

G. 舞（ダンス）は、キリストの体における二つの陣営の相互作用である。また霊的な二つの領域（天使と悪魔）を巻き込んだ霊的な戦いの舞と見ることもできる。

H. キリストの体においては、いつも二つの極端な立場がある。激しくイエスを求める人々とそう

ではない人々である。一途な心が結局はたくさんの分派・分裂の中核をなすポイントなのである。

- I. イエスは、成熟と未成熟の間ではなくて、誠実と不誠実の間に分裂をもたらす（マタイ 10 : 34 - 36）。主は、教会の中から妥協を追い出して初めて、教会を統一される。

<sup>34</sup> わたしが来たのは地に平和をもたらすためだと思ってはなりません。わたしは、平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのです。<sup>35</sup> なぜなら、わたしは人をその父に、娘をその母に、嫁をそのしゅうとめに逆らわせるために来たからです（マタイ 10 : 34 - 35）。

- J. 二つの陣営は、ダビデを攻撃するサウルに代表される。パウロのミニストリーは、彼が神に対する不従順に立ち向かったことにより分裂をもたらすことになった。世界中が大騒ぎになったのである（使徒 17 : 6）。

<sup>6</sup> . . . 世界中を騒がせて来た者たちが、ここにも入り込んでいます（使徒 17 : 6）。

#### VI. 見分ける能力のある信者によって、花嫁は弁護される（雅歌 7 : 1 - 5）

<sup>1</sup> 高貴な人の娘よ。サンダルの中のあなたの足はなんと美しいことよ。あなたの丸みを帯びたものは、名人の手で作られた飾りのようだ。<sup>2</sup> あなたのほぞは、混ぜ合わせたぶどう酒の尽きることのない丸い杯。あなたの腹は、ゆりの花で囲まれた小麦の山。<sup>3</sup> あなたの二つの乳房は、ふたごのかわいさ、二頭の子鹿。<sup>4</sup> あなたの首は、象牙のやぐらのようだ。あなたの目は、バテ・ラビムの門のほとり、ヘシュボンの池。あなたの鼻は、ダマスコのほうを見張っているレバノンのやぐらのようだ。<sup>5</sup> あなたの頭はカルメル山のようにそびえ、あなたの乱れた髪は紫色。王はそのふさふさした髪のとりになった（雅歌 7 : 1 - 5）。

- A. この箇所では、先ほどの“シュラムの女とは何者だ？”という皮肉な質問に回答が与えられている。花嫁はまず誠実な信者達によって弁護される（雅歌 7 : 1 - 5）。そして次に主ご自身が花嫁を弁護し、さらに大きな規模の聖霊の働きを彼女の上に解き放つことを約束される（雅歌 7 : 6 - 9）。主の花嫁として、主を激しく追い求める人々を弁護するために、聖霊は誠実な信者達を常に立てあげている。
- B. これらの誠実な信者達は、かつてイエスが花嫁に語った（雅歌 4 : 1 - 5）同じ肯定的な性質が彼女の中に見出されることを見分ける。花嫁がイエスの 10 の素晴らしい価値を語った（雅歌 5 : 10 - 16）のと同様に、誠実な信者達は、ここで花嫁の 10 の価値を語る。
- C. 雅歌 7 : 1 - 5 中の花嫁に対する 10 の肯定的な言葉と、雅歌 4 : 1 - 5 で彼女に語られた 8 つの言葉を比較することは意味のあることである。4 つの異なるポイントがある。雅歌 4 : 1 - 5 において、イエスは彼女の頭について描写することから始め（8 つ肯定的な言葉のうち、6 つが頭についての描写である）、そこから下の体の箇所の描写が続く。これに対して、雅歌 7 : 1 - 5 においては、娘たちは彼女の足の描写から始め、そこから頭へと上がっていく（4 つの肯定的な言葉が頭に関する）。雅歌 7 章の本質は、花嫁のミニストリーに関連している。雅歌 4 章においては、花嫁の性格に焦点が当てられている。
- D. イエスがこれら 10 の性格を見られるとき、私たちは、主が何を喜ばれるのか、また私たちが成熟するために主が何を求めておられるのかを見ることができる。これらは、聖さと実りの実質的な定義である。
- E. 雅歌 7 : 1 - 5 では、娘たちが語っており、雅歌 7 : 6 では、イエスが語っていることは明ら

かである。例えば、娘たちは花嫁のことを“高貴な人の娘”（雅歌7：1）と呼ぶが、これに対して、イエスは雅歌の中ではずっと花嫁のことを“私の愛するもの”とか“私の連れ合い”と呼ぶ。雅歌7：5においては、イエスは“王”として言及されている（花嫁に対して1人称で語ってはいない）。雅歌7：8においては、イエスは1人称で“私は”と語っている。雅歌7：6－9と雅歌7：1－5で語り手が変わっていることを示している。

- F. 娘たちは、“花嫁は美しい”と宣言することによって、明確に花嫁を弁護する立場を取り、花嫁のことを“高貴な人の娘”と呼ぶことによって、彼女の王族としての性格もしくは王家にふさわしい彼女の性格を表現している。私たちは全て、新生により、王家の血筋を引いているのである。

**<sup>1</sup>高貴な人の娘よ。サンダルの中のあなたの足はなんと美しいことよ（雅歌7：1）。**

- G. サンダルの中の花嫁の足というのは伝道を意味している。彼女の伝道での成功は、彼女の美しさを示すしるしである。私たちの足は、福音の備えをはく必要がある（エペソ6：15）。良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか（イザヤ52：6）。私たちの足が踏むところは、私たちの相続分を意味する（ヨシュア1：3）。くつは繁栄と名誉を意味する（ルカ15：22）。古代の世界では貧しい人々はくつを履いていなかった。裸足というのは、象徴的に恥、貧困そして屈辱を表す。
- H. 花嫁のもももしくは足は、彼女の神との歩みの中の力強さを表している。イエスの足は、大理石の柱のようである（雅歌7：15）。彼女のももの丸みは、力を与える彼女の足の筋肉を意味している。この運動選手のような姿は、多くの訓練によって得られたものである。彼女の力強い歩みは多くの犠牲を払って得られたものであり、名人の手によって作られた宝石のように貴重なものである。

**<sup>1</sup>あなたの丸みを帯びたももは、名人の手で作られた飾りのようだ（雅歌7：1）。**

- I. ヘそ（ほぞ）は、子供が母親の胎の中にあって受ける栄養を表している。この箇所は、私たちの内面の生活が主にあって発達していく、主にある発育期を意味している。丸い杯というのは、健康的なヘそを意味している。これは栄養失調とは全く逆である。尽きることのない杯というのは、完全な栄養を意味している。彼女は、力強い人生に必要な栄養分を備えたバランスの取れた食事によって健康である。このことは、私たちの人生における素晴らしい霊的な基盤を意味している。

**<sup>2</sup>あなたのほぞは、混ぜ合わせたぶどう酒の尽きることのない丸い杯（雅歌7：2）。**

- J. 娘たちは花嫁が来るべき収穫の時のために整えられている様子を見出す。小麦の山というのは、収穫の時にだけ見ることのできる大量の小麦を意味している。彼女はとてつもなく大きな収穫により妊娠している（大きな腹）と描かれている。彼女は、ゆりで囲まれた収穫の小麦により妊娠している。彼女の中からやってくる収穫は、純粋さと聖さの中で確立される。

**<sup>2</sup>あなたの腹は、ゆりの花で囲まれた小麦の山（雅歌7：2）。**

- K. 乳房は人々を養う能力を意味している。赤ちゃんは、乳房からの乳によって養われる。彼女は、彼女が生み出そうとしている収穫を養う準備ができていくということである。彼女の乳房は若い子鹿（1歳未満の若い鹿）のようであり、それは年老いて、乳で養う能力がない様子とは対照的である。ふたごのかもしかというのは、人々を養う彼女の能力が2倍であることを表している。これは、人々を養う準備ができていない幼い妹（未成熟な信者）とは対照的である（雅

歌 8 : 8)。

<sup>3</sup> **あなたの二つの乳房は、ふたごのかもしか、二頭の子鹿 (雅歌 7 : 3)。**

- L. 聖書においては、首は意志を表し、こわいうなじ (頑固な) になったり、従順になったりする。反抗的な首はプライドを意味する (イザヤ 3 : 16)。花嫁の意志は、稀少で、犠牲を多く払う必要のある象牙の塔のようである。彼女の確固たる選択・決断は、彼女を守る象牙の塔のように、多くの犠牲を必要とする。

<sup>4</sup> **あなたの首は、象牙のやぐらのようだ (雅歌 7 : 4)。**

- M. 目というのは、啓示を受け取る能力のことを意味する (エペソ 1 : 18)。彼女には鋭い霊的な直観がある (雅歌 1 : 15、4 : 2、4 : 9、6 : 5)。雅歌 4 : 1において、イエスは彼女の目を鳩の目と比較しているが、鳩の目は、彼女の純粋さと忠誠心を表している。ここで彼女の目は、ヘシュボンに池に例えられている。この池は、泥で濁った池ではなくて、透き通っていて、中を簡単に見通すことができる。はっきりと見るということというのは、私たちの最優先事項である。というのも見るのが霊的に成長するための入り口だからである (ピリピ 3 : 8-10)。見方が異なると、感じ方も異なる。バテ・ラビムの門は、ヘシュボンという王家の町の中にあった透き通った水辺のあるリゾート地である (民数記 21 : 25-26)。

<sup>4</sup> **あなたの目は、バテ・ラビムの門のほとり、ヘシュボンの池 (雅歌 7 : 4)。**

- N. 鼻は見分ける能力を意味している。塔 (やぐら) は、守りを提供する。彼女の鼻は、シリア (イスラエルの最大の敵) の首都であるダマスコの方を向いている守護のためのやぐらのようである。レバノン山は、シリアに面するユダの北に位置している。彼女には最も凶暴な敵の存在を見分ける能力があるということである。

<sup>4</sup> **あなたの鼻は、ダマスコのほうを見張っているレバノン山のやぐらのようだ (雅歌 7 : 4)。**

- O. 花嫁の思考の生活は、カルメル山の美しい山頂のように力強い。彼女の思考の生活は、王の考えに満たされている、もしくはカルメル山のような冠を授けられている (イザヤ 35 : 2)。私たちの思考は霊的な戦いにおいて非常に重要である。特に私たちが神をどのようにイメージしているのかは非常に大切である。

<sup>5</sup> **あなたの頭はカルメル山のようにそびえ、あなたの乱れた髪は紫色。王はそのふさふさした髪のとりになった (雅歌 7 : 5)。**

- P. 聖書においては、髪は神に対する私たちの献身を表している。ナジル人の髪は、彼らの神に対する献身を表す外側のしるしである (民数記 6 章)。ナジル人は髪を切らない。彼女の髪は紫色であり、紫という色は王・王家を表している。彼女の献身は、あたかも王の決意のようである (NAS 訳では “その王” = “The King”)。
- Q. 花嫁の献身は、神の心を掴んで離さない。神の愛は非常に力強く、神はその愛によって、神を愛する弱い人々から離れることができない。人々への愛によって神の心が魅了されるというのは、神の弱さではなく、むしろ神の栄光である。神のユニークな能力は、神よりも低い立場の人間を愛することができることである。神の心は私たちによって捕らえられている。神は全ての権威を有しているにも関わらず、花嫁に対して神ご自身の心を惜しみなくお与えになる。
- R. 神の愛によって、神は神の民に結び付けられる。例えば、次の 5 人のとりなし者は神の心を捉えて放さない。：ダニエル、ノア、ヨブ、モーセそしてサムエル (エゼキエル 14 : 14、エレミヤ 15 : 1、出エジプト 32 : 7-14)。

VII. 花嫁はイエスによって弁護される（雅歌 7：6－9）

<sup>6</sup> ああ、慰めに満ちた愛よ。あなたはなんと美しく、快いことよ。<sup>7</sup> あなたの背たけはなつめやしの木のように、あなたの乳房はぶどうのふさのようだ。<sup>8</sup> 私は言った。「なつめやしの木に登り、その枝をつかみたい。あなたの乳房はぶどうのふさのように、あなたの息はりんごのかおりのようであれ。<sup>9</sup> あなたのことは、良いぶどう酒のようだ（雅歌 7：6－9）。

- A. イエスは花嫁を弁護する（雅歌 7：6 で話し手が変わる）。見張り人は“みんなが注意を払わないといけないうのシラムの女とは何者だろうか？”と尋ねた。
- B. イエスの心は完全に花嫁のとりことなっており（雅歌 7：5）、イエスは“ああ、慰めに満ちた愛よ。あなたはなんと美しく、快いことよ。”と告げる（雅歌 7：6）。イエスはイエスの民のことを美しく、快いと思われている。イエスの果物は、花嫁にとって、甘く、快い（雅歌 1：16、2：3）。また花嫁の果物はイエスにとっても快い（雅歌 4：16－5：1）。
- C. “ああ、・・・愛よ”という言葉は花嫁に対する神の心の情熱を表現している。神は、神がイエスを愛するほどに、私たちのことを愛しておられる（ヨハネ 15：9、17：23）。これは人間の理解を超える（エペソ 3：18）。イエスにとって、私たちの愛はぶどう酒よりも大きい（雅歌 4：10）。イエスにとって、人々の神への愛より喜ばしいものはない。私たちが弱く、葛藤している時にでさえ、イエスにとって、私たちの声は甘く、私たちの顔は愛らしい（雅歌 2：14）。
- D. 雅歌 7：1－5において、娘たちが宣言したように、イエスも花嫁の霊的な成熟を肯定する。なつめやし（しゅろ）の木は勝利と征服のしるしであり（黙示録 7：9）、成熟を表す（エレミヤ 10：5）。なつめやしは、旱魃（かんばつ）のときでも生き抜くことができる。というのは、地面のはるか下にある水を見つけるために根を地中深く伸ばすからである。根を深く張ることにより、なつめやしは例外的なほどに、高く、まっすぐに育つ。強い風でさえも、なつめやしの木を倒すことができない。彼女の乳房、すなわち彼女の人々を養う能力は、なつめやしの木の房のようであり、多くの人々を養う。

<sup>7</sup> あなたの背たけはなつめやしの木のように、あなたの乳房はぶどうのふさのようだ（雅歌 7：7）。

- E. イエスは、ご自身の民を“つかみ”、その人々を通して、イエスの臨在を解き放つことを約束しておられる。イエスは、イエスご自身がぶどうの木であり、私たちが枝であること、また枝を通して、彼の力を解き放つと語っておられる（ヨハネ 14：12）。イエスは、なつめやしの木に“登って”、彼に仕える人々を“つかむ”ことを約束しておられる。

<sup>8</sup> 私は言った。「なつめやしの木に登り、その枝をつかみたい。」（雅歌 7：8）

<sup>9</sup> わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます（ヨハネ 15：5）。

- F. 主が人々を“つかまれる”とき、3つの重要な方法で人々に仕事を委任される。

<sup>8</sup> あなたの乳房はぶどうのふさのように、あなたの息はりんごのかおりのようであれ。<sup>9</sup> あなたのことは、よいぶどう酒のようだ（雅歌 7：8－9）。

- G. 主の最初の委任は、聖霊の力によって、人々を養うことである。彼女の乳房は、彼女の中に新しいレベルで働いておられる聖霊の力をもって、人々を養う。
- H. 二番目の委任は、りんごのように、彼女の息によって人々をリフレッシュさせることである。

彼女の息というのは、彼女の内面の生活を意味している。りんごはリフレッシュを表す（雅歌 2 : 3）。聖霊によって、人々をリフレッシュする。

<sup>22</sup>そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」（ヨハネ 20 : 22）

- I. 主の三番目の委任は、彼女の口、すなわち彼女の神との親密さが神にとっての最良のぶどう酒のようであって欲しいということである。雅歌において口は、口による口づけを表している（雅歌 1 : 2、4 : 3、5 : 16）。私たちのイエスに対する親密さは、聖霊がイエスのために、私たちの中で産み出されるものの中で最高のものである。
- J. 私たちは、イエスとの関係の中で最良のものをイエスに捧げるべきである。どんな理由からも、イエスとの親密さを決して無視してはならない。
- K. イエスは、彼女の口の上（KJV 訳では *roof of the mouth*）は聖霊の最高のぶどう酒であると語っている。口の上というのは、口蓋もしくは口の味わいを意味する。ヘブル語では、口の上もしくは口蓋という言葉が用いられている。それは単純に彼女の口から出てくるものを意味している。それはぶどう酒のようであり、イエスに最上の喜びをもたらすものである（雅歌 4 : 10）。

<sup>10</sup>私の妹、花嫁よ。・・・あなたの愛は、ぶどう酒よりもはるかにまさり（雅歌 4 : 10）

- L. ぶどう酒は聖霊による影響を意味する（エペソ 5 : 18）。神にとって最高のぶどう酒は、私たちの神に対する親密さというぶどう酒である。それ（私たちの神への親密さ）は三位一体の関係を除けば、神にとって最も喜ぶべきものである。
- M. 御国における全ての働きの中で最良のぶどう酒、聖霊による最高の働き、イエスがもっとも楽しめるぶどう酒は、教会が成熟した愛をもって歩むことである（ヨハネ 17 : 26）。

<sup>26</sup>それは、あなたがわたしを愛してくださったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです（ヨハネ 17 : 26）。

<sup>37</sup>心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ（マタイ 22 : 37）。

## セッション 22

### 花嫁の成熟したイエスとのパートナーシップ（雅歌 7：9－8：4）

#### I. 雅歌 6：11－7：9 の復習

- A. 雅歌 6：11－12 において、花嫁は霊的に未成熟な人々に仕えることを決意する。花嫁がイエスとともにパートナーシップを持ちながら歩むことができるように備えるイエスご自身が、雅歌における重要なテーマである。
- B. 雅歌 7：8－9 において、イエスは花嫁に三重のミニストリーのやり方を委任する：人々を養うこと、聖霊の臨在を解き放つこと、そして彼女のイエスとの親密さを維持することである。

#### II. 雅歌 7：9－8：4 の概要

- A. 雅歌 7：9－8：4 において、花嫁は雅歌 7：8－9 で委任された三重のミニストリーを実際に行っていく。彼女が“ぶどう酒が私の愛する人のためになめらかに流れる”と言っていることから、彼女のこの三重のミニストリーに対する情熱を見ることができる。
- B. 雅歌 7：9－8：4 において、花嫁は、イエスとの婚礼のパートナーシップを歩むことに関する 4 つの側面について語る。即座の従順（雅歌 7：9－10）、より大きな力を求めるとりなし（7：11－13）、公のミニストリーにおける大胆さと謙遜さ（8：1－2）、そしてイエスとの引き裂かれることのない一体感（8：3－4）の 4 つの側面である。

#### III. 即座に従順することによって婚礼のパートナーシップが表される（雅歌 7：9－10）

<sup>9</sup>私の愛に対して、なめらかに流れる。眠っている者のくちびるを流れる。<sup>10</sup>私は、私の愛する方のもの。あの方は私を恋い慕う（雅歌 7：9－10）。

- A. 思考の流れは雅歌 7：9 の真ん中で大きく変化する。雅歌 7：6－9 においてイエスから受け取った肯定の言葉に応答して、彼女は雅歌 7：8－9 でイエスが彼女にやるようにと委任した 3 つのミニストリーに対する彼女の同意を情熱的に宣言する。
- B. 愛の詩的な言葉である“ぶどう酒がなめらかに流れる”という言葉は、聖霊のリーダーシップに即座に同意する彼女の生活を表している。聖霊のぶどう酒はなめらかに下っていく、というのは彼女が抵抗なく、のどを詰まらせることなく聖霊の導きを受け入れるからである。継続的に聖霊によって満たされるということは、聖霊のリーダーシップの下に継続的に生きることを意味する（エペソ 5：18）。
- C. 花嫁は聖霊のリーダーシップを喜び、神のみこころの杯を何の抵抗もなく飲み干す。  
<sup>8</sup>わが神。私はみこころを行なうことを喜びとします。あなたのおしえは私の心のうちにあります（詩篇 40：8）。

<sup>22</sup>・・・わたしが飲もうとしている杯を飲むことができますか。彼らは「できます。」と言った（マタイ 20：22）。

- D. 彼女がイエスのことを“私の愛する者”と言うとき、それは彼女がイエスへの愛から聖霊に従うということを意味している。聖霊に同意した生活をすればするほど、神は、私たちの心にイエスへの愛をもっと注ぎ込んでくれる（ローマ 5：5、ヨハネ 16：14）。従っていくのが難しいときにでも、私たちは“あなたは私の愛する者で、私はあなた、イエスを愛するが故に、

ぶどう酒はなめらかに下っていく。”と告白すべきである。

E. 聖霊は、霊的に眠った状態にある肉的な信者を目覚めさせたいと望んでおられる。

<sup>14</sup>眠っている人よ。目をさませ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストが、あなたを照らされる (エペソ 5 : 14)。

F. 聖霊は、自分自身の人生においてイエスに従っている花嫁を通して、霊的に眠っている人々にミニストリーされる。

<sup>9</sup>私の愛に対して、なめらかに流れる。眠っている者のくちびるを流れる (雅歌 7 : 9)。

1. 聖霊が眠っている者を目覚めさせたかどうか分かる証拠は、彼らの語る言葉がイエスのリーダーシップの下にあるかどうかである。聖霊は彼らの心を動かし、彼らが純粋と正義の下に語るようにされる。

2. 聖霊は、私たちが聖霊のために語ることができるようにかすかな印象を与え、私たちの同意を求める。聖霊は私たちの自発的な愛を求めておられるから、私たちの自由意志を侵すことなく、私たちが優しく導かれる。

G. 旧約聖書の預言者たちは、聖霊の祝福と臨在を象徴するためにぶどう酒という表現を用いる (ヨエル 3 : 18、アモス 9 : 13、ホセア 2 : 22、ゼカリヤ 9 : 17、使徒 2 : 15-16)。

<sup>15</sup>・・・あなたがたの思っているようにこの人たちは酔っているではありません。<sup>16</sup>これは預言者ヨエルによって語られた事です (使徒 2 : 15-16)。

H. 雅歌 7 : 9 は、それを 2 つの箇所に分けると理解しやすくなる。主が 9 節の最初の部分を語り、残りの部分は花嫁が語っている。雅歌を通して、花嫁はイエスのことを“私の愛する方” (my Beloved) と呼ぶ (イエスはこの表現は用いない)。イエスが花嫁に呼びかける時には、“わが愛する者” (My love) とか“私の美しい人” (My fair one) と呼ぶ。

#### IV. 神の愛における花嫁の二重の霊的なアイデンティティー (雅歌 7 : 10)

<sup>10</sup>私は、私の愛する方のもの。あの方は私を恋慕う (雅歌 7 : 10)。

A. 雅歌 7 : 9 における花嫁の従順は、この二重の霊的なアイデンティティーに基づいている。彼女の霊的なアイデンティティー # 1 : 彼女は自分自身のことをイエスが求めている者と見ている。彼女の霊的なアイデンティティー # 2 : 彼女は自分自身のことを愛するイエスに完全に従属している者として見ている。イエスが彼女を求めているが故に、彼女は自分の愛する方のものであるということに注意を払うべきである。イエスの望みが最初に来ていることを理解すべきである。私たちがイエスを愛するのは、最初にイエスが私たちを愛してくださったからである。

<sup>19</sup>私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです (I ヨハネ 4 : 19)。

B. 霊的アイデンティティー # 1 : 彼女は自分自身のことをイエスが求めている者と見ている。雅歌における最も重要なテーマは、神が私たちを求めてくださっているという啓示である。花嫁は、イエスが彼女を愛し、彼女のことを楽しんでいるということを深く認識している。この啓示は、私たちを強力に変える。この啓示こそが、彼女の従順と勤勉さの主要な動機である (雅歌 4 : 9、6 : 4-5、7 : 6-10)。神が私たちを求めておられるという認識を持つことによって、私たちは他人の意見に従って生きるということを拒絶する力を得ることができる。このことによって、私たちは感情的な守りを得ることができる。私たちはみことばを用いて、“聖



書には、他の人々が私を拒絶したとしても、神様の望みは私に向けられていると書かれている。”と敵に対して言うことができる。

- C. 霊的なアイデンティティー # 2 : 彼女は自分自身のことを神から愛されている者と見ており、“私は私の愛する方のもの” もしくは “私はイエスに属している。私はイエスのリーダーシップの下に居る。私はイエスを喜ばせたい。イエスの望みこそ、私が最も気にかけることである。”と言う。イエスが完全に彼女を所有しているという啓示を彼女は受け取っている (I コリント 6 : 20)。彼女はイエスのためだけに存在しており、他のことを全く考慮しない (黙示録 14 : 4)。彼女は何が彼女に起ころうと、気にすることなく神に仕える。彼女の焦点はイエスだけに向けられており、自分自身の利益については気にかけていない。イエスが何を求めておられるのかが、彼女の人生にとって最も重要な問題である。イエスが何を求めておられるのかが、彼女にとって最も価値のあることである。
- D. 私たちが神によって求められており、私たちが神のことを求める (愛する) という事実によって、私たちのアイデンティティーは最もうまく定義される。私たちのやるべきことは、“私たちは、神の愛する者である。それこそが私が私である理由である。” という私たちの真のアイデンティティーを告白することである。
- E. 私たちは犠牲的な従順の生活を生きることができる。それはイエスが既に私たちを求めてくださったからである (イエスの愛を勝ち取るために私たちが努力する必要はない)。ぶどう酒がなめらかに下っていくのは、イエスが私たちを求め、私たちがイエスに属しているからである (雅歌 7 : 9 – 10)。

#### V. イエスは神の民に対して大きな望みを抱いておられる (雅歌 7 : 10)

- A. 私たちの最も大きな栄光は、私たちが神の心を動かすことができるということである。神の心は、私たちの揺らぐことのない神への愛によって深く動かされる。私たちの心の動きは神にとって非常に重要で、それらは神の本に記録される。

**<sup>8</sup>あなたは、私のさすらいをしるしておられます。どうか私の涙を、あなたの皮袋にたくわえてください。それはあなたの書には、ないのでしょ**うか (詩編 56 : 8)。

- B. あなたはどのようにイエスの心を動かすことができるか知っているだろうか? イエスは、イエスのことを本当に愛する弱い人々によって打ち負かされる。私たちのイエスに向けられる愛の応答は、私たち自身の理解を超えて、イエスにとって非常に重要である。花嫁は、彼女の愛がイエスの心に与えるインパクトについて理解していなかった。試練の時にあって、イエスの臨在を感じるができなかったからである。しかし、試練の真っ只中にあるときの私たちの忠実な愛について、イエスはご自身がどのように感じているかについて明らかにされる。

**<sup>9</sup>あなたの目を私からそらしておくれ。それが私をひきつける (雅歌 6 : 5)。**

- C. イエスの私たちに対する愛は非常に力強いので、イエスにご自身を愛する弱い人々から離れることができない。イエスが、ご自身の人々への愛によって捕えられることはイエスの栄光である (イエスの弱さではない)。イエスよりも低いところにいる人々を愛するイエスの力は他に類をみないものである。イエスの心は、花嫁によって完全にとりこになっている (雅歌 7 : 5)。
- D. 神は、神がイエスを愛されたように私たちを愛してくださっている (ヨハネ 15 : 9、17 : 23)。これは私たちの理解の範囲を超えている (エペソ 3 : 18)。イエスの民による、イエ

スへの愛よりも大きな喜びはイエスにとって存在しない。私たちが弱く、葛藤しているときに  
でさえ、イエスにとって、私たちの声は甘く、私たちの顔は美しいのである。

E. “この啓示を私に解き放ってください。あなたの愛を私の心に注いでください。”と私たちは常  
に祈るべきである。

<sup>5</sup> どうか、主があなたがたの心を導いて、神の愛とキリストの忍耐とを持たせてくださいますよう  
に (II テサロニケ 3 : 5)。

<sup>5</sup> 私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです (ローマ 5 : 5)。

VI. 私たちのパートナーシップが力を求めるとりなしの中に表現される (雅歌 7 : 11 - 12)

<sup>11</sup> さあ、私の愛する方よ。野に出て行って、ヘンナ樹の花の中で夜を過ごしましょう。<sup>12</sup> 私たち  
は朝早くからぶどう畑に行き、ぶどうの木が芽を出したか、花が咲いたか、ざくろの花が咲いたか  
どうかを見て、そこで私の愛をあなたにささげましょう (雅歌 7 : 11 - 12)。

A. 私たちのイエスとのパートナーシップが、イエスの力がもっと解き放たれるのを見たいという  
私たちのとりなしの中に表現される。雅歌 7 : 8 において、イエスは彼女の人生において聖霊  
を解き放つことを約束された。彼女はこの約束に従って、とりなしをする。ここで、私たちは  
花嫁がミニストリーにおいて前進しようとする決意を見ることができる (雅歌 6 : 11)。

B. 以前、彼女はイエスとパートナーシップを結び、未成熟な信者たちをイエスの祝福とリーダー  
シップの下に招き入れるために、庭へ下りて行った。しかし、今、彼女は、イエスの臨在が彼  
女の働きを通して解き放たれるように、イエスが彼女と一緒に来てくれるようにととりなして  
いる。雅歌 6 : 11 の“私が下って行きます。”という言葉から“一緒に行きましょう”という  
言葉に変わっている。彼女は“一緒にしましょう”という言葉に 4 回使用しているが (雅歌 7 :  
11 - 12)、それは彼女とイエスが共に働くことを意味している。

<sup>11</sup> 私は・・・庭へ下って行きました。・・・ぶどうの木が芽を出したか、・・・、見るために (雅  
歌 6 : 11)。

<sup>20</sup> そこで、彼らは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばに  
伴うしるしをもって、みことばを確かなものとされた (マルコ 16 : 20)。

C. 雅歌 7 : 11 において、花嫁は決意して、村々に、また収穫の野に出て行く (ヨハネ 4 : 35)。

<sup>11</sup> さあ、私の愛する方よ。野に出て行って、ヘンナ樹の花の中で夜を過ごしましょう (雅歌 7 :  
11)。

<sup>9</sup> 私たちは神の協力者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です (I コリント 3 : 9)。

<sup>35</sup> ・・・目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています (ヨハネ 4 : 3  
5)。

D. 奉仕の場所は、私たちの家族、仕事、教会そして近隣から始まる。そこは神があなたを導いて  
おられる場所である。それは、人々が住むところならどここの場所でもあり得る。奉仕するた  
めに、飛行機に乗ってどこかへ行く必要はない。

E. 村々というのは、イエスが相続分を有し、彼の教会を建てたいと思っている小さな場所のこ  
とを意味している。花嫁は、神が、有名でない人々、大きな町ではない場所に対して価値を見出  
されていることを理解している。彼女は、田舎の場所にでさえ、ある季節の間、喜んで留まる  
(雅歌 7 : 11)。

- F. 朝早く出かけるというのは、主が彼女に与えたミニストリーに対する彼女の勤勉さと緊急性を表している。
- G. 彼女は、まだ実を結んでいない芽を出したばかりのぶどうの世話をするためにぶどう畑に下って行く。彼女は、芽を出したばかりのぶどうのことを、イエスの相続分であり、“イエスの庭”とみなしているの、彼女はそれらのぶどうを見に行くために下って行く。また彼女は、それらのぶどうをイエスの相続分だとみなしているがゆえに、ぶどうの成長を辛抱強く待つことができるのである。芽が出たばかりのぶどう、花、ざくろの花は、まだこれから成熟することが必要な様々な人々、ミニストリーのことを意味している（雅歌4：12、4：13、6：11）。
- H. モラビア教徒は、“小羊は、彼の苦しみの報いを受けるべきである。”という信条の下、犠牲を伴う生活を行っていた。この箇所では彼女はこのような聖霊の影響を受けながらイエスと共に走っている。

## VII. そこで私の愛をあなたにささげましょう（雅歌7：12）

<sup>11</sup> さあ、私の愛する方よ。野に出て行って、ヘナ樹の花の中で夜を過ごしましょう。<sup>12</sup> . . . 私たちは朝早くからぶどう畑に行き、. . . そこで私の愛をあなたにささげましょう（雅歌7：11-12）。

- A. 花嫁は、ミニストリーの最中に、誰からも邪魔されないイエスとの親密さを経験する。“そこで”というのは、無私の働き、信仰の危機、落胆、不当な扱いが起こっている所である。彼女は、イエスとの親密さに魅かれること、そしてミニストリーでイエスと共に走ることの両方を大切に考えている（雅歌1：4）。彼女は、ミニストリーの激しさの中で、イエスとの親密さを失ってしまうのではなく、人々に仕えながらもイエスを愛する術を学んでいる。彼女は畑や村々で効果的にイエスと共に走り、イエスはイエスの相続分を畑から収穫していく。
- B. 木の陰の下の酒宴の席で、イエスに私たちの愛を捧げることは非常にたやすい（雅歌2：3-4）。未成熟な娘は、プライベートなところでイエスを愛することはできるが、人々に仕えている間、その愛を保つことができない。
- C. 困難、迫害、落胆の時に、気をそらされず、イエスへの愛を保ちながら歩むためには、成熟が必要である。花嫁は、ピリピ3：10に概要が述べられている使徒的なキリスト教の中を歩んでいる。使徒的なキリスト教では、困難さを許容しながらも、親密さとミニストリーの中を歩むようにと私たちは召されている。パウロは使徒16章において、不当に牢に投獄されている間にも、看守へのミニストリーを通じて、イエスを愛し続けていた。

<sup>10</sup> 私は、キリストとその復活の力（ミニストリー）を知り、またキリストの苦しみ（困難）にあずかることも知って（親密さ）、キリストの死と同じ状態になり（ピリピ3：10）

- D. パウロは他のどの使徒よりもミニストリーに励み、非常な困難を経験した。

<sup>10</sup> . . . 私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです（Iコリント15：10）。

<sup>23</sup> . . . 私の労苦は彼らよりも多く、. . . <sup>27</sup> 労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。<sup>28</sup> このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります（IIコリント11：23-28）。

VIII. 花嫁は、彼女の働きの実をイエスに楽しんでもらいたいと望む（雅歌 7 : 1 2 – 1 3）

<sup>12</sup>そこで私の愛をあなたにささげましょう。<sup>13</sup>恋なすびは、かおりを放ち、私たちの門のそばには、新しいのも、古いのも、すべて、最上の物があります。私の愛する方よ。これはあなたのためにたくわえたものです（雅歌 7 : 1 2 – 1 3）。

A. 恋なすびのかおりは、花嫁とイエスが愛し合いつつ、共に収穫を刈り取るときに、あふれ流れ出す。恋なすびは、素晴らしいかおりを放つ、紫色の花をつける。恋なすびは、神との親密さを象徴している。古代、不妊の女性は、子供をみごもる確率を増すために、恋なすびを用いた。不妊に苦しんでいた時に、彼女の妹のレアから恋なすびを使うようにと言われたラケルの話にちなんで、恋なすびは愛と肥沃に関わる果物として知られるようになった。ラケルの話においては明確に書かれてはいないが、ラケルが恋なすびによって、不妊が癒された可能性は大きい（創世記 30 : 1、14 – 16）。聖書の中で恋なすびについて語られているのは、雅歌以外ではこの創世記の箇所だけである。今日でもイスラエルの伝統において、恋なすびは愛に関連する果物として知られている。

B. 彼女のミニストリーの影響は、素晴らしい実りを結ぶ結果となった。彼女のミニストリーの実がイエスにとって喜ばしいものであるということを知ることは喜びである（雅歌 4 : 16）。私の門に実があるというのは、私の目の前に実があるということを意味している。

C. 聖霊は私たちに油を注ぎ、新しい実と古い実の両方を結ぶようにされる。イエスは、私たちの倉から、新しい物と古い物を取り出すと語られた。彼女の新しく新鮮な勝利と経験だけでなく、過去の勝利と経験から証明された真理も含まれているということである。

<sup>52</sup>そこで、イエスは言われた。「だから、天の御国の弟子となった学者はみな、自分の倉から新しい物でも古い物でも取り出す一家の主人のようなものです。」（マタイ 13 : 52）

D. 天の御国に積まれている従順と信仰の生活の中から、聖霊は私たちに宝物を与えてくれる。私たちはそれらを積み上げ、イエスに捧げる。彼女は、彼女の愛する方であるイエスのために素晴らしい実りを積み上げる。

<sup>20</sup>自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません（マタイ 6 : 20）。

E. 私たちはイエスの御前に立つとき、私たちの宝物をイエスの前に投げ出す（黙示録 4 : 10）。このたくわえられた宝物は、最後の日の私たちの冠となる。私たちの人生のゴールは、最後の日にイエスに捧げるために、富をたくわえることである。私たちの苦労・犠牲は、イエスへの愛によって動機づけられる。このことによって、私たちはミニストリーの野に出て行くことを迫られるのである。

<sup>10</sup>24人の長老は御座に着いている方の御前にひれ伏して、・・・自分の冠を御座の前に投げ出して言った（黙示録 4 : 10）。

IX. 彼女の謙遜さと公のミニストリーの中でパートナーシップが表される（雅歌 8 : 1 – 2）

<sup>1</sup>ああ、もし、あなたが私の母の乳房を吸った私の兄弟のようであったなら、私が外であなたに出会い、あなたに口づけしても、だれも私をさげすまないでしょうに。<sup>2</sup>私はあなたを導き、私を育てた私の母の家にお連れして、香料を混ぜたぶどう酒、ざくろの果汁をあなたに飲ませてあげまし

よう (雅歌 8 : 1 - 2)。

- A. 雅歌において、母というのは歴史上の教会を表している。神は私たちの父であり、教会は母として語られる。これまでの歴史を通して贖われた者たちは“母”として描かれる。その“母”から、イエス（人の子）が生まれ、信者たちが生まれていく（黙示録 12 : 5、17）。
- B. 彼女は公にイエスに対する彼女の忠誠心と愛情を大胆に表したいと切望している。彼女は“ああ、あなたイエスが私の兄弟のようだったら”と祈る。直系の家族でない異性に対して、公に愛情を表すのは不適切なことであった。彼女は、自分の兄弟に対して持っている自由さをもって、イエスと公に関係を持ちたいと願っている。その当時の女性は、婚約者よりも自分の兄弟に対する方が、公の場所においてより親密さを示すことができたのである。
- C. 彼女は、使徒たちの祈りに見られるように（使徒 4 : 29、エペソ 6 : 19）、彼女の人生に大胆さが引き続き解き放たれるようにと望んでいる。大胆さは、個性の特徴と言うより、むしろ聖霊の働きによるものである。
- D. “私の母の乳房を吸った兄弟”というのは、本当の兄弟であって異母（異父）兄弟ではないということを示している。異母兄弟ではなく、同じ母から生まれた子供であることを示している。古代、男性は複数の妻を持つ場合があった。それ故、多くの兄弟姉妹が同じ父親を持つが母親が異なっていた。異母兄弟はしばしば、アブシャロムとアムノンのようにライバルとなった（II サムエル 13 章）。
- E. 花嫁は、もし公の場所でイエスに出会ったら、蔑まれずにイエスと口づけすることができたと祈る。蔑まれずにイエスと公の場所で口づけをするというのは、誤解されたり、蔑まれたりせずに、公の場所で、彼女のイエスに対する思いを完全に表すということを意味している。
- F. 彼女は、イエスとのプライベートな生活のある部分に関しては、公の場所で表すことを抑える必要があることを認識している。主と共に歩む私たちの生活の中で、プライベートに保っておく必要のある表現の仕方がある。親密な祈りや賛美の表現が、公の場所では最もふさわしいと言えないケースもある。
- <sup>12</sup>・・・あなたがたは御霊の賜物を熱心に求めているのですから、教会の徳を高めるために、・・・  
<sup>19</sup>教会では、異言で1万語話すよりは、・・・私の知性を用いて5つのことばを話したいのです。  
<sup>20</sup>・・・物の考え方において子どもであってはなりません。・・・<sup>23</sup>ですから、もし教会全体が一か所に集まって、みな異言を話すとしたら、初心の者とか信者でない者とかがはいって来たとき、彼らは、あなたがたを気遣いだと言わないでしょうか（I コリント 14 : 12, 19 - 20, 23）
- G. もし彼女が公の場所で不適切な大胆さを示していたとしたら、彼女はさげすまされたか、もしくは、“気が狂った”とレッテルを貼られただろう。そうなると、福音の妨げになってしまう。私たちは、神が私たちに与えてくれたものを何でも、どんな機会にでも表現する訳ではない。理解することができない人が居る場合には、私たちの自由を差し控えることによって、私たちは愛の中を歩むことができる（ローマ 14 : 14 - 15 : 2、I コリント 14 : 20、23 - 33、6 - 19）。
- H. 婚姻のパートナーシップが油注がれたミニストリーにおいて表される（雅歌 8 : 2）。  
<sup>2</sup>私はあなたを導き、私を育てた私の母の家にお連れして、香料を混ぜたぶどう酒、ざくろの果汁をあなたに飲ませてあげましょう（雅歌 8 : 2）。
- I. イエスに栄誉を与える場所にイエスを導き、連れて行くという権威をイエスは花嫁にお与えに

なった。彼女は、油注がれたミニストリーを通して、イエスをその場所に連れて行くことができるようにと祈っている。彼女は、自分自身の名前やミニストリーを立て上げることを求めたりしないで、イエスご自身を連れて行くことを切望している。

- J. 彼女は“私があなたを導きます”と祈る。イエスは、ご自身の御国において、私たちがいくつかの決断をすることをお許しになっている。イエスは、ご自身の目的に沿った働きの中で、私たちが決めたことを祝福される。このことは、イエスが、イエスの共同相続人としての私たちに与えてくださった権威を示している（ローマ8：17）。成熟した信者は、イエスに榮譽を与える方法でイエスを導くことだけを望む。
- K. 彼女は、イエスを彼女の母親、言い換えると、彼女を教え育ててくれた人のところに連れて行くことを望んでいる。これは、彼女が長い間、関係を持ってきた人のことを指している。私たちが慣れ親しんだ関係を持っている人たちにミニストリーすることの方が時に難しい。預言者は、自分の故郷では受け入れられないことが多かった（マタイ13：57）。慣れ親しんだ関係にあるとき、ミニストリーを差し控えることが一番簡単である。彼女自身が神と歩み始めたときから、彼女のことを知っていたような人々に、彼女は喜んでイエスの真理を宣べ伝える。
- L. 彼女は、神の深い真理を彼女の母の家、言い換えると、教会の人々に伝えたいと望んでいる。
- M. 何故、彼女は、彼女の昔からの友達を、神の深い真理によって、掻き立てようとするのだろうか？彼女は、彼女が信仰を持ち始めた時代に、彼女を教え導いてくれた人々に対して感謝している。彼女は自分自身が祝福されているときにでも、彼女のルーツを忘れてはいない。彼女は、彼女を最初に訓練してくれた人々を、彼らに仕えることで尊敬している。私たちは、主が私たちに権威をもって与えてくださった相続分を光榮に思わないといけない。私たちは、信仰の最初に関係を持っていた人々が、神との深い関係に入って行かないからといって、彼らに対して、批判的になってはいけない。
- N. 花嫁は“香料を混ぜたぶどう酒、ざくろの果汁を飲ませてあげましょう”（雅歌5：1）と祈ることによって、イエスに最高のものを捧げようと切望している。榮譽ある客人をもてなすときに、香料を混ぜたぶどう酒を作る。それは普通のぶどう酒よりも素晴らしい飲み物である。
- O. それは非常に高価なものであるが、客人を最高のものでもてなそうすることは適切なことである。彼女は、それが彼女にとってどんなに高価なものであっても、最高のものをイエスに捧げることを切望している。“私はあなたに飲ませてあげましょう”と言う時、彼女はイエスを榮譽ある客人として彼に仕え、イエスの全ての望みに対して応答することを約束している。
- P. ざくろの果汁というのは、彼女の内的な生活において、彼女が経験している恵みの甘さを表している。彼女のミニストリーの基盤は、彼女が隠れた場所において神と経験したことである。

X. 壊すことができないイエスとの一体感の中に表されるパートナーシップ（雅歌8：3-4）

<sup>3</sup> ああ、あの方の左の腕が私の頭の下にあり、右の手が私を抱いてくださるとよいのに。<sup>4</sup> エルサレムの娘たち。私はあなたがたに誓っていただきます。揺り起こしたり、かき立てたりしないでください。愛が目ざめたいと思うときまでは（雅歌8：3-4）。

- A. イエスは彼女の祈りに答え、彼女に近づき（雅歌8：1）、彼女をつかむ（雅歌7：8）という彼の約束を成就された。
- B. 神の左の腕というのは、私たちの肉の目では見ることができない神の働きを意味している。神

の左の腕は、彼女の頭の下にあるので、彼女からは見ることはできない。主は、私たちが見ることができないたくさんのことを私たちのためにしてくださっている。私たちを祝福し、備え、守るために、多くのことを抑えたり、もしくは解き放ったりされる。この時代にあって私たちが気づかない災難から、神は私たちを守っていてくださる。

- C. 神の右の手は、目に見えて、見分けることができる神の働きを意味している。ソロモンが花嫁を抱くために、彼女の前に立っている。だから彼女はその手を見、感じるができる。このことは、感じ、また見分けることができる神の甘い臨在の現われを意味している。時々、私たちは神の右の手の働きによって、私たちの心が柔らかくされるのを感じる。物理的に抱擁されると簡単に感じるができるので、このことは神の行動がはっきりと現われていることを示している。イエスの抱擁をあらわにすることによって、主は主ご自身を彼女に見つけられることを許されている（雅歌 8 : 1）。神による抱擁によって、彼女の心は柔らかくされる。
- D. 聖霊は、戦略的で霊的な季節において、私たちを守られる（雅歌 8 : 4）。ここで聖霊が語っておられる。聖霊は、各々の人々の霊的な生活において、戦略的な季節を用意しておられる。主の心に関する新しく、また深い啓示の中で、私たちの心を整えようとイエスが望まれる季節がある。この季節における聖霊の花嫁に対する計画は、彼女の中に、大胆さと謙遜さを分与することである（雅歌 8 : 1 - 2）。
- E. エルサレムの娘たちは、聖霊の様々な働きや神にある異なった季節を見分ける能力が不十分な信者を表している。聖霊は、他の信者たちが彼らの意見や裁きを述べることによって、この季節の中で花嫁の心を持って献身している人々を邪魔したり、かき立てたりしないようにと命じられる。
- F. “愛が目ざめたいと思うときまでは”（英語では Until it pleases）の文章の中にある “it” は、ヘブル語では “それ” とか “彼” もしくは “彼女” と訳すことができる。NAS 訳では、“それが喜ぶまでは” と訳さず、正しく “彼女が喜ぶまでは、愛を起こさないで” と訳している。もしここが “彼” ならば、主がエルサレムの娘たちの行動によって、かき立てられることになってしまう。主は、かもしかのような優しさでかき立てられないようにと守られる必要はない。守られる必要があるのは花嫁の方である。
- G. 私たちはイエスの御前に立つとき、私たちの宝物をイエスの前に投げ出す（黙示録 4 : 10）。このたくわえられた宝物は、最後の日の私たちの冠となる。私たちの人生のゴールは、最後の日にイエスに捧げるために、富をたくわえることである。私たちの苦労・犠牲は、イエスへの愛によって動機づけられる。このことによって、私たちはミニストリーの野に出て行くことを迫られるのである。

<sup>10</sup> 24人の長老は御座に着いている方の御前にひれ伏して、・・・自分の冠を御座の前に投げ出して言った（黙示録 4 : 10）。



## セッション 23

### 成熟した愛による婚姻の封印（雅歌 8：5－7）

#### I. イントロダクション

A. 雅歌 8：5－7 のテーマ：神の炎のような愛によって、超自然的に私たちの心を封印するという神の約束。

<sup>6</sup>私（イエス）を封印のようにあなたの心臓の上に、・・・その炎は火の炎、すさまじい炎です（雅歌 8：6）。

B. このみことばは雅歌における、また新しい契約における最高峰である（ヘブル 10：16）。花嫁の旅は、神のみことばによる口づけを求める叫びから始まり（雅歌 1：2）、彼女の心の上の炎の封印で終わる。

<sup>2</sup>あの方（イエス）が私に口づけしてくださったらよいのに（雅歌 1：2）。

C. セッション 1 からの復習：雅歌は 8 章からなるラブソングである。雅歌は 2 つの方法で解釈される。

1. 通常解釈：ソロモン王と彼の花嫁、シュラムの女とのラブストーリー。婚姻関係における愛の美しさを讃える聖書の原則を強調する。

2. 霊的な解釈：ソロモン王と彼の花嫁のラブストーリーは、王なるイエスと彼の花嫁、教会との関係における霊的な真理を象徴している。雅歌が書かれてから 3000 年もの間、最も多くなされてきた解釈がこの霊的な解釈である。

D. イエスはエマオの途上にある弟子たちに、聖書の全ての書（雅歌も含む）からイエスについて語った。

<sup>27</sup>それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに解き明かされた（ルカ 24：27）。

E. 聖書はすべて、神の靈感による（II テモテ 3：16）。聖霊はイエスに忠実で、聖書のすべての箇所、イエスをほめたたえる。

<sup>14</sup>御霊はわたしの栄光を現わします。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです（ヨハネ 16：14）。

F. 結婚はなくなるが、みことばは永遠に残り、イエスを愛するようにと私たちを鼓舞する。

<sup>30</sup>復活の時には、人はめとることも、とつぐこともなく（マタイ 22：30）

G. 神の炎による封印を理解するためには、イエスのための永遠の連れ合い、すなわち、自発的な愛をもって、イエスにくびきでつながれた花嫁を生み出すという父なる神の約束を理解する必要がある。イエスに従うことは神からの命令であるが、愛はいつでも自発的なものである（ピリピ 2：9－11）。

H. イエスは、父なる神がイエスを愛されたように、人々がイエスを愛することができるようにと祈られた。

<sup>26</sup>そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。それは、あなたがわたしを愛してくださったその愛が彼らの中にあり、・・・（ヨハネ 17：26）

I. 神を愛するためには神が必要である。心から神を愛するためには、聖霊の超自然的な助けが必要である。神を愛することができる油注ぎは、聖霊が信者に与えてくれる賜物の中で一番大き



なものである。聖霊は、神の炎のような愛で私たちに洗礼を授ける“すべてを燃やし尽くす火”であり、“愛の生ける炎”である。

<sup>5</sup>・・・私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです（ローマ 5：5）。

<sup>16</sup>その方（イエス）は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります（ルカ 3：16）。

J. 屋上の間に集まっていた120人の信者は、神の炎の愛によるバプテスマのしるしを受けた。

<sup>3</sup>また、炎のような分かれた舌が現われて、ひとりひとりの上にとどまった（使徒 2：3）。

K. 神の愛による封印は、第一の戒めの真理と神の心との一致を指し示している。神が私たちを心を尽くし、力を尽くして愛してくれているように、私たちが神を愛することができるように神は私たちを助けてくださる。

<sup>30</sup>心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ（マルコ 12：30）。

L. イエスは、私たちが神の心と一つであるように、私たちの心もお互いに一つとなることができるようにと祈られた。このことは、私たちの心と感情が、超自然的な方法によって（神の栄光によって）、神の心と一致することを意味している。このことは、この時代にあっては部分的に達成され（そのことは信者でない人々によって証され）、また永遠の時代にあっては完全に達成される。

<sup>21</sup>それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。<sup>22</sup>またわたしは、あなたがわたしに下さった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです（ヨハネ 17：21－22）。

M. 心を尽くして神を愛し、自分自身のように隣人を愛するというこの2つの大きな戒めを守って歩むことが、この時代の教会の相続分であり、召命であるということを私たちは信じなければいけない。神がこの時代の人間の霊にお与えになろうと決められたレベルまで、私たちの内なる人が愛の油注ぎを受けて、完全に成長することができるように、私たちは信仰の原則を適用しなければいけない。

<sup>23</sup>だれでも、この山に向かって、「動いて、海に入れ。」と言って、心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおりになると信じるなら、そのとおりになります（マルコ 11：23）。

N. 私たちは、“主よ、あなたがもっと欲しいです。”と叫ぶと、イエスは、“私もあなたがもっと欲しい。”と応答される。これが、イエスが力づくで御国の約束を勝ち取るために必要だと言われた愛の霊的な激しさである。

<sup>12</sup>・・・天の御国は激しく攻められています。そして、激しく攻める者たちがそれを奪い取っています（マタイ 11：12）。

II. ねたむ花婿としてのイエスを私たちのところに招くようにイエスは私たちを召しておられる

<sup>6</sup>私（イエス）を封印のようにあなたの心臓の上に、封印のようにあなたの腕につけてください。愛（あなたの中にある神の愛）は死のように強く、（神の）ねたみはよみのように激しいからです。

その炎は火の炎、すさまじい炎です。7大水（罪、プレッシャー）もその愛を消すことができません。洪水も押し流すことができません。もし、人が愛を得ようとして、自分の財産をことごとく与えても、ただのさげすみしか得られません（雅歌8：6－7）。

A. 1988年の7月、私に耳に聞こえる声で語りかけられた。私は事務所に居て、雅歌8：6を読んで、“イエス様、私の心をあなたの愛の封印で封じてください。”と祈り始めた。その時、主は恵みを解き放って、世界中のキリストの体が雅歌8：6－7の中を歩むようすること、そして私のミニストリーを通して、このことをテーマとすべきであると語られた（これが、IHOP-KCのムーブメントの約束となった）。

B. 私たちの中にある神の愛は、死のように強い。一度それに捕えられるとそこから逃れ出すことは決してできない。私たちの中にある神の愛は、死のように強く、また全ての領域に及ぶほどの影響力を持っている。自然の領域では、死の力から脱出することができるものは何もない。神の愛は、全ての領域において私たちを捕え、離さない。また、神のねたむ愛は、どんな暗闇の領域をもそのままの状態に放っておくことを許さない。神のねたむ愛は、よみのように激しい、すなわち死のように妥協を許さない。

C. ねたむ神であるイエスは、私たちのすべてを求めておられる。私たちは、イエスが私たちに与えてくれた光に従って、神と共に歩む。私たちがこの光に従っていくとき、聖霊は、私たちにもっと光を与えてくださり、私たちの愛をどのようにして増していくかを示してくださる。

**<sup>5</sup>それとも、「神は、私たちのうちに住まわせた御霊を、ねたむほどに慕っておられる。」という聖書のことが、無意味だと思うのですか（ヤコブ4：5）。**

D. すべてを要求されるねたむ愛の神として、私たちのところに来てくださるように、私たちはイエスに熱心に求めなければならない。この望みは、この時代において、神が人間の霊に与えてくださるものの中で最も崇高な望みである。

**<sup>14</sup>あなたはほかの神を拜んではならないからである。その名がねたみである主は、ねたむ神であるから（出エジプト34：14）。**

E. イエスは、私たちの救い主（赦す方）、癒し主、主である以上の存在として、すなわちねたむ花婿なる神としてのご自身を私たちに現わしたいと思っておられる。ねたむ神は、私たちの心をすべて獲得するまでは、私たちを追い求める努力を決してゆるめたりはしない。

### III. 神の封印は、決して消すことができない神の火の炎である

**<sup>6</sup>私（イエス）を封印のようにあなたの心臓の上に、・・・その炎は火の炎、すさまじい炎です。**

**<sup>7</sup>大水（罪、プレッシャー）もその愛を消すことができません。洪水も押し流すことができません（雅歌8：6－7）。**

A. 古代の世界では、王は、重要な書類には“蠟（ろう）による封印”をつけた。王は蠟でその書類の封をし、そして王の印の指輪で蠟を押す。王の封印によって、それらの書類は守られ、王のものであると認証される。この蠟による封印は、王の所有、守護そして権威を表している。王の封印は、彼の保障を表している。王国のすべての力によって守られているということの意味している。

B. 水はいつも火を消す（その火が神の超自然的な火でない限り）。敵は、この火を消すために、誘惑、無関心、落胆、痛みなどの大水を送ってくる。しかし、私たちの心に注がれる（また継続

的に生み出される) 神の愛は、罪や誘惑という暗闇の洪水よりもはるかに強力である。

C. 火の封印は、継続的に聖霊の力が分与されることであり、私たちの心に神の愛を注いでいく（ローマ5：5）。封印は、聖霊との交わりにおける私たちの現在進行形の経験である。

<sup>13</sup>・・・またそれを信じたことによって、約束の聖霊をもって証印を押されました（エペソ1：13）。

#### IV. 神の臨在を招くことによって、私たちの心にイエスの封印を押さなければならない

A. イエスは彼女の心にイエスを封印として置くようにと彼女に呼びかける。イエスは、私たちが神のことをすべてを燃やし尽くす火として知ることができるようにと叫び求めることを熱心に私たちに勧めておられる。私たちの心にイエスの封印を置くということは、私たちの心に触れ、心を封印で閉じるためにイエスの炎のような臨在を招くことを意味している。まさしく愛という定義によって、私たちはイエスを招かなければならない。イエスは無理やり、私たちと自発的な愛の関係を築くことはなさない。私たちが私たちの心の問題にイエスを招くまで、イエスは待っておられる。

B. いくつかの学者の注解書は、この箇所のヘブル語の代名詞には不明なところがあると指摘している。神学的な見地から、この部分を、花嫁がイエスをせきたて、イエスが炎のような愛で彼女を愛し始めることができるように、彼女をイエスの心に置いてくれと花嫁がイエスをせきたてていると解釈することは不可能である。イエスは不滅の永遠に続く愛でもって私たちを愛していてくださる（それは、私たちがイエスにそう頼んだとしても増し加わることはない）。

<sup>3</sup>主は遠くから、私に現われた。「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。」（エレミヤ31：3）

C. 神は、神の恵みの中で、神と共に働くことを私たちに求めておられる。このことは、神が私たちと親密なパートナーシップを持ちたいと望まれていることの現われである。神は私たちの役割、私たちがすべき事を代わりになさらないし、私たちも神の役割を代わりに担うことはできない。私たちは、主イエスを着る、もしくは新しい人を着ることによって、私たちの心にイエスの封印を置くことができる。

<sup>14</sup>主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。

<sup>10</sup>新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです（コロサイ3：10）。

<sup>24</sup>真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした（エペソ4：24）。

#### V. 愛することができる能力を持つことの中に、愛の報酬を見出す

A. 私たちの愛をすべて神に与えることができるのは、私たち自身だけである。神は神ご自身を愛させようと私たちに無理強いしない。神を愛するということは、私たちが人生において聖霊と共に働きながら、自発的に神に捧げる私たちから神への贈り物である。これは彼女の中に働く聖霊の働き以外のなにものでもない。というのは、神を愛するためには、神が必要だからである。

B. 真の愛の最もすばらしい報酬は、愛そのものを所有することの中に見出される。愛に富

んでいる人は、「値札」を見たりはしない。人は誰でもあきらめてしまう可能性があるが、愛の人だけはあきらめない。あきらめるようにと誘惑されるとき、私たちの道で、あきらめることを拒むのは、私たちが神を愛しているという事実である。神は、決してあきらめない人を立て上げておられる。

<sup>7</sup>もし、人が愛を得ようとして、自分の財産をことごとく与えても、ただのさげすみしか得られません（雅歌8：7）。

C. パウロは、どんな犠牲をも払う愛について語っている。彼は、彼自身の機会のために開かれた扉さえも捨ててしまった。

<sup>8</sup>それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています（ピリピ3：8）。

D. 今、聖霊は、イエスが花婿であり、教会が第一の戒めを成就する、完全に献身した花嫁であるということを知らせることにフォーカスした数多くのミニストリーをこの地上に立て上げておられる。このことにフォーカスしたミニストリーは、花嫁を整える“花婿の友”として機能する。

<sup>29</sup>・・・そこにいて、花婿のことばに耳を傾けているその友人は、花婿の声を聞いて大いに喜びます。（ヨハネ3：29）

<sup>7</sup>私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時が来て、花嫁はその用意ができたのだから（黙示録19：7）。

## VI. 終わりの時代の教会は愛に勝利する

<sup>5</sup>自分の愛する者に寄りかかって、荒野（試練）から上って来る（勝利）ひとはだれでしょう。私はりんごの木の下であなたの目をさまさせた（雅歌8：5）。

A. 花嫁は、愛と感謝に強められ、彼女の愛する方であるイエスに寄りかかっている。教会は、愛に勝利し、イエスに寄りかかり、イエスを愛する心をもって、この歴史を終わらせる。花嫁がこの墮落した世にある荒野で経験する試練、誘惑、困難に勝利し、“上って来る”様子を描くことで、聖霊は預言的に、イエスが終わりの時代において花嫁が勝利したことを宣言していることを語っている。

<sup>2</sup>・・・獣（反キリスト）と、その像と、その名を示す数字とに打ち勝った人々（愛に勝利した）が、神の立琴を手にして、このガラスの海のほとりに立っていた（黙示録15：2）。

<sup>27</sup>ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです（エペソ5：27）。

## セッション 24

### 花嫁の最後のとりなしと啓示（雅歌 8 : 8 - 14）

#### I. 雅歌 8 : 8 - 14 の概略

- A. 雅歌は、一人の若い娘が、神の炎に満たされた花嫁に成長するまでの物語を語っている。今や彼女は、神にある彼女自身をどのように見ているかについて明らかにする。彼女は、自分自身が何者であるかについて理解している。私たちが、彼女が持っているような啓示・確信・激しい従順を持って歩むことによって、初めて私たちはこの花嫁のように生き生きと生きることができる。花嫁は最後に 2 つのとりなしの祈りを捧げる。ひとつは教会のために（8 : 8 - 9）、そして二つ目はイエスの再臨のために（8 : 14）。
- B. 雅歌 8 : 8 - 9 において、私たちは彼女の教会に対する情熱ととりなしを見ることができる。
- C. 雅歌 8 : 10 において、神がどのように彼女を見ているかについての、花嫁の確信と啓示を見ることができる（雅歌 8 : 10）。彼女の三重の確信は、城壁（利己的でない動機）、やぐら（人々を養う超自然的な能力）、そして平安をもたらす者（感情的な障害が取り除かれた）である。彼女は神の目の前で生きることを楽しんでいる。彼女は自分自身のアイデンティティーを知ることによって、神の御前に与えられた彼女の場所において確信をもって歩むことを楽しむことができるようになった。
- D. 雅歌 8 : 11 において、彼女は神の御前にある彼女の説明責任の啓示を受け取る。
- E. 雅歌 8 : 12 において、彼女は、彼女自身の神に対する忠実さの確信を得る。
- F. 雅歌 8 : 13 において、イエスは最後の命令を花嫁に与える。
- G. 雅歌 8 : 14 において、彼女は緊急性をもって、イエスの再臨をとりなす。

#### II. 花嫁の教会に対する情熱ととりなし（雅歌 8 : 8 - 9）

*<sup>8</sup> 私たちの妹は若く、乳房もない。私たちの妹に縁談のある日には、彼女のために何をしてあげよう。<sup>9</sup> もし、彼女が城壁だったら、その上に銀の胸壁を建てよう。彼女が戸であつたら、杉の板で囲もう（雅歌 8 : 8 - 9）。*

- A. 彼女の心の中で新しくなった愛の封印が溢れ出し（雅歌 8 : 6 - 7）、キリストの体において、まだ赤ん坊の状態にある他の人々の霊的な状態に彼女は気づく。そして彼女は彼らのためにとりなす。
- B. 花嫁はイエスに、“私たちには若い妹がいる”と語りかけている。なぜなら、彼女はイエスと共に親密に働いているからである。花嫁は“私は、何を妹にしてあげよう”と単数形で語るのではなく、複数形で“私たち”と語っているのは、彼女がイエスとしっかりパートナーシップを持っていることを表している。雅歌 1 : 4 における彼女のもともとの祈りである“私たちはあなたのあとから急いでまいります。”も複数形である。ミニストリーの中で走るときは、いつでも複数形である。私たちは、失われた魂と未成熟な人々を助けるために、主と共に、また他の人々と共に一緒になって働く。
- C. 若い妹の必要を彼女が見ることができているという事実も、彼女の中の聖霊の働きの結果である。イエスが感じるのと同じように、彼女も若い妹に対して感じている。イエスは、彼らによって心奪われ（雅歌 4 : 9）、そして、彼らの顔を見、声を聞きたい（雅歌 2 : 14）と切望し

ている。彼女は成熟したパートナーシップをもって、イエスと共に働く。

- D. 花嫁は、神との深い関係に進んでいくときにでも、若い妹のことを忘れずに覚えている。未成熟な信者は、花嫁の責任の下にいる。“若い”妹は、信仰が幼く、困難な時、すぐに勇気を失くしてしまう。プレッシャーに会うと、すぐにあきらめてしまう。エルサレムの娘たちとこの若い妹は同じ状況にある。
- E. 若い娘に乳房がないというのは、みことばの乳（I コリント 3：1－2）によって、人々を養うことを喜んでしない、もしくは養うことができないということを意味している。この妹は、他の人々と交わりの時を持ったり、付き合ったりはするが、自分自身の問題や望みのために圧倒されて、他の人々に対して責任を取るということを無視している。妹は、自分自身だけに焦点を置いている霊的なあかちゃんの状態に留まっている。花嫁は、この妹に対して腹を立てるのではなく、彼女を助ける。
- F. 花嫁は、この若い妹を助けるために、主の意見と助けを求める。“私たちの妹のために、私たちは何をしましょうか？妹をどのようにして成熟へと導きましょうか？”と祈ることによって、彼女はとりなしをしている。
- G. 花嫁は、未成熟な信者に対して深い責任感を持っている（雅歌 6：11、7：11）。これが霊的な父の心である（I テサロニケ 2：11）。他の人々がイエスに従うことを助けることなしに、自分だけで主と共に歩むことに彼女は満足しない。
- H. 私は、1983年夏に、人生が大きく変わるほどの主との出会いをした。私は、自分自身の霊的な成長にだけ焦点を当てていた。私は、祈りとみことばの啓示の中で成長することを求めている。私を頼りにしている人々に対して重荷を持ったり、人々から気をそらされたりしなかった。祈りの中で、私はこんなにたくさんの人々（その頃の教会には500人の人が集まっていた）に対する責任を持ちたくありませんと主に不平不満を漏らしていた。すると突然、主はヨシュア 1：2から力強く、私に語られた。

**<sup>2</sup>・・・今、あなたとこのすべての民は立って、このヨルダン川を渡り、わたしがイスラエルの人々に与えようとしている地に行け（ヨシュア 1：2）。**

- I. 主は人々を約束の地の相続分へと導くようにヨシュアに命じた。聖霊は、“地球にいる一人の聖なる人よりも、主にとって大切なものは何か？”と強い調子で語りかけられた。私はこの質問を聞いて困惑し、答えが何であるか想像することもできなかった。すると主が“聖なる人々からなる全世代である”と答えられた。そして、聖霊が私にヨシュア 1：2を与え、“私は、あなたと人々がこの地を相続することを望んでいる。”と語られた。この聖句は、私の心を矢のように刺した。
- J. かつての私は、未成熟な信者として、自分一人が聖なる人になることだけで十分だった。しかし私が成長するにつれ、主は“あなたの兄弟はどこにいるのか？あなたの若い妹たちはどこにいるのか？”と語り始められた。霊的な成長の一つの重要なしるしは、他の人々の霊的な状況について気にかけることである。“私たちは私たちの妹に何ができるのでしょうか？”この問いかけが花嫁の心に深く根を下ろしている。
- K. 花嫁は、すべての人々が“縁談のある日（英文では *in the day we are spoken for* と書かれており、私たちの話が語られる日という意味）に、主の前に最終的には立たないといけないということを知っている。”女性の話が語られる日“というのは彼女の結婚の日を意味している。すな

わち、イエスとの婚姻関係の中でのパートナーシップにおいて成熟に達するときという意味である。主を心から追い求める人々にとっては、深い成熟したパートナーシップのためにイエスから語ってもらえるという経験をこの時代に経験する。多くの信者にとっては、このことは、イエスの御前に立つときに経験することになる。

L. 花嫁は、妹を成長させるためにイエスとパートナーシップを取りながら、何ができるだろうかと尋ねる。多くの信者が、神の恵みの中で、他の人々に対する責任を取るときに、イエスとのパートナーシップを持つことを忘れてしまう。

M. 花嫁は、二つの可能性を示して、とりなし、若い妹のことを主の御前に持ってくる。

**<sup>9</sup>もし、彼女が城壁だったら、その上に銀の胸壁を建てよう。彼女が戸であつたら、杉の板で囲もう (雅歌 8 : 9)。**

N. もし若い妹が霊的な壁になるようにと召されているなら、花嫁と主は彼女を礎としてミニストリーを彼女の上に立て上げる。壁は、町に守りをもたらし、境界線を確立する。“壁のミニストリー”は、敵の攻撃から人々を守る牧会的な働きをもたらすか、もしくは神の預言的な規範を掲げる働きをする。それらのミニストリーにより、前進するために必要な聖さの神の境界線が確立される。

O. 雅歌 8 : 10において、花嫁は自分自身のことを壁のミニストリーと呼んでいる。このミニストリーは、人々を守り、また預言的な規範を持ち運ぶ者となることを含んでいる。壁になることに伴って多くのプレッシャーがある。敵が矢を放つとき、壁はその矢が向けられた若い信者の前に壁は立ちただけからなくてはいけない。

P. もし若い妹が霊的な戸と呼ばれるのなら、花嫁と主は彼女を囲む。戸は他の人々が入ってくる場所である。“戸のミニストリー”は、とりなし者、伝道者、教師そして使徒として他の人々のために、恵みと救いの戸を開けるミニストリーである。とりなし者は、他の人々の機会の戸を開ける。伝道者は、未信者が御国に入るための戸を開ける。教師は、信者がもっと深い神との関係に入るための戸を開ける。使徒は、神にある新しい計画のために地域へ戸を開ける。

**<sup>9</sup>同時に、私たちのためにも、神がみことばのたまに門を開いてくださって、私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。・・・(コロサイ 4 : 3)**

Q. 若い妹にとって応答する方向としては2つの方向がある。壁になるか、戸になるかである。神が妹の心に与えてくださった思いに従って妹は応答し、主と花嫁はその妹の応答に従って応答する。彼女の人生における神からの召命に従って、効果的に妹が歩むことができるように、主と花嫁は働く。

R. 花嫁はイエスに“私たちはその上に銀の胸壁を建てよう。”と言う。要塞の胸壁とは、塔の一番上にあって、石の隙間から射手が矢を放つ。彼らはそこから矢を放つと、胸壁の石の後ろに立ち、敵の攻撃から守られる。胸壁は、見張り人に敵を見つけ、また敵に矢を放つための場所を与え、そのことにより、町が守られる。

**<sup>9</sup>もし、彼女が城壁だったら、その上に銀の胸壁を建てよう。彼女が戸であつたら、杉の板で囲もう (雅歌 8 : 9)。**

S. 胸壁は、敵からの攻撃に対する守りを提供するミニストリーであると言える。銀は贖いを意味する。銀の胸壁というものは現実には存在しない。通常、石で作られる。が、銀の胸壁というのは、人々へ贖いをもたらすという意味である。

- T. もし、若い妹の人生における恵みが彼女をとりなし者、伝道者、教師などに導いた時には、花嫁は“杉の板で彼女を囲もう”と祈る。
- U. 杉の板は、高価で、信頼性が高く、強度があり、いい香りがする。幕屋においては、木は人間性を象徴する。レバノンの堂々とした杉は、最も香りが高く、強度があり、高価な建材である。イエスはレバノンの杉である（雅歌 3 : 9）。福音のみこしは、レバノンの杉、すなわちイエスの人間性で、作られている。杉の板というのは、キリストの香りを表している。というのはレバノンの杉は香料だからである。レバノンの杉は、ソロモンの宮殿において、主の臨在が宿る場所を建設するのに用いられた（I 列王記 4 : 33 ; 5 : 6）。
- V. レバノンの杉によって囲まれるということは、イエスのご性格と臨在の衣をまとうということである。私たちは、父なる神から送られた杉であるイエスを身にまとう必要がある。
- <sup>14</sup>主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません（ローマ 13 : 14）。**
- W. 花嫁は“私たちが彼女を取り囲みます”と祈る。妹が神に取り囲まれるまで、イエスと花嫁は妹のために共に働く。

### III. 花嫁の確信：神が彼女をどのように見ているかについての啓示（雅歌 8 : 10）

**<sup>10</sup>私は城壁、私の乳房はやぐらのよう。それで、私はあの方の目には平安をもたらす者となりました（雅歌 8 : 10）。**

- A. 花嫁のアイデンティティーの中には、彼女に確信を与えた三重の啓示が含まれている。彼女は、彼女の本当の霊的な姿に関する啓示を受け取っている。この啓示を受けている人は現在の教会では非常に少ないが、その啓示こそ力強い現実なのである。
- B. 彼女は、利己的な思いを抱くことなく、自分自身のことを、他の人々を助けるために存在している守りの壁であると見ている。彼女は、彼女の人生を、この世の楽しみを追い求めるためのものと見ず、自分自身のことを他の人々の守りの源とみなしている。彼女の時間、エネルギー、経済そして夢までも、神にあるこの高い目的のために仕えることに結び付けられている。パウロも自分自身のことを他の人々の守りのための壁と見ている（I テサロニケ 2 : 7 – 12、ガラテヤ 2 : 11 – 14）。
- C. 雅歌の中で、乳房は、若い人々を養うための能力を示している。やぐらのような乳房というのは、他の人々の面倒をみるための超自然的な能力を意味している。彼女のミニストリーは非常に豊かで、乳のやぐらのようである。というのは彼女の養う能力の高さを示している。彼女はこれまでに3度、やぐらに例えられている（雅歌 4 : 4、7 : 4、8 : 10）。
- D. 彼女は、ミニストリーにおいて自分が効果的に働いていることに確信を持っている。イエスは、彼女の胸がぶどうのふさのようになるようにと彼女に告げられた（雅歌 7 : 8）。彼女は、他の人々を助けるために、彼女がみことばを熟練した者のように使っているということを知っている。パウロ、バプテスマのヨハネ、ダビデ、サムエルそしてモーセもこの確信を持っていた。
- E. パウロは、自分自身に関して、“私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見ならってください”（I コリント 11 : 1、II コリント 1 : 12、15）と新約聖書の中で最も大胆な宣言をしている。パウロはエペソの長老に、自分は謙遜の限りを尽くして主に仕え、自分の命を少しも惜しいと思わず、それ故に、私には、すべての人たちが受けるさばきについて責任がないと語った（使徒 20 : 18 – 37）と書いている。



- F. エノクは、神が彼を取り去られる前に、彼自身が神に喜ばれていると証されていた（ヘブル 11 : 5）。バプテスマのヨハネは“イエスは私よりもさらに力がある”（ルカ 3 : 16）と言った。モーセは自分自身のことを、地上の誰にもまさって謙遜であると書いている（民数記 12 : 3）。サムエルは彼のミニストリーの終りの時に、自分自身は幼いころから非常な誠実さをもって人々の先に立って歩んできたこと、国々によい正しい道を教えたことを宣言した（I サムエル 12 : 1-5、23）。
- G. この確信は、啓示によって（プライドではなく）のみもたらされ、彼女を大きな感謝の思いで満たす。彼女は彼女のミニストリーと成熟さに確信を持っている。というのも神ご自身がこれらのことを彼女に語ったからである。彼女は神の御前で、彼女の人生を通して、神の民に仕えるために生きてきたと宣言することができる。というのはそれが主が思っていることだからである。彼女は彼女の心の中に、神のみこころを行っているという証を持っている（ヘブル 11 : 5）。
- H. 彼女は神の御前、すなわち彼女を見守る神という「たった一人の観客」の前で、自分の人生および主にある自分の召しに関して平安を持っている。彼女は、イエスの目の中に平安を見出している。それは他の人々の目の中に平安を見出すこととは異なる（イエスよりも、他の人々の意見を気にしながら生きているのではない）。このことによって、彼女の人生の中の多くの感情的な妨げが取り除かれる。
- I. 主の御前で生きることを彼女は楽しんでいる。彼女の霊的なアイデンティティーによって、彼女は光り輝く確信をもって、神の御前にある自分の道を歩んでいくことができる。
- J. この確信によって、信者が神にある働きをしていく時、感情的に力強くされる。人生において、どれほど大きな感情のエネルギーが、非難、恐れ、疑い、そして不確かな思いに費やされることを考えて欲しい。彼女の心の上に置かれた炎のような愛の封印によって、この確信と純粋な動機が生み出される（雅歌 8 : 6）。
- K. パウロはその当時の教会の多くの人々から非難されたが、この平安と確信を持っていた（I コリント 4 : 3-5）。50年間ものミニストリーの後に、心からイエスに仕えることができたと思えることは何と素晴らしいことだろうか。
- L. 彼女はイエスとパートナーシップを持ちながら生きているということを知ることによって、彼女の人生に対する神のデザイン、計画に平安を持つことができるようになった。私たちの人生を理解すること、そして神の御心を成し遂げたと確信を持てることは非常に重要で深いことである。

#### IV. 神の御前における花嫁の説明責任に関する啓示（雅歌 8 : 11）

<sup>11</sup> ソロモンにはバアル・ハモンにぶどう畑があった。彼はぶどう畑を、守る者に任せ、おのおのその収穫によって銀千枚を納めることになっていた（雅歌 8 : 11）。

- A. 主の御前に生きる結果は、神の御前において私たちには説明責任があるということ、そして永遠の報酬があるという現実を理解することである（I コリント 3 : 11-15、II コリント 5 : 10、ローマ 14 : 12-14）。最後の日において、すべての信者は、神に地球上での生活について説明しなければならない。永遠の報酬に関する啓示を受けることで、彼女は小さな従順の行いの重要性を理解し、毎日毎日がかけがえのない意味を持つということを理解す

る。

- B. ソロモン王はぶどう畑を所有し、その畑を守る者に貸し出す。ソロモン王は雅歌中ずっと、イエスを表している。イエスはぶどう畑を所有しており、ぶどう畑はイエスの民を表している（イザヤ5：1－7）。
- C. バアル・ハモンにある王なるイエスのぶどう畑は、歴史を通して、ダイナミックに成長した。聖書にも、イスラエルの歴史にもバアル・ハモンという町は出てこない。バアル・ハモンは“人口の多い”と訳すこともできる。ヘブル語での文字通りの意味は、“群衆の父”という意味である。いくつかの聖書訳では、町の名前として訳していないものもある。王なるイエスは、バアル・ハモンに非常に大きなぶどう畑を有し、その畑は、全世界の大勢の群衆のもとに広がっている（マタイ24：24、黙示録7：9）。
- D. 王なるイエスは、彼の花嫁にこのぶどう畑を貸し出す（委任する）。というのは彼女はイエスの代わりにこの畑の世話をしてくれると知っているからである。イエスがぶどう畑を貸し出しているというのは、この時代において、イエスの民に御国が委任されていることを意味している。
- E. マタイ21：33－44のたとえ話で、イエスは雅歌8：11－12を参照している。このたとえ話の中で、イエスは、ぶどう畑を造り、やぐらを建て、農夫たちに貸して、遠い国に旅立つ主人について教えている（マタイ21：33）。私たちは今、主が遠く離れた国にいる時代に生きている。
- F. 主は、主のぶどう畑を耕す責任を神の民に委任している。信者は各々、主のぶどう畑において仕事を与えられている。主の仕事に忠実であるために、公の仕事の役割やミニストリー組織団体の役職を待つ必要はない。人々に仕え始めればいいのである。
- G. 彼女は、すべての人がそれぞれの召しにおいて、王なる主に説明責任があるということを理解している（ルカ12：31－48）。人はそれぞれ、実を結ぶ方法で、ぶどう畑を耕す責任がある。主は、私たちの賜物や機会ではなくて、私たちの忠実さに基づいて私たちを報いてくださる。
- H. 主は、すべての管理人から、豊かな実りが返ってくることを期待している。すべての人は銀千枚を持って来ないといけない。“千”というのは完全さを表す数字である。その人に任せられたものに従って、神が求めるもの全てという意味である。銀千枚という言葉はイザヤにも引用され、ぶどう畑の価値を表している。

**<sup>23</sup> その日になると、ぶどう千株のある、銀千枚に値する地所もみな、いばらとおどろのものとなる（神の裁きのしるし）（イザヤ7：23）。**

#### V. 神に対する彼女の忠実さに関する花嫁の確信（雅歌8：12）

**<sup>12</sup> 私が持っているぶどう畑が私の前にある。ソロモンよ。あなたには銀千枚。その実を守る者には銀二百枚（雅歌8：12）。**

- A. 花嫁自身のぶどう畑が彼女の前にある。言い換えると、彼女は、イエスから与えられた務めに対して、説明責任を果たす必要があるということを気付いているということである。彼女の旅の初めでは、彼女のぶどう畑は管理されていなかったが今は適切に管理されている（雅歌1：6）。
- B. 花嫁は、雅歌8：11でイエスが求めている銀千枚を、イエスが獲得することができると宣言

し、イエスが彼女に期待しているもの全てをイエスに与えることができると確信している。エノクは、神から取り去られる前に、神に喜ばれているという証を得ていた。彼女はこれと同じような確信をもって、神に“私はあなたの民を守り、養うために生きてきた。”と語った（雅歌 8 : 10）。

<sup>5</sup>・・・移される前に、彼は神に喜ばれていることが、あかしされていました（ヘブル 11 : 5）。

C. 彼女は、“実を守る者”すなわち彼女と共に働く人々も、彼らが神の御前に立つとき、彼女の実りの中でいくらかの報酬を得ることができるということを認識している。彼女は、他の人々とチームとなって働いているときでも、彼女自身の召命だけを成就する。そして、チームの各々の働き人は永遠の彼女の報酬の中の一部を共有する。銀二百枚というのは、最後の日に彼女と共に働く人々が受け取る報酬の一部という意味である。

D. ピリピの人々はパウロを経済的に助け、パウロは彼らの収支に実りがあることを報告している。

<sup>17</sup>私は贈り物を求めているのではありません。私のほしいのは、あなたがたの収支を償わせて余りある霊的祝福なのです（ピリピ 4 : 17）。

#### VI. イエスの花嫁に対する最後の命令（雅歌 8 : 13）

<sup>13</sup>庭の中に住む仲間たちは、あなたの声に耳を傾けている。私にそれを聞かせよ（雅歌 8 : 13）。

A. イエスの花嫁に対する最後の言葉は、花嫁が効果的に教会において仕えていることを称賛するものである。イエスは花嫁のことを“庭の中に住むあなた”と呼び（英語訳では You who dwell in the gardens となっている）、彼女が、自分だけ離れたところに退くのではなくて、なお神の庭の真っ只中に住み、人々に仕え続けていることを褒めている。彼女は決してあきらめない。庭（複数形）は、雅歌 6 : 2 の香料の花壇（複数形）と同様に、教会の様々な分野・場所を表している。

B. 花嫁の信用とインパクトは最後の最後まで継続していることがはっきりと見られ、イエスは、彼女が仕えている仲間たちが今もなお、彼女の声を熱心に聞きたいと思っていることを褒めている。彼女の仲間たちは、彼女の中に成熟の姿をはっきりと見ることができるから、彼女の声を聞きたいと願っているのである。彼らは神にある現実を彼女の中に見出し、彼女から受け取りたいと願っている。雅歌 5 : 9、6 : 1、6 : 13 で娘たちが彼女の声を聞きたいと思ったように、彼らも彼女の声を今もなお聞きたいと願っている。

C. イエスは今一度、彼女の声を聞きたいというイエスご自身の願いを告げることによって、花嫁に激しい賛美ととりなしを求めている。彼女の声は、彼女がまだ成熟していない時にでさえ、イエスにとって甘いものであった（雅歌 2 : 14）。イエスの愛するパートナーとして、イエスと成熟した一体感をもって歩んでいる今、彼女の声はどれほど甘いとイエスは感じておられるだろうか。

D. 主は4つの方法で私たちの声を継続して聞きたいと思っておられる。

1. 第一に、賛美において。主は、私たちの神に対する愛の宣言を聞きたいと思っておられる。

2. 第二に、執り成しにおいて。永遠に執り成しておられるイエスと私たちは共に執り成しをする（ヘブル 7 : 25）。

3. 第三に、教えることにおいて。お互いに、神のみことばを語る（マタイ 28 : 19-20、コロサイ 1 : 28）。

4. 第四に、伝道において。私たちは未信者に福音を宣べ伝える。

E. 敵は私たちの声を静かにさせようと望んでいる。

#### VII. イエスに早く帰って来てくれるようにと頼む彼女の緊急のとりなし（雅歌 8 : 14）

<sup>14</sup> 私の愛する方よ。急いでください。香料の山の上のかもしれない、若い鹿のようになしてください（雅歌 8 : 14）。

A. イエスが早く帰ってきてくれるように執り成すことによって、花嫁は、彼女の声を聞かせてくれと言うイエスの励ましに直ちに従う。イエスと共に居たいという彼女の心の緊急性と熱望をここに見ることができる。彼女のイエスに対する愛は、最後の最後まで、彼女の力であるから、彼女はイエスのことを“私の愛する方”と呼ぶ。

B. イエスは、雅歌 2 : 8、17 において山々を征服したかもしれない又若い鹿として表現される。すべての対抗する山々を征服し、この時代の障害に対して勝利する王としてのイエスを現すために、素早いかもしれない若い鹿のように早く帰って来てくれるようにと、花嫁はイエスに願う。

C. 彼女は三重の祈りをイエスに捧げる。イエスが“彼女の近く”に個人的に親密に来てくださるように、“彼女の町に”リバイバルのために、最後に“彼女のために”再臨として。終りの時代の教会はこの彼女の祈りと同じ祈りを捧げなければいけない。

<sup>17</sup> 御霊も花嫁も言う。「来てください。」・・・<sup>20</sup>・・・「しかり。わたしはすぐに来る。」・・・（黙示録 22 : 17、20）。

1. “私たちの近くに” 親密さのために（主にある私たちの心の個人的なブレイクスルー）

2. “私たちのところに” リバイバルのために（リバイバルにおける聖霊の、地域、もしくは国レベルでのブレイクスルー）

3. “私たちのために” 空中で（イエスの再臨による歴史的なブレイクスルー）

D. 歴史上、初めて起こることだが、世界中の教会が聖霊とダイナミックに一致し、それ故に、聖霊が教会の上に留まり、大きな力を持って教会の中において働かれる。

E. 花嫁のイエスの再臨（ブレイクスルー）を求める二重の表現

1. 賛美：“私たちはあなたを愛します、あなたを賛美します、私たちの愛によってあなたが来てくださるようにと招きます。”

2. とりなし：“私たちにはあなたが必要です、あなたが来て、リバイバルの力を解き放ってくださるようにと祈ります。”

F. 2つの次元の叫び：神に向かっての叫びと人々（10億の新しい魂）に向かっての叫び

1. 垂直方向：ブレイクスルーを起こす力を持って私たちのところに来てくださるようにとイエスに向かって叫ぶ（私たちの近くに、私たちのところに、私たちのために）。

2. 水平方向：花婿なる王イエスのところに来るようにと人々に向かって叫ぶ。

G. 私たちは、花婿なる神を経験することができるようにと、信者（リバイバルと訓練）と未信者（伝道）を招く。教会はこの2つの方向に向かって、叫びをあげる。最初に、私たちは、“私たちのところに来てくださるように”と執り成し、イエスに叫ぶ。第二に、私たちは“イエスのもとに行きたい”という渇きを持つ人々に向かって叫ぶ。

H. 神の御座、そして花嫁の住む所は、神の香りが漂う巨大な山である。

<sup>14</sup>・・・急いでください。香料の山々の上のかもしれない、若い鹿のようになしてください（雅歌

**8 : 14)。**

- I. 花嫁は新しいエルサレムのことを「香料の山々」と表現する。個々の信者は、“最上の香料”（雅歌 1 : 12、4 : 10、4 : 14）の香りを持つゆり（雅歌 2 : 1）のようである。教会は、“香料の花壇”（雅歌 4 : 16、5 : 1、6 : 2）と表現される。